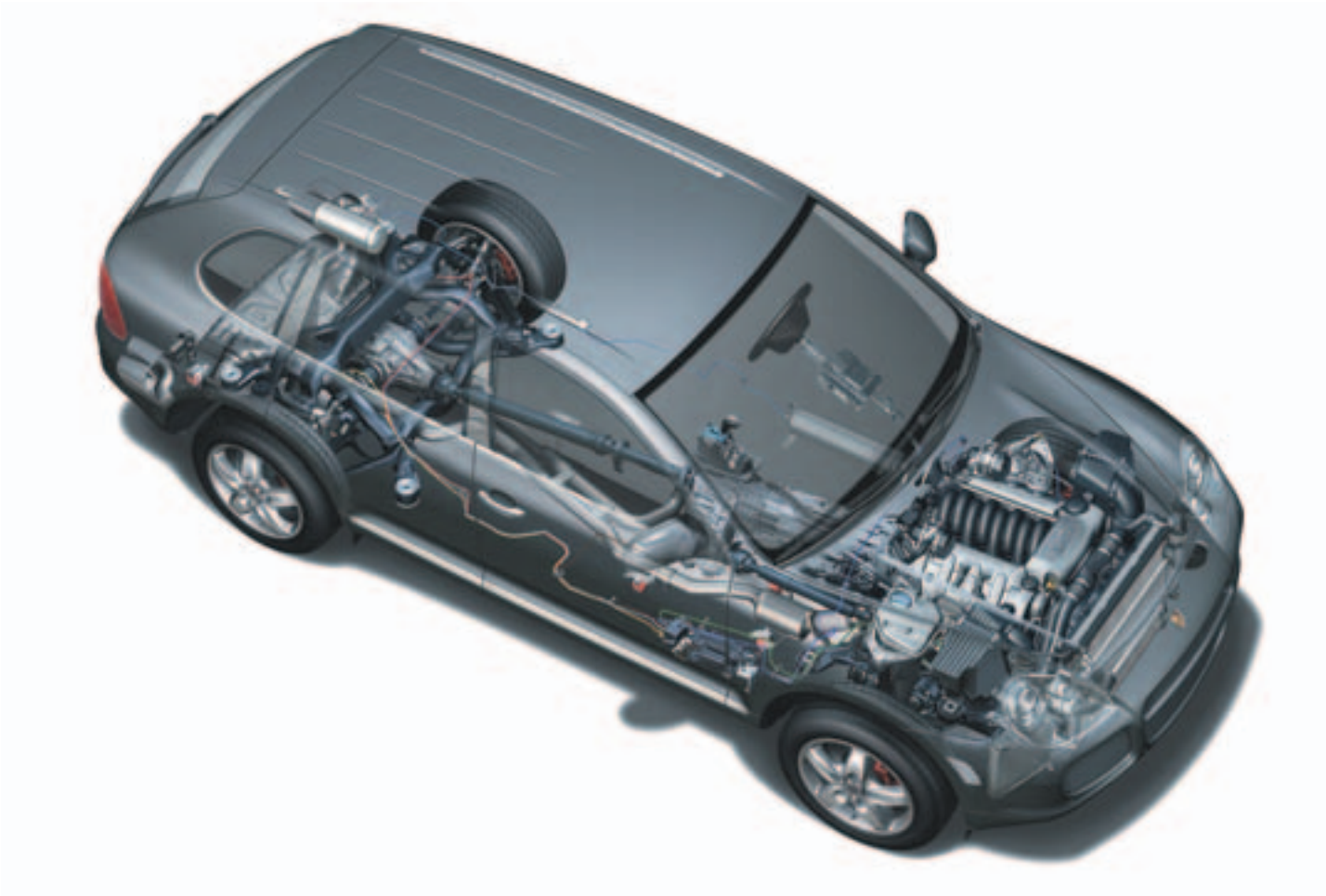
PORSCHE

Cayenne Turbo

取扱説明書



お客様各位

この度はポルシェ・カイエンをご購入いただき誠にありがとうございます。

カイエンはひとつのカテゴリーに収まるモデルではありません。オンロードのパフォーマンスは純粋なポルシェそのものです。しかもオフロードのパフォーマンスは肩を並べるものすらありません。その走りに対するはコンセプトの具現化です。もちろん、ハイレベルの快適性と総合的な実用性も忘れてはいません。そう、これがポルシェです。

50年もの長きにわたるスポーツカーの歴史を背負った車。数多くのラリーでのポルシェの成功の軌跡を受け継いだ車。そのテクノロジーはほとんど一から開発したものです。

そして・・・
今だかつて見たこともないような車が誕生しました。
第3のポルシェです。

この取扱説明書には、カイエンについて必要なあらゆる情報が含まれています。
また、それぞれ警告、注意、知識という、お車を取扱う上で特に重要なことが記載されています。ご使用前に必ずしっかりとお読みください。

別冊の整備手帳には、お客様がお車を正規ポルシェ販売店で整備を行っていただく上で、有益な情報が盛込まれています。

お客様のポルシェは、世界中でアフターサービスを受けることができます。

保証期間が終了した後も、推奨された間隔で整備を受けることをお薦め致します。正規ポルシェ販売店でサービスを受けると、品質が保たれるだけではなく、再販価格や下取り価格がいっそう有利なものになります。

すべてのポルシェが表現するもの、「純粋な駆け抜ける歓び」を心ゆくまでお楽しみください。
カイエンとともに走り、ともに年を重ねて。

ポルシェ ジャパン株式会社
Dr.Ing.h.c.F.Porsche AG

「ポルシェ」、ポルシェのロゴ、「カイエン」、「ティプトロニック」、「テクイップメント」は、ポルシェ社の登録商標です。

Printed in Japan

本書の一部または全部の複製は、ポルシェ社の許可がない限り禁止致します。

© Dr.Ing.h.c.F.Porsche AG
ポルシェ ジャパン株式会社

車載マニュアル

取扱説明書など、車内に装備されている印刷物は常に備えておき、お車を売却される場合には、次の購入者にお渡しください。

装備について

当社の製品については絶えず開発作業をつづけているため、装備品および仕様が本マニュアル掲載または記載の内容と異なることがありますのでご了承ください。
オプション装備品や、国や法的基準によって本マニュアルの記載内容と異なっている装備には項目にアスタリスク＊が付いています。

本マニュアルに記載した一部の装備品はオプションです。オプション装備品の後付けについては、正規ポルシェ販売店にご相談ください。お車の装備品で本マニュアルに記載のないものについては、正規ポルシェ販売店にご相談いただければ、操作とメインテナンスについてご説明致します。

国によって法的基準が異なりますので、お車の装備品が本マニュアルの記載内容とわずかながら異なっている場合があります。

ご質問・ご提案

車両、マニュアルに関するご質問、ご提案等ございましたら、下記までご連絡ください。

東京都目黒区下目黒1-8-1
ポルシェジャパン株式会社
アフターセールス部サービスグループ

目次

各章の目次には、項目とページ番号が記載されています。

さく引

巻末にさく引（あいうえお順）を用意しましたので、お読みになりたい項目を直接探すときにご利用ください。

環境保護について

環境保護の手引き

ポルシェ社は、環境に優しく安全性に優れた技術と、人を引きつける強い魅力を合わせ持つ、他に類のない車両を開発、製造しています。

ポルシェ社の環境保護の方針は、次の信念に基づいています。

- 環境保護と安全性の技術を可能な限り使用します。
- エネルギーと資源を節約します。
- 関連業者にもポルシェ社の環境保護の取組みに参加してもらいます。
- すべての社会団体と対談を行います。

製品

製造や修理において、ポルシェ社は常に環境に優しい技術を採用しています。ウォーター・ベースのペイントなどがその例です。ウォーター・ベースのペイントと新しい塗装方法によって、溶剤の放出が70%減少されます。また、塗装で使用される水は、循環されています。排水は、適切な処理が施された後で、工場から排出されます。

廃棄物管理計画を導入し、廃棄物の量を減少させるとともに、再生利用の割合を増加させています。

環境に優しい車

最新の環境保護技術により、世界中すべての排出ガス規制に適合しています。

触媒コンバータの特徴

- 触媒コンバータが素早く作動状態になるため、短距離の走行でも排気ガスが低減されます。
- 長期にわたり、信頼性のある作動と排気ガスの制御が保たれます。

環境に優しい運転

運転を楽しみながら、環境に配慮することも可能です。
以下の点に注意していただくと、騒音や燃料消費量を抑えることができます。

▷ 常に燃料消費量を確認してください。

▷ 必要な時以外はエンジン暖機のためのアイドリングは避けてください。

▷ アクセルを一杯に踏込まないでください。状況にあわせて高いギヤにシフトしてください。

▷ 信号待ちや渋滞などで比較的長い間停車する場合は、エンジンを停止してください。

▷ 必要でない電装品は電源を切ってください。

▷ 定期的にタイヤ空気圧を確認してください。

▷ エアコンは必要時のみお使いください。

▷ ルーフ・ラックを使用しないときは、車両から取外してください。

▷ 「保証とメインテナンス」に定められた期間に従って点検を受けてください。

運転の際には、エンジン回転数が低いほど燃料消費量および騒音が減少することを念頭においてください。

リサイクル

現在までに製造された全ポルシェ車の3分の2以上がまだ現役です。

ただ、万一リサイクルが必要になった場合に備えて、次の対策がとられています。

— 再利用しやすい設計にしてあります。

— すべての素材を識別できるようにしてあります。

— リサイクル可能な素材を使用しています。

— 再使用可能な部品は容易に取外せるように設計しています。

排ガス制御を採用しています

高いエンジン性能と環境保護を両立させたエンジン技術を導入しています。

エンジン診断システムは、排気ガスに関係する部品とシステムを電子的にモニターしています。

この継続的なモニターと不具合の記録によって、迅速で信頼性のある診断と不具合の検知を可能にしています。

不具合は、エミッション・コントロール警告灯によって示されます。

▷ 「エミッション・コントロール警告灯」（71ページ）を参照してください。

⚠ セーフティ・ノート

▷ お車にはポルシェ純正部品、またはポルシェ社の要求する性能、品質規準を満たす同等部品を使用してください。これらの部品は、正規ポルシェ販売店にご注文ください。
安全に関するアクセサリは、ポルシェ・テクイップメント部品、もしくはポルシェ社によりテスト、認証されたもののみを使用してください。これらの部品、アクセサリについては正規ポルシェ販売店にお問い合わせください。ただし、ポルシェ純正部品またはポルシェ推奨以外の部品もしくはアクセサリを使用するとお車の安全性に支障をきたす恐れがありますから、この結果として生じた損害または損傷に対してポルシェ社は責任を負いかねることがあります。

▷ その他のアクセサリまたは部品の供給元が許可を受けている場合でも、これらの製品を装備することによって、お車の安全性に好ましくない影響をこうむることがあります。アクセサリのマーケットには相当数の製品が出回っていることから、ポルシェ社ですべての製品を検査ならびに推奨することはできません。

▷ また、ポルシェ純正部品以外または推奨部品以外の部品の交換、もしくはアクセサリの使用は、お車の保証に対しても好ましくない結果を招く恐れがありますのでご注意ください。

▷ お車に損傷の兆候がないか定期的に点検してください。損傷したり、失われたエアロ・パーツ（スポイラーやアンダー・サイド・パネル）は運転状態に影響を与えますので、ただちに交換してください。

フィルムおよびカバー

▷ ヘッドライトやエア・インテーク部分をフィルムまたはストーン・ガードなどで覆わないでください。温度が高くなり過ぎて損傷する恐れがあります。

ヘッドライトは温度や湿度によって曇る場合があります。

▷ 最適な換気を行うために、ヘッドライトと車体の隙間にカバーをしないでください。

改良作業

ポルシェによって承認された場合にのみ、改良が行われます。
これにより、お客様のポルシェ車は運転の信頼性と安全を確保し、損傷を防ぐことになります。
正規ポルシェ販売店がご相談をお受け致します。

運転時の装備の設定および操作

⚠ 警 告

事故を起こす恐れがあるので、運転中にマルチ・ファンクション・ディスプレイ、ラジオ、ナビゲーション・システム、電話等の操作や設定を行わないでください。
運転以外に気をとられ、車両のコントロールを失う恐れがあります。

▷ 運転中に装備を操作する場合は、安全に操作できる交通状況のときのみ行ってください。

▷ 複雑な操作や設定は車両を静止した状態で行ってください。

スポーツ・デザイン・パッケージ装着車

⚠ 警 告

スポーツ・デザイン・パッケージ装着車のフロント、リア、サイド下部の各部品は塗装され、低くデザインされています。オフロード走行を行うとこれらの部品を損傷する恐れがあります。

▷ オフロード走行時、これらの部品を損傷しないよう十分注意して運転してください。

▷ 車両の下面と障害物との間に十分な空間があることを確認してください。

▷ 水たまりや浅瀬の走行は避けてください。

▷ サイド・メンバ・トリムを足掛けとして使用しないでください。

安全にお使いいただくために 11 - 196
ギヤ・チェンジ、トラクション・システム 197 - 234
車のお手入れ 235 - 258
万一のときのために 259 - 324
車両の識別、テクニカル・データ 325 - 339
さく引 340 - 349

安全にお使いいただくために

お出かけの前に…… 12
慣らし運転…… 12
キー…… 14
リモート・コントロール …… 16
ポルシェ・エントリー＆ドライブ…… 18
セントラル・ロッキング…… 20
ドア…… 22
盗難を防止するために…… 23
警報システム、室内モニタ・システム、
傾斜センサ…… 24
パワー・ウィンドウ…… 27
フロント・シート…… 30
フロント・シート・メモリー…… 31
イージー・エントリー機能…… 33
ヘッドレスト…… 34
リア・シート…… 35
シート・ヒータ（フロント&リア） …… 38
チャイルド・シート…… 43
エアバッグ・システム…… 48
ステアリング…… 50
マルチ・ファンクション・ステアリング… 52
ルーム・ミラー…… 54
ドア・ミラー ……55
自動防眩ミラー…… 57
イグニッション・ロック／
ステアリング・ロック…… 58
エンジンの始動と停止…… 60
パーキング・ブレーキ…… 61
フット・ブレーキ…… 62
メータ・パネル…… 64
油温計…… 66
クーリング・システム…… 67
燃料…… 68
オドメータ…… 69
スピードメータ…… 69
バッテリ／オルタネータ…… 70
エミッション・コントロール…… 71
マルチ・ファンクション・ディスプレイ … 72
警告灯および警告メッセージ …… 104
ランプ・スイッチ …… 112
メータ・パネル・ランプ …… 114
ヘッドランプ自動高さ調整 …… 114
方向指示灯／ハイビーム／
パッシング・レバー …… 115
ハザード・ランプ …… 115
フロント・ワイパー／ウォッシャ・レバー… 116
クルーズ・コントロール
（自動車速制御装置）…… 119
吹き出し口 …… 122
外気導入口 …… 122
リア・ウィンドウ・ヒータ …… 123
オートマチック・コントロール
２ゾーン・エアコン …… 124
オートマチック・コントロール
４ゾーン・エアコン …… 128
パーキング・ヒータ …… 134
サンバイザ …… 138
サン・ブラインド（リア・サイド・
ウィンドウ用） …… 139
ルーム・ランプ …… 140
コンフォート・ランプ …… 142
スライディング／チルティング・ルーフ… 144
パーキング・アシスタント …… 154
ガレージ・ドア・オープナー …… 159
灰皿（フロント） …… 162
シガー・ライタ …… 162
自動車電話、無線機 …… 164
ポルシェ・コミュニケーション・
マネージメント（PCM） …… 164
ラジオ …… 165
消火器 …… 165
収納スペース …… 166
カップ・ホルダ …… 170
リア・リッド …… 172
リア・ウィンドウ …… 174
ロード・スペース …… 175
荷物の積載 …… 176
トノ・カバー …… 177
エンジン・フード …… 178
ラゲッジ・セーフティ・ネット …… 180
スキー・バッグ …… 182
ルーフ・トランスポート・システム … 184
トレーラー・カップリング …… 185
着脱式ボール・ヒッチ付きトレーラー・
カップリング …… 187
電動可倒式トレーラー・カップリング 193

お出かけの前に

安全のため、お出かけの前に次の点検を行ってください。

- ▷ タイヤの空気圧および状態は正常ですか？
- ▷ ヘッドランプ、テールランプ、方向指示灯のレンズ、およびウィンドウは汚れていませんか？
- ▷ ヘッドランプ、ブレーキ・ランプおよび方向指示器は、イグニッション・スイッチONの状態で正常に作動しますか？
- ▷ エンジンを停止した状態で、イグニッション・スイッチをONにした場合に、各種警告灯が正常に作動しますか？
- ▷ ガソリンは十分ありますか？
- ▷ ルーム・ミラーおよびドア・ミラーは、後方がきちんと確認できる位置にありますか？
- ▷ 運転者、同乗者共にシートベルトを締めていますか？
- ▷ 各種オイル・レベルは、指定された点検時期以外でも、定期的に点検するようにしてください。

慣らし運転

エンジンの性能を最高の状態に高めるために、慣らし運転をお薦め致します。
最新鋭の精密な製造技術をもってしても、作動部分が馴染むために摩滅するのを完全に防ぐことはできません。この摩滅は主に最初の3,000kmまで起こります。

従って、走行距離が3,000kmに達するまでは、次の事に注意してください。

- ▷ なるべく長距離運転を行ってください。
- ▷ 冷間始動および短距離運転の繰り返しは避けてください。
- ▷ 自動車レース、スポーツ・ドライビング・スクール等に参加しないでください。
- ▷ エンジン回転数を高回転域まで上げないでください。エンジン冷間時には特に気を付けてください。

オイル消費量／燃費

慣らし運転中は、オイルと燃料の消費量が通常の場合よりも若干多くなります。

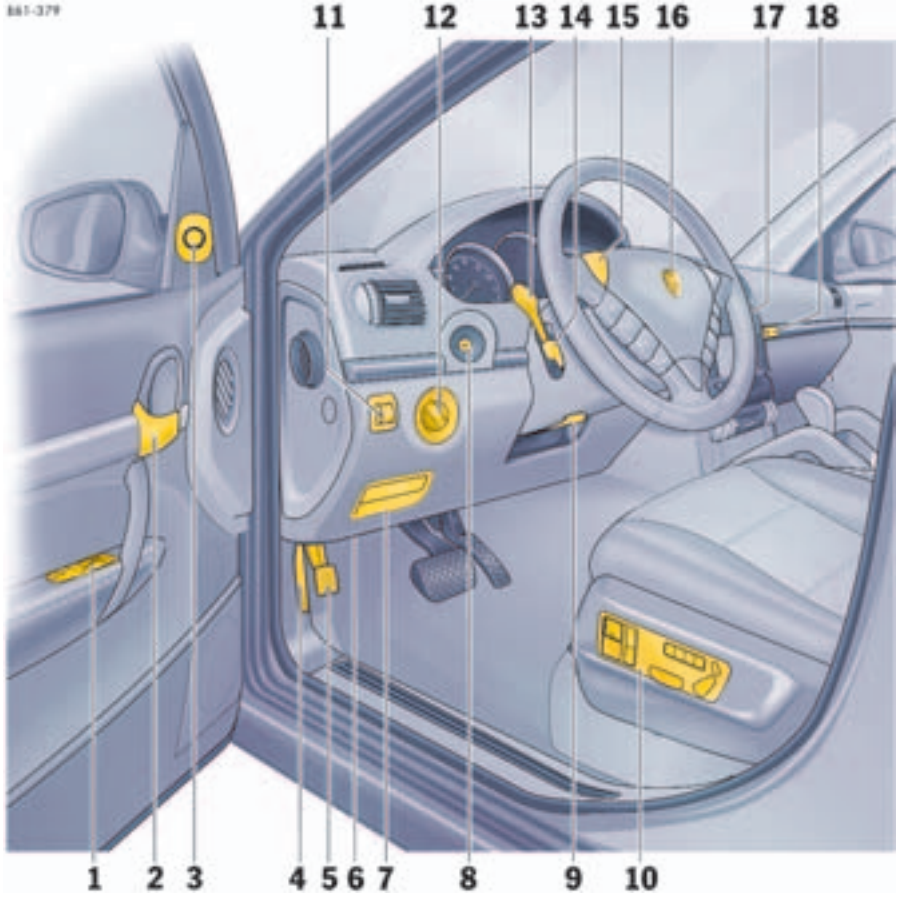
- ▷ 「エンジン・データ」（328ページ）を参照してください。

新しいブレーキ・パッドとブレーキ・ディスクの慣らし方

新しいブレーキ・パッドおよびブレーキ・ディスクもエンジンと同様に慣らしをお薦め致します。最初の数百kmはブレーキ性能がフルに発揮されません。このときは、わずかながらブレーキの効きが減少するので、通常よりも少し強めにペダルを踏む必要があります。ブレーキ・ディスクを新しいものと交換した場合も同様に慣らしが必要です。

新しいタイヤの慣らし方

- ▷ 新しいタイヤは、最初はそのグリップ性能を十分に発揮できませんので、ご注意ください。従って、始めの100kmから200kmの間は、ゆっくりしたスピードで慣らしてください。



1 パワー・ウィンドウ
2 インナー・ドア・ハンドル
3 ドア・ミラー調節スイッチ
4 エンジン・フード・リリース
5 パーキング・ブレーキ
6 ダイアグノーシス・ソケット
7 パーキング・ブレーキ・リリース
8 イグニッション・スイッチ／ステアリング・ロック
9 ステアリング調節
10 シート調節
11 インストルメント・ランプ調節ダイアル
12 ランプ・スイッチ
13 方向指示器／ハイビーム、ロービーム／パッシング・レバー
14 クルーズ・コントロール操作レバー
15 ティプトロニック用ロッカー・スイッチ
16 ホーン・ボタン
17 ハザード・ランプ・スイッチ
18 グローブ・ボックス

A - キー
B - *リリース・ボタン*

キー

お車には2本のリモート・コントロール付きのキーが付属しています。キーは折りたたみ式になっています。

これらのキーを使用して、全てのドアをロックすることができます。

▷ キーの取扱いには十分注意してください。
キーは例外を除いて、放置しないでください。

▷ キーの紛失や盗難にあった場合やスペア・キーを作ったりキーを交換した場合は、ご契約された保険会社にお知らせください。

▷ たとえ短い時間でも、お車を離れるときはキーを抜いてステアリング・ロックを確実にかけてください。

キーを出す場合

▷ ボタン**B**を押すと、収納されたキーが出てきます。

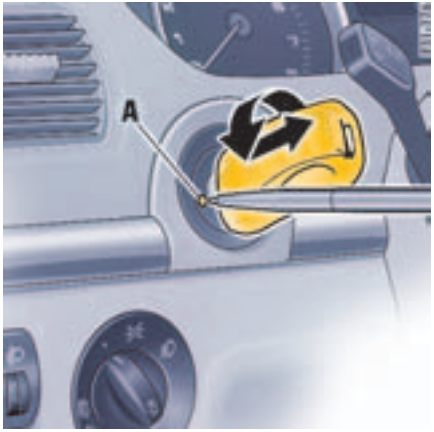
キーを収納する場合

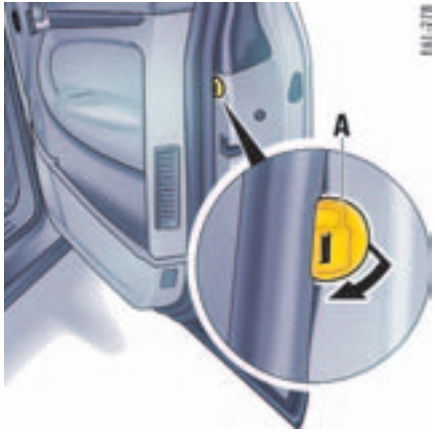
▷ ボタン**B**を押しながら、キーを折りたたみます。

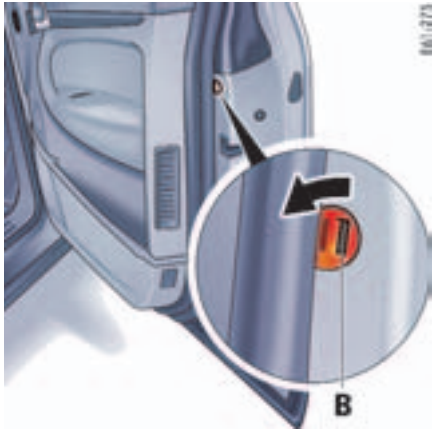
新しいキーの入手

車体番号とキー番号をお知らせください。
新しいキーは正規ポルシェ販売店でお求めいただくことができます。
新しいキーを入手するには大変時間がかかるので、スペア・キーを常に利用可能にしておくことをお薦め致します。スペア・キーは安全な場所に携帯し、決して車内に置かないでください。
新しいキーのコードは正規ポルシェ販売店で必ず車両コントロール・ユニットに登録する必要があります。車両に付属しているすべてのキーも再登録する必要があります。

知識：
キーを紛失した場合は、紛失したキーのコードを無効にし、新しいコードを設定してください。第3者に使用される可能性があります。







緊急操作 ― イグニッション・キーの抜き取り

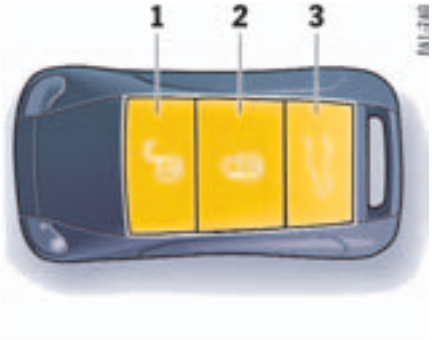
車両のバッテリが上がった場合、緊急操作を実行すると、イグニッション・ロックからキーを抜き取ることができます。

1. イグニッション・キーを反時計方向に回します。
2. ボールペンなど先が尖ったものを使用して、イグニッション・ロック横の穴**A**を押します。
3. イグニッション・キーを抜き取ります。

緊急操作― ドア・ロッキング

セントラル・ロッキングが故障した場合、緊急操作をすると、ドアをロックすることができます。

1. 助手席ドアを開けます。
2. カバー**A**を取り外します。
3. キーの先を使用して、赤いスライド・コントロール**B**を矢印の方向に押します。
4. カバー**A**を取り付けます。
5. リア・ドアでも同じ手順を実施します。
6. すべてのドアを閉じます。
7. キーを運転席ドア・ロックに差し込み、ロックします。



リモート・コントロール

メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイを使用して、ドアとリア・リッドのロック／ロック解除機能、およびハザード・ランプの点滅パターンを設定できます。設定した内容は、そのとき使用しているリモート・コントロールに記憶されます。

▷ 「ドア開」（99ページ）を参照してください。

イグニッションをOFFにして車両をロックすると、そのとき使用していたエアコンの設定が、リモート・コントロールに記憶されます。また、送風OFFの設定を約60分間維持し、内気循環モードの設定を約20分間維持します。

ドアロック解除

▷ リモート・コントロールのスイッチ**1**を短く押します。
ハザード・ランプが1回点滅します。警報システム、室内モニタ・システム、傾斜センサがOFFになります。

リア・リッド、リア・ウィンドウ、スペア・タイヤ・ブラケットのロックを解除する

▷ リモート・コントロールのスイッチ**3**を短く押します。
ハザード・ランプが1回点滅します。対応するロック解除スイッチを押すと、リア・リッド、リア・ウィンドウ、スペア・タイヤ・ブラケットを開けることができます。

▷ 「リア・リッド」（172ページ）を参照してください。

▷ 「スペア・タイヤ」（284ページ）を参照してください。

知識：

リア・リッドのロックを解除した後も、ドアはロックされています。
リア・ウィンドウを開けなかった場合、リア・リッドおよびリア・ウィンドウは両方とも30秒後に自動的にロックされます。

リア・ウィンドウを開く

▷ リモート・コントロールのスイッチ**3**を約2秒間押します。
リア・ウィンドウが開きます。

車両のロック

車両のロックには、2種類の方法があります。
車両ロックの方法により、警報システム、室内モニタ・システム、傾斜センサの作動が異なります。

⚠ 警 告

リモート・コントロールのスイッチを1回だけ押して車両をロックすると、緊急時に室内からドアロックを解除することができません。

▷ リモート・コントロールのスイッチ**2**を短く**2回**押して、車両をロックすると、インナー・ドア・ハンドルで室内からドアロックを解除できるようになります。

警報システム、室内モニタ・システム、傾斜センサのセット

▷ リモート・コントロールのスイッチ**2**を短く**1回**押します。
ハザード・ランプが2回点滅します。
ドアがロックされます。この状態では、インナー・ドア・ハンドルを引いてもドアロックが解除できません。

室内モニタ・システムと傾斜センサの一時的な解除

▷ リモート・コントロールのスイッチ**2**を短く**2回**押します。
ハザード・ランプが4回点滅します。
ドアがロックされます。このときは、インナー・ドア・ハンドルを引くと、ドアロックが解除されます。

インナー・ドア・ハンドルを引くと、次のようにドアロックが解除されます：

1. インナー・ドア・ハンドルを1回引きます。
ドアロックが解除されます。
2. もう1度、インナー・ドア・ハンドルを引きます。
ドアが開きます。

▷ ドアを開けると、警報システムが作動します。乗員を室内に残して車から離れるときは、注意を促してください。

リモート・コントロールの作動不良

使用地域の電波の状況により、リモート・コントロールが正常に作動しないことがあります。この場合は、ドアがロックされません。
ドアが正常にロックされたかどうかは、ドアロックの作動音と、ハザード・ランプの点滅で確認できます。

▷ リモート・コントロールでロックできないときは、ドア・ロックにキーを差し込んでロックします。

作動した警報システムのセット解除

▷ ドアロックを解除します。**または**

▷ イグニッション・スイッチをONにします。

イモビライザー（キー内蔵型盗難防止装置）

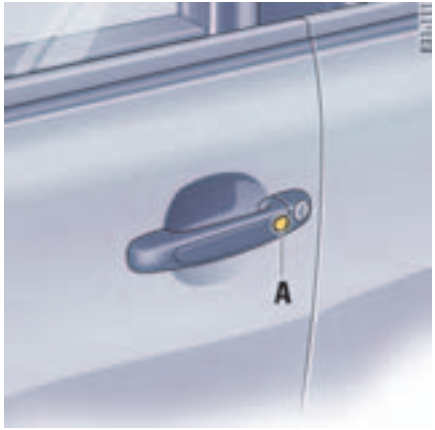
キーのグリップ部に、コードを記憶した発信器（トランスポンダー）が内蔵されています。イグニッションをONにすると、イグニッション・ロックがコードを照合します。あらかじめ設定されているキーによってのみ、イモビライザーをセット解除してエンジンを始動することができます。

イモビライザー解除

▷ イグニッション・ロックにキーを差込むと自動的に解除されます。

イモビライザー作動

▷ イグニッション・キーを抜くと、イモビライザーは自動的にセットされます。



ポルシェ・エントリー&ドライブ

ポルシェ・エントリー&ドライブは、車両のドア、リア・リッド、リア・ウィンドウをキー操作なしにロック解除およびロックするシステムです。このシステムは、リモート・コントロール付き車両キーを身につけてさえいれば使用できます。

▷ 車両キーを高レベルの電磁波にさらさないでください。ポルシェ・エントリー&ドライブに悪影響を及ぼすおそれがあります。

イグニッションをOFFにして車両をロックすると、そのとき使用していたエアコンの設定が、リモート・コントロールに記憶されます。
また、送風OFFの設定を約60分間維持し、内気循環モードの設定を約20分間維持します。
メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイを使用して、ドアとリア・リッドのロック／ロック解除機能、およびハザード・ランプの点滅パターンを設定できます。設定した内容は、そのとき使用しているリモート・コントロールに記憶されます。

▷ 「ドア開」（99ページ）を参照してください。

ドアのロック解除

▷ ドア・ハンドルをしっかり握ってください。
警報システム、室内モニタ・システム、傾斜センサが解除されます。

リア・リッド、リア・ウィンドウ、スペア・タイヤ・ブラケットのロック解除

⚠ 注 意

ポルシェ・エントリー&ドライブ装着車では、締め出されるおそれがあります。

▷ 車両をロックし、リア・リッドまたはリア・ウィンドウから出入りする場合、車両にキーを残さないようにしてください。
車両は、リア・リッドまたはリア・ウィンドウが閉じられてから約30秒後に自動的にロックされます。
この場合、車両はスペア・キーでなければロック解除できません。

車両キーを身につけて車両後部に近づくと、リア・リッド、リア・ウィンドウ、スペア・タイヤ・ブラケットのロックが解除され、開くことができます。

▷ 「リア・リッド」（172ページ）を参照してください。

▷ 「スペア・タイヤ」（284ページ）を参照してください。

リア・リッド、リア・ウィンドウ、スペア・タイヤ・ブラケットのロック

▷ リア・リッド、リア・ウィンドウ、スペア・タイヤ・ブラケットを閉じます。リモート・コントロール付き車両キーが範囲外に出ると、リア・リッド、リア・ウィンドウ、スペア・タイヤ・ブラケットがロックされます。

車両のロック

車両のロックには、2種類の方法があります。車両ロックの方法により、警報システム、室内モニタ・システム、傾斜センサの作動が異なります。

⚠ 警 告

ドア・ハンドルのボタンを1回だけ押して車両をロックすると、緊急時に室内からドアロックを解除することができません。

▷ ドア・ハンドルのボタン**A**を短く**2**回押して、車両をロックすると、インナー・ドア・ハンドルで室内からドアロックを解除できるようになります。

知識：

— リモート・コントロール付き車両キーが範囲外にあるときは、ドアをロックした後に、ドアを開くことができません。

— ドアをロックするときは、車両にキーを残さないようにしてください。キーを残したままでは、ドアをロックできません。

警報システム、室内モニタ・システム、傾斜センサのセット

▷ ドア・ハンドルのボタン**A**を短く**1回**押します。
ハザード・ランプが2回点滅します。
ドアがロックされます。この状態では、インナー・ドア・ハンドルを引いてもドアロックが解除できません。

室内モニタ・システムと傾斜センサの一時的な解除

▷ ドア・ハンドルのボタン**A**を短く**2回**押します。
ハザード・ランプが4回点滅します。
ドアがロックされます。このときは、インナー・ドア・ハンドルを引くと、ドアロックが解除されます。

インナー・ドア・ハンドルを引くと、次のようにドアロックが解除されます：

1. インナー・ドア・ハンドルを1回引きます。
ドアロックが解除されます。
2. もう1度、インナー・ドア・ハンドルを引きます。
ドアが開きます。

▷ ドアを開けると、警報システムが作動します。乗員を室内に残して車から離れるときは、注意を促してください。

ポルシェ・エントリー&ドライブの作動不良

使用地域の電波の状況により、ポルシェ・エントリー&ドライブが正常に作動しないことがあります。この場合は、ドアがロックされません。
ドアが正常にロックされたかどうかは、ドアロックの作動音と、ハザード・ランプの点滅で確認できます。

▷ ロックできないときは、ドア・ロックにキーを差し込んでロックします。

作動した警報システムのセット解除

▷ リモート・コントロールでドアロックを解除します。**または**

▷ イグニッション・スイッチをONにします。

作動待機の解除

3日以内に車両をロック解除しなかった場合、ポルシェ・エントリー&ドライブの作動待機が解除されます。

▷ ドア・ハンドルを**1回**引くと、作動待機になります。

▷ **もう1度**ドア・ハンドルを引くと、ドアが開きます。

イモビライザー

イモビライザーの解除

▷ イグニッション・スイッチをONにします。

イモビライザーの作動

▷ イグニッション・スイッチをOFFにします。

セントラル・ロッキング

車両のドアは両方ともセントラル・ロッキング・システムにより、またはリモート・コントロールによりロックできます。
アームレストのセントラル・ロッキング・ボタンを作動させた場合、すべてのドアがロックまたはロック解除されます。

運転席ドアが完全に閉じていない場合、車両をロックすることはできません。

ドア・ロックをキーでロック解除した場合は、運転席ドアのみ開きます。警報システムの作動を防止するために、ドアを開いてから15秒以内にイグニッションをONにしてください。

作動した警報システムのセット解除

▷ リモート・コントロールでドア・ロックを解除します。**または**

▷ イグニッション・スイッチをONにします。

自動再ロック

リモート・コントロールでドアのロック解除を行った後、30秒以内にいずれのドアも開かれなかった場合、自動的に再ロックされます。

⚠ 注 意

ポルシェ・エントリー＆ドライブ装着車では締め出される恐れがあります。

▷ 車両をロックし、リア・リッドまたはリア・ウィンドウから出入りする場合、車両にキーを残さないようにしてください。
車両はリア・リッドまたはリア・ウィンドウが閉じられてから約30秒後に自動的にロックされます。
この場合、車両はスペア・キーでなければロック解除できません。

知識：
室内モニタ・システムおよび傾斜センサが作動していない場合（盗難防止装置制限状態）、自動再ロックが作動した場合、インナー・ドア・ハンドルを2回引くとドアを開くことができます。
その後ロックを行うと、室内モニタ・システムおよび傾斜センサが作動します。

ハザード・ランプによる合図

ドアのロックまたはロック解除を行うと、ハザード・ランプが次のように点滅します。

リモート・コントロールによるロック解除

— ハザード・ランプが1回点滅します。

ポルシェ・エントリー&ドライブ装着車で、ドア・ハンドルのボタンを押してロック解除

— ハザード・ランプは点滅しません。

ロック

警報システム、室内モニタ・システム、傾斜センサのセット

— ハザード・ランプが2回点滅します。

ロック

室内モニタ・システムと傾斜センサを一時的に解除

— ハザード・ランプが4回点滅します。

メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイを使用して、ハザード・ランプの点滅パターンを設定することができます。設定した内容は、そのとき使用しているリモート・コントロールに記憶されます。

▷「シグナル」（101ページ）を参照してください。

セントラル・ロッキング・ボタン

アームレストにあるセントラル・ロッキング・ボタンを押すと、電気的にロックおよびロック解除を行います。

ロッキング

▷ ボタン**A**のシンボルを押します。
すべてのドアがロックされます。
ドアはインナー・ドア・ハンドルを1回引くとロックが解除され、2回引くと開くことができます。

ロック解除

▷ ボタン**A**のシンボルを押します。
リア・ドアから操作した場合は、そのドア**のみ**ロック解除されます。

知識：
キーまたはリモート・コントロールにより車両をロックした場合、セントラル・ロッキング・ボタンではロック解除できません。

セーフティ・ボタン

リア・ドアのパワー・ウィンドウ、セントラル・ロッキング・ボタンおよびエアコンのリア・コントロール・パネルは運転席ドアのアームレストにあるセーフティ・ボタン**B**を使用して、作動を解除することができます。

作動解除

▷ セーフティ・ボタン**B**を押します。
セーフティ・ボタンのシンボルが点灯します。

作動

▷ 再度セーフティ・ボタン**B**を押します。
セーフティ・ボタンのシンボルが消灯します。

緊急時の操作

▷ 車両をロックする場合は、ドア・ロックにキーを差込んで行ってください。

セントラル・ロッキング・システムに不具合がある場合、緊急作動によってセントラル・ロッキング・システムの全ての機能をロックします。

▷ 不具合は正規ポルシェ販売店で直ちに修理してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

知識：
警報システム、室内モニタ・システムおよび傾斜センサはONになります。
警報システムの作動を防止するために、ドア・ロックにキーを差込んでドアを開けた場合は、ドアを開けてから15秒以内にイグニッション・スイッチをONにしてください。

作動した警報システムのセット解除

▷ ドア・ロックを解除します。**または**

▷ イグニッション・スイッチをONにします。

オートマチック・ドアロック・システム

メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイを使用して、オートマチック・ドアロック (AUTO LOCK) およびオートマチック・ドアロック解除 (AUTO UNLOCK) の機能を設定することができます。

▷「ドア開」(99ページ) を参照してください。

知識：

オートマチック・ドアロック (AUTO LOCK) でロックしたドアは、インナー・ドア・ハンドルを**2回**引くと、開くことができます。

ポルシェ・エントリー&ドライブ装着車では、イグニッション・スイッチをOFFにすると、ドアロックが解除されます。

ドア

ロックされていないドアを車外から開く

▷ ドア・ハンドルを引きます。

ロックされていないドアを室内から開く

▷ インナー・ドア・ハンドルを引きます。

ロックされているドアを室内から開く

⚠ 警 告

ドア・ハンドルのボタンを1回だけ押して車両をロックすると、緊急時に室内からドアロックを解除することができません。

▷ ポルシェ・エントリー&ドライブ**装着車：**ドア・ハンドルのボタン**A**を短く**2回**押して、車両をロックすると、インナー・ドア・ハンドルで室内からドアロックを解除できるようになります。

▷ ポルシェ・エントリー&ドライブ**非装着車：**リモート・コントロールのスイッチ**2**を短く**2回**押して、車両をロックすると、インナー・ドア・ハンドルで室内からドアロックを解除できるようになります。

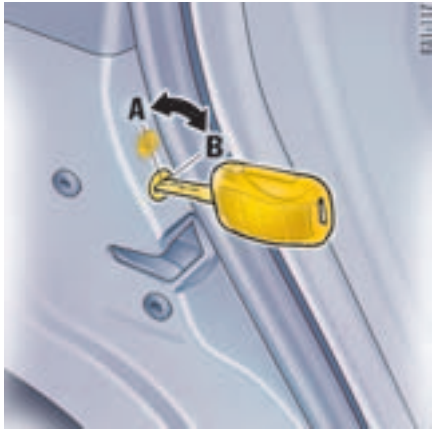
次の場合に限り、インナー・ドア・ハンドルを引いてドアを開けることができます。

— オートマチック・ドアロック (AUTO LOCK) でドアをロックしたとき、**または**

— 室内モニタ・システムと傾斜センサを一時的に解除した状態でドアロックしたとき

▷ インナー・ドア・ハンドルを2回引きます。

▷ 「室内モニタ・システムおよび傾斜センサの一時的な作動解除」（25ページ）を参照してください。



リア・ドア・チャイルド・ロック

リア・ドアにはチャイルド・ロックが取り付けられています。
チャイルド・ロックをかけると、ドアは車内から開くことができません。

ロッキング

▷ セーフティ・キャッチを**A**位置に回します。

ロックの解除

▷ セーフティ・キャッチを**B**位置に回します。

盗難を防止するために

お車を離れるときは、必ず次のことを守ってください。

▷ 窓を閉めてください。

▷ スライディング／チルティング・ルーフまたはパノラマ・ルーフ・システムを閉めてください。

▷ イグニッション・キーを抜いてください。
（ポルシェ・エントリー＆ドライブ装着車はイグニッション・スイッチをOFFにしてください。）

▷ グローブ・ボックスをロックしてください。

▷ 小物入れの蓋を閉めてください。

▷ 貴重品、車両登録書類、電話、家のキーなどを車内に残さないでください。

▷ トノ・カバーを閉めてください。

▷ リア・リッドおよびリア・ウィンドウを閉めてください。

▷ ドアをロックしてください。

警報システム、室内モニタ・システム、傾斜センサ

メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイを使用して、室内モニタ・システムと傾斜センサをそれぞれ一時的に解除することができます。

▷ 「警報」(98ページ) を参照してください。

誤作動を防止するために

▷ スライディング／チルティング・ルーフまたはパノラマ・ルーフ・システムおよびすべてのドア／ウィンドウは必ず閉じてください。

▷ 電源を入れたまま、携帯電話をルーフ・コンソールの眼鏡ケース内に放置しないでください。

▷ トレーラーを連結する前には、必ず警報システムをセット解除してください。傾斜センサにより不意に警報が作動するおそれがあります。

作動した警報システムのセット解除

▷ ドアのロックを解除します。**または**

▷ イグニッションをONにします。

以下のコンポーネントがモニタされます。

— ドア

— エンジン・フード

— リア・リッド

— リア・ウィンドウ

— 車室内

— 車体の傾き

システムの接続が妨害された場合は、警告音が約30秒間鳴ります。同時に、ハザード・ランプが点滅します。その後、5秒間の中断の後再び作動します。この動作を10回繰り返します。

作動

▷ 車両をロックします。
警報システム、室内モニタ・システム、傾斜センサが作動します。

▷ 「セントラル・ロッキング」(20ページ) を参照してください。

作動解除

▷ 車両を解錠します。
警報システム、室内モニタ・システム、傾斜センサが自動的にセット解除されます。

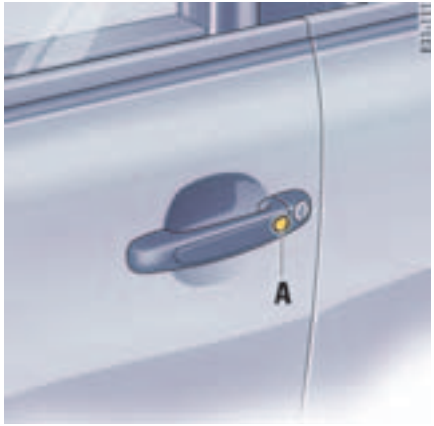
知識：

ドア・ロックにキーを差し込んでドアを開けた場合は、警報システムの作動を防止するために、ドアを開けてから15秒以内にイグニッションをON（イグニッション・キーが**1**の位置）にしてください。

室内モニタ・システムおよび傾斜センサの一時的な作動解除

ロックした車両に人または動物を残す場合や、鉄道や船舶で車両を輸送する場合などには、室内モニタ・システムと傾斜センサの作動を解除しておく必要があります。

知識：
再度ロックすると、室内モニタ・システムと傾斜センサが再び作動します。



ポルシェ・エントリー&ドライブ非装着車

▷ リモート・コントロールのスイッチ**2**を短く**2回**押して、車両をロックします。
ハザード・ランプが4回点滅します。
ドアがロックされます。このとき、インナー・ドア・ハンドルを引くと、ドアロックを解除できます。

1. インナー・ドア・ハンドルを1回引きます。
ドアロックが解除されます。
2. もう1度、インナー・ドア・ハンドルを引きます。
ドアが開きます。

▷ ドアを開けると、警報システムが作動します。乗員を室内に残して車から離れるときは、注意を促してください。

ポルシェ・エントリー&ドライブ装着車

▷ ドア・ハンドルのボタン**A**を短く**2回**押して、車両をロックします。
ハザード・ランプが4回点滅します。
ドアがロックされます。このとき、インナー・ドア・ハンドルを引くと、ドアロックを解除できます。

1. インナー・ドア・ハンドルを1回引きます。
ドアロックが解除されます。
2. もう1度、インナー・ドア・ハンドルを引きます。
ドアが開きます。

▷ ドアを開けると、警報システムが作動します。乗員を室内に残して車から離れるときは、注意を促してください。

A - *警報システムの発光ダイオード（例：運転席ドア）*

機能表示

車両をロックすると、フロント・ドアの警報システムの発光ダイオード**A**がすばやく点滅して知らせます。
車両のロックを解除すると、発光ダイオードが消灯します。

室内モニタ・システム、傾斜センサの作動

▷ 発光ダイオードが2秒間すばやく点滅し、その後ゆっくり点滅します。

室内モニタ・システム、傾斜センサの作動解除

▷ 発光ダイオードが2秒間すばやく点滅し、続く28秒間は消灯します。その後、ゆっくり点滅します。

セントラル・ロッキング・システムと警報システムの故障

▷ 発光ダイオードが2秒間すばやく点滅し、続く28秒間は常時点灯します。その後、ゆっくり点滅します。

パワー・ウィンドウ

⚠ 警 告

ウィンドウを自動で閉める場合は十分に注意してください。怪我をする恐れがあります。

▷ ウィンドウが閉じるとき、同乗者が怪我をしないように十分注意してください。

▷ お車を離れるときは、必ずキーを抜いてください。ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車はイグニッション・スイッチをOFFにしてください。お車を離れるときは、必ずキーを持ってください。
お子様などがパワー・ウィンドウを操作して怪我をする恐れがあります。

▷ 危険な場合はただちにキーまたはポルシェ・エントリー＆ドライブ装着車は運転席ドアのロッカー・スイッチで解除してください。

▷ お子様を残して、お車から離れないでください。

知識：
悪路を走行するときは、常にドア・ウィンドウを閉じてください。

パワー・ウィンドウの作動条件

— イグニッションON

または

— ドアを閉め、イグニッション・キーを抜き取ってから10分以内。ただし運転席ドアまたは助手席ドアを開けるまで。ドア・ウィンドウのワンタッチ閉作動は、イグニッションがONの場合のみ可能となります。

A - *運転席側パワー・ウインドウ・スイッチ*
B - *助手席側パワー・ウィンドウ・スイッチ*
C - *セーフティ・スイッチ*
D - *左側リア・パワー・ウィンドウ・スイッチ*
E - *右側リア・パワー・ウィンドウ・スイッチ*

パワー・ウィンドウの開閉

ウィンドウを開く

▷ ウィンドウが好みの位置になるまでロッカー・スイッチの前側を押してください。

ウィンドウを閉じる

▷ ウィンドウが好みの位置になるまでロッカー・スイッチの前側を引き上げてください。

助手席側および後部席側パワー・ウィンドウ・スイッチ

知識：

運転席ドアのロッカー・スイッチ**A**および**B**は2段階で作動します。

— ロッカー・スイッチを最初の位置まで押す、または引くと、フロント・ウィンドウは好みの位置まで開閉できます。

— ロッカー・スイッチをいっぱいに押す、または引くと（2番目の位置）、フロント・ウィンドウは自動的に開閉します（ワンタッチ作動）。

フロント・ウィンドウのワンタッチ作動

運転席ドアのロッカー・スイッチを最終位置まで押す、または引きます。
ウィンドウは全閉または全開位置まで作動します。
再度押すか、または引いて、ウィンドウを好みの位置まで開閉します。

ポルシェ・エントリー&ドライブ非装着車のコンフォート機能

ウィンドウの開閉

▷ キーをドア・ロックに差し込み、ウィンドウが好みの位置になるまで、ロックまたはロック解除位置に回して保持します。

ドア・ロックにキーを差し込んでドアをロック解除した場合は、運転席ドアのみ開きます。警報システムの作動を防止するために、ドアを開いてから15秒以内にイグニッションをONにしてください。

ポルシェ・エントリー&ドライブ装着車のコンフォート機能

ウィンドウの開閉

▷ キーをドア・ロックに差し込み、ウィンドウが好みの位置になるまで、ロックまたはロック解除位置に回して保持します。

ドア・ロックにキーを差し込んでドアをロック解除した場合は、運転席ドアのみ開きます。警報システムの作動を防止するために、ドアを開いてから15秒以内にイグニッションをONにしてください。

ウィンドウを閉じる

▷ 車両をロックするときに、ウィンドウおよびパノラマ・ルーフ・システムが好みの位置になるまで、ドア・ハンドルのボタンを押したまま保持します。

知識：

▷ コンフォート機能は車両をロックしてから約30秒間使用することができます。

知識：

ドア・ウィンドウを閉じている途中で抵抗を感じると、ウィンドウは停止し、数センチ下がります。

しかし、以下の場合は**例外**です：

- ウィンドウが停止した後、ロッカー・スイッチを10秒以内に再度押す。**および**
- 車両キーでドアをロックする（コンフォート機能）。

ウィンドウは最大の力で閉じようとします。

⚠ 警 告

ウィンドウが抵抗を感じてから、ロッカー・スイッチを10秒以内に再度引き上げると、ウィンドウは最大の力で閉じようとします。

安全のため、挟まれることのないように十分注意をしながら操作してください。怪我をする恐れがあります。

▷ ウィンドウが閉じるとき、同乗者が怪我をしないように十分注意してください。

▷ ドア・ウィンドウが抵抗を感じて停止した後、10秒間はワンタッチ作動によるウィンドウの操作が行えません。

ドア・ウィンドウ停止位置の記憶

バッテリを切り離し再度接続すると、ドア・ウィンドウの停止位置は消去されます。したがって、ウィンドウのワンタッチ作動は解除されます。

すべてのドアに対して、以下の操作を実施してください。

1. ロッカー・スイッチを引いて、ウィンドウを**一度**全閉位置にします。
2. ロッカー・スイッチを押して、ウィンドウを**一度**全開位置にします。
3. 再度ロッカー・スイッチを引いて、ウィンドウを**一度**全閉位置にします。

セーフティ・ボタン

リア・ドアのパワー・ウィンドウ、セントラル・ロッキング・ボタンおよびエアコンのリア・コントロール・パネルは、運転席ドアのアームレストにあるセーフティ・ボタン**C**を使用して、作動を解除できます。

作動解除

▷ セーフティ・ボタン**C**を押します。
セーフティ・ボタンのシンボルが点灯します。

作動

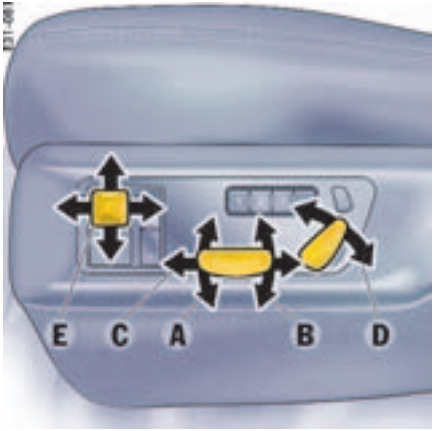
▷ 再度セーフティ・ボタン**C**を押します。
セーフティ・ボタンのシンボルが消灯します。

フロント・シート

シート位置

安全で疲れにくい運転をするには、シートを正しい位置に調節することが必要不可欠です。シートはお客様の希望の位置に調節することができます。次の要領で調節してください。

1. シートを好みの高さに調整してください。
2. シートを前後に動かし、足を自然に伸ばしながらアクセル・ペダルが十分に踏込める位置に調節してください。
3. ステアリングの上の部分を握りながら、ステアリング操作が楽にでき、バック・レストから離れないようにバック・レストの角度とステアリングの位置を調節してください。
4. 必要があれば、前後の調節を再度行ってください。
5. ヘッド・レストの上端が目の高さになるようにヘッド・レストの高さを調節してください。



シート調節

⚠ 警 告

走行中にシートを調節するとシートが予期せず大きく移動し、運転を誤り事故を起こす恐れがあります。

▷ 安全のため、走行中に運転席シートの調節は絶対に行わないでください。

A 座面前部の高さ調節
B 座面後部の高さ調節
C シートの前後調節
D バック・レスト調節
E ランバーサポート
シートの調節、硬さをお好みに合わせ水平方向と垂直方向に連続的に調節することができます。

▷ スイッチを**矢印**の方向に押すと、お好みの位置に調整できます。

フロント・シート・メモリー

運転者に合わせて、シート、ドア・ミラー、ステアリング、シートベルト高さ調整をメモリーに保存し、パーソナル・ボタン**A**および車両キーによりそれらを呼び出すことができます。

⚠ 警 告

メモリーを制御不能な呼出し方で操作した場合、メモリー機能が損傷する恐れがあります。

▷ 自動調節をキャンセルしたい場合は、その他のシート調節スイッチを押してください。

▷ 誤って作動させ、怪我をする恐れがありますのでお子様を車内に残さないでください。

メモリーオプション

— シート位置

— ドアミラー位置

コンフォート・メモリーオプション

— シート位置

— ドアミラー位置

— ステアリング、シートベルト位置

キーによるメモリー呼出し、またはポルシェ・エントリー＆ドライブ装着車のメモリー呼出し

▷ 運転席ドアを開きます。
運転席シートのメモリーが自動的に呼び出されます。

メモリー・キャンセル

自動メモリーは運転席シート・メモリー・ボタンのいずれかを押すとただちにキャンセルできます。

パーソナル・ボタン1〜3（運転席および助手席）によるメモリー呼出し

1. 車両のロックを解除し、運転席ドアを開きます。
2. メモリー位置にくるまで対応するパーソナル・ボタンを押します。
または
イグニッション・キーが差し込まれている、またはONになっている場合（ポルシェ・エントリー＆ドライブ装着車）、パーソナル・ボタンに軽く触れます。各シートのメモリー位置が自動的に呼び出されます。

自動調節キャンセル

自動調節はシート・メモリー・ボタンのいずれかを押すとただちにキャンセルできます。

運転席シート・メモリー

パーソナル・ボタンおよび車両キーによるメモリー

1. パーキング・ブレーキをかけます。
2. イグニッションをONにします。
3. ドアを閉めます。
4. シート、ミラー、ステアリング、シートベルトを好みの位置に調整します。
5. 「**SET**」メモリー・ボタンを短く押し、10秒以内にパーソナル・ボタン（**1, 2, 3**）のいずれかを押し、確定ブザーが鳴るまで保持します。
   設定がパーソナル・ボタンに保存されます。
6. 車両キーを抜き取るか、イグニッションをOFF（ポルシェ・エントリー＆ドライブ装着車）にします。
7. 10秒以内に「**SET**」メモリー・ボタンを押し、確定ブザーが鳴るまで保持します。
   これで設定が車両キーに登録されました。

A - *ドア・ミラー調節*
C - *助手席ドア・ミラー調節*

パーキング・エイドによる助手席ミラーのメモリー

リバース・ギアを選択したとき、助手席ミラーが下向きになるように、運転席シートのメモリーに保存することができます。

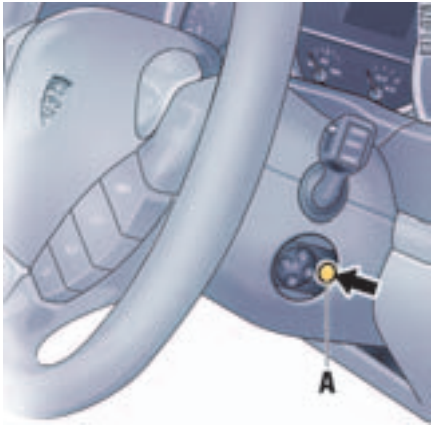
1. パーキング・ブレーキをかけます。
2. イグニッションをONにします。
3. 該当するパーソナル・ボタンを押します。
4. リバース・ギアを選択します。
5. ミラーのコントロール・スイッチ**A**を助手席側**C**にセットします。
   助手席ミラーが下向きになります。
6. 助手席ミラーを好みの位置に調整します。
7. 「**SET**」メモリー・ボタンを短く押し、10秒以内に設定を保存したいパーソナル・ボタンを押し、確定ブザーが鳴るまで保持します。

助手席シートのメモリー

1. パーキング・ブレーキをかけます。
2. イグニッションは必ずONにしてください。
3. シート位置およびベルト高さを調整します。
4. 「**SET**」メモリー・ボタンを短く押し、10秒以内にパーソナル・ボタン（**1, 2, 3**）のいずれかを押し、確定ブザーが鳴るまで保持します。

自動メモリー ― 運転席シート

運転席ドアを開いてからメモリーを変更した場合、車両をロックしたときに新しい設定が一時的に保存されます。このメモリーは車両を登録済みキーでロック解除し、運転席ドアを開いた場合に消去されます。
この場合、登録済みキーを使用して、設定を呼び戻せます。



イージー・エントリー機能

イージー・エントリー機能により車両が乗り降りしやすくなります。

⚠ 警 告

設定を呼び出したときに運転席の後ろに人がいる場合押しつぶされて怪我をする恐れがあります。
またリア・シートを前方に倒している場合は損傷する恐れがあります。

▷ 運転席の後ろに人がいる場合またはリア・シート・ベンチを前方に倒している場合は、イージー・エントリー機能をOFFにしてください。

イージー・エントリー機能の作動／解除

▷ スイッチ**A**を押します。

車両に乗る

運転席ドアを開くと、運転席シートが後ろに動きます。
運転席ドアを閉じ、イグニッション・キーを差し込むか、イグニッションをONにすると（ポルシェ・エントリー＆ドライブ装着車）、シートおよびステアリングがメモリー位置に動きます。

車両から降りる

以下の場合にステアリングが最前、最上位置に動きます。

— イグニッション・キーを抜き取ったとき

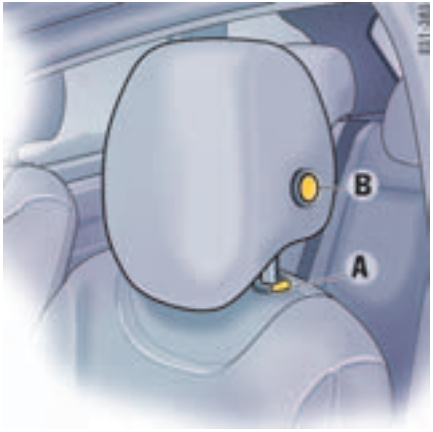
または

— ポルシェ・エントリー＆ドライブ装着車ではイグニッションをOFFにし、運転席ドアを開いたとき

または

— ステアリング・コラムがロックしたとき

運転席ドアを開くと、運転席シートが後ろに動きます。



フロント・シート

ヘッドレスト

取外し

フロント・シート

▷ ボタン**A**を押したまま、ヘッドレストを完全に取外します。

リア・シート

▷ ボタン**B**を押し、ヘッドレストをしっかり押し込みます。

▷ ボタン**A**を押したまま、ヘッドレストを完全に引き出します。

取付け

知識：

リア・シート中央席用のヘッドレストは、リア・シートの中央にのみ取付けてください。

1. ヘッドレストをガイドに差し込みます。
2. ボタン**B**を押したまま、ヘッドレストを押し込み、好みの位置に合わせます。リア・シート中央席用のヘッドレストをリア・シート中央に取付け、しっかり押し込みます。

調整

フロント・シートのヘッドレストおよびリア・シートの両外側ヘッドレストは高さが調整できます。

上昇

▷ ヘッドレストを押し上げ、好みの位置に合わせます。
リア・シート・ヘッドレストの場合は、さらにボタン**B**も押します。

下降

▷ ボタン**B**を押したまま、ヘッドレストを押し下げ、好みの位置に合わせます。

リア・シート

リア・シートは分割式なので、個々に倒して収納スペースを広げることができます。

⚠ 注 意

シート・クッション、バックレストおよびシートベルトは、両方一緒に倒さないと損傷する恐れがあります。

▷ シート・クッションおよびバックレストは必ず一緒に倒してください。

リア・シートを倒す

ラゲッジ・セーフティ・ネットが取り付けられている場合は、まず、左のシート・クッションをまっすぐ起こし、左シート・バックレストを前方に倒します。

オートマチック・コントロール4ゾーン・エアコン装着車の場合：

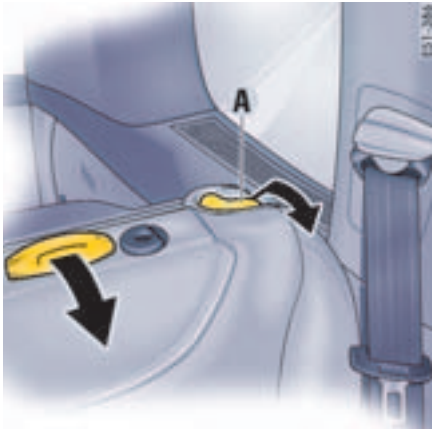
セーフティ・ボタン

▷ リア・シートを倒す前に運転席ドアのアームレストにあるセーフティ・ボタンを押してください。
エアコンのリア・コントロール・パネルの機能が停止し、エアコンの不意な調節を防ぐことができます。
スイッチのシンボルが点灯します。

1. ヘッドレストをバックレストから取り外します。
   「ヘッドレスト」（34ページ）を参照してください。
2. フロント・シートを前に動かします。
3. シート・クッションのループ**A**部を引き上げます。
4. シート・クッションを前に引きます（矢印**B**）。

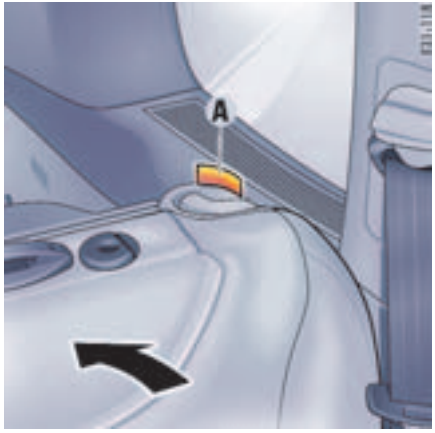
▷ ▷ ▷

5. シート・クッションをまっすぐ起こします。



6. リリース・レバー**A**を引き、バックレストを倒します。

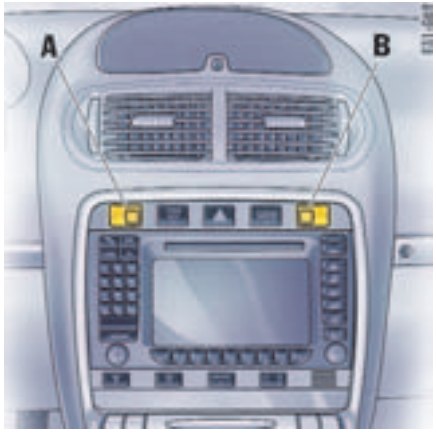
7. バックレストの小穴をシート・クッションのマウント・フックに差し込みます。(矢印)



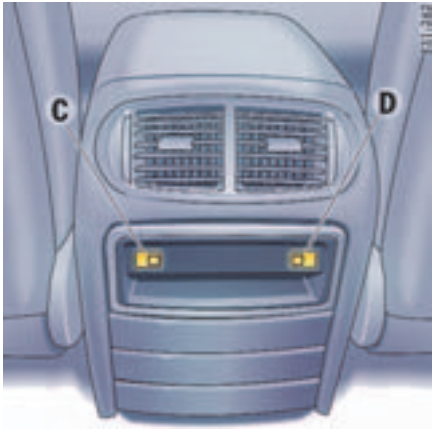
8. ヘッドレスト**B**をシート・クッションのガイドに差し込みます。（矢印）

リア・シートを戻す

1. ヘッドレストをシート・クッションから取り外します。
2. シートベルトを引っ掛けないように気をつけてください。バックレストを起こし、ロック音を確認します。赤い「確認フラグ」**A**が完全に下がっていることを確認してください。
3. シート・クッションを戻します。
4. シート・クッションをバックレストの下に押し込みます。
5. シート・クッションの前側を押し下げます。バックルに手が届くことを確認します。
6. ヘッドレストをバックレストに差し込みます。
「ヘッドレスト」（34ページ）を参照してください。



A - *フロント・シート・ヒータ（左側）*
B - *フロント・シート・ヒータ（右側）*



C - *リア・シート・ヒータ（左側）*
D - *リア・シート・ヒータ（右側）*

シート・ヒータ（フロント&リア）

イグニッションをONにすると、シート・ヒータを作動させることができます。ヒータの強さは調整ダイヤルで調整できます。

作動

▷ 調整ダイヤルを回し、好みの位置に合わせます。

停止

▷ 調整ダイヤルを**0**に合わせます。

A - *シート・ヒータ・スイッチON*
B - *シート・ヒータ・スイッチOFF*
C - *左側シート温度調節*
D - *右側シート温度調節*

リア・シート・ヒータ (4ゾーン・エアコン装着車)

作動

▷ ボタン**A**を押します。
シート・ヒータを作動すると、エアコン・ディスプレイが約10秒間シート・ヒータ・モードに切り替わります。

温度の調整

▷ ボタン**C**またはボタン**D**を上または下に動かし、好みの温度に調整します。

停止

▷ ボタン**B**を押します。

シートベルト

身長が150cm以下の人が乗車される場合は、シートベルトを使用せずポルシェ社指定のチャイルド・シートを必ず使用してください。

⚠ セーフティ・ノート

- ▷ 車に乗車したら、安全のため乗員は必ずシートベルトを着用するように義務付けられています。同乗者の方にもこのページの内容をよく理解してもらってください。
- ▷ 同時に2人で**1本**のシートベルトを使うことは、絶対に避けてください。シートベルトの機能が十分に発揮できず衝突時、致命的な怪我をする恐れがあります。
- ▷ だぶついた衣服は、シートベルトが正しくフィットしない上に、動作の自由を奪うことになるので、乗車時には必ず脱ぐようにしてください。
- ▷ 硬い物や壊れやすい物（眼鏡、ボールペン、パイプなど）の上に、ベルトがかからないようにしてください。衝突の際に怪我をする可能性が高くなります。
- ▷ シートベルトはねじれたり、たるんだ状態で装着しないでください。
- ▷ シートベルトを定期的に点検し、ベルトの帯が損傷していないか、またバックルと取付け部が正常な状態にあるかどうか確認してください。
- ▷ 安全性を維持するため、事故などでベルトに強く負荷がかかった場合は、ベルトを交換してください。またアンカー部分も点検してください。

  ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。
- ▷ ベルトを使用しないときは汚れや損傷を防ぐため完全にリトラクターに巻き取らせてください。

シートベルト警告灯

シートベルトの装着を促すために、以下の警告がベルトのプレートがバックルに挿入されるまで持続します。
ベルトのプレートがバックルに挿入されると、警告は解除されます：

- ー イグニッション・スイッチをONにすると、インストルメントパネルのシートベルト警告灯が点灯します。
- ー マルチ・ファンクション・ディスプレイに警告が表示されます。
- ー シートベルト未装着のままで走行し、時速10km/hを超えたときに警告音が鳴ります。

シートベルト・テンショナ

事故時に発生する衝撃力の大きさにより作動して、シートベルトを押さえつけ乗員を保護します。

シートベルト・テンショナは以下の場合に作動します。

- ー 前後方向から強い衝撃を受けたとき。
- ー 横方向から衝撃を受けたとき（フロント・シートベルト・テンショナ）

知識：

シートベルト・テンショナは、一度しか作動しません。作動後は、システムを交換する必要があります。シートベルト・テンショナ・システムの交換は、必ず正規ポルシェ販売店で行ってください。
ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。シートベルト・テンショナは作動したときに、若干の煙を発生することがありますが、火災などの心配はありません。

シートベルトの装着

▷ フロント・シートを最適の位置に調節してください。ショルダー・ベルトが常に身体の上および肩の中央部にくるように、バックレストを調整してください。

▷ ベルトのプレートを持って、ゆっくりと一定の速度でリトラクターから引き出し、胸と腰にかかるようにします。

知識：

車両が傾いているときやベルトに負荷がかかったとき、シートベルトはロックされます。

▷ カーブを曲がったり急な坂道を登るときなど、急加速や急減速を行っている場合には、ベルトを引き出すことができません。

▷ プレートをシート内部にあるバックルの中に、カチッと音がするまで差込みます。

▷ ベルトがひっかかったり、ねじれたり、鋭い物にこすれたりしないように注意してください。

▷ ベルトの水平部分は必ず腰の低い位置（骨盤）にぴったりとかかるようにしてください。
プレートをバックルに差込んで、ベルトの斜め部分を上に引っ張ってください。
妊娠中の人は、ベルトを骨盤のできるだけ低い位置にかけ、腹部を圧迫しないように注意してください。

▷ 走行中にもベルトの斜め部分を上に引っ張る調整を繰り返し、ラップ・ベルトがゆるまないようにしてください。

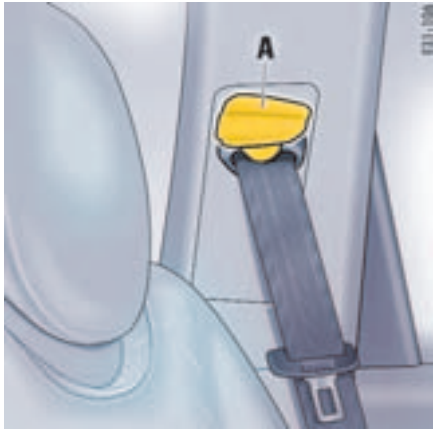
▷ リア・シートも同様に正しく装着してください。

ベルトの外し方

▷ ベルトのプレートを持ちます。

▷ バックルにある赤いボタン（**矢印**）を押します。

▷ リトラクターに近付け、ベルトを巻き取らせてください。



シートベルトの高さ調整

運転席、助手席およびリア・シート外側のシートベルトの高さは調整することができます。
シートベルトの高さを調整し、首ではなく、肩の中央部にかかるようにします。

調整方法

▷ 上方向に移動 — ベルト・デフレクタを上へ押上げます。

▷ 下方向に移動 — ボタン**A**を押し、ベルト・デフレクタを下方向へ押し下げます。

電動ベルト高さ調整

▷ ロッカー・スイッチ**B**を好みの方向に押し、最適なベルト高さに調整します。

コンフォート・メモリー装着車では、シートベルトの高さをパーソナル・ボタンと車両キーに記憶させ、または呼び出すことができます。

▷ 「フロント・シート・メモリー」(31ページ) を参照してください。

チャイルド・シート

⚠ 危 険

助手席エアバッグによって致命的な怪我をする恐れがあります。

▷ 助手席にチャイルド・シートを取付けないでください。エアバックが作動すると非常に危険なため、必ず後部座席に取付けてください。

▷ お車に取り付けることのできるポルシェ社指定チャイルド・シートを正しく選び、必ず後部座席に取付けてください。

⚠ セーフティ・ノート

▷ チャイルド・シートの取付け説明書を参照してください。

▷ チャイルド・シートは、必ず国の法規に適合するものを使用してください。

▷ 必ずポルシェ社指定のチャイルド・シートのみを使用してください。ポルシェ社指定のチャイルド・シートは、ポルシェ車の内装状態とあらゆる年齢のお子様にマッチするようテストを繰り返されています。
指定外の製品はテストにより安全性が実証されていないため、怪我をする可能性が高くなります。

▷ チャイルド・シートは必ず後部座席に取付けてください。

9ヶ月未満のお子様

9ヶ月未満のお子様の場合、チャイルド・シートを進行方向に対して**後ろ向き**に取付けます。

▷ チャイルド・シートは必ず後部座席に取付けてください。

9ヶ月～3歳のお子様

9ヶ月～3歳のお子様の場合、チャイルド・シートを**前向き**に取付けます。
チャイルド・シートは必ず後部座席に取付けてください。

3歳～6歳のお子様

3歳～6歳のお子様の場合、チャイルド・シートを**前向き**に取付けます。
チャイルド・シートは必ず後部座席に取付けてください。

6歳～12歳のお子様

6歳～12歳のお子様の場合、チャイルド・シートを**前向き**に取付けます。
チャイルド・シートは必ず後部座席に取付けてください。

推奨チャイルド・シート

年齢	体重	シート・タイプ	認可番号	外側リア・シートおよび 中央リア・シート上で シート・ベルトのみでの使用
9ヶ月未満	13 kg未満	ポルシェ・ベビー・シート 0+ISOFIXユニバーサル ポルシェ・ベビー・シート 0+ISOFIXスペシャル ポルシェ部品番号 955.044.800.42	E1 3030011 E1 3030012	可能
9ヶ月～3歳	9～18 kg	ジュニア・シート ISOFIX グループ I ユニバーサル ジュニア・シート ISOFIX グループ I スペシャル ポルシェ部品番号	E1 3030013 E1 3030014	可能
3歳～6歳	16～25 kg	ジュニア・シート ISOFIX グループ II ユニバーサル ポルシェ部品番号 955.044.800.44	E1 3030015	可能
6歳～12歳	15～36 kg	ポルシェ・キッズ・プラス ポルシェ部品番号 955.044.801.02	E1 03301169	可能

知識：

チャイルド・シートは必ず後部座席に取付けてください。

ISOFIXチャイルド・シート・システム

ISOFIX対応のチャイルド・シート・システムはポルシェ推奨のチャイルド・シートのみ使用することができます。ポルシェ推奨のISOFIXチャイルド・シートはポルシェによってテストされ、ポルシェ車の内装とお子様の年齢に最適なように調整されています。他銘柄のISOFIXチャイルド・シートを使用しますと衝突時、怪我をする恐れがあります。

ISOFIX対応のチャイルド・シートは正規ポルシェ販売店でお求めになれます。

▷ チャイルド・シートに付属の取扱説明書を必ず遵守してください。

ISOFIXチャイルド・シートの取付け

左右のISOFIXチャイルド・シート固定ポイントのマーキングはリア・シートのバック・レストにあります。

ISOFIXチャイルド・シート固定用突起**A**はマーキングの下のバック・レストとクッションの間にあります。

1. チャイルド・シートの取扱説明書に記載のとおり、チャイルド・シートを固定用突起**A**に取付けます。
2. チャイルド・シートを引いて、両方の固定ポイントが正しく固定されているか確認します。

⚠ 危 険

助手席側エアバッグによって致命的な怪我をする恐れがあります。

▷ 助手席にチャイルド・シートを取付けないでください。エアバッグが作動すると非常に危険なため、必ず後部座席に取付けてください。

エアバッグ・システム

⚠ セーフティ・ノート

- ▷ エアバッグ装着車でも**シートベルトを必ず締めてください**。軽度な衝撃や角度によっては、エアバッグが作動しない場合もあるので非常に危険です。
- ▷ 運転席と助手席の間あるいは乗員とエアバッグの間に幼児を座らせたり、ペット、その他の品物を置かないようにしてください。事故の時、致命的な怪我をする恐れがあります。
- ▷ ステアリングは必ず外側のリムを持つようにしてください。
- ▷ 効果的にエアバッグが作動するには、一定の空間が必要です。運転席と助手席に座わる人は、座わる位置に気をつけてください。サイド・エアバッグの装備されている車はドアに寄り掛からないで下さい。万一の時エアバッグの作動の妨げとなります。
- ▷ ドアの小物入れの扉は常に閉じ、中身がはみ出ないようにしてください。万一の時サイド・エアバッグの作動の妨げとなります。
- ▷ 安全のため、重たい荷物を助手席や助手席の前側に置かないでください。
- ▷ 同乗者の方にもこのページの内容をよく理解してもらってください。
- ▷ 運転中、足はつねに足下の空間に置いてください。足をダッシュボードやシートに置かないでください。

機能

エアバッグは、シートベルトと併用することで、衝突時の乗員の負傷を最小限に抑えるように設計されています。

エアバッグは、前面または側面衝突時の運転手及び助手席乗員の顔面と上半身の動きを瞬時に吸収し、保護します。

運転席側の**フロント・エアバッグ**はステアリングのパッドの中にあり、助手席側はダッシュボードの中にあります。
フロント・シートの**側部エアバッグ**はシート・バック・レストの横にあります。
ヘッド・エアバッグは左右のドアの上のルーフ部分にあります。

それぞれのエアバッグは衝突の角度および衝撃力に応じて作動します。

フロント・エアバッグは膨張後、わずかに視界が妨げられますが、すぐに収縮します。また、エアバッグ膨張時の作動音は事故の雑音によってかき消されます。

⚠ セーフティ・ノート

- ▷ エアバッグ・システムに故障が生じた場合、必ず正規ポルシェ販売店にご相談してください。
- ▷ エアバッグは再使用不可のためエアバッグが作動した後は、直ちに正規ポルシェ販売店で点検または交換を受けてください。
- ▷ エアバッグ配線や構成部品は変更を加えないでください。
- ▷ ステアリングや助手席側のエアバッグ、側部エアバッグ、ヘッド・エアバッグ付近には、小物やステッカーなどを取付けないでください。
- ▷ エアバッグ・ワイヤ・ハーネス付近の補助電装品のケーブルを通さないでください。
- ▷ エアバッグ構成部品の分解（ステアリング・ホイール、フロント・シート、ルーフ・トリムなど）は、正規ポルシェ販売店でのみ行うことができます。
- ▷ お車を売却される場合は、この車がエアバッグ装着車であることを次の購入者に知らせた上で、取扱説明書の「エアバッグ・システム」のページを読むことを薦めてください。
- ▷ 機能点検は、規定された間隔で正規ポルシェ販売店で行ってください。
- ▷ チャイルド・シートを取り付ける場合は、「チャイルド・シート」（43ページ）を参照してください。

警告灯および警告メッセージ

少しでも異常がある場合は、タコメータの警告灯およびマルチ・ファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

▷ 「警告灯および警告メッセージ」（104ページ）を参照してください。

▷ 次のような場合は、正規ポルシェ販売店で直ちに不具合を修理してください。

— イグニッションをONにしても警告灯が点灯しない場合**または、**

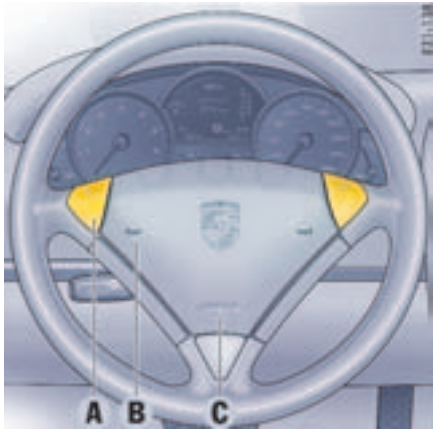
— エンジン始動後に警告灯が消灯しない場合**または、**

— エアバッグ警告灯が走行中に点灯した場合

処分について

未点火のガス発生器や車両、あるいはエアバッグ・ユニットなどは、通常のスクラップやごみと同じように処分することはできないため、エアバッグ関連部品の処理は全て正規ポルシェ販売店にお任せください。

処分に関する詳しい情報については、正規ポルシェ販売店にお問い合わせください。



ステアリング

ティプトロニック・ロッカー・スイッチ

ポルシェ・ティプトロニックは6速トランスミッションで、「オートマチック」および「マニュアル」のギアシフト・モードが備えられています。

ステアリングのロッカー・スイッチ**A**を使用すれば、一時的にマニュアル・モードに切り替えることができます。

▷ 「ティプトロニックS」（198ページ）を参照してください。

ホーン

▷ ボタン**B**を押すとホーンが鳴ります。

エアバッグ・ユニット

エアバッグ・ユニット**C**はステアリング中央のクッション裏に取り付けられています。

エアバッグはシートベルトとの併用により、万一の事故の際、ドライバーおよび乗員を最大限保護するように設計された保安システムです。

▷ 「エアバッグ・システム」（48ページ）を参照してください。

ステアリング・ヒータ

室内温度が12℃より低くなると、イグニッションをONにしたときにステアリング・ヒータが自動的に作動します。

このとき、ステアリングの温度は23℃に調整されます。

エンジンが作動しているとき室内温度が22℃を超えると、ステアリング・ヒータは自動的に停止します。

ステアリング調整

⚠ 警 告

走行中にステアリングを調整すると、ステアリングが予期せず大きく移動し、運転を誤り、事故を起こす恐れがあります。

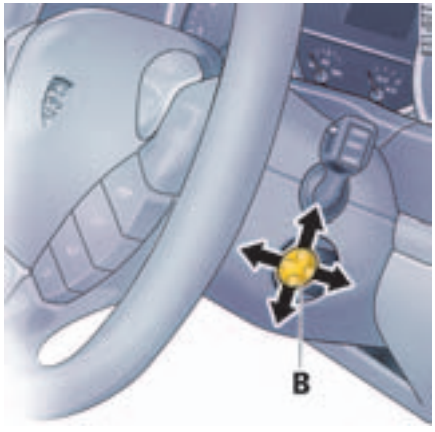
▷ 安全のため、走行中にステアリングの調整を行なわないでください。

メモリーを制御不能な呼出し方で操作した場合、メモリー機能が損傷する恐れがあります。

▷ 過って作動させ、怪我をする恐れがありますのでお子様を車内に残さないでください。

手動調整

1. ロック・レバー**A**を押し下げます。
2. ステアリングをバックレスト角度およびシート位置に合わせて設定します。ステアリングを好みの位置に動かします。
3. ロック・レバー**A**を戻し、固定します。



電動調整

▷ コントロール・スイッチ**B**を調整する方向に押し、好みの位置に合わせます。

ステアリングの設定はシート・メモリーに記憶されます。

▷ 「フロント・シート・メモリー」(31ページ) を参照してください。

マルチ・ファンクション・ステアリング

⚠ 警 告

事故を起こす恐れがあるので、運転中にマルチ・ファンクション・ディスプレイ、ラジオ、ナビゲーション・システム、電話などの操作や設定を行なわないでください。

運転以外に気をとられ、車両のコントロールを失う恐れがあります。

▷ 運転中に装備を操作する場合は、安全に操作できる交通状況のときのみ行ってください。

▷ 複雑な操作や設定は車両を静止した状態で行ってください。

マルチファンクション・ステアリングにはファンクション・キーが備えられ、ドライバーが交通から気を逸らさずにさまざまな操作を簡単に行うことができます。ファンクション・キーにより車両の装備に応じて以下のポルシェ・コミュニケーション・システム＊が操作できます。

— 電話

— ラジオおよびCD

— CDチェンジャ

— TVチューナ

マルチ・ファンクション・ステアリングの作動条件

— イグニッションON

および

— ポルシェ・コミュニケーション・システムON

ファンクション・キーを操作する前にポルシェ・コミュニケーション・システムの操作説明書をお読みください。

知識：

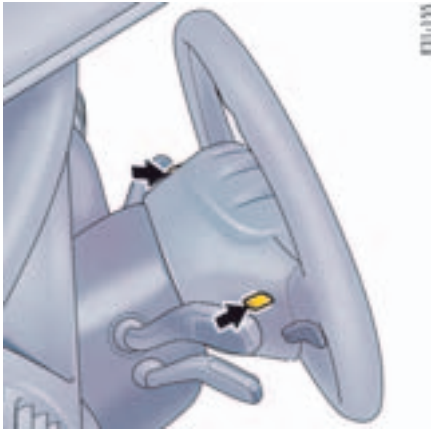
ポルシェ・コミュニケーション・システムはマルチ・ファンクション・ステアリングからはON/OFFできません。

＊日本仕様に設定はありません。

ファンクション・キーの操作

ステアリングのファンクション・キー（**矢印**）は押し引きして操作します。

このキーを何回か押し引きすることにより、さまざまな機能を好みの設定に調整することができます。



ステアリング照明ボタン

ランプ・スイッチを操作したとき、自動的に照明が点灯します。
ステアリングの裏面のボタン（**矢印**）を使用して、ファンクション・キーとロッカー・スイッチの照明をON／OFFすることができます。

照明OFF

▷ ボタンを押します。

照明ON

▷ ボタンをもう一度押します。

電話操作機能付きマルチ・ファンクション・ステアリング＊

▷ ファンクション・キーを操作する前に、ポルシェ・コミュニケーション・システムに付属の取扱説明書をお読みください。

＊日本仕様に設定はありません。

電話に出る
— 電話を受けます。

電話を切る
— 通話を終了するか、拒否します。

該当するコミュニケーション・システムの音量を上げます。

該当するコミュニケーション・システムの音量を下げます。

MUTE **音源を切ります。**

次のラジオ局／曲
— 次のラジオ局または曲を選択します。

前のラジオ局／曲
— 前のラジオ局または曲を選択します。

オーディオ選択
— オーディオを選択します。車両の装備に応じて以下のオーディオが選択できます。
・ラジオ
・CDS（シングルCDプレーヤ）
・CDC（CDチェンジャ）

電話操作機能無しマルチ・ファンクション・ステアリング

▷ ファンクション・キーを操作する前に、ポルシェ・コミュニケーション・システムに付属の取扱説明書をお読みください。

MAN **手動調整**

— ラジオ局を手動で設定します。

SCAN **曲／ラジオ局のスキャン**

— 曲／ラジオ局を短時間にスキャンします。

+ **該当するコミュニケーション・システムの音量を上げます。**

− **該当するコミュニケーション・システムの音量を下げます。**

次のラジオ局／曲

— 次のラジオ局または曲を選択します。

前のラジオ局／曲

— 前のラジオ局または曲を選択します。

MUTE **道路交通情報を選択します。**

オーディオ選択

— オーディオを選択します。車両の装備に応じて以下のオーディオが選択できます。

・ラジオ

・CDS（シングルCDプレーヤ）

・CDC（CDチェンジャ）

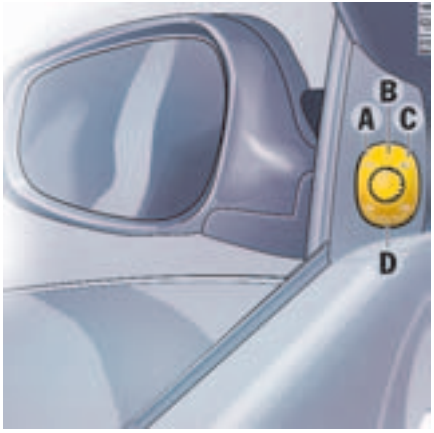
ルーム・ミラー

基本位置：レバーは前方

防眩位置：レバーは後方

知識：

ミラーを調整するとき、防眩機能のレバー**A**を前方に向けてください。



A - *ドア・ミラー調節（運転席側）*
B - *ドア・ミラー・ヒータ・スイッチ*
C - *ドア・ミラー調節（助手席側）*
D - *ドア・ミラー開閉スイッチ*

ドア・ミラー

ドア・ミラーは、助手席側は凸面、運転席側は視野が広くなるよう非球面になっています。

⚠ 警 告

ドア・ミラーは映る車や物が実際の大きさより小さく、距離が離れているように見えますので十分注意してください。思わぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ 後続車との距離を判断する場合や、駐車時に後退する場合は十分注意してください。

▷ 距離を判断する場合は、ルーム・ミラーも併用してください。

洗車機で洗車するとき、ドア・ミラーを損傷する恐れがあります。

▷ 洗車機を使用する場合は、ミラーを格納してください。

ドア・ミラーの調整

1. イグニッション・スイッチをONにします。
2. コントロール・スイッチを回して、**A**の位置（運転席側）または**C**の位置（助手席側）を選択します。
3. コントロール・スイッチを操作して、ドア・ミラーを適切な位置に調整します。

電動調節が故障した場合は

▷ 鏡面を手で押して調節してください。

ドア・ミラー調整の同期

メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイを使用して、ドア・ミラー位置を記憶させることができます。

▷「ミラー」（101ページ）を参照してください。

ドア・ミラーの格納

▷ イグニッション・スイッチをONにします。

▷ コントロール・スイッチを**D**の位置にすると、両方のドア・ミラーが自動的に格納します。

電動調節が故障した場合は

▷ ドア・ミラーを手で格納してください。

ドア・ミラーの復帰

▷ イグニッション・スイッチをONにします。

▷ コントロール・スイッチを**A**の位置または**C**の位置にすると、両方のドア・ミラーが自動的に復帰します。

電動調節が故障した場合は

▷ ドア・ミラーを手で復帰してください。

▷▷▷

ドア・ミラー・ヒータ

ドア・ミラー・ヒータはイグニッション・スイッチをONにしたときに、作動可能になります。

スイッチON

▷ コントロール・スイッチを**B**の位置に回します。
両方のドア・ミラー・ヒータがONになります。

スイッチOFF

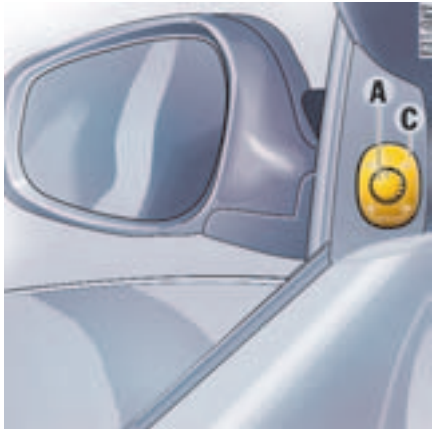
▷ コントロール・スイッチをその他の位置にします。

ドア・ミラー位置の記憶

シート・メモリー装着車では、ドア・ミラーの位置をシート・メモリーのパーソナル・ボタンと車両キーに記憶させ、または呼び出すことができます。

▷「フロント・シート・メモリー」(31ページ) を参照してください。

▷「パーキング・エイドによる助手席ミラーのメモリー」(32ページ) を参照してください。



A - *ドア・ミラー調節スイッチ*
C - *助手席ドア・ミラー調節スイッチ*

駐車時の助手席ミラーの下向き自動調整

後退時にリバース・ギヤを選択すると、**助手席側**ドア・ミラーが自動的に下向きになり、助手席側の後方下部の縁石などが確認しやすくなります。

助手席側ドア・ミラーの自動調整は、下記の条件のときに作動します。

— 車両にはシート・メモリーが装備されている。

— ドア・ミラー調節スイッチ**A**が助手席側**C**にセットされている。

— リバース・ギヤを選択している。

ドア・ミラーを通常の位置に戻すときは：

— ギヤをリバース以外にシフトします。

または

— ドア・ミラー調節スイッチの位置を変更します。

E - *発光ダイオード（LED）*
F - *自動防眩操作スイッチ*
G - *ランプ・センサ*

自動防眩ミラー

ルーム・ミラーの前後に取付けられたセンサが、ミラーに投射する光を測定します。光の度合に応じてミラーは自動的に暗くなったり、明るくなったりします。

⚠ 警 告

自動防眩ミラーのガラスが破損すると防眩機能の液体が流れ出すことがあります。この液体はものを腐食させる性質がありますので、皮膚や目に直接触れないように十分に注意してください。

▷ 液体が目や皮膚に触れた場合は、速やかにきれいな水で洗い流し医師の診断を受けてください。

車の塗装面、レザー部分、プラスチック部分や布部分に液体が垂れると、損傷する恐れがあります。液体が乾かないうちに、速やかに洗浄してください。

▷ 水または湿らせたウエスで洗浄してください。

知識：

センサ**G**の感知を妨げるステッカーなどをフロント・ウィンドウに貼らないでください。

自動防眩OFF

▷ 自動防眩操作スイッチ**F**を押します。発光ダイオード**E**が消灯します。

知識：

自動防眩自動OFF

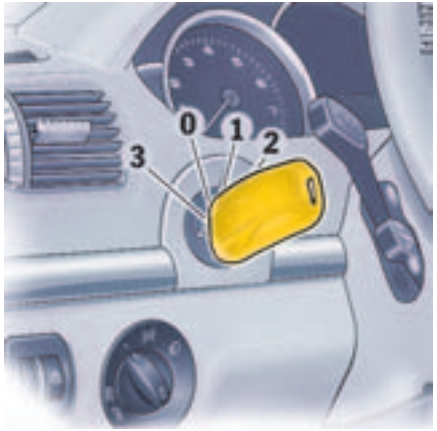
— リバース・ギヤが選択されているとき、

または

— ルーム・ランプや読書灯のスイッチがONのときは、自動防眩機能は作動しません。

自動防眩ON

▷ 自動防眩操作スイッチ**F**を押します。発光ダイオード**E**が点灯します。



0 - *初期位置*
1 - *イグニッションON*
2 - *エンジン始動*
3 - *イグニッションOFF*

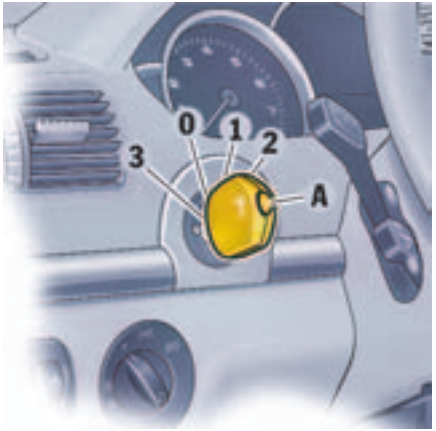
イグニッション・ロック／ステアリング・ロック

イグニッション・ロックには全部で4つのロック位置があります。

知識：

キーは各ロック位置から初期位置に戻ります。

ポルシェ・エントリー＆ドライブ装着車では、キーをイグニッション・ロックに差し込む必要はありません。ただ、身につけていればいいのです。イグニッション・キーはイグニッション・ロックのコントロール・ユニットに変わりました。このコントロール・ユニットはけん引時を除いて**常時**イグニッション・ロックに差し込まれた状態になっています。



ポルシェ・エントリー＆
ドライブ・コントロール・ユニット

コントロール・ユニットのイグニッション・ロックからの抜き取り

▷ ボタン**A**を押し、コントロール・ユニットを抜き取ります。

イグニッション・ロック位置0

初期位置

イグニッションをONにする、またはエンジンを始動すると、イグニッション・キーは抜き取れなくなります。

イグニッション・キーを抜き取るには：

▷ 車両を停止します。

▷ セレクタ・レバーを**P**位置にシフトします。

▷ イグニッションをOFFにします。

▷ イグニッション・キーを抜き取ります。

注意：

イグニッション・キーを差し込んだままにしておくと、バッテリが消耗します。

バッテリの電圧が低下したときは、イグニッション・キー抜き取りの緊急操作をしたときだけ、イグニッション・ロックからキーを抜き取ることができます。

「緊急操作ーイグニッション・キーの抜き取り」（15ページ）を参照してください。

イグニッション・ロック位置1

イグニッションON

▷ イグニッション・キーをロック位置**1**に回します。イグニッションがONになります。

知識：

すべての電装品が作動可能になります。警告灯が点灯し、ランプ点検を行います。

▷ 「メータ・パネル」（64ページ）を参照してください。
イグニッション・スイッチをONにしてから10分以上、電装品をONにしなかったときは、再度イグニッションをONにする必要があります。はじめにイグニッション・キーをロック位置**3**（イグニッションOFF）に回します。

イグニッション・ロック位置2

エンジン始動

▷ フット・ブレーキを踏み込みます。

▷ セレクタ・レバーを**P**または**N**位置にシフトします。

▷ アクセル・ペダルは踏まないでください。
エンジン・コントロール・ユニットにより、適切な始動時燃料補正が行われます。

▷ イグニッション・キーをロック位置**2**に回します。

▷ この位置にキーを約10秒以上保持しないでください。
エンジンが始動しないときは、約10秒間たってから始動を再度試みてください。その場合はまずイグニッション・キーをロック位置**3**（イグニッションOFF）に戻してください。

▷ 停車状態で暖機運転を行わないでください。
すぐに発進してください。
エンジンが作動温度に達するまでは、高回転域およびスロットル全開での運転は行わないでください。

▷ バッテリが上がりかけている場合、ジャンパー・ケーブルを使用してエンジンを始動してください。
「ジャンパー・ケーブルによる始動」（309ページ）を参照してください。

知識：

エンジンが始動すると、スタータは自動的に停止します。エンジンが始動しなかった場合、次回スタータは自動的には停止しません。
エンジンが始動すると、警告灯は消灯します。

イグニッション・ロック位置3

イグニッションOFF

▷ イグニッション・キーをロック位置**3**に回します。

ステアリング・ロック

ポルシェ・エントリー＆ドライブ非装着車

イグニッション・キーをイグニッション・ロックから抜き取ると、ステアリングは**自動的にロック**されます。

イグニッション・キーをイグニッション・ロックに差し込むと、ステアリングは**自動的にロック解除**されます。

ポルシェ・エントリー＆ドライブ装着車

イグニッション・キーをOFFにして車両をロックすると、ステアリングは**自動的にロック**されます。

ポルシェ・エントリー＆ドライブ装着車のマニュアル・ステアリング・ロック

▷ イグニッション・スイッチをOFFにし、コントロール・ユニットを再度ロック位置**3**に回し、**2秒**以上保持します。
ステアリングがロックされます。

イグニッション・キーをロック位置**0**から回すと、ステアリングは**自動的にロック解除**されます。

エンジンの始動と停止

▷ 「イモビライザー（キー内蔵型盗難防止装置）」（17ページ）を参照してください。

▷ 「エミッション・コントロール・システム」（251ページ）を参照してください。

⚠ 警 告

排気ガスは少量ですが有毒な無色無臭の一酸化炭素を含んでいます。

▷ 換気の悪い場所では、エンジンを始動し長時間のアイドリングをしないでください。

排気システムは高温になり、引火する恐れがあります。

▷ 可燃物（乾燥した草や枯れ葉など）がある場所には、絶対に駐車しないでください。引火する恐れがあります。

始動

▷ フット・ブレーキを踏んでください。

▷ セレクタ・レバーを**“P”**または**“N”**の位置に入れてください。

▷ 電子制御部品がガソリンと空気の混合状態を最適に調節しているので、エンジン始動時はアクセル・ペダルを踏まないでください。

▷ イグニッション・キーを**2**の位置まで回してください。

▷ スターターを10秒以上は回さないでください。エンジンがかからない場合は、10秒程度、間をおいてから再始動させてください。スターターを再度回す場合は、キーをいったん**0**の位置まで戻してください。

スターターの作動はエンジンがかかると自動的に終了します。
再始動した場合は、エンジンがかかってもスターターの作動は停止しないため、キーから手を放してください。

▷ 停車時に暖機運転を行わないでください。エンジンが通常の作動温度になるまでスロットル操作を控えにし、エンジン回転数を上げないように注意してください。

▷ バッテリが上がった場合は、ブースター・ケーブルを使用してジャンプ・スタートしてください。
「ジャンパー・ケーブルによる始動」（309ページ）を参照してください。

知識：
イグニッション・スイッチをONにしているときや、エンジン回転速度が低いとき（渋滞時など）は、バッテリ上がりを防止し、エンジンの始動性を確保するためにも、不要な電装品の電源を切ってください。

補助バッテリでの始動

ラゲージ・コンパートメントに補助バッテリが装着されている場合、バッテリが上がっている場合でもイグニッション・キーでエンジンを始動することができます。

ポルシェ・エントリー＆ドライブ装着車

1. ポルシェ・エントリー＆ドライブ・コントロール・ユニットをイグニッション・ロックから抜き取ります。
「コントロール・ユニットのイグニッション・ロックからの抜き取り」（58ページ）を参照してください。
2. 左記の説明に従って、イグニッション・キーをイグニッション・ロックに差し込み、エンジンを始動します。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

エンジンの停止

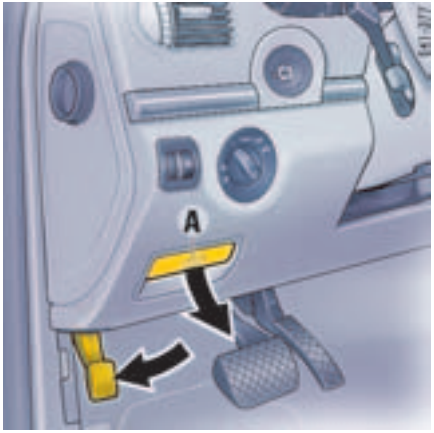
▷ イグニッション・キーを抜くときは、必ず車両を静止させてください。イグニッション・キーを抜き取るとステアリング・ロックがかかり、ステアリング操作ができなくなります。
▷ イグニッションをOFFにするときは、必ず車両を停止してください。イグニッションをOFFにすると、ステアリング・アシストおよびブレーキ・ブースタが効かなくなります。
▷ 車両を離れる場合は、**必ず**イグニッション・キーを抜き取り、パーキング・ブレーキをかけてください。**ポルシェ・エントリー＆ドライブ**装着車では、**必ず**コントロール・ユニットをイグニッション・ロックに差し込んだままにしてください。

注意：
イグニッション・キーを差し込んだままにしておくと、バッテリが消耗します。

⚠ 警 告

イグニッションをOFFにしてからも、コントロール・ユニットが約30分間、エンジン・ルームとクーラントの温度をモニタします。この間は、温度に応じてファンが作動しつづけたり、作動し始めます。

▷ ラジエータとラジエータ・ファンは、車両前方に取付けられています。ラジエータ・ファンの近くで作業を行うときは手や髪を挟まれないようにしてください。致命的な怪我をする恐れがあります。



パーキング・ブレーキ

パーキング・ブレーキは後輪を固定し、車両が移動しないようにします。

パーキング・ブレーキをかける

▷ フット・ペダルをしっかり踏み込みます。
メータ・パネルの警告灯が点灯します。発進時にパーキング・ブレーキがかかったままだと、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。
▷ 「警告灯および警告メッセージ」（104ページ）を参照してください。

パーキング・ブレーキを解除する

▷ フット・ブレーキを踏み込み、パーキング・ブレーキのハンドル**A**を引きます。
警告灯が消灯し、メッセージが消えます。

フット・ブレーキ

⚠ セーフティ・ノート

▷ ブレーキ・ペダルをマットなどで妨げないようにしてください。

ブレーキ・ブースタは、エンジンがかかっているときにのみ作動します。エンジンがかかっていなかったり、ブレーキ・ブースタの圧力が下がっている場合は、ペダルを踏むときにかなり強い力が必要になります。

▷ 「けん引とけん引による始動」(322ページ）を参照してください。

雨天時や水浸しになった道路を走行しているとき、または洗車後は、ブレーキの効きが通常よりも悪くなり、さらに強くペダルを踏まなければならない場合があります。

▷ 従って、車間距離をいつもより長めにとってください。ブレーキを乾燥させるために、定期的にブレーキをかけてください。このとき、後続車の邪魔にならないように気を付けてください。

凍結防止の塩がまかれた道路や砂粒の多い道路を長距離にわたって走行すると、ブレーキ・ディスクやパッドが塩や砂で覆われて摩擦係数が減少し、ブレーキの効きが大変悪くなる場合があります。

▷ ブレーキ・ディスクとブレーキ・パッドを強力なジェット水流で2週間おきに洗浄してください。自動洗車機での洗車では十分に洗浄することができません。ブレーキ・ディスクが錆びないように、ブレーキを乾燥させてから駐車してください。

▷ ブレーキ・ディスクはねずみ鋳鉄合金製ですが、長期間にわたり車両を駐車したまま放置した場合、腐食は避けられません。その結果、ブレーキが摩耗した状態になります。
腐食の性質、範囲、影響は駐車していた時間、凍結防止の塩が撒かれていたか、洗車時に油脂剤が使用されたかなどにより変わります。
ブレーキ時に気になるほどの不快感がある場合は、正規ポルシェ販売店にてブレーキ・システムの点検をしてください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

▷ 下り坂を走行するときはタイミング良くギヤを落し、エンジン・ブレーキを利用することによって、ブレーキの摩耗が少なくなります。長い下り坂でエンジン・ブレーキの効果が十分に得られない場合は、間隔をおいてブレーキ・ペダルを踏んでください。ブレーキ・ペダルを連続して踏みつづけると、ブレーキが過熱して効きが悪くなります。

▷ 「ブレーキ液レベル」(242ページ）を参照してください。

ブレーキ・パッドおよびブレーキ・ディスク

ブレーキ・パッドおよびブレーキ・ディスクの摩耗は、主に走行状態と使用状態に応じて異なるため、実際の走行距離には依存されません。
ブレーキ・システムは、全ての速度に最適なブレーキ力を与えるように構成されています。したがって、速度やブレーキング力、周囲の条件（温度、湿度）によって、ブレーキから音が出るかもしれません。

警告灯および警告メッセージ

ブレーキ・パッドが摩耗限度に達すると、インストルメント・パネル内のブレーキ・パッド摩耗警告灯が点灯し、マルチ・ファンクション・ディスプレイの警告が表示します。

▷ 「警告灯と警告メッセージ」（104ページ）を参照してください。

▷ 警告灯が点灯したら、直ちに正規ポルシェ販売店でブレーキ・パッドを交換してください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

メータ・パネル

警告灯／インジケータ・ランプ（タコメータ）

エミッション・コントロール警告灯（チェック・エンジン）

エアバッグ警告灯

シートベルト警告灯

PSM（ポルシェ・スタビリティ・マネージメント）警告灯

ABS警告灯

左方向指示灯インジケータ・ランプ

クルーズ・コントロール作動表示灯

アンチロール・バー解除インジケータ・ランプ

警告灯／インジケータ・ランプ（スピードメータ）

リア・フォグライト・インジケータ・ランプ

右方向指示灯インジケータ・ランプ

けん引方向指示灯インジケータ・ランプ

ディファレンシャル・ロック・インジケータ・ランプ

ブレーキ警告灯

フォグランプ・インジケータ・ランプ

タイヤ空気圧警告灯＊

ハイビーム・インジケータ・ランプ

A オイル温度計
B タコメータ
C 時計用リセット・ボタン
D クーリング・システム水温計
E マルチ・ファンクション・ディスプレイ
F デジタル・スピードメータ、外気温度計、時計、走行距離表示ディスプレイ
G 燃料計
H トリップ・カウンター用リセット・ボタン
I スピードメータ
J エンジン・ブースト・プレッシャ・ディスプレイ

＊日本仕様に設定はありません。

A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
PORSCHE
23 °C
9:48
3248 km
433.5 mi
bar

油温計

エンジン油温が高い場合、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

▷ レッド・ゾーンに達したときは、ただちに速度をゆるめ、エンジンの負荷を軽減してください。

タコメータ

タコメータの表示が目盛りのレッド・ゾーンにあるとき、エンジン回転数が許容範囲を超えていることを示しています。

加速中にレッド・ゾーンに達すると、エンジンを保護するために燃料がカットされます。

時計

時計**A**はマルチ・ファンクション・ディスプレイ上で設定します。

▷ 時刻合わせ用ボタン**B**を押し、メイン・メニューの“SETTING”を選択し、“CLOCK”メニューで調節します。

▷ 「時計」（96ページ）も参照してください。

クーリング・システム

▷ クーリング・システムに異常がある場合は、正規ポルシェ販売店での修理を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

水温計

指針が左にあるときは、エンジンが暖まっていません。

▷ このときはエンジン回転数を控え目にして、負荷をかけないでください。

指針が中央付近にあるときは、エンジンが通常作動温度です。

▷ 気温が高いときにエンジンに強い負荷をかけるとレッド・ゾーンを示すことがあります。

エンジン・クーラント温度警告

クーラントの温度が高くなり過ぎると、マルチ・ファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

▷ イグニッションをOFFにして、エンジンを冷やしてください。

▷ ラジエータと車前方の通気口に異物がないか点検してください。

▷ クーラント・レベルを点検してください。
必要に応じて、クーラントを補充してください。

▷ 故障がある場合は、修理を行ってください。

▷ 「クーラント・レベル」（240ページ）を参照してください。

注意：
温度が高くなり過ぎるので、通気口をフィルムやストーン・ガードなどで塞がないでください。

エンジン・クーラント・レベル警告

クーラント・レベルが少なくなると、マルチ・ファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

▷ イグニッションをOFFにして、エンジンを冷やしてください。

▷ クーラントを補充してください。
ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

▷ 「クーラント・レベル」（240ページ）を参照してください。

⚠ 注 意

エンジンを損傷する恐れがあります。

▷ 走行中に警告灯が点滅したら、安全な場所に停車してください。

▷ 故障がある場合は、修理を行ってください。

燃料

燃料計

イグニッション・スイッチをONにすると、燃料の残量が表示されます。

▷ タンク容量については、「容量」（332ページ）を参照してください。

上り坂や下り坂などで車が傾くと、表示がわずかに変化することがあります。

燃料警告灯

エンジン作動中、タンクの燃料が12リットルを下回るか走行可能距離が残り50km以下になるとメータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに警告灯が点灯します。マルチ・ファンクション・ディスプレイに警告メッセージも表示されます。

▷ 警告灯が点灯したら、最も近い給油所で給油してください。

⚠ 注 意

エミッション・コントロール・システムを損傷する恐れがあります。

▷ 燃料が完全になくなるまで走行をつづけないでください。

▷ 警告灯が点灯した場合は、カーブを曲がるときにスピードを出さないでください。

▷ 「エミッション・コントロール・システム」（251ページ）を参照してください。

オドメータ

上側の表示は総走行距離（オドメータ）、下側の表示は区間走行距離（トリップ・メータ）を示します。

トリップ・メータは9999kmを超えると0に戻ります。

トリップ・メータのリセット

▷ ボタン**A**を1秒以上押します。

スピードメータ

デジタル・スピードメータはインストルメント・パネル内のマルチ・ファンクション・ディスプレイに内蔵されています。

アナログ・スピードメータはマルチ・ファンクション・ディスプレイの右側に設置されています。

エンジン・ブースト圧計

エンジンにはブースト圧コントロール機能が装備されているため、ブースト圧が変化します。ブースト圧は車速、大気圧、使用燃料のオクタン価に応じて変化します。

バッテリ／オルタネータ

電圧が急激に下がった場合、マルチ・ファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

▷ 安全な場所に停車して、エンジンを停止してください。

考えられる原因：

— 充電システムの故障

— ドライブ・ベルトの不具合

⚠ 警 告

ドライブ・ベルトに不具合があると、パワー・ステアリングが作動せずステアリングが重たくなったり、エンジン冷却が行われずエンジンが故障したりします。

▷ ドライブ・ベルトに異常が見られたときは走行をつづけないでください。

▷ 故障の場合は修理してください。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

長距離にわたり水たまりまたは浅瀬を走行した場合、ドライブ・ベルトのスリップによりステアリング・アシストが故障する恐れがあります。

▷ ステアリング・アシストに不具合がある場合、ステアリングが重くなります。

エミッション・コントロール

警告灯

エミッション・コントロール・システムは排気に関連する構成部品の故障、例えば、排気中の有害物質の増加や重大な損傷を引き起こすような状態をできるだけ早期に発見します。

故障は警告灯の点灯または点滅によって表示され、コントロール・ユニットの故障メモリー内に記憶されます。

警告灯は、イグニッションをONにするとバルブ切れチェックのために点灯し、エンジンがかかると約4秒後に消灯します。

走行中に警告灯が点滅した場合は、エミッション・コントロール・システムの部品に損傷をあたえる作動状態（失火など）にあることを示しています。

▷ この場合、直ちにアクセル・ペダルから足を放し、エンジンにかかる負荷を下げてください。
危険域の範囲を外れると、警告灯は点灯しつづけます。

エンジンまたはエミッション・コントロール・システム（触媒コンバータなど）の重大な損傷を避けるために、直ちに最寄りの正規ポルシェ販売店で故障診断または修理を受けてください。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

⚠ 注 意

エンジンにかかる負荷を下げても警告灯が点滅をつづける場合は、エミッション・コントロール・システムがオーバー・ヒートしてる可能性があり、損傷する恐れがあります。

▷ 車両を直ちに安全な場所に停車してください。
乾燥した草や落葉などの引火性の高い物がある場所には、駐車したりエンジンを始動させないでください。高温の排気系に接触して発火する恐れがあります。

▷ エンジンを停止させてください。

▷ 故障の場合は修理してください。

マルチ・ファンクション・ディスプレイ

⚠ 警 告

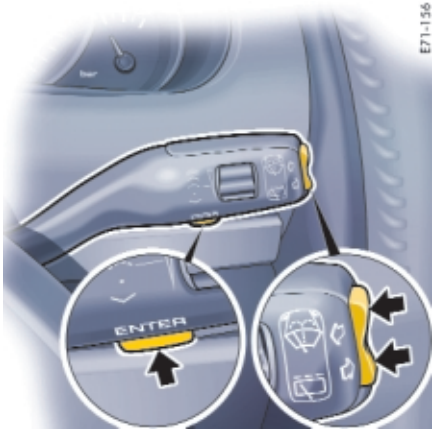
事故を起こす恐れがあるので、運転中にマルチ・ファンクション・ディスプレイ、ラジオ、ナビゲーション・システム、電話等の操作や設定を行わないでください。
運転以外に気をとられ、車両のコントロールを失う恐れがあります。

▷ 運転中に装備を操作する場合は、安全に操作できる交通状況のときのみ行ってください。

▷ 複雑な操作や設定は車両を静止した状態で行ってください。

取扱説明書にはマルチ・ファンクション・ディスプレイの詳細をすべて記載することはできません。
しかし、例を挙げて説明してありますので、主な機能についてはご理解いただけると思います。また、メニューも作業しやすいように工夫されています。

知識：
マルチ・ファンクション・ディスプレイを操作するためのRESETスイッチが、ENTERスイッチの名称に変更されました。以降のページも同様です。



基本的に以下のようにメニューを選択することで、初期設定に戻すことができます。

選択例：

MAIN MENU＞SETTINGS＞FACTORY SETTINGS（メイン・メニュー＞設定＞初期設定）

▷ 「初期設定」（103ページ）を参照してください。

作動条件：

– イグニッションをONにします。

操作、コントロール

マルチ・ファンクション・ディスプレイは、ワイパー・レバー端のロッカー・スイッチおよびワイパー・レバー下のENTERスイッチで操作します。

メニュー、上へ

▷ ロッカー・スイッチの上を押します。

メニュー、下へ

▷ ロッカー・スイッチの下を押します。

選択メニューの呼出し（ENTER）

▷ ENTERスイッチを押します。

メニュー、スクロール

メニューの上下にある矢印はさらにメニューが続くことを表します。

▷ ロッカー・スイッチの上または下を押します。

コンフォート・メニューでは、表示の終わりに近づくと自動的にスクロールします。

知識：
車両の装備によっては、マルチ・ファンクション・ディスプレイに表示できない情報や機能（電話、ナビゲーション、オーディオ、タイヤ空気圧）があります。
また、いくつかの機能は、停車中のみ利用することができます。

基本画面

イグニッションをONにすると、以下の基本画面が表示されます。

- Main menu（メイン・メニュー）
- Range on remaining fuel（燃料残量による走行可能距離）
- Average speed（平均車速）
- Navigation（ナビゲーション）＊
- Tyre pressure（タイヤ空気圧）＊

＊日本仕様に設定はありません。

基本画面の情報

選択した基本画面には以下が表示されます。

- 中央ディスプレイ**B**および下部ディスプレイ**C**：

  燃料残量による走行可能距離、平均車速、コンパス、ナビゲーション＊、タイヤ空気圧＊についての情報またはメイン・メニューに入ります。

- 上部ディスプレイ**A**：

  TV情報（TV局、チャンネル）オーディオ情報（ラジオ局、周波数、CD）（コンパス、ナビゲーション＊、タイヤ空気圧＊が装備されていない場合）

基本画面の変更

▷ ロッカー・スイッチを上または下に操作します。

基本画面のリセット

平均車速は基本画面でリセットできます。

▷ RESETスイッチを1秒以上押すと、数値が消去されます。

概要説明

燃料残量による走行可能距離

燃料残量による走行可能距離は、燃料レベル、現在の消費量および平均消費量に基づいて、運転している間に算出されます。

平均車速

平均車速は、トリップ・メータが“0”にリセットされてから走行した距離に基づいて算出されます。

知識：

イグニッション・スイッチを切っても測定はリセットされません。従って、算出の基となる値を長期間に渡り収集することができます。バッテリを外すとメモリは消去されます。

さらにオンボード・コンピュータはPCM＊（ポルシェ・コミュニケーション・マネージメント）に表示させることができます。PCMを使用する前に、別冊の操作説明書を参照してください。

＊日本仕様に設定はありません。

メイン・メニュー

▷ ロッカー・スイッチを押して、基本画面のメイン・メニューを表示させます。

▷ RESETスイッチを押します。

以下のサブメニューが表示されます。

— Telephone（電話）＊

— Speed limit（速度制限）

— Vehicle info（車両インフォメーション）

— Tyre pressure（タイヤ空気圧）＊

— Settings（設定）

知識：

BACKを選択しRESETスイッチで確定することにより、いつでもメイン・メニューを終了することができます。

電話＊

MAIN MENU＞PHONE（メイン・メニュー＞電話）

▷ ロッカー・スイッチでPHONE（電話）を選択します。

▷ RESETスイッチを押します。

知識：

マルチ・ファンクション・ディスプレイの電話機能はPCMおよびマルチ・ファンクション・スイッチと作動レバーに連動しています。

電話を作動させるには、SIMカードをPCMの差し込み口に挿入する必要があります。

NO NET（ネットワークなし）、電話OFF、PIN入力、SIMカード挿入

ネットワークにつながらない、PINが入力されない、SIMカードが挿入されない、電話のスイッチが切られているなどの場合には、対応するメッセージが表示されます。

▷ RESETスイッチを押すと、ディスプレイは直前のメニューに戻ります。

＊日本仕様に設定はありません。

電話メニューには5つのサブメニューがあります。

- Last numbers（最近かけた電話番号）
- Important numbers（重要な電話番号）
- Phone book（アドレス帳）
- Missed calls（不達通話）
- Phone（テレフォン・インフォメーション）

知識：

着信電話の電話番号がマルチ・ファンクション・ディスプレイに表示されます。アドレス帳に登録がある場合のみ名前が表示されます。

最近かけた電話番号

MAIN MENU＞PHONE＞LAST NUMBERS（メイン・メニュー＞電話＞最近かけた電話番号）

LAST NUMBERS（最近かけた電話番号）メニューでは、このSIMカードにより最近ダイヤルした番号または登録名がリスト表示されます。

再ダイヤル

▷ ロッカー・スイッチで番号または登録名を選択します。

▷ RESETスイッチを押すと、電話番号がダイヤルされます。

重要な電話番号

MAIN MENU＞PHONE＞IMPORTANT NUMBERS（メイン・メニュー＞電話＞重要な電話番号）

IMPORTANT NUMBERS（重要な電話番号）メニューではSIMカードに重要な電話番号として登録されている名前がリスト表示されます。

▷ ロッカー・スイッチで登録名を選択します。

▷ RESETスイッチを押すと、電話番号がダイヤルされます。

アドレス帳

MAIN MENU＞PHONE＞PHONE BOOK（メイン・メニュー＞電話＞アドレス帳）

PHONE BOOK（アドレス帳）メニューではSIMカードに登録されているアドレス帳の登録名がリスト表示されます。

▷ ロッカー・スイッチで登録名を選択します。

▷ RESETスイッチを押すと、電話番号がダイヤルされます。

ロッカー・スイッチを1秒以上おすと、登録がある頭文字が表示されます。これにより必要な番号がすばやく検索できます。

不達通話

MAIN MENU＞PHONE＞MISSED CALLS（メイン・メニュー＞電話＞不達通話）

MISSED CALLS（不達通話）メニューでは受信拒否した電話番号がリスト表示されます。番号はSIMカードに保存されています。

返信

▷ ロッカー・スイッチで番号または登録名を選択します。

▷ RESETスイッチを押すと、電話番号がダイヤルされます。

テレフォン・インフォメーション

MAIN MENU＞PHONE＞PHONE INFO（メイン・メニュー＞電話＞テレフォン・インフォメーション）

PHONE INFO（テレフォン・インフォメーション）メニューではマルチ・ファンクション・ディスプレイへの自動着信表示のON/OFFを切り替えることができます。

▷ ロッカー・スイッチでONまたはOFFを選択します。

▷ RESETスイッチを押します。

受信、受信拒否、通話終了

着信があると、マルチ・ファンクション・ディスプレイに表示されます（テレフォン・インフォメーションでONになっている場合）。

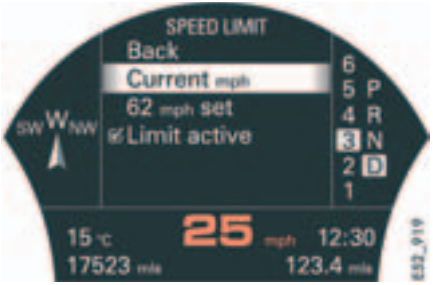
▷ ロッカー・スイッチでACCEPT（受信）またはREFUSE（受信拒否）を選択します。

▷ RESETスイッチを押します。

受信すると、メニューにEND（終了）が追加されます。

▷ ロッカー・スイッチでEND（終了）を選択します。

▷ RESETスイッチを押すと、通話が終了します。



速度制限

MAIN MENU＞SPEED LIMIT（メイン・メニュー＞速度制限）

運転の速度を監視する制限速度を入力することができます。入力した速度を超過した場合、マルチ・ファンクション・ディスプレイにLIMIT EXCEEDED（速度超過）メッセージが表示されます。

現在の速度を制限速度にする

現在の速度を制限速度として入力します。

▷ ロッカー・スイッチでCURRENT MPH（現在の速度）を選択します。

▷ RESETスイッチを押します。

LIMIT ACTIVE（速度制限作動）メニューは自動的に表示され、設定した速度も表示されます。

任意の制限速度を入力する

任意の速度を制限速度として入力します。

▷ ロッカー・スイッチでXXX MPH SET（速度設定）を選択します。

▷ RESETスイッチを押します。

▷ ロッカー・スイッチを上方または下方に押すことにより、設定速度を1km/hずつ増加させることができます。

ロッカー・スイッチを2秒以上押したままにすると、10km/hずつ増加させることができます。

▷ RESETスイッチを押します。LIMIT ACTIVE（速度制限作動）メニューが表示されます。

速度制限の作動／解除

▷ ロッカー・スイッチでLIMIT ACTIVE（速度制限作動）を選択します。

▷ RESETスイッチを押します。

車両インフォメーション

MAIN MENU＞VEHICLE INFO（メイン・メニュー＞車両インフォメーション）

▷ ロッカー・スイッチでVEHICLE INFO（車両インフォメーション）を選択します。

▷ RESETスイッチを押します。

以下の情報を表示させることができます。

— 警告
車両の安全に関わる現在の警告およびメッセージすべての表示

— レベル
車高自動調整装着車では車両の地上高の現在の状況の表示

— ロック／リダクション
選択された運転プログラム（ロー・レンジ／ハイ・レンジおよびディファレンシャル・ロック完全作動）の表示

— 平均燃費
平均燃費の表示およびリセット

例：ブレーキ・パッド警告メッセージ

例：サイドランプ点検警告メッセージ

警告

MAIN MENU＞VEHICLE INFO＞WARNINGS（メイン・メニュー＞車両インフォメーション＞警告）

車両がパーフェクトな状態の場合は、警告は表示されません。
警告メッセージが表示された場合は、

▷ ロッカー・スイッチで警告をひとつづつ選択します。

知識：

警告メッセージが表示されたときに、メータ・パネルの警告灯が点灯しない場合は、下部ディスプレイに小さなシンボルが表示されます。警告メッセージの問題が解決すると、シンボルが消えます。

車両インフォメーション・メニューの復帰

▷ RESETスイッチを押します。

⚠ 注 意

警告メッセージは故障の可能性を示しています。

▷ 直ちに正規ポルシェ販売店にて修理を受けてください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

レベル

MAIN MENU＞VEHICLE INFO＞LEVEL（メイン・メニュー＞車両インフォメーション＞レベル）

LEVEL（レベル）メニューではレベル・コントロール装着車の地上高が表示されます。

知識：

▷ レベルはセンター・コンソールにあるセレクタ・レバー裏のロッカー・スイッチで設定します。

▷ 「レベル・コントロールおよび高さ調整付きエア・サスペンション」（230ページ）を参照してください。

車両インフォメーション・メニューの復帰

▷ RESETスイッチを押します。

ロック／リダクション

MAIN MENU＞VEHICLE INFO＞LOCKS/REDUCTION（メイン・メニュー＞車両インフォメーション＞ロック／リダクション）

選択された運転プログラム（ロー・レンジ／ハイ・レンジ）が表示されます。

— センタ・デフ・ロックON/OFF

— リダクションON/OFF

— リア・デフ・ロックON/OFF

知識：

▷ 運転プログラムはセンタ・コンソールのセレクタ・レバーの前方にあるロッカー・スイッチを使用してセットします。

▷ 「オンロードおよびオフロード走行プログラム」（206ページ）を参照してください。

車両インフォメーション・メニューの復帰

▷ RESETスイッチを押します。

平均燃費

MAIN MENU＞VEHICLE INFO＞AVERAGE CONSUMPTION（メイン・メニュー＞車両インフォメーション＞平均燃費）

表示される値は、トリップ・メータを最後に“0”にリセットしてからの走行距離を元に算出します。

平均燃費のリセット

▷ ロッカー・スイッチでRESET（リセット）を選択します。

▷ RESETスイッチを1秒以上押し、値の表示を“---”にします。

タイヤ空気圧＊

タイヤ空気圧モニタリング・システムは4輪のタイヤの空気圧および温度をモニタし、空気圧が低い場合はドライバーに警告します。

タイヤ空気圧モニタリングの表示および設定はマルチ・ファンクション・ディスプレイのTYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）メニューにて行われます。ただ、各タイヤの空気圧は手動で調整する必要があります。
タイヤ・タイプ別にモニターすべきタイヤ空気圧は、タイヤ空気圧モニタリング・システムに恒久的に設定されているため、変更はできません。

▷ タイヤの空気圧調整やマルチ・ファンクション・ディスプレイの設定においてはドライバーに責任があります。

⚠ セーフティ・ノート

タイヤ空気圧モニタリング・システムには多くのメリットがありますが、システムの設定の更新やタイヤ空気圧の点検の責任はドライバーにあります。タイヤ空気圧が低い場合、車両の走行安定性を損ない、タイヤや車輪を破損させるおそれがあります。

▷ タイヤのパンク（flat tyre）が表示された場合、ただちに適切な場所に停車し、タイヤを点検してください。必要に応じ、タイヤの破損部分をタイヤ・シーラントで修理してください。

▷ 絶対に空気が漏れたままのタイヤで運転を続けないでください。

▷ 破損タイヤはただちに正規ポルシェ販売店にて交換してください。

タイヤ修理はいかなる状況下でも許可されていません。

▷ タイヤ・シーラントを使ってのパンクの修理は緊急時の応急処置であり、最寄りのワークショップまで車両を移動することを目的としています。この場合の車両の最大許容速度は**80 km/h** です。

▷ タイヤ空気圧を調整したあと、短時間で再度、タイヤ空気圧が低下した場合は、運転を中止し、正規ポルシェ販売店にてタイヤの点検を行ってください。

▷ タイヤ空気圧モニタリング・システムが故障した場合（例：ホイール・トランスミッターの故障）、直ちに正規ポルシェ販売店にて、故障を修復してください。タイヤ空気圧はタイヤ空気圧モニタリング・システムが故障した場合、モニタされません。

▷ タイヤ空気圧の修正は、**TYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）メニュー**に表示されている空気圧差異またはタイヤ空気圧メッセージまたは警告に基づいて行ってください。

▷ タイヤ空気圧は、タイヤ損傷の有無にかかわらず時を経て減少していきます。タイヤ空気圧の警告は空気圧の減少が一定以上の値に達した場合、マルチ・ファンクション・ディスプレイに表示されます。この場合、直ちにタイヤ空気圧を調整してください。

▷ タイヤ空気圧モニタリング・システムは不十分なタイヤ空気圧によるタイヤの損傷および外部の異物による空気圧の徐々の低下などに関する警告を表示します。タイヤ空気圧モニタリング・システムは突発的に発生したタイヤの損傷に対する警告は不可能となっています。（例：突発的な外部の影響によるタイヤのパンク）

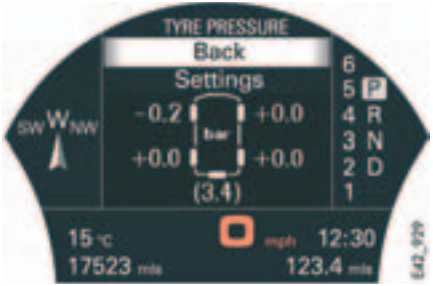
▷ タイヤ空気圧メッセージが表示された場合、次の機会に空気圧の調整を行ってください。

＊日本仕様に設定はありません。

タイヤ空気圧画面

したがって、基本画面の表示により可能性のある空気圧の差異を判定することはできません。

▷ タイヤ空気圧を補正する場合はTYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）メニューまたはタイヤ空気圧メッセージに空気圧の異状が現われた時のみ行います。



タイヤ空気圧メニュー（充填情報）

基本画面「タイヤ空気圧」の空気圧表示

基本画面「タイヤ空気圧」にはタイヤ空気圧実測値が表示されます。この実測値は4個のバルブに接続しているプレッシャ・ゲージの表示値と同じです。走行中はこれらの空気圧が変化します。

— 高速道路での高速走行時などでタイヤの温度が上昇すると、タイヤ空気圧は増加します。

— 寒冷地(山岳地帯)での走行時などでタイヤの温度が下降すると、タイヤ空気圧は減少します。

タイヤ空気圧メニュー

MAIN MENU＞TYRE PRESSURE（メイン・メニュー＞タイヤ空気圧）
タイヤ空気圧メニューは車両停止時のみ呼び出すことができます。

タイヤ空気圧メニュー (充填情報)にはタイヤ空気圧の規定空気圧からの差異が表示されます。タイヤ空気圧モニタリング・システムはこの場合、タイヤ空気圧および外気温の関係を考慮し、空気圧のモニタを行っています。

数値の前の“—”表示は圧力損失を示します。

▷ タイヤ空気圧を規定空気圧に調整してください。

例：タイヤ空気圧表示が“—3 psi（—0.2 bar）”の場合、タイヤ空気圧を3 psi（0.2 bar）増加してください。

タイヤ空気圧モニタリング・システム登録フェーズ

タイヤ空気圧モニタリング・システムでは、タイヤを交換するたびに、登録フェーズを完了させることが必要です。タイヤ空気圧モニタリング・システムはこの過程でタイヤ位置を特定します。登録フェーズが完了しない限り、現在のタイヤ空気圧はマルチ・ファンクション・ディスプレイに表示されません。

タイヤ空気圧モニタリング・システム登録の過程

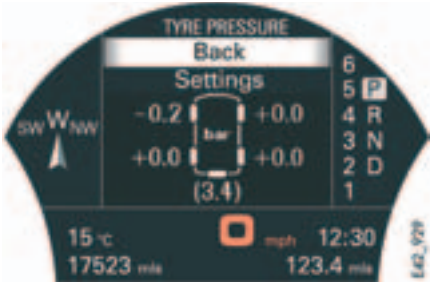
▷ メニュー、タイヤ空気圧＞設定＞タイヤでタイヤ・タイプ**および**タイヤ・サイズを選択します。
登録プロセスが開始します。新しいタイヤの設定が古いタイヤと同じ場合でも、タイヤ・タイプ**および**タイヤ・サイズの両方を選択してください。

知識：

スペア・タイヤおよびコラプシブル・スペア・タイヤはタイヤ空気圧モニタリング・システムによる空気圧のモニタは行われません。

システムの登録フェーズ中は冷間時（20℃）のタイヤ空気圧がタイヤ空気圧メニュー（充填情報）に表示されます。スペア・タイヤの規定空気圧はタイヤ空気圧メニュー（充填情報）に常時表示されています。

▷ スペア・タイヤおよびコラプシブル・スペア・タイヤの空気圧点検は手動にて行ってください。



タイヤ空気圧充填情報

タイヤ空気圧メニュー

MAIN MENU＞TYRE PRESSURE（メイン・メニュー＞タイヤ空気圧）

TYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）メニューにより、個々のタイヤの現在の空気圧規定値概要（充填情報）が表示されます。規定空気圧と実測値の差異が算出されます。

タイヤの登録が完了していない場合、現在の空気圧は使用できません。

スペア・タイヤはモニタされません。規定空気圧はブラケットに記載されています。

タイヤ空気圧モニタリング・システムの設定を変えるには、TYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）メニューのSETTINGS（設定）を選択してください。

タイヤ空気圧設定

MAIN MENU＞ TYRE PRESSURE＞ SETTINGS（メイン・メニュー＞タイヤ空気圧＞設定）

⚠ 警 告

マルチ・ファンクション・ディスプレイへの不完全な入力は警告やメッセージの正確な情報に影響を与えます。

▷ 以下のうちの1つの作業を実行した場合、設定を TYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）メニューにて更新する必要があります：

ータイヤ交換

ータイヤ・シーラント注入

ータイヤ空気補充（直前のパンク（flat tyre）警告のあと）

▷「警告後の選択」（91ページ）を参照してください。

このメニュー中の以下の設定はタイヤ空気圧モニタリング・システムが正確な空気圧を決定する基礎として役立ちます。

— **Tyres**（タイヤ）
タイヤ・タイプ、タイヤ・サイズの両方とも選択します。

— **Load**（積載重量）
積載重量のタイプを選択します。

— **System**（システム）
タイヤ空気圧モニタのON/OFFを切り替えます。

知識：
設定は必ず車両停止時に行ってください。

タイヤ・タイプ

MAIN MENU＞ TYRE PRESSURE＞ SETTINGS＞TYRE TYPE（メイン・メニュー＞タイヤ空気圧＞設定＞タイヤ・タイプ）

TYRE TYPE（タイヤ・タイプ）メニューではタイヤ・タイプおよび対応するタイヤ・サイズを設定します。

— Summer（サマー・タイヤ）

— All season（オール・シーズン・タイヤ）

— Winter（ウィンター・タイヤ）

— All terrain（オールラウンド・タイヤ）

— Spare wheel（スペア・タイヤ）

サマー・タイヤのタイヤ・サイズ選択

例：サマー・タイヤの選択

MAIN MENU＞ TYRE PRESSURE＞SETTINGS＞TYRE TYPE＞SUMMER（メイン・メニュー＞タイヤ空気圧＞設定＞タイヤ・タイプ＞サマー・タイヤ）

▷ ロッカー・スイッチでタイヤ・タイプ（例：サマー・タイヤ）を選択します。

▷ RESETスイッチを押します。

▷ ロッカー・スイッチでタイヤ・サイズを選択します。
（例：255/55 R 18）

▷ RESETスイッチを押します。
メニューは TYRE PRESSURE＞SETTINGS（タイヤ空気圧＞設定）に戻り、現在の設定が表示されます。

知識：

▷ タイヤ・タイプおよびタイヤ・サイズはタイヤのサイド・ウォールに記載されています。「タイヤとホイールのお手入れ」（261ページ）を参照してください。

知識：

ポルシェが認定しているタイヤのうち、マルチ・ファンクション・ディスプレイにデータがない場合、タイヤを装着する前に、マルチ・ファンクション・ディスプレイに情報を追加してください。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

＊日本仕様に設定はありません。

⚠ 警 告

制限速度を超過した場合、思わぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ 常に各タイヤの最大許容速度にしたがって走行してください。

▷ タイヤの最大許容速度が車両の最高速度より低い場合、最大許容速度を記載しているステッカーは、必ず運転手の目の届く範囲に貼ってください。
各国の交通法規に従ってください。

タイヤに刻印している速度記号は、そのタイヤの最高許容速度を示します。

▷ 「ラジアル・タイヤの記号」（265ページ）を参照してください。

スペア・タイヤ選択

スペア・タイヤ

MAIN MENU＞ TYRE PRESSURE＞ SETTINGS＞ TYRE TYPE＞ SPARE WHEEL（メイン・メニュー＞タイヤ空気圧＞設定＞タイヤ・タイプ＞スペア・タイヤ）
このメニューでは車両の装備に応じて搭載可能なすべてのスペア・タイヤが表示されます。

- Spare wheel（スペア・タイヤ）
- Collapsible spare wheel（コラプシブル・スペア・タイヤ）
- Sealing set（シール・セット）

スペア・タイヤ

▷ ロッカー・スイッチでSPARE WHEEL（スペア・タイヤ）を選択します。

▷ RESETスイッチを押します。
表示は自動的にTYRE PRESSURE（充填情報）メニューに戻ります。
規定空気圧が確認できます。

▷ BACK（戻る）を選択します。メニューは基本画面に戻ります。

スペア・タイヤにはホイール・センサが装着されておらず、タイヤ空気圧モニタリング・システムによりモニタされません。
したがって、RESETスイッチを押すと、メッセージSYSTEM NOT ACTIVE, WORKSHOP（システムは作動していません。ワークショップへ）が表示されます。

イグニッションをONにするたびにSPARE WHEEL / SEALING SET OPERATION（スペア・タイヤまたはシール・セット装填）警告が出されます。

▷ 「メッセージ ― スペア・タイヤまたはシール・セット装填」（93ページ）を参照してください。

知識：

▷ スペア・タイヤは緊急の場合に短距離でのみ使用してください。

▷ 「スペア・タイヤ」（284ページ）を参照してください。

コラプシブル・スペア・タイヤ

▷ ロッカー・スイッチでCOLLAPSIBLE WHEEL（コラプシブル・スペア・タイヤ）を選択します。

▷ RESETスイッチを押します。

コラプシブル・スペア・タイヤにはホイール・センサが装着されておらず、タイヤ空気圧モニタによりモニタされません。

コラプシブル・スペア・タイヤの規定空気圧および制限速度がまず表示されます。次にメッセージSYSTEM NOT ACTIVE, WORKSHOP（システムは作動していません。ワークショップへ）が表示されます。

80km/hの制限速度を超過すると、マルチ・ファンクション・ディスプレイに警告が表示されます。

イグニッションをONにするたびにSPARE WHEEL / SEALING SET OPERATION（スペア・タイヤまたはシール・セット装填）警告が出されます。

▷ 「メッセージ ― スペア・タイヤまたはシール・セット装填」（93ページ）を参照してください。

知識：

▷ コラプシブル・スペア・タイヤは緊急の場合に短距離でのみ使用してください。

▷ 「コラプシブル・スペア・タイヤ」（278ページ）を参照してください。

タイヤ・シーラント／シール・セット

▷ ロッカー・スイッチでSEALING SET（シール・セット）を選択します。

▷ RESETスイッチを押します。
表示は自動的にTYRE PRESSURE（充填情報）メニューに戻ります。

▷ 表示された空気圧の差異に基づきタイヤに空気を入れてください。

80km/hの制限速度を超過すると、マルチ・ファンクション・ディスプレイに警告が表示されます。

イグニッションをONにするたびにSPARE WHEEL / SEALING SET OPERATION（スペア・タイヤまたはシール・セット装填）警告が出されます。

▷ 「メッセージ ー スペア・タイヤまたはシール・セット装填」（93ページ）を参照してください。

知識：

▷ シーラントで修理したタイヤは緊急の場合に短距離でのみ使用してください。

▷ 「タイヤ・シーラント」（270ページ）を参照してください。

積載重量

MAIN MENU＞ TYRE PRESSURE＞SETTINGS＞LOAD（メイン・メニュー＞タイヤ空気圧＞設定＞積載重量）

タイヤ空気圧は必ず車両積載重量に従って調整してください。

▷ 「冷間時のタイヤ空気圧」（331ページ）を参照してください。

ー Partial load（部分積載重量）：
乗員3人以下および荷物21kgまで。

ー Full load（全積載重量）：
乗員4人以上および荷物21kg以上。

積載重量の選択

▷ ロッカー・スイッチで積載重量タイプを選択します。

▷ RESETスイッチを押します。設定された積載重量が表示されます。

規定空気圧と実測値の差異はメニュー、TYRE PRESSURE＞SETTINGS（充填情報＞設定）で表示されます。

▷ 規定値に従って空気圧を修正してください。

システム

MAIN MENU> TYRE PRESSURE> SETTINGS>SYSTEM（メイン・メニュー>タイヤ空気圧>設定>システム）

SYSTEM（システム）メニューではタイヤ空気圧モニタのON/OFFを切り替えることができます。

タイヤ空気圧モニタがOFFの場合、タイヤ空気圧および警告は表示されません。
また空気圧はTYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）メニューにも表示されません。

タイヤ空気圧モニタ作動

▷ ロッカー・スイッチでONを選択します。

▷ RESETスイッチを押します。

画面は自動的にメニュー、TYRE PRESSURE>SETTINGS（タイヤ空気圧>設定）に戻ります。

▷ 車両に取付けたタイヤ・タイプや荷重状態がメニューでセットされたものと一致しているか確認してください。
走行前に間違ったセッティングを正しくセットしてください。

▷ タイヤ・タイプ**および**タイヤ・サイズはMAIN MENU>TYRE PRESSURE>SETTINGSで設定します。
タイヤ・タイプ**および**サイズの両方を選択した場合のみ、タイヤ空気圧モニタリング・システムに新タイヤが再登録されます。

タイヤ空気圧モニタの解除

▷ ロッカー・スイッチでOFFを選択します。

▷ RESETスイッチを押します。
メッセージMONITORING OFF（モニターOFF）が10秒間表示されます。その後メニューは基本画面に戻ります。

「モニターOFF」メッセージ

タイヤ空気圧モニタリング・システムを解除すると、イグニッションをONにするたびにメッセージMONITORING OFF（モニタOFF）が表示されます。

▷ メッセージは10秒間表示されます。

もしくは

▷ 表示中にRESETスイッチを押すと消えます。

タイヤ空気圧警告およびメッセージ

タイヤ空気圧モニタリング・システムは失われた空気圧の量により、2つの段階で空気圧の損失に関する警告を発します。

段階1ータイヤ空気圧が低下しすぎのメッセージ
（0.2～0.4bar（3～6psi）の空気圧損失）
段階2ータイヤのパンク警告
（0.4bar（6psi）以上の空気圧損失）

⚠ 警 告

タイヤが損傷すると路上安全性が著しく損なわれ、事故を起こす恐れがあります。

▷ もしタイヤ空気圧警告またはタイヤ空気圧メッセージが表示されたら、ただちに適切な場所に停車してください。タイヤに損傷がないか点検し、必要であればタイヤ交換を行ってください。

例：タイヤ空気圧表示が"ー3 psi（ー0.2 bar）"の場合、タイヤ空気圧3 psi（0.2 bar）増加してください。

タイヤに不具合がなくても、時間の経過とともにタイヤの空気は抜けていきます。この場合、タイヤ空気圧モニタリング・システムにより対応するメッセージまたは警告が出されます。

▷ タイヤ空気圧を調整してください。

タイヤ空気圧モニタリング・システムによる登録フェーズ中の圧力損失メッセージ

このメッセージは0.2～0.4 bar（3～6 psi）の圧力損失を知らせます。

タイヤ空気圧モニタリング・システムはまだタイヤ位置を特定していません；タイヤ空気圧が表示されていません。

このメッセージは車両停止状態で、イグニッションを再度ONにすると表示されます。

▷ メッセージは10秒間表示されます。

または

▷ RESETスイッチを押します。

知識：

▷ 次の機会に、手動で空気圧をチェックし、タイヤに空気を補充してください。

登録フェーズ完了後に圧力損失を知らせるメッセージ

このメッセージは0.2～0.4 bar（3～6 psi）の圧力損失を知らせます。

タイヤ空気圧モニタリング・システムはタイヤ位置をすでに特定しています。該当するタイヤの表示から適正な空気圧との差異を表示します。

このメッセージは車両停止状態で、イグニッションを再度ONにすると表示されます。

▷ メッセージは10秒間表示されます。

または

▷ RESETスイッチを押します。

知識：

▷ 次の機会にタイヤ空気圧を補正してください。タイヤ空気圧を補正する場合、TYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）メニューに表示される空気圧の差異の分を補充します。

タイヤ空気圧モニタリング・システムによる登録フェーズ中のパンクを知らせるメッセージ

この警告は圧力損失が0.4 bar（6 psi）以上になると表示されます。
タイヤ空気圧モニタリング・システムはタイヤ位置を特定していません。タイヤ空気圧も表示されません。

この警告は消去できません。

知識：

▷ 適切な場所に停車して、空気圧を点検します。タイヤに損傷がないか点検し、必要であれば空気の補充またはタイヤ交換を行ってください。

車両停止中は画面は「警告後の選択」に変わります。

▷ 「警告後の選択」（91ページ）を参照してください。

登録フェーズ完了後にパンクを知らせるメッセージ

この警告は圧力損失が0.4 bar（6 psi）以上になるパンクを知らせます。
タイヤ空気圧モニタリング・システムはタイヤ位置を特定しています。対応するタイヤの規定値からの差異が表示されます。

この警告は消去できません。

知識：

▷ 適切な場所に停車して、タイヤに損傷がないか点検し、必要であればタイヤ交換を行ってください。

車両停止中は画面は「警告後の選択」に変わります。

▷ 「警告後の選択」（91ページ）を参照してください。

警告後の選択

タイヤ空気圧警告が表示された後、車両が停止すると、画面は「警告後の選択」に変わります。

▷ メニューから実施した作業を選択します。

▷▷▷

空気の補充

1. タイヤに空気を補充します。

エア・サスペンション非装着車

▷ 「エア・サスペンション非装着車のタイヤ空気充填」（280ページ）を参照してください。

エア・サスペンション装着車

▷ 「エア・サスペンション装着車のタイヤ空気充填」（282ページ）を参照してください。

2. 該当するタイヤに空気を補充した後、「空気の補充」を選択します。
選択確定後、システムは自動的に基本画面に戻ります。

タイヤ交換

1. タイヤを交換します。

▷ 「タイヤ交換」（275ページ）を参照してください。

2. タイヤを交換した後、「タイヤ交換」を選択します。
システムはスペア・タイヤ・メニューに戻ります。
3. スペア・タイヤ・タイプを選択します。

▷ 「スペア・タイヤ」（87ページ）を参照してください。

タイヤ・シーラント

1. タイヤ・シーラントでパンクを修理します。

▷ 「タイヤ・シーラント」（270ページ）を参照してください。

2. タイヤ・シーラントでパンクを修理した後、メニュー項目のSEALING SET（シール・セット）メニューを選択します。

▷ 「タイヤ・シーラント／シール・セット」（88ページ）を参照してください。

SEALING SET（シール・セット）メニュー選択後、システムは基本画面に戻ります。80km/hの制限速度を超過すると、マルチ・ファンクション・ディスプレイに警告が表示されます。

知識：

選択項目上の手順を実行せずに項目を選択した場合、CAUTION-FLAT TYRE-CHECK TYRES（注意ーパンクータイヤ点検）メッセージが再度表示されます。

▷ タイヤに損傷がないか点検し、必要であれば空気の補充またはタイヤ交換を行ってください。

警告「車両停止：選択を行ってください」

タイヤの修理後、画面SELECTION AFTER WARNING（警告後の選択）の選択を怠った場合、以下のメッセージが表示されます。
WHEN VEHICLE STOPS : HIT SELECTION（車両停止：選択を行ってください）

知識：
次回車両を停止したときにSELECTION AFTER WARNING（警告後の選択）の設定を行ってください。

「タイヤ交換」メッセージ

タイヤ交換後、タイヤ空気圧モニタリング・システムにタイヤ・タイプおよびタイヤ・サイズを入力しなかった場合、しばらくしてからWHEEL CHANGE? CHECK SETTINGS（タイヤ交換？設定変更）メッセージが表示されます。

車両が停止すると、表示はSELECTION AFTER WARNING（警告後の選択）に変わります。

▷ 「警告後の選択」（91ページ）を参照してください。

▷ WHEEL CHANGE（タイヤ交換）を選択します。メニューは自動的にTYRE TYPE（タイヤ・タイプ）に変わります。

▷ 適切なタイヤ・タイプ**および**タイヤ・サイズを選択します。
タイヤ・タイプ**および**タイヤ・サイズの両方を選択した場合のみタイヤ空気圧モニタリング・システムに新タイヤが再登録されます。

メッセージ「スペア・タイヤまたはシール・セット装填」

マルチ・ファンクション・ディスプレイでスペア・タイヤのタイプ（スペア・タイヤ、コラプシブル・スペア・タイヤ、シール・セット）を選択後は、イグニッション・スイッチをONにするたびにSPARE WHEEL／SEALING SET OPERATION?（スペア・タイヤまたはシール・セット装填）メッセージが表示されます。

▷ ロッカー・スイッチでYES/NOを選択します。

▷ RESETスイッチを押します。

“YES”

— SEALING SET OPERATION（シール・セット装填）を設定した場合、メニューは直接、基本画面に戻ります。設定はすべて維持されます。

— COLLAPSIBLE SPARE WHEEL（コラプシブル・スペア・タイヤ）またはSPARE WHEEL（スペア・タイヤ）を設定した場合、まず警告メッセージSYSTEM NOT ACTIVE — WORKSHOP（システムは作動していません。ワークショップへ）が10秒間表示されます。その後、システムは基本画面に戻ります。

“No”

表示は自動的にメニュー、TYRE PRESSURE＞SETTINGS（タイヤ空気圧＞設定）に戻ります。

▷ 装着したタイヤのタイヤ・タイプ**および**タイヤ・サイズを設定します。タイヤ空気圧モニタリング・システムはタイヤの再登録を行います。

モニタリングしない

故障などが発生した場合、タイヤ空気圧モニタリング・システムはタイヤ空気圧をモニタすることが不可能となります。インストルメント・パネルの警告灯が点灯し、マルチ・ファンクション・ディスプレイのメッセージが表示されます。

タイヤ空気圧のモニタが不可能な時：

— タイヤ空気圧モニタリング・システムが故障している

— タイヤ空気圧モニタリング・システムにタイヤ・トランスミッターの信号が送られていない

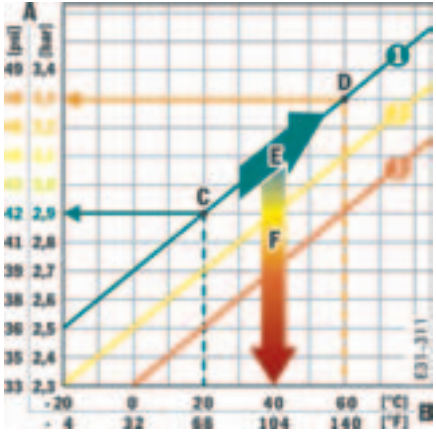
— タイヤ交換後の一時的な期間

— 必要以上にタイヤ・トランスミッターの信号を多く検知した時

— 他の電波による外部からの妨害がある場合（例：ワイアレス・ヘッドホン）

— タイヤの温度が高すぎる時

▷「警告灯および警告メッセージ」（104ページ）を参照してください。



温度上昇に伴う空気圧の増加

A - タイヤ空気圧
B - タイヤ温度
C - 冷間時のタイヤ空気圧（20℃）
D - 温間時のタイヤ空気圧
E - 温度上昇に伴う空気圧の増加
F - 不具合／漏れのあるタイヤの空気圧降下
1 - 規定空気圧直線
2 - タイヤ空気圧損失の通知（−0.2 bar〜−0.4 bar）
3 - 不具合タイヤパンク警告（−0.4 bar時）

物理原理に従い、空気圧は温度の変化に応じて変化します。
タイヤ空気圧は10℃の温度変化につき、約0.1 bar 増加または減少します。

タイヤ空気圧仕様

タイヤ空気圧は必ず規定値（要求値）に合わせてください。

冷間タイヤ（20℃）のタイヤ空気圧についての情報は以下のように提供されます。

- タイヤ空気圧メニュー（充填情報）：システムに規定値が登録されている場合、各タイヤの規定空気圧との差異が表示されます。
- タイヤ空気圧メニュー（充填情報）：システムに規定値が登録されていない場合、各タイヤの規定空気圧が表示されます。
- フロント左ドア開口部：各タイヤの情報

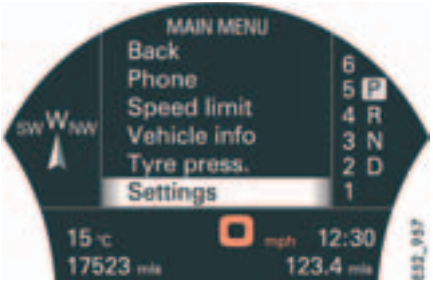
▷ 「冷間時のタイヤ空気圧」（331ページ）を参照してください。

タイヤ空気圧が不十分な場合、タイヤのオーバーヒートを引き起こし、目に見えないものも含めタイヤに損傷を与える結果となります。目に見えない損傷はタイヤ空気圧を補正しても解消されません。

▷ 「タイヤとホイール」（261ページ）を参照してください。

タイヤ空気圧モニタ警告灯

タイヤ空気圧モニタリング・システムの警告およびメッセージはすべてメータ・パネルの警告灯でも表示されます。
警告灯は故障をすべて修理するとただちに消灯します。



設定

MAIN MENU＞SETTINGS（メイン・メニュー＞設定）

MAIN MENU（メイン・メニュー）のSETTINGS（設定）では以下の機能が選択できます。

- Clock（時計）
- Compass（コンパス）
- Comfort（コンフォート）（車両停止時のみ）
- Lights（ランプ）（車両停止時のみ）
- Units（単位）（車両停止時のみ）
- Language（言語）（車両停止時のみ）
- Factory settings（初期設定）（車両停止時のみ）

時計

MAIN MENU＞SETTINGS＞CLOCK（メイン・メニュー＞設定＞時計）

時計の設定

▷ ロッカー・スイッチで時間を選択します。

▷ RESETスイッチを押します。

▷ ロッカー・スイッチで「時」または「分」表示を選択します。

▷ RESETスイッチを押します。

▷ 1時間または1分刻みで時間を設定します。

▷ RESETスイッチを押します。

12時間モードの選択

▷ ロッカー・スイッチで12時間モードを選択します。

▷ RESETスイッチを押します。

知識：

CLOCK（時計）メニューはメータ・パネルのボタンでも呼び出すことができます。

▷ 「時計」（66ページ）を参照してください。

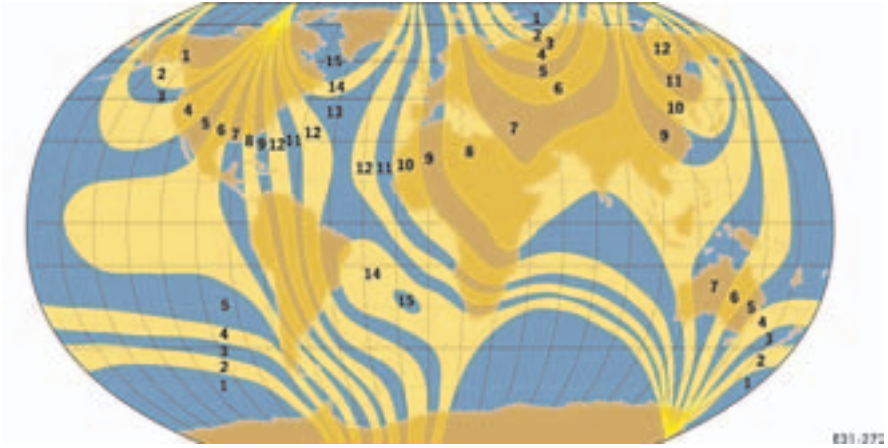
コンパス

MAIN MENU＞SETTINGS＞COMPASS（メイン・メニュー＞設定＞コンパス）

マルチ・ファンクション・ディスプレイに設定されている磁界ゾーンを越えて運転する場合、COMPASS（コンパス）メニューで現在の磁界ゾーン（図参照）を入力する必要があります。

▷ ロッカー・スイッチで現在のゾーンを1刻みで入力します。

▷ RESETスイッチを押します。



較正

まれに外部障害によりコンパスの較正が必要になる場合があります。マルチ・ファンクション・ディスプレイに警告メッセージCAL（較正）が表示されます。

▷ コンパスの較正はDRIVE IN A FULL CIRCLE（一周してください）の画面指示に従います。

較正が正常に終了すると、自動的に元の画面に戻ります。

コンフォート

MAIN MENU＞SETTINGS＞COMFORT（メイン・メニュー＞設定＞コンフォート）

COMFORT（コンフォート）メニューには以下のサブメニューがあります。

- Alarm（警報）
- Door opening（ドア開）
- Mirrors（ミラー）

▷ ロッカー・スイッチでサブメニューを選択します。

▷ RESETスイッチを押します。

知識：

コンフォート設定は車両停止時にのみ行うことができます。

警報

MAIN MENU＞SETTINGS＞COMFORT＞ALARM（メイン・メニュー＞設定＞コンフォート＞警報）

ALARM（警報）メニューでは室内モニタ・システムおよび傾斜センサ（けん引による移動防止）を一時的にセット解除することができます。

再度ロックすると、室内モニタ・システムおよび傾斜センサが再度作動します。

この機能に関する重要な情報が、他の章にも記載されています。

▷ 「室内モニタ・システムおよび傾斜センサの一時的な作動解除」（25ページ）を参照してください。

室内

ドアが閉じた状態で室内に動きが検出された場合（盗難目的でウィンドウが破壊された場合など）、警報が作動します。

▷ ロッカー・スイッチでINTERIOR（室内）を選択します。

▷ RESETスイッチを押します。
これにより室内モニタ・システムの作動／セット解除が行われます。

傾斜

ドアが閉じた状態で車両の一端が大きく持ち上げられた場合（盗難目的でけん引が試みられた場合など）、警報が作動します。

▷ ロッカー・スイッチでANGLE（角度）を選択します。

▷ RESETスイッチを押します。
これにより傾斜センサの作動／セット解除が行われます。

ドア開

MAIN MENU＞SETTINGS＞COMFORT＞DOOR OPENING（メイン・メニュー＞設定＞コンフォート＞ドア開）

このメニューではドアのロック、ロック解除、および確認方法が個別に設定でき、リモート・コントロール・キーに保存できます。

1. ロッカー・スイッチで好みの設定を選択します。
2. RESETスイッチを押します。
3. イグニッションをOFFにします。
4. 運転席ドアを閉めます。
5. リモート・コントロールでドアをロックします（ボタン**2**）。

   リモート・コントロールに設定を保存しました。

ドア

MAIN MENU＞SETTINGS＞COMFORT＞DOOR OPENING＞DOORS（メイン・メニュー＞設定＞コンフォート＞ドア開＞ドア）

ドアのロック解除が個別に設定できます。

SINGLE DOOR

運転席ドアのみロック解除されます。
ポルシェ・エントリー＆ドライブ装着車では近づく側のドアがロック解除されます。

VEH. SIDE

— 運転席側の両ドアがロック解除されます。ポルシェ・エントリー＆ドライブ装着車では近づく側の両ドアがロック解除されます。

ALL

すべてのドアがロック解除されます。

知識：

リモート・コントロールのロック解除ボタン（ボタン**1**）を2秒以内に続けて2回押すと、すべてのドアロックが解除されます。

テール・ゲート

テール・ゲート機能が有効な場合、リア・アクセス（リア・リッド、リア・ウィンドウ、スペア・タイヤ・ブラケット）はセントラル・ロッキング・システムで制御することができます。
アクセスは車両停止、ロック解除状態で制御できます。

車速が6km/hを超えると、停車してドアを開くまでセット解除ができなくなります。

テール・ゲート機能が解除されている場合、リア・ドアの制御はリモート・コントロールのボタン**3**を使用したときだけ可能となります。

▷ ▷ ▷

オートマチック・ドアロック (AUTO LOCK) およびオートマチック・ドアロック解除 (AUTO UNLOCK)

オートマチック・ドアロック (AUTO LOCK) およびオートマチック・ドアロック解除 (AUTO UNLOCK) には、いくつかの異なる機能設定があります。

知識：

オートマチック・ドアロックでロックしたときは、インナー・ドア・ハンドルを**2回**引くとロック解除することができます。

オプション1：

オートマチック・ドアロックOFFおよびオートマチック・ドアロック解除OFF

オートマチック機能が無効になり、ドアロックおよびロック解除が実行されません。

オプション2：

オートマチック・ドアロックONおよびオートマチック・ドアロック解除OFF

車速が6 km/hを超えると、ドアが自動的にロックされます。

オートマチック・ドアロックでロックされたドアは、インナー・ドア・ハンドルを**2回**引くとロック解除することができます。

オプション3：

オートマチック・ドアロックONおよびオートマチック・ドアロック解除ON

車速が6 km/hを超えると、ドアが自動的にロックされます。

ポルシェ・エントリー&ドライブ**非装着車**では、イグニッション・キーを抜き取ると、ドアが自動的にロック解除されます。

ポルシェ・エントリー&ドライブ**装着車**では、イグニッション・スイッチを2回OFFにすると、ドアロックが解除されます。

オプション4：

オートマチック・ドアロックOFFおよびオートマチック・ドアロック解除ON

車速が上がっても、ドアが自動的にロックされません。

セントラル・ロッキング・システムのボタンでドアをロックしているときは：

ポルシェ・エントリー&ドライブ**非装着車**では、イグニッション・キーを抜き取ると、ドアが自動的にロック解除されます。

ポルシェ・エントリー&ドライブ**装着車**では、イグニッション・スイッチを2回OFFにすると、ドアロックが解除されます。

シグナル

MAIN MENU＞SETTINGS＞COMFORT＞DOOR OPENING＞SIGNAL（メイン・メニュー＞設定＞コンフォート＞ドア開＞シグナル）

機能が作動可能な場合、ドアをロックおよびロック解除すると、ハザード・ランプが点滅して知らせます。

▷ ロッカー・スイッチでTURN SIGNALS（ターン・シグナル）メニューを選択します。

▷ RESETスイッチを押します。

ミラー

MAIN MENU＞SETTINGS＞COMFORT＞MIRROR（メイン・メニュー＞設定＞コンフォート＞ミラー）

この機能が有効な場合、ミラーは同期して同じ方向に動きます。

▷ ロッカー・スイッチでSYNCHRONISING（同期）メニューを選択します。

▷ RESETスイッチを押します。

ランプ

MAIN MENU＞SETTINGS＞LIGHTS（メイン・メニュー＞設定＞ランプ）

車両ロック後にヘッドランプが点灯状態を維持する時間を設定できます。

▷ ロッカー・スイッチでOFF DELAY（OFF遅延）を選択します。

▷ RESETスイッチを押します。遅延時間（カミング・ホーム）設定が有効になります。

▷ ロッカー・スイッチで時間を選択し、RESETスイッチを押します。

▷ ロッカー・スイッチを使用して設定できるOFF遅延時間（カミング・ホーム機能）は15秒～90秒です。時間は15秒刻みで設定します。

▷ RESETスイッチを押します。

単位

MAIN MENU＞SETTINGS＞UNITS（メイン・メニュー＞設定＞単位）

UNITS（単位）メニューでは以下のオプションが提供されます。

— Speedometer（スピードメータ）：km/h-km、mph-mls
スピードメータの単位を選択します。

— Consumption（燃費）：L/100km、mpg（USA）、mpg（英国）、km/L
燃費の単位を選択します。

— Temperature（温度）：℃、℉
温度の単位を選択します。

— Tyre pressure（タイヤ空気圧）：bar、psi
圧力の単位を選択します。

▷ ロッカー・スイッチで好みの項目を選択し、RESETスイッチを押します。

▷ 好みの単位はRESETスイッチで作動／解除します。

言語

MAIN MENU＞SETTINGS＞LANGUAGE（メイン・メニュー＞設定＞言語）

▷ ロッカー・スイッチで言語を選択します。

▷ RESETスイッチを押します。

知識：

言語を変更すると、マルチ・ファンクション・ディスプレイ全体に影響が出ます。

初期設定

MAIN MENU＞SETTINGS＞FACTORY SETTINGS（メイン・メニュー＞設定＞初期設定）

設定（時計、コンパス、コンフォート、ランプ、単位、言語）を変更した後でも、初期設定に戻すことができます。

リセット

▷ ロッカー・スイッチでRESET（リセット）を選択します。

▷ RESETスイッチを押します。

知識：

これまでに変更したすべての設定が消去されます。

警告灯および警告メッセージ

警告メッセージが表示された場合は、必ず取扱説明書の関連の章を参照してください。
警告メッセージは、すべての測定条件が揃ったときだけ表示されます。
このため、すべてのフルード・レベルを定期的に点検してください。特にエンジン・オイル量は、給油するときに必ず点検してください。

インストルメント・パネル	マルチ・ファンクション・ディスプレイ	ディスプレイのメッセージ	意味／対策
		Steering faulty	ステアリング・ロックが締結しています。 正規ポルシェ販売店で故障を修理してください。*
		Ignition lock faulty	運転を中止してください。 正規ポルシェ販売店で故障を修理してください。*
		System fault-Workshop	正規ポルシェ販売店で故障を修理してください。*
		Key not recognised in vehicle	リモート・コントロールを身につけているか確認してください。
		Turn iginition key to left for 2 seconds	ステアリング・ロックを締結してください。
		Key replace battery	リモート・コントロールの電池を交換してください。
		Move the steering wheel	ステアリングを回してステアリング・ロックを締結／解除してください。
		Key not found	リモート・コントロールを身につけているか確認してください。
		Switch selector lever to position “P”	車両が動き出す場合があります。 イグニッション・キーはセレクタ・レバーが**P**位置でのみ抜くことができます。
		Apply the brake	始動時にはブレーキをかけてください。
		Move selector lever to position “P” to “N”	始動時には必ず**P**または**N**位置にしてください。
		Immobiliser active	正規ポルシェ販売店で故障を修理してください。*

インストルメント・パネル	マルチ・ファンクション・ディスプレイ	ディスプレイのメッセージ	意味／対策
		Check towing attachment	ボール・ヘッドが所定の位置ではありません。 ロッカー・スイッチを押して所定の位置にしてください。
		Warning-hitch	適切な場所で停車し、運転を中止してください。 ボール・ヘッドが所定の位置ではありません。 ロッカー・スイッチを押して所定の位置にしてください。
		Check left cornering light	電球を点検してください。 （左コーナリングランプ）
		Check right cornering light	電球を点検してください。 （右コーナリングランプ）
		Check dipped beam	電球を点検してください。 （ヘッドランプ・ロービーム）
		Check trailer lights	電球を点検してください。 （トレーラーランプ）
		Check direction indicators	電球を点検してください。 （方向指示ランプ）
		Check brake lights	電球を点検してください。 （ブレーキランプ）
		Check high beam	電球を点検してください。 （ヘッドランプ・ハイビーム）
		Check number plate light	電球を点検してください。 （ライセンス・ランプ）
		Check fog lights	電球を点検してください。 （フォグランプ）
		Check reversing lights	電球を点検してください。 （バックランプ）
		Check tail lights	電球を点検してください。 （テールランプ）
		Check front side lights	電球を点検してください。 （フロント・サイドランプ）
		Check headlight beam adjustment	正規ポルシェ販売店で故障を修理してください。*
		Daytime driving lights off	昼間走行ランプはエンジンを切ると消灯します。 必要な場合はスイッチを入れてください。

インストルメント・パネル	マルチ・ファンクション・ディスプレイ	ディスプレイのメッセージ	意味／対策
		Airbag faulty	正規ポルシェ販売店で故障を修理してください。*
		Passenger airbag switched on	車両キーで助手席エアバッグをONにした時に表示されます。チャイルド・シートを取り付けた場合は、必ず助手席エアバッグをOFFにしてください。 ＊日本仕様に設定はありません。
		Passenger's airbag deactivated	車両キーで助手席エアバッグをOFFにした時に表示されます。チャイルド・シートを取り外した場合は、必ず助手席エアバッグをONにしてください。 ＊日本仕様に設定はありません。
		Seat belt	シートベルトを着用してください。
		Warning, flat tyre, check the tyre	適切な場所で停車し、タイヤを点検してください。必要であればタイヤを交換してください。
		Check required pressure of spare wheel : 3.4 bar/50 psi	6か月ごとに表示されます。 積載しているスペア・タイヤが規定の空気圧か点検してください。
		Tyre pressure too low-Add air	タイヤ空気圧モニタリング・システムが0.2bar/3psi以上の圧力損失を検出しました。次の機会にタイヤ空気圧を修正してください。
		Collapsible spare wheel/sealing set max. 80 km/h （50mph）	最高許容速度を遵守してください。
		Collapsible spare wheel/3.5 bar/51 psi max. 80 km/h （50mph）	コラプシブル・スペア・タイヤを装着して運転している場合の情報です。 最大許容速度80 km/hおよび適正空気圧51psi（3.5bar）であることを留意し、確認してください。
		System not activated	スペア・タイヤまたはコラプシブル・スペア・タイヤが使用されている、またはタイヤ空気圧モニタリング・システムが故障している場合の表示 正規ポルシェ販売店で故障を修理してください。* タイヤ交換後はタイヤ空気圧メニューで新しいタイヤを設定してください。

インストルメント・パネル	マルチ・ファンクション・ディスプレイ	ディスプレイのメッセージ	意味／対策
		System not active-Brief disturbance	タイヤ・トランスミッターへの外部からの妨害電波（例：ワイヤレス・ヘッドホン）またはタイヤ・トランスミッターが高温度（120℃以上）になっていることを意味します。タイヤ空気圧モニタリング・システムは自動的に再作動します。
		System not active-Too many wheel transmitters	タイヤ空気圧モニタリング・システムにより4個以上のホイール・センサ（トランク・ルームの冬用タイヤなど）が検出されました。 タイヤ空気圧モニタリング・システムは余分なタイヤ・トランスミッターを除外し、その後再作動します。
		No monitoring-System learning	タイヤ空気圧メニューでタイヤ・タイプおよびタイヤ・サイズを選択すると、タイヤ空気圧モニタリング・システムはタイヤの再登録を行います。
		Wheel change? Check settings	タイヤ交換後TYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）メニューで設定の変更が行われなかったことを知らせます。タイヤ・タイプおよびタイヤ・サイズを選択してください。
		When vehicle stops : Hit selection	パンク警告後、実施された作業をタイヤ空気圧モニタリング・システムに入力しなかった場合に表示されます。 車両停止時にマルチ・ファンクション・ディスプレイで選択を行ってください。
		Monitoring off	タイヤ空気圧モニタリング・システムがマニュアルで解除されていました。タイヤ空気圧モニタはマルチ・ファンクション・ディスプレイでON/OFF切り替えができます。
		Engine temperature too high	エンジンをOFFにしエンジン温度を下げてください。 クーラント・レベルを点検してください。必要であればクーラントを補充してください。
		Check coolant level	エンジンをOFFにしエンジン温度を下げてください。 クーラント・レベルを点検してください。必要であればクーラントを補充してください。
		Battery/generator warning	適切な場所で停車し、エンジンをOFFにしてください。運転を中止してください。正規ポルシェ販売店で故障を修理してください。*
		Start engine	エンジンが停止し電気負荷が発生している場合は、バッテリが上がります。 始動するか、電気負荷をOFFにしてください。
		Electrics-Loads-Switch-Off	電装系が過負荷となっています。特定の電気負荷（リア・ウィンドウ・ヒータ、シート・ヒータなど）がOFFになります。

インストルメント・パネル	マルチ・ファンクション・ディスプレイ	ディスプレイのメッセージ	意味／対策
		Please refuel	燃料を補充してください。
		Topping up washer fluid	ウォッシャ液を補充してください。
		Oil level monitoring-Failure-Workshop	正規ポルシェ販売店で故障を修理してください。*
		Check the oil level	できるだけ早くオイル・ディップ・スティックを使用してエンジン・オイル・レベルを点検し、必要であればオイルを補充してください。
		Oil pressure too low	ただちに適切な場所で停車し、エンジンをOFFにしてください。 運転を中止してください。 エンジン・オイル・レベルを点検してください。必要であればオイルを補充してください。 オイル・レベルが正しいにもかかわらず警告灯が点灯した場合は運転を中止してください。正規ポルシェ販売店で故障を修理してください。*
		Service in 3000 km/mls	サービス・インジケータ 表示された距離に到達する前に車両を整備に出してください。
		Service now	サービス・インジケータ 正規ポルシェ販売店で故障を修理してください。*
		Brake pads-Workshop	速やかに正規ポルシェ販売店でブレーキ・パッドを交換してください。*
		Warning-Brake circuit division	ただちに適切な場所で停車し、運転を中止してください。 正規ポルシェ販売店で故障を修理してください。*
		ABS failure-Workshop	慎重に運転してください。 正規ポルシェ販売店で故障を修理してください。*
		PSM failure-Workshop	慎重に運転してください。 正規ポルシェ販売店で故障を修理してください。*
		Warning-Brake fluid level	ただちに適切な場所で停車し、運転を中止してください。 正規ポルシェ販売店で故障を修理してください。*

インストルメント・パネル	マルチ・ファンクション・ディスプレイ	ディスプレイのメッセージ	意味／対策
		Parking brake	パーキング・ブレーキがかかったままです。
		PSM on	ポルシェ・スタビリティ・マネージメントがオンです。
		PSM off	ポルシェ・スタビリティ・マネージメントがオフです。
		PHC is not available	ポルシェ・エンジン・ブレーキング・サポート（下り坂走行中のアシスタンス）が機能していません。
		Brake booster faulty	ブレーキ・ペダルを踏むために大きな力が必要になります。最寄りの正規ポルシェ販売店まで安全に運転してお越しください。*
		Sport shock absorber	ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメントの現在の設定（スポーツ）
		Normal shock absorber	ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメントの現在の設定（ノーマル）
		Comfort shock absorber	ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメントの現在の設定（コンフォート）
		Warning-Air suspension	適切な場所で停車し、運転を中止してください。 正規ポルシェ販売店で故障を修理してください。*
		Air suspension faulty-Workshop	最寄りの正規ポルシェ販売店まで安全に運転してお越しください。*
		Spare wheel filling	コラプシブル・スペア・タイヤがレベル・コントロール・コンプレッサで充填されています。発進しないでください。
		Control off	レベル・コントロールがOFFになっています（ジャッキ・アップのため）。
		Not permissible	好みのレベルに設定するには条件が合っていません。
		Pressure accumulator changing	レベル・コントロールが一時的に解除されています。
		All-wheel drive system faulty	正規ポルシェ販売店で故障を修理してください。*

インストルメント・パネル	マルチ・ファンクション・ディスプレイ	ディスプレイのメッセージ	意味／対策
		Shifting not possible, Speed too high	ロー・レンジおよびハイ・レンジ間を切り替える場合、制限速度（ロー・レンジ・プログラム）を超えると切り替えが不可能になります。
		Changing only possible in Neutral	ロー・レンジおよびハイ・レンジ間を切り替える場合、セレクタ・レバーを**N**位置にする必要があります
		Warning-Parking look! Operate footbrake!	運転を中止してください。パーキング・ブレーキをかけてください。 正規ポルシェ販売店で故障を修理してください。*
		Warning-off-road anti-roll bar	アンチロール・バーが接続しません。システムに不具合が発生しています。 最寄りの正規ポルシェ販売店まで安全に運転してお越しください。 正規ポルシェ販売店で故障を修理してください。*
		Off-road anti-roll bar faulty	アンチロール・バーが解除されません。 正規ポルシェ販売店で故障を修理してください。*
		Off-road anti-roll bar disengaged, max. 50 km/h (30 mph)	アンチロール・バーが解除されました。 50km/h（30mph）以上の速度で走行しないでください。
		Not permissible	アンチロール・バー解除の設定条件（速度および横方向の加速度）が満たされていません。
		Only possible with reduction	ロー・レンジに切り替えた場合のみアンチロール・バーの解除が可能となります。
			スペア・タイヤ・ブラケットがロックされていません。 スペア・タイヤ・ブラケットを正しくロックしてください。
			左フロント・ドアが開いています。 車速が3km/hを超えた場合、すべてのロックされていないドア、リッドが表示されます。
			右フロント・ドアが開いています。 車速が3km/hを超えた場合、すべてのロックされていないドア、リッドが表示されます。
			左リア・ドアが開いています。 車速が3km/hを超えた場合、すべてのロックされていないドア、リッドが表示されます。

インストルメント・パネル	マルチ・ファンクション・ディスプレイ	ディスプレイのメッセージ	意味／対策
			右リア・ドアが開いています。 車速が3km/hを超えた場合、すべてのロックされていないドア、リッドが表示されます。
			エンジン・フードが開いています。 車速が3km/hを超えた場合、すべてのロックされていないドア、リッドが表示されます。
			リア・リッドが開いています。 車速が3km/hを超えた場合、すべてのロックされていないドア、リッドが表示されます。
			リア・ウィンドウが開いています。 車速が3km/hを超えた場合、すべてのロックされていないドア、リッドが表示されます。
		System fault-Workshop	いくつかのシステムが故障していることを示しています。正規ポルシェ販売店で故障を修理してください。

★ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

*ドライビング・ランプ・アシスト**装備***

*ドライビング・ランプ・アシスト**なし***

ランプ・スイッチ

- **ランプ・スイッチOFF**

auto ドライビング・ランプ・アシスト

車幅灯
ライセンス・ランプ、計器照明

ロービーム、ハイビーム
イグニッションがONのときのみ

フォグランプ
（車幅灯またはロービームに追加されます）
スイッチを1段階引くと、インジケータ・ランプが点灯します。

リア・フォグランプ
（フォグランプに追加されます）
スイッチを2段階引くと、インジケータ・ランプが点灯します。

知識：
ランプが点灯しているとき（パーキング・ランプを除く）、イグニッション・キーを抜いて運転席側のドアを開くと、警告音が鳴ってバッテリ上がりを警告します。
国によっては、法律に応じてランプの仕様が異なります。

オートマチック・ドライビング・ランプ・アシスタント

ドライビング・ランプ・アシスタントはコンフォート機能です。ドライビング・ランプ（ロービーム）は周囲の明るさに応じて自動的に点灯／消灯します。

国の法規制に従い、一般のドライバーも通常のランプ・スイッチでドライビング・ランプを点灯することが義務付けられています。

ドライビング・ランプ・アシスタントによるヘッドランプの作動は、ドライバーの責任によって正しく操作または解除してください。

以下の場合に、ロービームが自動的に点灯します。

- 夕暮れ
- 暗闇
- トンネル走行中
- 雨天（レイン・センサ併用）
- 高速道路の走行

知識：

霧を確認することはできません。

▷ 霧の場合は、手動でランプを点灯してください。

⚠ 警 告

ランプを点灯しないで走行すると思わぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ オートマチック・ドライビング・ランプの作動に注意してください。

消灯遅延機能およびドア・ガード／足元照明

オートマチック・ドライビング・ランプ・アシスタントがONのときは、消灯遅延機能とドア・ガード／足元照明が作動します。

▷ 「カミング・ホーム機能（消灯遅延）」（142ページ）を参照してください。

▷ 「ドア・ガード／足元照明」（143ページ）を参照してください。

高速道路自動点灯機能

車速が時速140キロを超えると、ランプが自動的に点灯します。車速が時速65キロ以下に落ちた場合、周囲の状況に応じてドライビング・ランプは通常約2分後に消灯します。

雨天自動点灯機能

ワイパーが連続して5秒以上作動すると、ドライビング・ランプが自動的に点灯します。ワイパーが停止すると、約4分後にドライビング・ランプは消灯します。

ダイナミック・コントロール・コーナリング・ランプ付きバイキセノン・メイン・ヘッドランプ

コーナリング・ランプがバイキセノン・ヘッドランプには補助ランプとして備えられています。補助ランプの適切な照射位置により、左右メイン・ヘッドランプ・ビームの車線を照らす性能が大きく向上します。

A - *メータ・パネル・ランプ調整ダイヤル*

メータ・パネル・ランプ

ランプが点灯すると、調整ダイヤル**A**によりメータ・パネル・ランプの明るさが調整できます。

ヘッドランプ自動高さ調整

バイ・キセノン・ヘッドランプ装着車にはヘッドランプ自動高さ調整機能が装備されています。

イグニッション・スイッチONでヘッドランプ・ロービーム点灯時、車両積載重量により自動的にヘッドランプの高さが調整され加速時、減速時のヘッドランプの高さは一定に固定されます。

作動の点検

1. ロービームを点灯させます。
2. イグニッション・スイッチをONにします。
   最初、ロービームは下面を照らしその後、車両の積載重量に合わせ高さが調整されます。

上記の作動がなされない場合は調整機構が故障しています。正規ポルシェ販売店にて点検を受けてください。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

方向指示灯／ハイビーム／パッシング・レバー

方向指示灯、ロービーム、ハイビームはイグニッション・スイッチがONのときに作動します。

1― 左方向指示灯
2― 右方向指示灯
手ごたえを感じる位置まで、レバーを上または下に動かすと、方向指示灯が3回点滅します。
3― ハイビーム
4― パッシング・レバー
中央位置―ロービーム（ランプ・スイッチ・オンのとき）

知識：
ハイビームとパッシングが選択されているとき、スピード・メータ内に青色のインジケータ・ランプが点灯します。

パーキング・ランプ

パーキング・ランプはイグニッションOFFの場合にのみ点灯することができます。

▷ レバーを上下に動かすと、左または右のパーキング・ランプが点灯します。

ハザード・ランプ

ハザード・ランプはイグニッション・スイッチの位置とは関係なく、点灯できます。

スイッチON／OFF

▷ スイッチ**A**を押します。

全ての方向指示灯とスイッチ**A**にあるインジケータ・ランプが同時に点滅します。

フロント・ワイパー／ウォッシャ・レバー

⚠ 注 意

不意にワイパーが作動すると、怪我をする恐れがあります。
以下の点に注意しない場合、エンジン・フード、フロント・ウィンドウおよびワイパーが損傷する恐れがあります。

▷ ワイパーを作動させる前に、フロント・ウィンドウを十分に濡らしておいてください。フロント・ウィンドウが乾いてると表面をこすって傷つく恐れがあります。

▷ ワイパー・ブレードが凍結した場合は、走行前に溶かしてください。

▷ ヘッドランプが凍結している場合は、ヘッドライト・ウォッシャを作動させないでください。

▷ 洗車する場合は、レインセンサーの作動で不意にワイパーが動かないように必ずスイッチをOFFにしてください。

▷ 洗車時はヘッドライト・ウォッシャを作動させないでください。

▷ 自動洗車機を使用する場合は、レインセンサーの作動で不意にワイパーが動かないように必ずスイッチをOFFにしてください。

▷ ワイパー・ブレードを交換する場合は、必ずワイパー・アームをしっかりと握ってください。

▷ エンジン・フードを開く場合は、必ずフロント・ワイパーのスイッチをOFF（位置**0**）にしてください。エンジン・フードを開く時に、ワイパー・アームが位置**0**に設定されていない場合は、自動的にこの位置にワイパー・アームが設定されます。この設定は、エンジンがOFFの場合でも動作します。エンジン・フードを閉じ、ワイパー・システムをOFFにして、その後、再びONにするまでワイパー・アームは、このポジションに設定されます。

0ー フロント・ワイパーOFF
1ー フロント・ワイパー、レイン・センサ作動

▷ ワイパー・レバーを**1**の位置まで上げます。

知識：

レイン・センサは、雨滴の量を感知し、フロント・ウィンドウ・ワイパーの低速、高速、間欠の作動間隔を、自動的に選択します。

イグニッション・スイッチをONにしたとき、フロント・ワイパー・レバーがすでに**1**の位置になっていた場合、レイン・センサは作動しません。

レイン・センサを再び作動させるには：

- ▷ フロント・ワイパー・レバーを**0**の位置にしてから、**1**の位置に戻します。フロント・ウィンドウのワイパーが1回作動します。**もしくは**
- ▷ フロント・ウィンドウ・ウォッシャ・システム**5**を作動させます。フロント・ウィンドウのワイパーが3回作動します。 **もしくは**
- ▷ コントロール・スイッチ**A**でレイン・センサの感度を変更します。

レイン・センサの感度調整

コントロール・スイッチ**A**を使用してレイン・センサの感度を4段階に調整できます。

- ▷ コントロール・スイッチ**A**を上に押す－感度が上がります。
  調整が完了すると、ワイパーが1回作動します。
- ▷ コントロール・スイッチ**A**を下に押す－感度が下がります。

2－ フロント・ワイパー － 低速

- ▷ ワイパー・レバーを2の位置まで上げます。

3－ フロント・ワイパー － 高速

- ▷ ワイパー・レバーを3の位置まで上げます。

およそ4km/hより低速で走行中にフロント・ガラス・ワイパにスイッチがオンになった場合、レイン・センサ作動モードが自動的に作動します。
およそ8km/hより高速で走行する場合、システムはあらかじめ選択されたワイパー・レベルに切り替わります。

4－ フロント・ワイパー － ワンタッチ作動

- ▷ ワイパー・レバーを4の位置に下げます。フロント・ワイパーは1回作動します。

5－ フロント・ワイパーおよびウォッシャ・システム

- ▷ ワイパー・レバーをステアリング方向に引くと、ウォッシャ液が噴射され、ワイパーが作動します。
  レバーを放すとワイパーが数回作動して、停止します。
  ヘッドランプ・ウォッシャ：
  ロービームまたはハイビームが点灯しているときに噴射されます。
  ヘッドランプ・ウォッシャを作動させるには、ワイパー・レバーを通常より長い間引きます。
  ヘッドランプ・ウォッシャは、最短でウィンドウ・ウォッシャを5回作動させたときに再度作動します。
  噴射時間はリレーによって制限されています。

知識：

- ▷ ヘッドランプがひどく汚れていて一度ではきれいにならない場合は、繰り返し作動させてください。
- ▷ ひどい汚れ（昆虫の渇いた死骸など）は定期的に取除いてください。
- ▷ 「車のお手入れ」（252ページ）を参照してください。

フロント・ガラス・ウォッシャ・ノズルは、イグニッション・スイッチをONにするとヒータにより温められ、氷結を防止します。ただし、イグニッション・スイッチがOFFのときはヒータが作動しないので、凍結防止のために必ずウォッシャ液を使用してください。

▷▷▷

6— リア・ワイパー — 間欠作動

▷ ワイパー・レバーを6の位置まで奥に倒すと、リア・ワイパーが設定間隔で作動します。

7— リア・ワイパー — ワンタッチ作動

▷ ワイパー・レバーを軽く奥に倒すと、ウォッシャ液が噴射され、リア・ワイパーが3回作動します。

8— リア・ワイパーおよびウォッシャ・システム

▷ ワイパー・レバーを奥にいっぱいに倒すと、ウォッシャ液が噴射され、ワイパーが作動します。
レバーを放すとワイパーが数回作動して、停止します。

知識：

ワイパー・ブレードがこすれたり、異音がする場合は、以下の原因が考えられます。

— 自動洗車機で洗車し、フロント・ウィンドウに洗剤が残っていた場合。
リムーバなどを使用して洗剤を取除いてください。
詳しい情報に関しては担当の正規ポルシェ販売店にお問い合わせください。

— ワイパー・ブレードが損傷または摩耗している場合。

▷ 直ちにワイパー・ブレードを交換してください。

A - *セット*
1 - *リセット（スイッチON／クルーズ・コントロール・リセット）*
2 - *OFF（中断）*
3 - *加速*
4 - *減速*

クルーズ・コントロール（自動車速制御装置）

クルーズ・コントロールは、40～200km／hの範囲でアクセル・ペダルを踏まなくても希望する車速を保ったまま走行できます。クルーズ・コントロールはステアリング部にある操作レバーで操作します。

⚠ 警 告

ひどい渋滞、カーブの多い道、路面状態が悪い場合（冬場の滑りやすい路面、濡れた路面、起伏の多い路面など）で使用する場合は、事故を起こす恐れがあります。

▷ 安全性を確保するため、クルーズ・コントロールは使用しないでください。

クルーズ・コントロールON

▷ クルーズ・コントロール・レバーを**1**の位置にカチッと音がするまで後方に引いてください。

クルーズ・コントロール作動中

この緑色のインジケータ・ランプがスピードメータ内に点灯して、クルーズ・コントロールがONになっていることを示します。

スピードの設定

▷ 車を好みの速度まで加速させてください。

▷ スイッチ**A**を押してください。
設定された速度が保たれます。

▷▷▷

加速（例：追い越し）

オプション1

▷ 通常の走行時と同じようにアクセル・ペダルを踏むと加速されます。
アクセル・ペダルを放すと、元の設定速度に戻ります。

オプション2

▷ 操作レバーを**3**の位置に好みのスピードになるまで上げてください。
操作レバーで加速した場合は、操作レバーを放したときの速度が設定速度になります。

オプション3

▷ 操作レバーを**3**の位置にすばやく上げてください。
1回押す毎に約2km/hずつ速度が増します。（最大10回）

知識：

設定速度より約25km/h以上の速度で20秒間加速すると、クルーズ・コントロールは自動的に解除されます。

減速

オプション1

▷ 操作レバーを**4**の位置に好みのスピードになるまで下げてください。
操作レバーで減速した場合は、操作レバーを放したときの速度が設定速度になります。

オプション2

▷ 操作レバーを**4**の位置にすばやく下げてください。
1回押す毎に約2km/hずつ速度が増します。（最大10回）

クルーズ・コントロールの中断

解除される前の速度はメモリーに記録されています。

▷ 操作レバーを**2**の位置に前方に押してください。

もしくは

▷ フット・ブレーキを踏むか、セレクタ・レバーを**“N”**の位置にしてください。

▷ 「ティプトロニックS」（198ページ）を参照してください。

クルーズ・コントロールの自動中断：

— 設定速度より25km/h以上の速度で20秒間加速したとき

— 上り坂などで設定速度より10km/h以下の速度で5秒間減速したとき

— ポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）が0.2秒以上作動したとき

— ローレンジ・スイッチがONになったとき

クルーズ・コントロールの再開

▷ 操作レバーを**1**の位置まで後方に引いてください。

知識：

交通状態や路面状況がクルーズ・コントロール走行に適した場合にクルーズ・コントロールを再開するように注意してください。

クルーズ・コントロールOFF

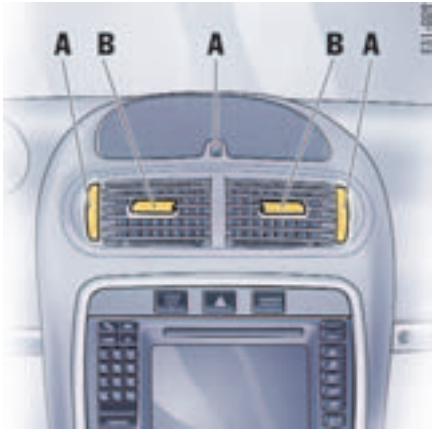
▷ 操作レバーを**2**の位置にカチッと音がするまで前方に押してください。
スピードメータ内にある緑色のインジケータ・ランプが消灯します。

車両を駐車してイグニッションをOFFにすると、メモリーは消去されます。

坂道での走行

上り坂や下り坂では、設定速度が維持できない場合があります。

▷ 上り坂ではエンジンに負荷がかかりすぎないように、また下り坂では十分エンジン・ブレーキがかかるようにシフトダウンしてください。



A - *吹き出し口開閉*
B - *ヘッド方向調節*

吹き出し口

O　吹き出し口を開く

▷ ダイヤル**A**を上に回します。

●　吹き出し口を閉じる

▷ ダイヤル**A**を下に回します。

吹き出し口方向の調節

▷ ルーバー**B**の角度を調節して好みの方向に風を送ることができます。

知識：

外気またはエアコンの風は、操作パネルの設定に応じて、どの吹き出し口からも出すことができます。

外気導入口

外気の導入を確保するため、以下を注意してください。

▷ エンジン・フードとフロント・ウィンドウの間の外気導入口を雪、氷、木の葉などで詰らせないようにしてください。

リア・ウィンドウ・ヒータ

リア・ウィンドウ・ヒータは、イグニッションがONになっているときに作動させることができます。

スイッチON

▷ スイッチ**B**を押します。
スイッチ**B**のインジケータ・ランプが点灯します。

ヒータのスイッチは約5～20分後に自動的にOFFになります。(外気温度により変化)
スイッチを再び押すと、ヒータはONに戻ります。

スイッチOFF

▷ スイッチ**B**を押します。
スイッチ**B**のインジケータ・ランプが消えます。

エアコン・コントロール・パネル・カバー・フラップ

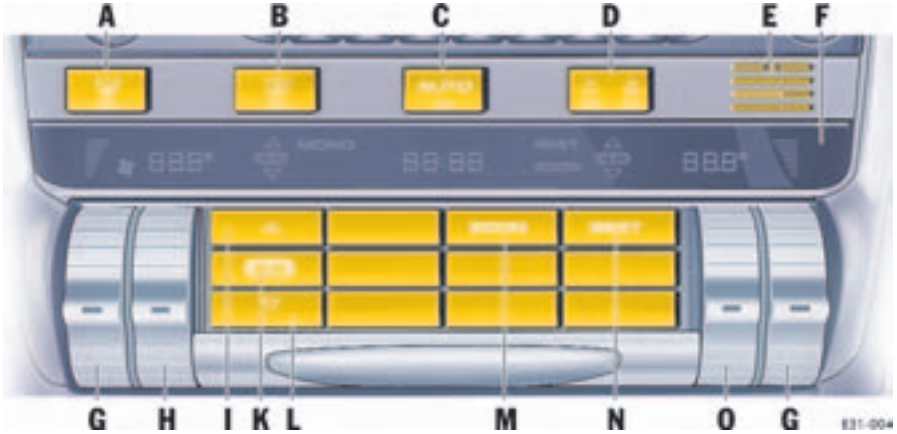
カバー・フラップを開く

▷ ハンドルを持ってカバー・フラップを手前に倒します（**矢印**）。エアコン操作用のボタンにはカバーが付いていません。

センサ

エアコン・システムを損傷しないように以下に注意してください。

▷ メータ・パネルの日射センサおよびエアコン・フロント・コントロール・パネルのセンサ**E**を覆わないようにしてください。



オートマチック・コントロール 2ゾーン・エアコン

エアコン・システムは周囲の状況（日光、風量など）に応じて室内温度を自動的に設定値に調整します。

必要に応じて、オートマチック・システムは手動でも操作できます。
個別の調整はエアコン・ディスプレイ・パネルに表示されます。

知識：

イグニッションをOFFにして車両をロックすると、そのとき使用していたエアコンの設定が、リモート・コントロールに記憶されます。また、送風OFFの設定を約60分間維持し、内気循環モードの設定を約20分間維持します。

A - フロント・デフロスタ
B - リア・ウィンドウ・ヒータ
C - AUTOボタン（オートマチック・モード）
D - 内気循環ボタン、自動内気循環ボタン
E - 温度センサ
F - エアコン・ディスプレイ
G - 風量ボタン（右側または左側）
H - 室内温度設定ボタン（左側）
I - フロント・ウィンドウ
K - 中央および両サイド
L - 足元
M - ECONボタン（エア・コンディショニング・コンプレッサON/OFF）
N - レスト・ボタン（エンジン余熱）
O - 室内温度設定ボタン（右側）

ディスプレイ

エアコン・ディスプレイ・パネルには以下が表示されます。

— 風量
— 設定室内温度（左右）
— 個別設定
— メータ・パネルと連動した時刻表示

自動調節

▷ AUTOボタン**C**を押すとボタン**C**のインジケータ・ランプが点灯し、エア量、吹き出し口、温度が自動制御され、外気温が変動しても車内の温度は一定に保たれます。

知識：

設定されている機能は手動で変更できます。それぞれの設定は、その設定ボタンをもう一度押すか、AUTOボタン**C**を押すまで維持されます。

MONO機能

運転席側の設定温度が車室内の温度に設定されます。

▷ AUTOボタン**C**を2秒間押すとエアコン・ディスプレイに**MONO**マークが表示されます。

機能停止

▷ AUTOボタン**C**を2秒間押します。

または

▷ エアコンの設定範囲を変えてください。

温度設定

設定ボタンを上下に押すと、好みに合わせて、車室内の温度は16～29.5℃の範囲で選択できます。

快適温度として22℃をお薦め致します。

▷ 設定ボタンを上下に押します。
設定ボタン**H**ー 左側の車室内を設定
設定ボタン**O**ー 右側の車室内を設定
設定温度はエアコン・ディスプレイ内に表示されます。

ディスプレイに**“LO”**または**“HI”**が表示された場合は、エアコンの作動は最大になっています。
自動調節はOFFになります。

設定温度を変えると風量が増し早く希望温度に達します。

風量設定

▷ 調整ダイヤル**G**を上または下に押し、風量を調整します。
選択された風量はダイヤル上のバー・ディスプレイに表示されます。

AUTOボタン**C**を押すと、オートマチック・モードに戻ります。

ディスプレイにOFFが表示されるまで風量を下げると、外気導入が自動的に停止します。

⚠ 警 告

送風をOFFにした場合、ウィンドウが曇る恐れがあります。

▷ 曇った場合は、調整ダイヤル**G**を上に押し、風量を上げてください。

フロント・デフロスタ

▷ ボタン**A**を押すと、ボタン**A**のインジケータ・ランプが点灯し、ウィンドウの曇りを素早く取除くことができます。風はフロント・ウィンドウとフロント・サイド・ウィンドウに向けられます。

機能停止

▷ ボタン**A**を再び押すか、AUTOボタン**C**を押してください。

自動内気循環ボタン

▷ ボタン**D**を1度押すとボタン**D**のインジケータ・ランプが点灯し、外気の供給を調節して、内気の質を調節します。

知識：

自動内気循環モードは、作動させておくことをお勧めします。

内気循環ボタン

⚠ 警 告

内気循環モードを行なうとウィンドウが曇り、視界を悪くする恐れがあります。

▷ 内気循環モードは短時間のみ使用してください。

▷ もしウィンドウが曇った場合は、内気循環モードを停止させ、フロント・デフロスタを作動させてください。

▷ ボタン**D**を2回押すとボタン**D**のインジケータ・ランプが点灯し、外気の導入がしゃ断されて、車内の空気のみが循環します。

知識：

エアコン・コンプレッサが停止すると、内気循環モードは約3分後に自動的にOFFになります。

フロント・ウィンドウ

▷ ボタン**I**を押すと、風はフロント・ウィンドウへ流れます。

中央および両サイド

▷ ボタン**K**を押すと、風は中央および両サイドの吹き出し口から流れます。

足元

▷ ボタン**L**を押すと、風は足元へ流れます。

機能停止

▷ 各々のボタンを再び押します。

または、

▷ AUTOボタン**C**を押してください。

ECONモード

エアコン・コンプレッサを停止すると、導入された外気が乾燥されません。

⚠ 警 告

エアコン・コンプレッサを停止するとウィンドウが曇り、視界が悪くなる恐れがあります。

▷ 湿気が多い場合はエアコン・コンプレッサを停止しないでください。

エアコン・コンプレッサOFF

外気温が3℃を超えると、自動調節モードではエアコン・コンプレッサが作動します。
燃料消費を抑えるためにエアコン・コンプレッサを停止することができますが、快適性は制限されます。

▷ ECONボタン**M**を押すと、ECONマークがエアコン・ディスプレイ・パネルに表示され、エアコン・コンプレッサは停止します。

エアコン・コンプレッサON

▷ 室内温度が高い場合、ECONボタン**M**または AUTOボタン**C**を押します。

エアコン・コンプレッサに関する一般的な知識：

— エンジンに大きな負荷がかかっているとき、エンジンの冷却が十分に行われるように、一時的にOFFにすることができます。

— 気温が約3℃以下になると自動的にOFFになり、手動でもONにすることができません。

— エアコンの効果を上げるために、エアコン使用中は窓を閉じてください。
日光の当たる場所に長時間駐車していたときは、窓を開いて室内の空気を入れ換えてから、エアコンを使用すると効率的です。

知識：

外気温と湿度によっては、凝結した水分がエバポレーターから滴り落ちて、車の下に水たまりを作ることがあります。これは正常な状態で、液漏れなどの故障ではありません。

最低温度（LO）に設定しているのに冷たい空気が出てこないときは、エアコン・スイッチをOFFにして、正規ポルシェ販売店で修理してください。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

レスト・モード

エンジンの余熱利用

イグニッションをOFFにしてから、エンジンの余熱を利用して最大20分間室内を暖房することができます。

▷ レスト・ボタン**N**を押します。
レスト・モードではエアコン設定を変更することはできません。

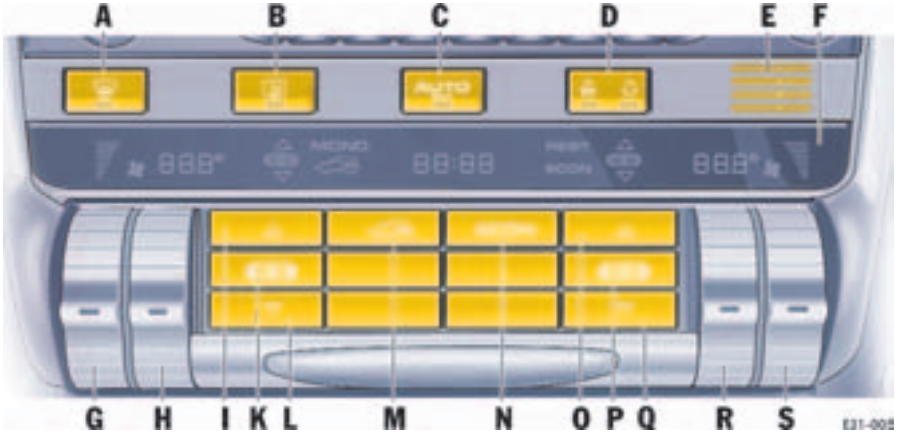
機能停止

▷ レスト・ボタン**N**を押します。

知識：

バッテリ電圧が低い場合、レスト・モードは自動的に終了します。

▷ 「警告灯および警告メッセージ」（104ページ）を参照してください。



オートマチック・コントロール 4ゾーン・エアコン

エアコン・システムは周囲の状況（日光、風量など）に応じて室内温度を自動的に設定値に調整します。
必要に応じて、オートマチック・システムは手動でも操作できます。
フロント左、フロント右、リア左、リア右で温度、風量、吹き出し方向を個別に設定できます。
個別の調整はエアコン・ディスプレイ・パネルに表示されます。

知識：
イグニッションをOFFにして車両をロックすると、そのとき使用していたエアコンの設定が、リモート・コントロールに記憶されます。また、送風OFFの設定を約60分間維持し、内気循環モードの設定を約20分間維持します。

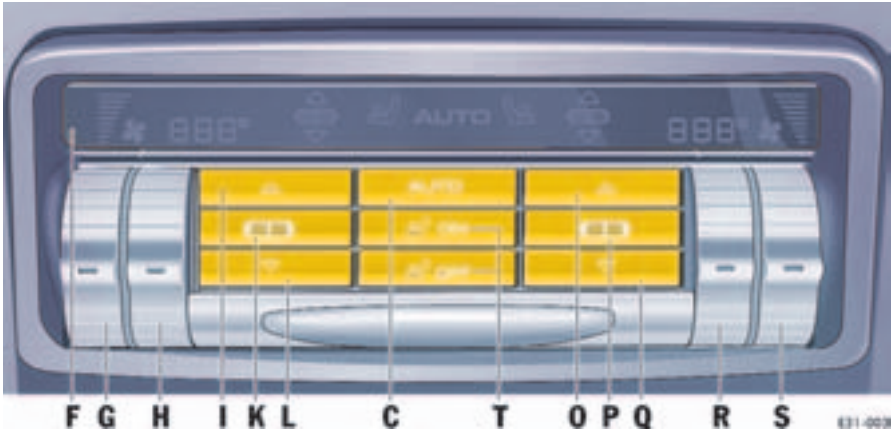
フロント・リア温度設定用 コントロール・パネル

A - フロント・デフロスタ
B - リア・ウィンドウ・ヒータ
C - AUTOボタン（オートマチック・モード）、レスト・スイッチ（エンジン余熱）
D - 内気循環ボタン、自動内気循環ボタン
E - 温度センサ
F - エアコン・ディスプレイ
G - 風量ボタン（左側）
H - 室内温度設定ボタン（左側）
I - フロント・ウィンドウ（左側）
K - 左側中央および両サイド
L - 足元（左側）
M - 室内温度設定ボタン（リア）
N - ECONボタン（エア・コンディショニング・コンプレッサON/OFF）
O - フロント・ウィンドウ（右側）
P - 右側中央および両サイド
Q - 足元（右側）
R - 室内温度設定ボタン（右側）
S - 風量ボタン（右側）

ディスプレイ

エアコン・ディスプレイ・パネルには以下が表示されます。

— 風量
— 設定室内温度（左右）
— 個別設定
— メータ・パネルと連動した時刻表示



リア・シート・ヒータ

作動

▷ ONボタンを押します。
シート・ヒータを作動させると、エアコン・ディスプレイが約10秒間シート・ヒータ・モードになります。

温度の制御

▷ ボタン**H**または**R**を上下に動かして、好みの温度にセットします。

停止

▷ OFFボタンを押します。

エアコン・リア・コントロール・パネルのロック

運転席側アームレストにあるセーフティ・ボタンを押すと、エアコン・リア・コントロール・パネルがロックされます。

セーフティ・ボタン

▷ 「セーフティ・ボタン」(21ページ) を参照してください。

後部座席温度設定用コントロール・パネル

C - AUTOボタン(オートマチック・モード)
F - エアコン・ディスプレイおよびシート・ヒータ・ディスプレイ
G - 風量ボタン(左側)
H - 室内およびシート・ヒータ温度設定ボタン(左側)
I - ドア・ポスト(左側)
K - 左側中央(センター・コンソール)
L - 足元(左側)
O - ドア・ポスト(右側)
P - 右側中央(センター・コンソール)
Q - 足元(右側)
R - 室内およびシート・ヒータ温度設定ボタン(右側)
S - 風量ボタン(右側)
T - シート・ヒータON/OFF

AUTO REST 自動調節

フロントおよびリアのエアコン・ゾーンは個別に自動調節モードに切替えることができます。

▷ AUTOボタン**C**を押すとフロント・ボタン**C**およびリアAUTOボタン・インジケータ・ランプが点灯し、エア量、吹き出し口、温度が自動制御され、外気温が変動しても車内の温度は一定に保たれます。

知識：

設定されている機能は手動で変更できます。それぞれの設定は、その設定ボタンをもう一度押すか、AUTOボタン**C**を押すまで維持されます。

MONO機能

運転席側の設定温度が車室内の温度に設定されます。

▷ AUTOボタン**C**を2秒間押すとエアコン・ディスプレイに**MONO**マークが表示されます。

機能停止

▷ フロント・コントロール・パネルのAUTOボタン**C**を2秒間押します。

または

▷ エアコンの設定範囲を変えてください。

温度設定

設定ボタンを上下に押すと、好みに合わせて、車室内の温度は16～29.5℃の範囲で選択できます。

快適温度として22℃をお薦め致します。

▷ 設定ボタンを上下に押します。
設定ボタン**H**ー 左側の車室内を設定
設定ボタン**R**ー 右側の車室内を設定
設定温度はエアコン・ディスプレイ内に表示されます。

ディスプレイに**“LO”**または**“HI”**が表示された場合は、エアコンの作動は最大になっています。
自動調節はOFFになります。

設定温度を変えると風量が増し早く希望温度に達します。

風量設定

4ゾーン・エアコンでは各々の風量を調整できます。

▷ 設定ボタンを上下に押します。
調整ダイヤル**G**を上または下に押し、左側の車室内の風量を調整します。
調整ダイヤル**S**を上または下に押し、右側の車室内の風量を調整します。
選択された風量はダイヤル上のバー・ディスプレイに表示されます。

AUTOボタン**C**を押すと、オートマチック・モードに戻ります。

ディスプレイにOFFが表示されるまで風量を下げると、外気導入が自動的に停止します。

⚠ 警 告

送風をOFFにした場合、ウィンドウが曇り、視界がさえぎられ、事故につながる恐れがあります。

▷ 曇った場合は、調整ダイヤル**G**を上に押し、風量を上げてください。

フロント・デフロスタ

▷ フロント・コントロール・パネルのボタン**A**を押すと、インジケータ・ランプが点灯し、ウィンドウの曇りを素早く取除くことができます。
風はフロント・ウィンドウとフロント・サイド・ウィンドウに向けられます。

機能停止

▷ ボタン**A**を再び押すか、AUTOボタンを押してください。

自動内気循環ボタン

▷ フロント・コントロール・パネルのボタン**D**を1度押すとボタン**D**のインジケータ・ランプが点灯し、外気の供給を調節して、内気の質を調節します。

知識：

自動内気循環モードは、作動させておくことをお勧めします。

内気循環ボタン

⚠ 警 告

内気循環モードを行なうとウィンドウが曇り、視界を悪くなることがあり、事故につながる恐れがあります。

▷ 内気循環モードは短時間のみ使用してください。

▷ もしウィンドウが曇った場合は、内気循環モードを停止させ、フロント・デフロスタを作動させてください。

▷ フロント・コントロール・パネルのボタン**D**を2回押すとインジケータ・ランプが点灯し、外気の導入がしゃ断されて、車内の空気のみが循環します。

知識：

エアコン・コンプレッサが停止すると、内気循環モードは約3分後に自動的にOFFになります。

△ フロント・ウィンドウおよびサイド・ウィンドウ

風量は各ゾーンで調節することができます。

— エアコン・フロント・コントロール・パネル：
ボタン**I**または**O**を押すと、風はフロント・ウィンドウへ流れます。

— エアコン・リア・コントロール・パネル：
ボタン**I**または**O**を押すと、風は各サイド・ウィンドウへ流れます。

中央および両サイド

— エアコン・フロント・コントロール・パネル：
ボタン**K**または**P**を押すと、風は前中央および両サイドの吹き出し口から流れます。

— エアコン・リア・コントロール・パネル：
風は中央の吹き出し口から流れます。

▷ 吹き出し口は開いている必要があります。

▽ 足元

▷ ボタン**L**または**Q**を押すと、風は足元へ流れます。

機能停止

▷ 各々のボタンを再び押します。

または

▷ AUTOボタンを押してください。

ECONモード

エアコン・コンプレッサを停止すると、導入された外気が乾燥されません。

⚠ 警 告

エアコン・コンプレッサを停止するとウィンドが曇り、視界が悪くなり、事故につながる恐れがあります。

▷ 湿気が多い場合はエアコン・コンプレッサを停止しないでください。

エアコン・コンプレッサOFF

外気温が3℃を超えると、自動調節ではエアコン・コンプレッサが作動します。
燃料消費を抑えるためにエアコン・コンプレッサを停止することができますが、快適性は制限されます。

▷ ECONボタン**N**を押すと、ECONマークがエアコン・ディスプレイ・パネルに表示され、エアコン・コンプレッサは停止します。

エアコン・コンプレッサON

▷ 室内温度が高い場合、ECONボタン**N**または**AUTO**ボタン**C**を押します。

エアコン・コンプレッサに関する一般的な知識：

— エンジンに大きな負荷がかかっているとき、エンジンの冷却が十分に行われるように、一時的にOFFにすることができます。

— 気温が約3℃以下になると自動的にOFFになり、手動でもONにすることができません。

— エアコンの効果を上げるために、エアコン使用中は窓を閉じてください。
日光の当たる場所に長時間駐車していたときは、窓を開いて室内の空気を入れ換えてから、エアコンを使用すると効率的です。

知識：

外気温と湿度によっては、凝結した水分がエバポレーターから滴り落ちて、車の下に水たまりを作ることがあります。これは正常な状態で、液漏れなどの故障ではありません。

最低温度（LO）に設定しているのに冷たい空気が出てこないときは、エアコン・スイッチをOFFにして、正規ポルシェ販売店で修理してください。

AUTO REST レスト・モード

イグニッションをOFFにしてから、エンジンの余熱を利用して最大20分間室内を暖房することができます。

レスト・モードの作動

▷ フロント・コントロール・パネルのAUTOレスト・ボタン**C**を押します。
レスト・モードではエアコン設定を変更することはできません。

機能停止

▷ AUTOレスト・ボタン**C**を押します。

知識：

バッテリ電圧が低い場合、レスト・モードは自動的に終了します。

▷ 「警告灯および警告メッセージ」（104ページ）を参照してください。

フロント・コントロール・パネルでのリア・エアコン・ゾーン調整

▷ ボタン**M**を押します。
ディスプレイにシンボルが表示され、フロント・コントロール・パネルの操作でリア・エアコン・ゾーンが調整できます。

機能停止

▷ 再度ボタン**M**を押します。

知識：

調整終了した10秒後、自動的に機能は停止します。

A - *“−” ボタン*
B - *タイマー・ボタン*
C - *ON／OFFボタン*
D - *“＋” ボタン*

パーキング・ヒータ＊

パーキング・ヒータにはパーキング・ヒータ機能およびパーキング・ベンチレーション機能の2つの機能があります。

パーキング・ヒータはイグニッション・キーの位置に関係なく使用することができます。

パーキング・ヒータは補助ヒータとしても使用できます。パーキング・ヒータは、外気温度が低い時、手動でOFFにした場合でも作動音がすることがあります。

⚠ 警 告

パーキング・ヒータは燃料を使用しますので中毒の恐れがあります。

▷ 給油時はパーキング・ヒータをOFFにしてください。

▷ 密閉された場所（ガレージなど）でパーキング・ヒータを作動させないでください。

＊日本仕様に設定はありません。

パーキング・ヒータはフロント・エアコン・コントロール・パネルにある以下のボタンを使用して操作します。

パーキング・ヒータのON／OFFを切り替えます。プログラムを作動します。

TIMER プログラムを開始します。メモリーを呼び出します。

＋ 作動時間を設定します。ヒータ機能を作動させます。

− 作動時間を設定します。ベンチレーション機能を作動させます。

知識：

パーキング・ヒータは燃料で作動しています。したがって、燃料警告灯が点灯すると作動できません。

▷ 「燃料警告灯」（68ページ）を参照してください。

パーキング・ヒータは1カ月に1回以上作動させる必要があります。作動時は、エンジン冷間状態でブロワを最低速に設定します。

イグニッションOFF：パーキング・ヒータ作動中はディスプレイ・パネルに残りの作動時間が表示されます。

外気温が低くエンジンが冷間状態の場合、パーキング・ヒータの作動音がはっきり聞こえます。

エアコン・コントロール・パネルによるパーキング・ヒータのON/OFF

スイッチON：

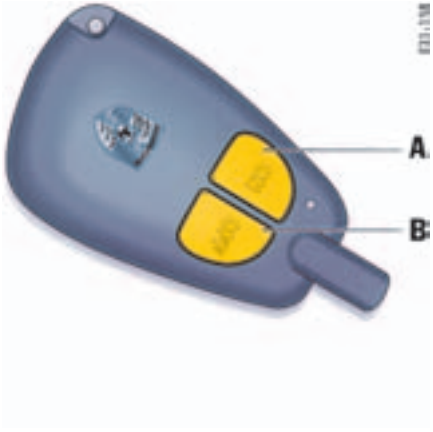
▷ ON/OFFボタン**C**を押します。
プログラムされたパーキング・ヒータおよびパーキング・ベンチレーション機能が作動します。

スイッチOFF：

▷ 再度ON/OFFボタン**C**を押します。

知識：

▷ ON/OFFボタン**C**でパーキング・ヒータを停止してから、2分以上待ってボタンを押してください。その間、燃焼室のクリーニングが行われています。



リモート・コントロールによるパーキング・ヒータのON/OFF＊

パーキング・ヒータのリモート・コントロールの作動範囲は500m以内です。この範囲は状況により狭まることがあります。

リモート・コントロールのランプの点灯は信号が送信されたことを示すのものであり、コマンド実行されたことを示すものではありません。

スイッチON：

▷ リモート・コントロールのボタン**A**を約2秒間押したまま保持します。リモート・コントロールのランプが緑色に点灯します。

スイッチOFF：

▷ リモート・コントロールのボタン**B**を約2秒間押したまま保持します。リモート・コントロールのランプが赤色に点灯します。

知識：

リモート・コントロールのランプが点滅している場合、パーキング・ヒータをONまたはOFFにすることは不可能です。リモート・コントロールの適応範囲およびパーキング・ヒータの作動準備状況を点検してください。

▷ パーキング・ヒータが故障したときは、正規ポルシェ販売店で修理してください。

＊日本仕様に設定はありません。

E - *パーキング・ベンチレーション・シンボル*
F - *メモリー・シンボル*
G - *作動時間シンボル*
H - *パーキング・ヒータ・シンボル*
I - *作動時間*

パーキング・ヒータ・プログラム

パーキング・ヒータおよびベンチレーションの作動時間は、3つのメモリーにプログラムすることができます。

パーキング・ヒータのプログラムを完了させると以下のものが呼び出せます。

— 機能

および

— 作動時間

プログラム機能

1. イグニッションをOFFにします。
2. フロント・エアコン・コントロール・パネルのタイマー・ボタンを押します。ディスプレイのパーキング・ヒータ**H**またはパーキング・ベンチレーション**E**のシンボルが点滅します。
3. 機能を選択します。“+”ボタンまたは“—”ボタンを押します。

10秒以内に他の入力がない場合、ディスプレイは初期状態に戻ります。選択した機能が保存され、次にパーキング・ヒータを作動させたときに適用されます。

ONタイマーのプログラミング

1. イグニッションをOFFにします。
2. タイマー・ボタンを押します。
3. パーキング・ヒータまたはパーキング・ベンチレーションの機能を選択します。
4. タイマー・ボタンを使用して、メモリーを選択します。
   タイマー・ボタンを何回か押すと、希望するメモリーが選択できます。
5. “十”ボタンおよび“ー”ボタンを使用して、ONタイマーを設定します。
   ボタンを押すと、時間が分刻みで調整できます。ボタンを押したまま保持すると、時間は早送りされます。
   ONタイマーの有効時間は24時間です。
6. ON/OFFボタンを押します。
   ディスプレイ**F**および**G**が約10秒間点滅します。
   ON/OFFボタンを再度押すと、タイマーが切れる前にOFFにすることができます。
   ON/OFFボタンを押してから、ONタイマー**I**、時計シンボル**F**、メモリー**G**が2分間表示され、その後、表示は消えます。
   以上でパーキング・ヒータはプログラミングされ、選択したメモリーが有効になります（シンボル**G**点灯）。

知識：

メモリーは1回に**1つ**しか実行できません。

メモリーの作動

パーキング・ヒータは30分間作動します。その後、自動的にOFFになります。
次回作動時には、プログラムを再作動させる必要があります。
手順：

1. イグニッションをOFFにします。
2. タイマー・ボタンを押します。
3. パーキング・ヒータまたはパーキング・ベンチレーションの機能を選択します。
4. タイマー・ボタンを使用して、メモリーを選択します。最後に保存したONタイマーが表示されます。
5. ON/OFFボタンを押します。
   プログラムは再作動します。
   ディスプレイ**F**および**G**が約10秒間点滅します。
   ON/OFFボタンを再度押すと、タイマーが切れる前にOFFにすることができます。
   ON/OFFボタンを押してから、ONタイマー**I**、時計シンボル**F**、メモリー**G**が2分間表示され、その後、表示は消えます。
   以上でパーキング・ヒータはプログラミングされ、選択したメモリが有効になります（シンボル**G**点灯）。

知識：

メモリは1回に**1つ**しか実行できません。

例:

パーキング・ヒータ機能が午前9:48に作動するようにします。
手順：

1. イグニッションをOFFにします。
2. フロント・エアコン・コントロール・パネルのタイマー・ボタンを押します。
   ディスプレイのパーキング・ヒータ機能またはパーキング・ベンチレーション機能のシンボルが点滅します。
3. “十”ボタンを押します。
   これにより、パーキング・ヒータ機能が選択されます。
4. タイマー・ボタンを使用して、メモリーを選択します。
5. “十”ボタンおよび“ー”ボタンを使用して、ONタイマーを午前9:48に設定します。
6. ON/OFFボタンを押します。
   以上でパーキング・ヒータはプログラミングされ、選択したメモリーが有効になります。

知識：

有効なメモリーのプログラミングが開始される前にパーキング・ヒータを手動でONにした場合、プログラミングは消去されます。メモリーを有効にする場合は、再作動させてください。
メモリーを再作動させない場合は、パーキング・ヒータはONになりません。

パーキング・ヒータの故障

以下の場合、正規ポルシェ販売店で点検をしてください。

— パーキング・ヒータが故障した場合、ディスプレイにシンボルが表示されなくなり、残りの作動時間のみが表示されます。またディスプレイがすばやく点滅した後、完全に暗くなります。

— 重大な事故が起きた場合、パーキング・ヒータは安全のため自動的にスイッチがOFFになります。

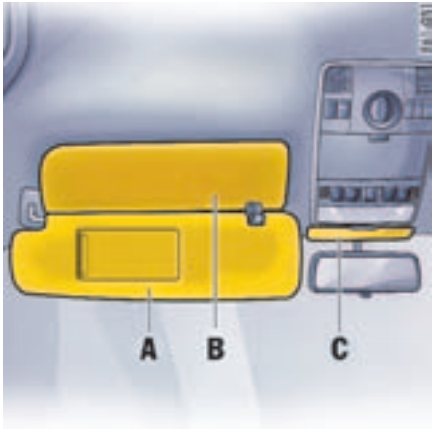
また停止後はパーキング・ヒータは作動しません。

— 温度が上昇した場合、オーバーヒート・プロテクションが作動し、パーキング・ヒータが自動的にスイッチがOFFになります。

また停止後はパーキング・ヒータは作動しません。

— パーキング・ヒータは電圧が下がった場合、自動的にスイッチがOFFになります。また停止後はパーキング・ヒータは一時的に作動しません。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。



サンバイザ

▷ 直射日光を防ぐためには、サンバイザ**A**を下げてください。
サンバイザ**C**はルーム・ミラー上のすきまをカバーします。

▷ 側面からの太陽光がまぶしいときには、サンバイザ**A**をブラケットから外し、ドア・ウィンドウ側に回します。この状態でサンバイザ**B**も下ろすことができます。

知識：

サンバイザ**A**を戻す前に、サンバイザ**B**を戻してください。

バニティー・ミラー

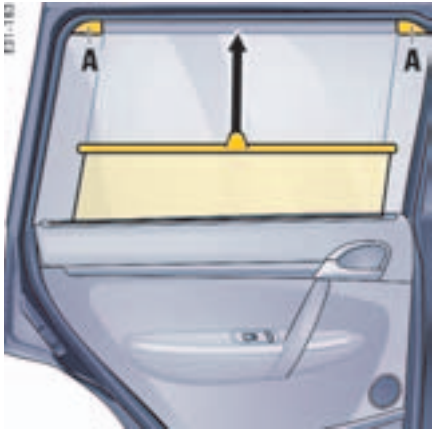
バニティー・ミラーはサンバイザの裏側にあり、カバーが付いています。

⚠ 注 意

怪我をする恐れがあります。

▷ 運転中はカバーを閉めたままにしてください。

▷ **矢印**の方向にカバーを開くと明かりが点灯します。



サン・ブラインド（リア・サイド・ウィンドウ用）

リア・ドア・トリム・パネルにあるサン・ブラインドを引上げて使用します。

⚠ 注 意

損傷する恐れがあります。

▷ サン・ブラインドは走行中にリア・ウィンドウが開いている状態で使用しないでください。

サン・ブラインドを引き出す：

▷ サン・ブラインドを**矢印方向**に引き出してホルダ**A**にはめます。

サン・ブラインドを戻す：

▷ サン・ブラインドをホルダ**A**から外し、ゆっくりとリトラクタ・ローラーに巻き取ります。

A, D - *読書灯用スイッチ*
B - *明るさ調整ボタン*
C - *ルーム・ランプ・スイッチ*

ルーム・ランプ

読書灯（フロント）

スイッチON：

▷ スイッチ**A**または**D**を押します。

スイッチOFF：

▷ スイッチ**A**または**D**を押します。

ルーム・ランプ（フロント）

スイッチON：

▷ スイッチ**C**を左方向に動かします。

自動スイッチON／OFF

▷ スイッチ**C**を右方向に動かします。
インテリア・ランプはドア・ロックが解除されたとき、ドアが開いたとき、イグニションからキーを抜いたときに**点灯**します。ドアが閉められた後、約30秒間後に**消灯**します。イグニッション・ロックされる、または車両がロックされるとすぐに消灯します。

スイッチOFF：

▷ スイッチ**C**を中央位置に動かします。

読書灯（リア）

読書灯（リア）

スイッチON：

▷ トグル・スイッチの前側を押します。

自動スイッチON／OFF

▷ トグル・スイッチを中央位置にします。ドアをロック解除したとき、開いたとき、イグニッション・キーを抜いたときにルーム・ランプと読書灯が**点灯**します。
ドアを閉じた後、約30秒でルーム・ランプは**消灯**します。イグニッションをONにするか、キーを使ってロックした場合は、すぐに消灯します。

0　スイッチOFF：

▷ トグル・スイッチの後側を押します。

A - *明るさ調整ボタン*

コンフォート・ランプ

フットウェル・ランプおよびパネル・ランプにより、暗いときにも車内を照らします。これらのランプは車両を解錠すると点灯し、車両を施錠すると自動的に消灯します。

コンフォート・ランプの減光（明るさの調整）

ドアを全て閉じると、フットウェル・ランプおよびパネル・ランプは規定レベルまで減光します。

コンフォート・ランプはフロント・ルーフ・コンソールのボタン**A**を使用して減光します。

▷ ボタン**A**を押し続けて、好みのレベルまで減光します。

カミング・ホーム機能（消灯遅延）

以下のランプは一定時間点灯状態を維持し、夕方や暗闇の中でできるかぎり周囲を明るくし乗員が安全に車両から降りられるようにします。

— ロービーム
— ドア・ミラー・ランプ
— 車幅灯
— ライセンス・ランプ

知識：

▷ ランプ・スイッチは**auto**位置にします。
▷ 「ランプ・スイッチ」（112ページ）を参照してください。

ランプは車両を施錠するか、またはマルチ・ファンクション・ディスプレイで設定されたカミング・ホーム・ランプ点灯時間が終了すると消灯します。

▷ 「ランプ」（102ページ）も参照してください。

ドア・ガード／足元照明

ドア・ガード／足元照明により乗員は安全に車両に乗り込むことができます。地面の障害物（水溜りなど）も簡単に見つけることができます。

車両がリモート・コントロールまたはポルシェ・エントリー＆ドライブで解錠されたときに以下のランプにより車両が照らし出されます。

— ドア・ミラー・ランプ

— 車幅灯

— ライセンス・ランプ

作動

▷ ランプ・スイッチをドライビング・ランプ・アシスト（AUTO）の位置にします。

▷ 「ランプ・スイッチ」（112ページ）を参照してください。

ドア・ガード／足元照明はマルチ・ファンクション・ディスプレイで設定されたカミング・ホーム・ランプ（夕方用のランプ）点灯時間が終了したとき、またはイグニッションをONにしたときに消灯します。

▷ 「ランプ」（102ページ）も参照してください。

エマージェンシ・コール・ボタン＊

エマージェンシ・コールにはいくつかの方法があります。

▷ SOSボタン**A**を押します。

または

▷ 電話メニューからエマージェンシ・コールを選択します（SIMカードが挿入されていない場合、またはPINまたはPUKが入力されている場合）。

または

▷ 地域の緊急番号を使用します。

知識：

PINが入力されていない場合でも、エマージェンシ・コールを行うことができます。多くの国では、有効なSIMカードがなくてもエマージェンシ・コールが可能です。エマージェンシ・コール機能は仕向国および該当ディーラによって異なります。

＊日本仕様に設定はありません。

スライディング／チルティング・ルーフ

スライディング／チルティング・ルーフは1枚の安全ガラスでできています。ルーフに装着されたスライディング・パネルはマニュアルで調整でき、日光を遮ります。

スライディング／チルティング・ルーフはルーフ・コンソールのスイッチで操作します。

⚠ 警 告

スライディング／チルティング・ルーフを操作するときや自動で閉めるときに怪我をする恐れがあります。

▷ スライディング／チルティング・ルーフを操作するときには、負傷者がでないよう十分注意してください。

▷ 車両を離れるときは、必ずイグニッション・キーを抜き取るか、またはポルシェ・エントリー＆ドライブ装着車のイグニッション・スイッチをOFFにしてください。また車両から離れる時には常にイグニッション・キーを携帯してください。お子様などがスライディング／チルティング・ルーフを操作し、手や首などを挟んで怪我をする恐れがあります。

▷ スライディング／チルティング・ルーフに挟まれそうになった場合は、直ちに反対方向にスイッチを操作するか、またはイグニッション・キーを抜き取り、スライディング／チルティング・ルーフの作動を停止させてください。

悪路を走行するときは、常にスライディング／チルティング・ルーフとドア・ウィンドウを閉じてください。

スライディング／チルティング・ルーフは下記の条件のときに作動します。

— イグニッションがONになっている。

— 室内でドアが閉じているときに、イグニッション・キーを取外し、最初にドアを開くまでの間（最大10分間）。10分後、スライディング／チルティング・ルーフの準備機能は停止します。

スライディング／チルティング・ルーフへの電源供給の遮断

車両のロックを解除した後、10分間が経過するとバッテリの放電を防ぐため、スライディング／チルティング・ルーフは作動しなくなります。スライディング／チルティング・ルーフは、イグニッションをONにするか、エンジンを始動すると再び作動可能になります。

A - *全閉*
B - *コンフォート位置*
C - *全開*
D - *チルト位置*

知識：
自動プリセットを使用すると、よく使用するスライディング／チルティング位置が直接スイッチで設定できるようになります。

A - スライディング／チルティング・ルーフを全閉にする

▷ スイッチを位置**A**に回します。

知識：

スライディング／チルティング・ルーフには挟み込み防止機能が備えられています。閉鎖時に、障害物などでスライディング／チルティング・ルーフの動作が妨げられた場合、ルーフはすぐに開き始めます。

挟み込み防止機能作動後、スライディング／チルティング・ルーフを閉じる場合

▷ 障害物を取り除きます。

▷ 再度スイッチを位置**A**に回します。

B - スライディング／チルティング・ルーフをコンフォート位置まで開ける

▷ スイッチを位置**B**に回します。

スイッチは位置**A**～**B**間任意の位置にすることができます。スイッチの位置に応じてスライディング／チルティング・ルーフの開き量が変化します。
スイッチ位置**B**ではスライディング／チルティング・ルーフは騒音を考慮した最適位置まで開きます。位置**C**まで回すと全開にすることができます。

C - スライディング／チルティング・ルーフを全開にする

▷ スイッチを停止位置**B**を超えて位置**C**まで回し、スライディング／チルティング・ルーフが全開になるまで保持します。
スイッチを放すと位置**B**まで戻ります。
スイッチ位置**C**まで回すのにある程度の力が必要です。

D - スライディング／チルティング・ルーフをチルト位置まで開ける

▷ スイッチを位置**A**～**D**間の好みの位置に合わせます。位置**D**でルーフは全開になります。

ポルシェ・エントリー&ドライブ非装着車のコンフォート機能

スライディング／チルティング・ルーフを閉じる

▷ 車両キーをドア・ロックに差し込み、ドア・ウィンドウとスライディング／チルティング・ルーフが好みの位置になるまで、ロック位置に回して保持します。

ポルシェ・エントリー&ドライブ装着車のコンフォート機能

スライディング／チルティング・ルーフを閉じる

▷ 車両キーをドア・ロックに差し込み、ドア・ウィンドウとスライディング／チルティング・ルーフが好みの位置になるまで、ロック位置に回して保持します。

または

▷ 車両をロックするときに、ウィンドウおよびスライディング／チルティング・ルーフが好みの位置になるまで、ドア・ハンドルのボタンを押したまま保持します。

スライディング／チルティング・ルーフの非常時の取扱い

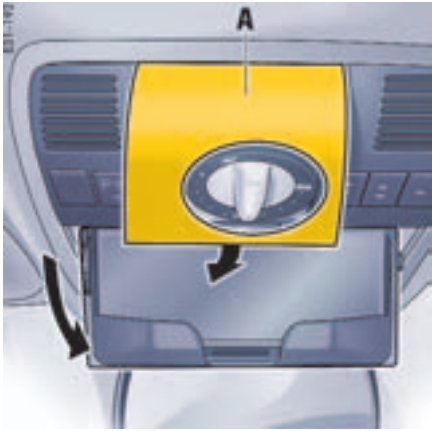
スライディング／チルティング・ルーフに不具合が発生した場合、手動で開閉できます。

▷ 手動で開閉をする前にヒューズの断線を点検してください。

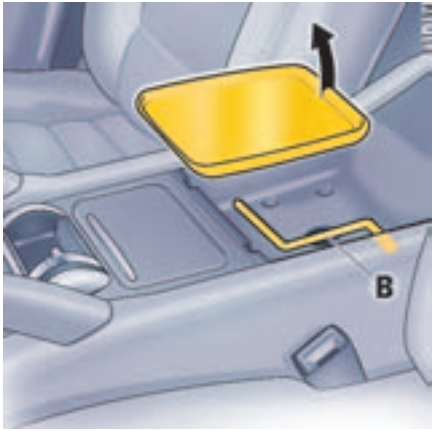
⚠ 警 告

ルーフを閉じるときに指などを挟まれて怪我をする恐れがあります。

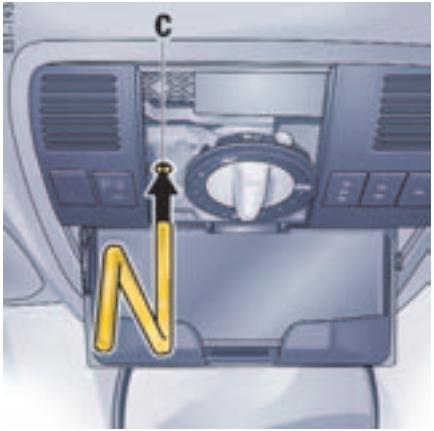
▷ ルーフを操作するときには、負傷者が出ないように十分注意してください。



1. ルーフ・コンソールの眼鏡ケースを**矢印の方向**に開きます。
2. カバー**A**を取り外します。



3. センター・コンソールの小物入れ（ゴムマットの下）からハンドル**B**を取り外します。



4. ハンドルのかみ合いを確認できるまで、ハンドルを**C**の穴に差込みます。この作業には、ある程度の力が必要です。
5. この位置でハンドルを持ち、回します。
   閉じるとき―右に回します。
   開くとき―左に回します。
6. ハンドルを抜いて、小物入れに戻します。
7. カバーを取付けます。

▷ 上記の操作中および操作後、スライディング／チルティング・ルーフは作動しなくなりますので正規ポルシェ販売店にて修理を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

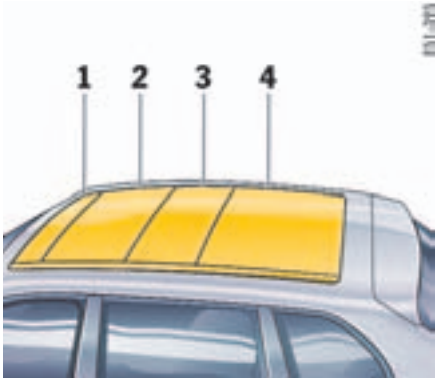
パノラマ・ルーフ・システム

パノラマ・ルーフ・システムは計4つのルーフ・エレメントにより構成されています。

ルーフ・エレメント1は、車内への風侵入防止用のデフレクターです。車両の速度に合わせて角度が調整され、高速域でパノラマ・ルーフ・システムを開けた場合の走行時の乱流による影響に対して効果を発揮します。

ルーフ・エレメント2および**3**は、車両の縦方向にスイッチを動かすことにより作動します。ルーフ・エレメント**3**はチルトすることも可能です。これにより車内の換気を効率よく行うことができます。

ルーフ・エレメント4は固定されたガラスで、パノラマ・ルーフ・システムの最後部です。



1 - *デフレクター*
2 - *スライディング・ルーフ・エレメント*
3 - *スライディング／チルティング・ルーフ・エレメント*
4 - *固定ガラス・エレメント*

⚠ 注 意

パノラマ・ルーフ上部の結合が不完全だと、パノラマ・ルーフ・システムを作動させた場合に損傷する恐れがあります。

▷ 運転前に、パノラマ・ルーフ上部が完全に結合されているかチェックしてください。

▷ パノラマ・ルーフ・システムおよびルーフ上部との間に十分な隙間があることを確認してください。

パノラマ・ルーフ・システム作動条件

– イグニッション・スイッチがON
– イグニッション・キーを抜いてから、最初にドアを開けた時まで。ただし、最大10分間のみ。

パノラマ・ルーフ・システムのスイッチOFF後10分の作動条件

車両がロックされていない場合、車両のバッテリを節約するため、10分後にパノラマ・ルーフ・システムが作動しなくなります。イグニッション・スイッチをONにすると、再度作動状態になります。

A - *パノラマ・ルーフ・システム全閉*
B - *スライディング・ルーフ・エレメント全開*
C - *パノラマ・ルーフ・システム全開*
D - *スライディング／チルディング・ルーフ・エレメント　チルト位置*
E - *スライディング／チルディング・ルーフ・エレメント全開*

知識：

自動プリセット・システムを使用すると、使用頻度の高いスライディング／チルティング位置が、直接スイッチで設定できるようになります。

▷ 悪路を走行するときは、常にパノラマ・ルーフ・システムとドア・ウィンドウを閉じてください。

⚠ 警 告

パノラマ・ルーフ・システムを操作するときや自動で閉めるときに怪我をする恐れがあります。

▷ パノラマ・ルーフ・システムを操作するときには、負傷者が出ないよう十分注意してください。

▷ 車両を離れるときは、必ずイグニッション・キーを抜き取るか、またはポルシェ・エントリー＆ドライブ装着車のイグニッション・スイッチをOFFにしてください。また、車両から離れる時は、常にイグニッション・キーを携帯してください。お子様などがパノラマ・ルーフ・システムを操作し、手や首などを挟んで怪我をする恐れがあります。

▷ パノラマ・ルーフ・システムに挟まれそうになった場合は、直ちにスイッチから手を離すか、またはイグニッション・キーを抜き取り、パノラマ・ルーフ・システムの作動を停止させてください。

A - パノラマ・ルーフ・システムを全閉にする

▷ スイッチを位置**A**に回します。

B - スライディング・ルーフ・エレメントを全開にする

▷ スイッチを位置**B**に回します。
ルーフ・エレメント2が全開になります。選択された幅だけ自動的にローラー・ブラインドが開きます。

C - パノラマ・ルーフ・システムを全開にする

▷ スイッチを位置**B**を超えて位置**C**まで回します。
ルーフ・エレメント2および3が全開になります。選択された幅だけ自動的にローラー・ブラインドが開きます。

D - スライディング／チルティング・ルーフ・エレメントをチルトする

▷ スイッチを位置**D**に回します。
ルーフ・エレメント3が完全にチルトします。ローラー・ブラインドの位置はここでは変わりません。

E - スライディング／チルティング・ルーフ・エレメントを全開にする

▷ スイッチを位置**E**に回します。

▷ **ルーフ・エレメント3**が全開になります。選択された幅だけ自動的にローラー・ブラインドが開きます。

ポルシェ・エントリー&ドライブ非装着車のコンフォート機能

パノラマ・ルーフ・システムを開閉する

▷ 車両キーをドア・ロックに差し込み、ドア・ウィンドウとパノラマ・ルーフ・システムが好みの位置になるまで、ロックまたはロック解除位置に回して保持します。

ポルシェ・エントリー&ドライブ装着車のコンフォート機能

パノラマ・ルーフ・システムを開閉する

▷ 車両キーをドア・ロックに差し込み、ドア・ウィンドウとパノラマ・ルーフ・システムが好みの位置になるまで、ロックまたはロック解除位置に回して保持します。

パノラマ・ルーフ・システムを閉じる

▷ 車両をロックするときに、ウィンドウおよびパノラマ・ルーフ・システムが好みの位置になるまで、ドア・ハンドルのボタンを押したまま保持します。

パノラマ・ルーフ・システムの挟み込み防止機能

すべてのルーフ・エレメントには挟み込み防止機能が搭載されています。スライディング・ルーフやスライディング／チルディング・ルーフ・エレメントが開閉時に遮られた場合、遮られたルーフ・エレメントはその後すぐに再度開閉動作を行います。

挟み込み防止機能作動後にルーフ・エレメントを閉じる

1. 障害物を除きます。
2. スイッチを再び位置**A**に回します。

電動緊急閉鎖機能

⚠ 警 告

パノラマ・ルーフ・システムの電動緊急閉鎖機能を操作する時、挟み込み防止機能が作動しないため、ルーフ・エレメントは全力で閉じようとするので、怪我をする恐れがあります。

▷ パノラマ・ルーフ・システムを操作するときには、負傷者が出ないように十分注意してください。

汚れ、氷、その他の物質が邪魔をしてルーフが完全に閉まらない場合：

1. スイッチを位置**A**に回します。
2. スイッチを位置**A**のまま、すべてのルーフ・エレメントが全閉するまで保持します。

パノラマ・ルーフ・システムの最終位置の保存

車両バッテリの接続または切り離し、または取り外した場合、またはジャンパー・ケーブルによるエンジン始動後は、保存されていたパノラマ・ルーフ・システムの最終位置は消去されます。

⚠ 警 告

パノラマ・ルーフ・システムを閉じる時、挟み込み防止機能が作動しないため、ルーフ・エレメントは全力で閉じようとするので、怪我をする恐れがあります。

▷ パノラマ・ルーフ・システムを操作するときには、負傷者が出ないように十分注意してください。

---

1. イグニッション・スイッチをOFFにします。
2. スイッチを位置**A**に回します。
3. イグニッション・スイッチをONにします。
4. スイッチを位置**A**に保持します。パノラマ・ルーフ・システムが閉じるプロセスは約5秒後に始まります。スイッチの位置を、ローラー・ブラインドおよびすべてのルーフ・エレメントが全閉するまでそのまま保持します。この手順は約20秒かかります。

知識：

手順が中断された場合、最終位置の保存は最初からやり直す必要があります。

ローラー・ブラインド

ローラー・ブラインドはパノラマ・ルーフ・システムと一体化されており、ルーフ・コンソールのロッカー・スイッチを操作にすることにより開閉が可能です。

ローラー・ブラインドの開閉

ロッカー・スイッチには2つの段階からなる機能があります：

— ロッカー・スイッチが段階1まで押された場合、ローラー・ブラインドはロッカー・スイッチが押されている間、開閉することが可能です。

— ロッカー・スイッチが、最後まで押された場合、ローラー・ブラインドは最終位置まで開閉することが可能です。

ローラー・ブラインドを開く

▷ ロッカー・スイッチ**F**を押します。

ローラー・ブラインドを閉じる

▷ ロッカー・スイッチ**G**を押します。

知識：

ルーフ・エレメントが作動中に、ロッカー・スイッチを完全に押した場合、ローラー・ブラインドはルーフ・エレメントが選択された位置に達した後、最終位置まで開閉をします。

ローラー・ブラインド清掃位置

1. パノラマ・ルーフ・システムおよびローラー・ブラインドを全閉にします。
2. スイッチを位置**C**に回します。パノラマ・ルーフ・システムが全開になります。
3. パノラマ・ルーフ・システムが最終位置に達した後、ロッカー・スイッチ**G**をローラー・ブラインドが全閉するまで保持します。
4. 汚れや、ごみを取り除きます。(木の葉など)
5. ロッカー・スイッチ**F**をローラー・ブラインドが全開するまで押し続けます。
6. スライディング・ルーフ・エレメントを閉じます。

⚠ 注 意

運転中にローラー・ブラインドおよびパノラマ・ルーフ・システムがローラー・ブラインド・クリーニング位置に設定されている場合、損傷する恐れがあります。

▷ 運転前に、パノラマ・ルーフ・システムを一度、全閉にしてください。

パノラマ・ルーフ・システムの非常時の取扱い

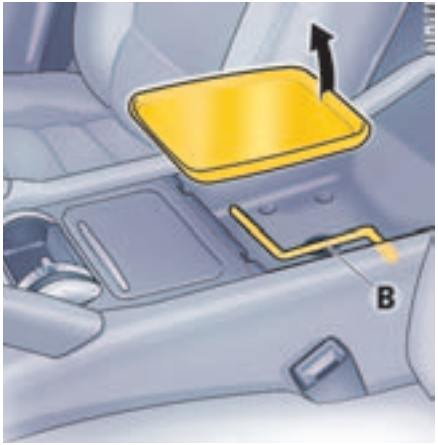
電動緊急閉鎖機能が機能しない場合や、最終位置が保存できない場合は、特別な状況を除き、手動での開閉を行ってください。

▷ 手動での開閉を行う前に、ヒューズが断線していないか点検してください。もし、ヒューズが断線していた場合、ヒューズを取り替えた後、パノラマ・ルーフ・システムの最終位置を再保存する必要があります。

⚠ 警 告

ルーフ・エレメントを閉じる際、怪我をする恐れがあります。

▷ ルーフ・エレメントを操作する場合、負傷者が出ないよう十分注意してください。



1. センタ・コンソールの小物入れ（ゴムマットの下）からハンドル**B**を取り外します。

2. カバーを取外してください。
3. ハンドルのかみ合いを確認できるまで、ハンドルを**H**または**I**の穴に差込みます。この作業には、ある程度の力が必要です。
   Hースライディング・ルーフ・エレメントおよびデフレクターの手動開閉用
   Iースライディング／チルティング・ルーフ・エレメントの手動開閉用

4. ハンドルをこの位置に保持し、回します。
   ルーフ・エレメントを閉じる一時計回りに回します
   ルーフ・エレメントを開く一反時計回りに回します

知識：
スライディング／チルティング・ルーフ・エレメントを手動開閉する場合、ルーフ・エレメントが全閉になることを確認してください（スライディングおよびチルティング・ルーフ位置の中間位置）

5. ハンドルを取外し、小物入れに戻します。
6. カバーを元に戻します。

システムの故障を修正するため、パノラマ・ルーフ・システムの最終位置は手動にて開閉後は、必ず保存してください。

▷ 正規ポルシェ販売店にて修理を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

パーキング・アシスタント

お車には超音波により障害物との距離を警告音でお知らせするパーキング・アシスタントが装備されています。

イグニッション・スイッチをONにすると自動的にパーキング・アシスタントが作動し、車速が時速約14キロになるまで有効です。

高速走行時にはパーキング・アシスタントは自動的に停止します。車速が時速約14キロ以下に落ちると、自動的に再作動します。

セレクタ・レバー、ギヤシフト・レバーの位置によりパーキング・アシスタントの作動レベルおよびモニタする範囲が変わります。

— イグニッションがONの時、リバース・ギアに入れるとパーキング・アシスタントは自動的に作動します。

セレクタ・レバー位置：

— **P**：パーキング・アシスタントは**作動しません**。

— **R**、**N**：フロント**および**リアでパーキング・アシスタントが作動します。

— **D**、**M**：フロントでパーキング・アシスタントが作動します。

⚠ 警 告

パーキング・アシスタントはあくまでも補助的な物のため、運転には細心の注意を払ってください。思わぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ 車庫入れなどを行う場合は、人、動物、障害物がないか、必ず確認してください。

パーキング・アシスタントの作動／停止

▷ ルーフ・コンソールのボタン**A**でパーキング・アシスタントを作動させます。パーキング・アシスタントが停止すると、ボタンのランプが点灯します。

注意：

オフロードや悪路ではパーキング・アシスタントを停止してください。

フロント・センサ

リア・センサ

センサ

フロントおよびリア・バンパーには6個の超音波センサが備えられており、一番近い障害物に反応します。

センサの反応距離

— 外側のセンサ（フロントおよびリア）
約60cm以内

— フロント中央のセンサ（**矢印**）
約120cm以内

— リア中央のセンサ（**矢印**）（スペア・タイヤ・ブラケット**なし**）
約150cm以内

— リア中央のセンサ（スペア・タイヤ・ブラケット**装着車**）
約120cm以内

センサは地表近くの障害物などは死角となるため反応することができません。

知識：

▷ センサに汚れがあると感度が鈍くなるため雪、氷または泥などの汚れは取除いてください。

▷ センサへの擦り傷等は、故障の原因となる恐れがあります。

▷ センサ故障の原因となる恐れがあるため、スチーム・洗浄機などを使用するときは一定の距離をあけて使用してください。

注意：

ポルシェ社が推奨タイヤ以外のタイヤがスペア・タイヤ・ブラケットに装着されている場合、超音波センサが正しく機能しない恐れがあります。

スペア・タイヤ・ブラケットを開いていると、リア・センサの機能を損なう恐れがあります。

車高調整機能付きエア・サスペンション装着車では、オフロード・レベルおよび、スペシャル・オフロード・レベルに設定されている場合、地面近くの障害物を認識しない恐れがあります。

A - *フロント・ディスプレイ ー 左モニタ・エリア*
B - *フロント・ディスプレイ ー 右モニタ・エリア*

C - *リア・ディスプレイ ー 右モニタ・エリア*
D - *リア・ディスプレイ ー 左モニタ・エリア*

警告灯、警告音、距離

フロントの警告灯はダッシュボード上にあります。

リアの警告灯はリア・ルーフ・ライナーにあります。

警告灯はそれぞれ（左、右）、緑1個、黄色4個、赤2個のセグメントに分けられています。

パーキング・アシスタントが作動すると、作動しているセンサに対応する警告灯の**緑のセグメント**が点灯します。

障害物に近づくとセンサが検知し、障害物との距離に応じて、黄色または赤のセグメントが点灯します。

1個目の黄色いセグメントが点灯した場合、障害物との距離は120cm（フロント）または120～150cm（リア）です。
バックしている場合は短い警告音が鳴ります。

障害物が約60cm以内に近づくと、**警告音が断続的**に鳴り、**4個目の黄色いセグメント**が点灯します。

障害物が約25cm以内（トレーラー・カップリング装着車の場合は約35cm以内）に近づくと、**警告音が連続**して鳴り、**2個目の赤いセグメント**が点灯します。

▷ 警告音が聞き取れるようにラジオの音量を設定してください。

警告音の音量は正規ポルシェ販売店で調整することができます。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

知識：

警告が連続音になり2個目の赤いセグメントが点灯してから、さらに障害物に近づくと、システムはその障害物が認識できなくなる恐れがあります。

超音波センサの限界

下記の条件のときにはパーキング・アシスタントが正常に働かない場合があります。

— 粉雪など超音波をしゃ断する物があるとき。

— ウィンドウや塗装面など超音波を反射する物があるとき。

— 細い物があるとき。

近くでトラックなどが排気ブレーキを使用すると超音波が乱され警告音が鳴ることがあります。

警告音なしの故障表示

パーキング・アシスタントに**一時的な故障**が発生した場合、作動しているセンサに対応する警告灯の赤いセグメントすべてが点灯します。

知識：

一時的な故障（センサの凍結やひどい汚れによる）が発生した場合、パーキング・アシスタントが正常に作動しないことがあります。

システムは、一時的な故障と指定します。時速14キロ越えると、すべてのセグメントが点灯します。障害が取り除かれると、パーキング・アシスタントは再度作動準備状態になります。

警告音付きの故障表示

パーキング・アシスタントに**一時的ではない故障**が発生した場合、作動しているセンサに対応する警告灯の赤いセグメントすべてが点灯します。**さらに**、ギヤ・チェンジを行ってから3秒間警告音が連続して鳴ります。

故障の場合

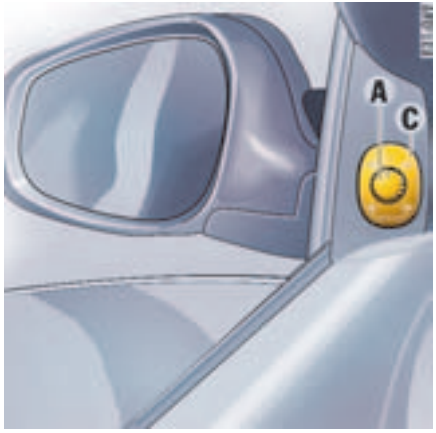
— 不具合またはシステムの故障の場合

▷ パーキング・アシスタントを停止します。
パーキング・アシスタントを停止すると、ボタンのランプが点灯します。

▷ 正規ポルシェ販売店で点検を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

けん引時の運転

パーキング・アシスタントのリア・モータはトレーラーの電源が接続されるとOFFになります。



A - *ドア・ミラー調節スイッチ*
C - *助手席ドア・ミラー調節スイッチ*

駐車時の助手席ミラーの下向き自動調整

後退時にリバース・ギヤを選択すると、**助手席側**ドア・ミラーが自動的に下向きになり、助手席側の後方下部の縁石などが確認しやすくなります。

▷ 「ミラー」（101ページ）を参照してください。

助手席側ドア・ミラーの自動調整は、下記の条件のときに作動します。

— 車両にはシート・メモリーが装備されている。

— ドア・ミラー調節スイッチ**A**が助手席側**C**にセットされている。

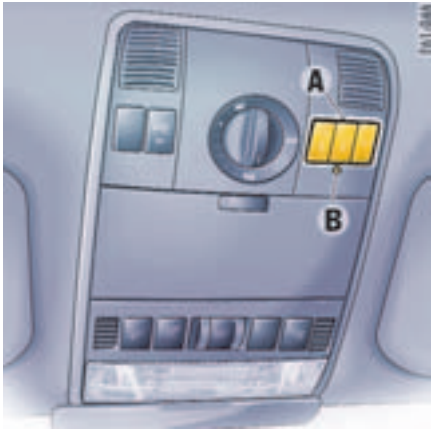
— リバース・ギヤを選択している。

ドア・ミラーを通常の位置に戻すときは：

— ギヤをリバース以外にシフトします。

または

— ドア・ミラー調節スイッチの位置を変更します。



A - *プログラム・ボタン*
B - *ステータス・インジケータ・ランプ*

ガレージ・ドア・オープナー＊

シャッターやゲートの開閉用リモート・コントロール、または警報システムなどのリモート・コントロール信号をプログラム・ボタン**A**の各ボタンに登録すると、これらのボタンでシャッターなどを操作することができます。

⚠ 警 告

ガレージ・ドア・オープナーを操作するとき、操作する対象物の周囲に人や動物がいたり、物が置いてあると事故につながる恐れがあります。

▷ ガレージ・ドア・オープナーを操作する場合は、周囲を十分に確認してから操作してください。

▷ 各装置のリモート・コントロールに付属する注意事項を遵守してください。

ガレージ・ドア・オープナーの操作方法

▷ プログラム・ボタン**A**の該当ボタンを押し、対象物に信号を送信します。信号送信中はランプ**B**が点灯します。

＊日本仕様には設定はありません。

知識：

▷ ガレージ・ドア・オープナーを操作するときは、車両をまっすぐ対象物に向けてください。これを怠ると、反応範囲外になる場合があります。

▷ お車を売却される場合は、プログラム・ボタン**A**に登録してある信号を消去してください。

▷ リモート・コントロールに付属する取扱説明書をよく読み、リモート・コントロールに使用されているコードが固定または変更可能か確認してください。

リモート・コントロール信号のキーへの登録

▷ リモート・コントロールに付属する取扱説明書に従ってください。

固定コード・システムのリモート・コントロールの場合：

1. プログラム・ボタン**A**の外側ボタン2つを同時に約20秒間押すと、ランプ**B**が点滅し始め、信号が消去されます。
2. リモート・コントロールを受信部（図参照）に向けます。
3. リモート・コントロールのボタンおよびプログラム・ボタン**A**の登録するボタンを同時に押します。
4. 両方のボタンを押したまま保持するとランプ**B**が点滅し始め、しばらくすると点滅が速くなります。
   ランプ**B**が速く点滅し始めたら、両方のボタンを放してください。
   ランプ**B**が速く点滅しない場合は、信号が正常にプログラムされていません。
5. ステップ1～3を繰り返して、各リモート・コントロールの信号を他のボタンに登録します。

変更可能なコード・システムのリモコンの場合：

1. 固定コード・システムと同様にプログラム・ボタン**A**に各リモコンの信号を登録します（ステップ1～4）。
2. システムの同期化
   自動シャッターなどの受信機側のプログラム・ボタンを押します。約30秒待ってからステップ3に進みます。
3. プログラム・ボタン**A**の登録するボタンを2回押します。装置によっては2回押した後、確定のため3回目を押さなければならない場合もあります。
4. ステップ1～4を繰り返して、各リモコンの信号を他のボタンに登録します。

知識：

▷ 本章の指示およびリモート・コントロールの取扱説明書に従って作業を実施したにもかかわらず、リモート・コントロールの信号をプログラム・ボタンに登録できない場合は、正規ポルシェ販売店にお問い合わせください。

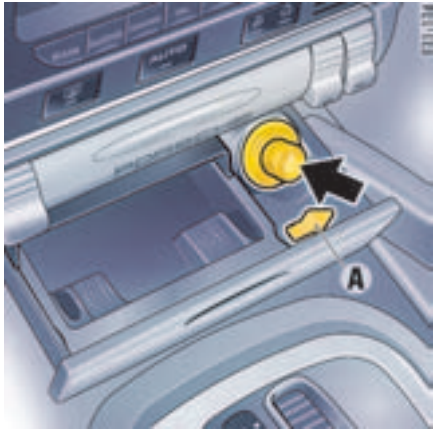
プログラム・ボタンAの個別ボタンの再プログラミング

1. プログラム・ボタン**A**を押して再プログラミングします。ステップ4を実行するまでボタンを放さないでください。
2. ランプ**B**がゆっくり点滅するので（約20秒後）、元のトランスミッタをマーキングした位置に向けます。
3. リモート・コントロールのボタンを押し、そのまま保持します。
4. ランプ**B**が始めにゆっくり点滅し、次にすばやく点滅します。
   ランプ**B**がすばやく点滅するようになったら、両方のボタンを放します。

信号の消去

（車を売却する場合）

▷ プログラム・ボタン**A**の外側のボタンを同時に約20秒間押すと、ランプ**B**が点滅し始め、信号が消去されます。



灰皿（フロント）

開き方

▷ 灰皿の蓋を軽く押すと開きます。

掃除

▷ ロック解除ボタン**A**を右に動かすと、灰皿が持ち上がります。

▷ 灰皿を掃除し、元の位置に差し込みます。カチッとはまるまで下に押します。

灰皿（リア）

車両の装備によってリア・ドア・パネルに灰皿を取り付けることができます。

開き方

▷ 灰皿の蓋を軽く押すと開きます。

掃除

▷ 灰皿の蓋を開き、ドア・パネル側に慎重に押します。トレイがわずかに持ち上がります。

▷ トレイを外し、掃除します。

シガー・ライタ

⚠ 警 告

火災や火傷をする恐れがあります。

▷ 保護者なしでお子様だけを絶対に車内に残さないでください。

▷ 加熱したシガー・ライターを持つ場合は、ノブを持ってください。

シガー・ライタはイグニッション・スイッチの位置に関係なく使用できます。

シガー・ライタ（フロント）

▷ 灰皿の蓋を軽く押し、灰皿を開きます。

▷ ライターを押込み（**矢印**）、フィラメントが十分な温度になると、元の位置に飛び出します。

シガー・ライタ（リア）

▷ センター・コンソールのカバーを軽く押し、灰皿を開きます。

▷ ライターを押込み（**矢印**）、フィラメントが十分な温度になると、元の位置に飛び出します。

自動車電話＊、無線機＊

▷ 自動車電話を使用する前に、必ず自動車電話の取扱説明書をお読みください。

▷ 走行中の通話は、該当する国の法律に従ってください。

⚠ セーフティ・ノート

安全のため、下記の内容に注意してください。

▷ 安全のため、車両を停止した状態で行ってください。

▷ アンテナと受話器が一体になった電話機またはラジオを車内で使用すると健康を害することがあります。外部アンテナに接続して使用してください。

移動通信システム（自動車電話や携帯電話など）は、ポルシェ社の取付仕様に従い専門の業者でのみ取付けられます。

通信装置は通信出力が10W以下のものを使用してください。

通信装置はその車両のタイプ・アプルーバル（部品認証）を得たもの（**eマーク付き**）を使用してください。

最大出力が10Wを超える装置の取付けは正規ポルシェ販売店にご相談ください。

これらの装置の取付けには技術知識が必要です。

外部アンテナを使用していない自動車電話や携帯電話の使用、および装置またはアンテナが正しく取り付けられていないと、無線通信により電装品が正しく作動しなくなる場合があります。

▷ 電話機または携帯電話を使用する場合は、必ず外部アンテナに接続してください。

ハンド・フリー・マイク

ハンド・フリー・マイクは、ご使用している電話の機種に合ったものを取付けてください。

詳しくは正規ポルシェ販売店にお尋ねください。

受信状態

自動車電話、携帯電話の受信状態は、走行中に絶えず変化します。建物、地形、天候による受信障害は避けられません。ハンド・フリー装置をご使用の場合、エンジンや風切音など外部の音で会話が聞き取りにくくなる場合があります。

＊日本仕様に設定はありません。

ポルシェ・コミュニケーション・マネージメント（PCM）＊

▷ PCMを使用する前に、別冊の操作説明書を参照してください。

PCMを初めて使用する場合は、ナビゲーション・システムを正しく調整するため約50km走行させてください。タイヤを冬用/夏用などに交換した場合にも、同様に走行させてください。この走行中にはまだナビゲーション・システムは正確に作動していません。

車両をフェリー、列車などで輸送した場合、スイッチを入れてから車両の現在地を確認するまで数分かかります。

雪道などで車がスピンした場合などは、ナビゲーション・システムが一時的に正確に作動しなくなる場合があります。

バッテリの接続を外した場合は、ナビゲーション・システムが再び作動するまで約15分かかります。

＊日本仕様に設定はありません。

ラジオ

▷ ラジオを使用する前に、別冊のラジオ操作説明書を参照してください。

カー・ラジオの受信状態は走行中、常に変化します。建物、地形および天候による受信障害は避けられません。特にFMステレオは周囲の状況変化に敏感です。モノラルに切替えるか、他のFM局を選択すると、受信障害を抑えることができます。

電装品の取付けは必ず、正規ポルシェ販売店にて行ってください。また、電装品はポルシェ社が推奨したものを使用してください。推奨されていない電装品を使用すると、ラジオの受信状態に悪影響をおよぼす恐れがあります。

消火器＊

車両に消火器が装備されている場合、消火器は右側または左側のフロント・シート下部に取り付けてあります。

左側フロント・シート下部の消火器

▷ 非常時の場合に消火器をシートから取り出す場合、消火器を一方の手で持ち、そしてもう一方の手で消火器ホルダーにあるPRESSボタンを押してください。（**矢印**）

右側フロント・シート下部の消火器

▷ シート下部の引き出し部分より消火器を取り出してください。

知識：

▷ 消火器の使用期限に注意してください。使用期限を過ぎた消火器を使用すると、正しく機能しない恐れがあります。

▷ 取り扱いについては、消火器の取扱説明書に従ってください。

▷ 消火器は1～2年ごとに正規ポルシェ販売店で点検し、正常に機能することを確認してください。

▷ 使用後は消火器に消火剤を補充してください。

＊日本仕様に設定はありません。

収納スペース

⚠ 警 告

急ブレーキ、急ハンドル、または事故の場合、負傷する恐れがあるため、必ず守ってください。

▷ 室内に荷物などを置く場合は必ず固定してください。

▷ 小物入れに重いものを入れてカバーを開けたまま運転しないでください。

▷ 運転中は必ず小物入れカバーを閉じてください。

▷ ラゲッジ・コンパートメントはセーフティ・ネットおよびトノ・カバーで保護してください。

荷物を固定していないときや、不適切な載せ方をしていると、ブレーキをかけたりハンドルを切ったとき、または事故のときに乗員が負傷する恐れがあります。

▷ 「荷物の積載」（176ページ）を参照してください。

収納オプション

— ルーフ・コンソールの眼鏡ケース
— グローブ・ボックス、ペン・ホルダ
— フロントおよびリア・アームレスト
— 助手席下の引き出し
— ラゲッジ・コンパートメント左右の収納スペース
— ドア・トリム・パネル
— フロントおよびリアのセンター・コンソール
— フロント・シートのバックレスト
— リア・グラブ・ハンドルのコート用フック
— ラゲッジ・コンパートメント・フロアの下
— フロントおよびリア・カップ・ホルダ

ルーフ・コンソールの眼鏡ケース

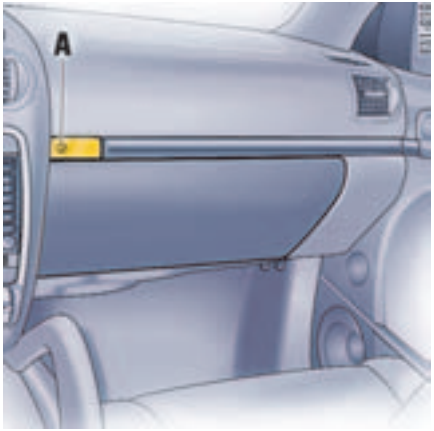
このスペースにはサングラスなどが収納できます。

開く

▷ ボタン（**矢印**）を押します。

閉じる

▷ 引出しをカチッと音がするまで閉めます。



グローブ・ボックス

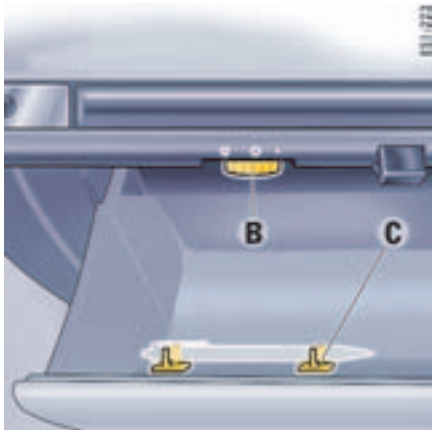
グローブ・ボックス内の引き出しは車検証などの書類を入れるように設計されています。

開き方

▷ ボタン**A**を押して、カバーを開きます。

施錠

▷ 盗難防止のためにボタン**A**はキーで施錠し、開けられないようにしてください。



B - *グローブ・ボックス内の冷却設定ダイヤル*
C - *ペン・ホルダ*

O　グローブ・ボックスの冷却

▷ ダイヤル**B**を反時計方向に回します。

●　スイッチOFF

▷ ダイヤル**B**を時計方向に回します。

フロント・アームレストの小物入れ

アームレストには小物入れが2個付いています。

上部トレイを開く

▷ ボタン**A**を押して、カバーを持ち上げます。

下側トレイを開く

▷ ボタン**B**を押してカバーを閉じたまま上部トレイを持ち上げます。

リア・アームレストの小物入れ

アームレストには小物入れが付いています。

アームレストの小物入れを開く

1. アームレストを完全に倒します。
2. ボタン**C**を押して、カバーを持ち上げます。

右側フロント・シート下の引き出し

右側フロント・シート下の引き出しには小物入れがあります。

DVDナビゲーション装備車＊には、右側フロント・シート下に DVDプレーヤが装備されています。

「右側フロント・シート下の DVDプレーヤ」（171ページ）を参照してください。

＊日本仕様に設定はありません。

開く

▷ ロック解除ハンドルを持ち上げ、引き出しを開けます。

閉じる

▷ 引出しをカチッと音がするまで閉めます。

ラゲッジ・コンパートメント左右の収納スペース

右側の収納スペースには、非常停止板を収納可能です。

車両の装備によっては、ラゲッジ・コンパートメント左側に追加収納スペースがあります。

スペース拡張のため、中間の仕切りを取外すことが可能です。

開く

▷ ハンドルを引いてカバーを開きます。

閉じる

▷ カバーの下側を差し込んでから、カチッと音がするまで閉じます。

⚠ 注 意

損傷する恐れがあります。

▷ 高さ調整機能付きエア・サスペンション装着車の右側の収納スペースは、熱がこもるため熱に弱い物は収納しないでください。

カップ・ホルダ

▷ 運転中はカップ・ホルダのシャッターを閉めておいてください。

⚠ 警 告

液体がこぼれると、火傷または物品が損傷する恐れがあります。

▷ カップ・ホルダに適切に収まる容器のみを使用してください。

▷ 一杯に満たされた容器を置かないでください。

▷ 熱い飲み物は置かないでください。

カップ・ホルダ（フロント）の使用

▷ シャッター**A**を**矢印**の方向に開きます。

カップ・ホルダ・トレイの取外し

カップ・ホルダ・トレイは取外して掃除することができます。
トレイを取外すと、追加の小物入れとしてご利用できます。

▷ シャッター**A**を開きます。

▷ カップ・ホルダ・トレイの2個の取付け用穴**B**に指を差し込みます。

▷ カップ・ホルダ・トレイを引き上げて外します。

カップ・ホルダ（リア）の使用

▷ カップ・ホルダ・カバーを**矢印**の方向に押してください。

カップ・ホルダ（リア）の収納

▷ ロックするまで押し込んでください。

右側フロント・シートのDVDプレーヤ＊

DVDナビゲーション装着車には、右側フロント・シート下のカバー内にDVDプレーヤが装備されています。

カバーを開ける

▷ ハンドルを上方に引いてください。（**矢印1の方向**）

▷ 前方にカバーを引いてください。（**矢印2の方向**）

カバーを閉じる

▷ カバーの4つのガイド・ラグをそれぞれのはめ込み口に挿入してください。（**矢印**）

▷ カバーを押し込んでください。

▷ カバーのガイド・ラグがはめ込み口に「カチン」とはまるまで、カバーを押してください。

＊日本仕様に設定はありません。

リア・リッド

「ポルシェ・エントリー＆ドライブ」および「スペア・タイヤ・ブラケット」装着車はリア・リッドの操作方法が異なります。

▷ 「ポルシェ・エントリー＆ドライブ」（18ページ）を参照してください。

▷ 「スペア・タイヤ」（284ページ）を参照してください。

⚠ 危 険

エンジン作動中および走行中にリア・リッドを開くと、排気ガスが室内に入り、一酸化炭素中毒を起こす恐れがあります。

▷ エンジン作動中および走行中は必ずリア・リッドを閉じてください。

リア・リッドの解錠

▷ リモート・コントロールのボタン**3**をすばやく押します。

もし、車両ドアおよびリア・リッドを開けなかった場合は、120秒後に自動的に施錠します。

リア・リッドを開く

スペア・タイヤ・ブラケット装着車では、ブラケットを外側に回してから、リア・リッドを開いてください。

▷ 「スペア・タイヤ」（284ページ）を参照してください。

▷ ロック解除ハンドル（**矢印**）を押して、リア・リッドを開きます。

リア・リッドを閉じる

リア・リッドにはパワー・クロージング・メカニズムが装着されています。

▷ ハンドル（**矢印**）でリア・リッドを下げて、ロックに押し込みます。

リア・リッドは自動的に閉鎖し、ロックされます。

⚠ 警 告

リア・リッドを下ろすと自動的にロックの方へ引き寄せられ、閉じてロックします。挟まれて怪我をする恐れがあります。

▷ リア・リッドの下に手や指を入れないでください。

▷ パワー・クロージング・メカニズムの可動部品（ラッチ・ストライカ）には物や手足を近づけないでください。

▷ 保護者なしでお子様を絶対に車内に残さないでください。

オート・ロック

メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイを使用して、ドアとリア・リッドのロック／ロック解除機能、およびハザード・ランプの点滅パターンを設定できます。設定した内容は、そのとき使用しているリモート・コントロールに記憶されます。

▷ 「テール・ゲート」（99ページ）を参照してください。

緊急操作ーリア・リッドのロック解除

リモート・コントロールの内蔵バッテリの電圧が低下したときなど、リモート・コントロールでリア・リッドが開かない場合、緊急操作でリア・リッドを開けることができます。

1. 車両キーで運転席ドアのロックを解除し、ドアを開けます。
2. イグニッション・スイッチをONにし、警報システムが作動しないようにします。
3. メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイで、テール・ゲート機能が有効になっていることを確認します。
   「テール・ゲート」（99ページ）を参照してください。
4. アーム・レストのセントラル・ロッキング・ボタンを押します。

これで、リア・リッドのロックが解除されます。リア・リッドのロック解除ハンドルを押して、リア・リッドを開きます。

リア・ウィンドウ

⚠ 危 険

エンジン作動中および走行中にリア・ウィンドウを開くと、排気ガスが室内に入り、一酸化炭素中毒を起こす恐れがあります。

▷ エンジン作動中および走行中は必ずリア・ウィンドウを閉じてください。

▷ 「ポルシェ・エントリー＆ドライブ」（18ページ）を参照してください。

解錠

▷ リモート・コントロールのボタン**3**を軽く押します。リア・ウィンドウはロック解除ボタン**A**で開くことができます。

リア・ウィンドウを開く

▷ ロック解除ボタン**A**を押します。

または

▷ リモート・コントロールのボタン**3**を約2秒間押すと、リア・ウィンドウが開きます。

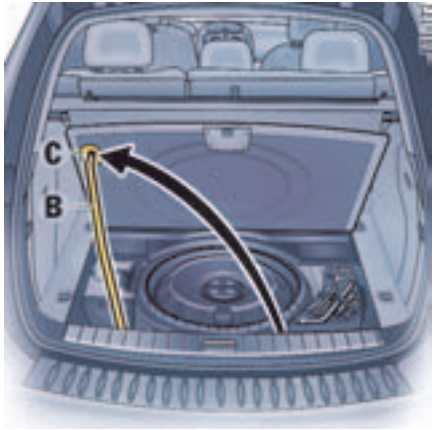
リア・ウィンドウを閉じる

▷ リア・ウィンドウを下げて、ロックに押し込みます。確実にロックにはまったことを確認してください。

オート・ロック

メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイを使用して、ドアとリア・リッドのロック／ロック解除機能、およびハザード・ランプの点滅パターンを設定できます。設定した内容は、そのとき使用しているリモート・コントロールに記憶されます。

▷ 「テール・ゲート」（99ページ）を参照してください。



ロード・スペース

ロード・スペース・フロアの最大許容積載量は400kgです。床面全体に荷重がかかるように荷物を積んでください。

▷ 「荷物の積載」（176ページ）を参照してください。

ロード・スペース・フロアを開く

1. ハンドル**A**を引いてロード・スペース・フロアを持ち上げます。
2. フロア・ステー**B**をホルダーから外し、フロアの穴**C**に差し込みます。

ロード・スペース・フロアを閉じる

1. ロード・スペース・フロアをわずかに持ち上げ、フロア・ステー**B**を車両フロアのホルダーに戻します。
2. ロード・スペース・フロアを閉じます。

タイダウン・リング

ラゲッジ・コンパートメント・ルームの荷物は移動しないように固定することができます。タイダウン・ベルトまたはラゲッジ・ネットをタイダウン・リング**D**に固定して使用します。

▷ 荷物を固定するときは各リングに均等に荷重がかかっていることを確認してください。

知識：

タイダウン・リングは事故の際に重量物を支えることはできません。

荷物の積載

⚠ セーフティ・ノート

固定していない、誤った位置に置かれた積荷は、ブレーキをかけた時に乗員に危険をおよぼしたり、または車両がスリップ、あるいは方向が変わったりして事故をまねく恐れがあります。積荷を輸送する場合、必ず固定してください。(ブレーキング中またはカーブで事故の恐れがあります)

- ▷ 荷物は必ずラゲッジ・コンパートメントなど所定の位置に入れて運搬してください。室内(シート上やシートの前)には載せないでください。
- ▷ 可能な場合、荷物をシート・バックレストで支えてください。バックレストは必ず所定の位置にロックしてください。
- ▷ 可能な場合、荷物は乗員のいないシートの後ろに置いてください。
- ▷ 重量物は可能なかぎりラゲッジ・コンパートメントの前方に寄せて積んでください。軽い荷物はその後ろに置いてください。
- ▷ 荷物はシート・バックレストの上端を越えないように置いてください。
- ▷ ラゲッジ・セーフティ・ネットやトノ・カバーを使用して必ず室内を保護してください。
  トノ・カバーの上にものを載せたまま運転しないでください。
- ▷ 後部座席に乗員がいない場合、シートベルトを使用してバックレスト補強することもできます。外側座席のシートベルトを斜めに渡し、反対側のバックルにはめてください。
- ▷ 荷物でリア・ウィンドウ・ヒータの熱線およびサイド・ウィンドウのTVアンテナ＊を傷付けないように注意してください。

ラゲッジ・ネット

- ▷ 荷物はラゲッジ・ネットで完全に覆ってください。
  ラゲッジ・ネットは軽い荷物の移動防止にのみ有効です。

タイダウン・ベルト

- ▷ 荷物の固定にゴム・ベルトやゴムひもなどを使用しないでください。
- ▷ ベルトやひもを鋭利な物の上に渡さないでください。
- ▷ 固定具の使用上の注意を遵守してください。
- ▷ せん断強さが700kg以上で、幅が25mm以内のベルトのみを使用してください。
- ▷ 荷物の上でベルトを交差してください。

運転

- ▷ 車両のハンドリングは積載量に応じて変化します。変化した車両の挙動に合わせて慎重に運転してください。
- ▷ 最大総重量および最大軸荷重を超過しないでください。
- ▷ 「車両重量」(333ページ) を参照してください。
- ▷ リア・ウィンドウまたはリア・リッドを開いたまま運転しないでください。
  排出ガスが室内に入る恐れがあります。
- ▷ タイヤ空気圧を積載量に合わせてください。
- ▷ 「積載重量」(88ページ) を参照してください。
- ▷ 「冷間時のタイヤ空気圧」(331ページ) を参照してください。

＊日本仕様に設定はありません。

トノ・カバー

トノ・カバーを使用し、荷物を覆うことができます。

▷ ラゲッジ・コンパートメント・ルームに荷物を積んでいるときには必ずトノ・カバーを引き出してください。

▷ サポート・ブラケット**A**にバッグや荷物を掛けないでください。サポート・ブラケットが壊れることがあります。

⚠ 警 告

急ブレーキ、急ハンドル、または事故により荷物が室内に移動し、乗員が怪我をする恐れがあります。

▷ トノ・カバーの上に荷物を載せないでください。

トノ・カバーを引き出す

▷ ハンドルを持ってトノ・カバーを引き出し、ラゲッジ・コンパートメント・ルームの左右側面にあるガイドに差し込みます。

トノ・カバーを戻す

▷ トノ・カバーを左右側面にあるガイドから外し、ゆっくりとリトラクタ・ローラーに巻き取ります。

トノ・カバーの取り外し

▷ リリース**B**を引き出します。

▷ カバーの右側を持ち上げ取外します。

トノ・カバーの取付け

▷ カバーを左側のガイドに差し込みます。

▷ カバーを押さえ右側のガイドに入れて、カチッと音を立てしっかりはまったことを確認します。
リリース**B**は前方に押してください。

エンジン・フード

エンジン・フードを開く

⚠ 注 意

エンジン・フードまたはフロント・ワイパーを損傷する恐れがあります。

▷ エンジン・フードを開けるときはフロント・ワイパーを立てないでください。

▷ エンジン・フードを開ける場合は、必ずフロント・ワイパーをOFF（0位置）にしてください。ワイパー・アームが0位置にない場合、エンジン・フードを開けると、自動的に0位置に移動します。イグニッションがOFFの場合でも同様です。
ワイパー・アームはリッドを閉じて、ワイパー・システムをOFFにし再度ONにするまで、0位置にあります。

1. リリース・レバー（**矢印**）を引くと、エンジン・フードが解錠します。

2. セーフティ・キャッチ**A**を外します。
3. エンジン・フードを上まで開きます。
エンジン・フードを開くと、エンジン・ルームのランプが点灯します。

エンジン・フードを閉じる

▷ あらかじめエンジン・フードを下げてから、ロックに落とします。必要であれば、手のひらでロック部分を押します。

▷ エンジン・フードが正しくロックにはまっているか確認します。
エンジン・フードをきちんと閉じていない場合、車両が走り出すとメータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイにメッセージが表示されます。

ラゲッジ・セーフティ・ネット

ラゲッジ・セーフティ・ネットにより、急ブレーキ、急ハンドルまたは事故の際に軽い荷物の移動を防ぐことができます。

▷ 「荷物の積載」(176ページ) を参照してください。

⚠ 警 告

急ブレーキ、急ハンドル、または事故の場合、負傷する恐れがあるため、必ず守ってください。

▷ 必ずセーフティ・ネットで荷物の室内への移動を防いでください。

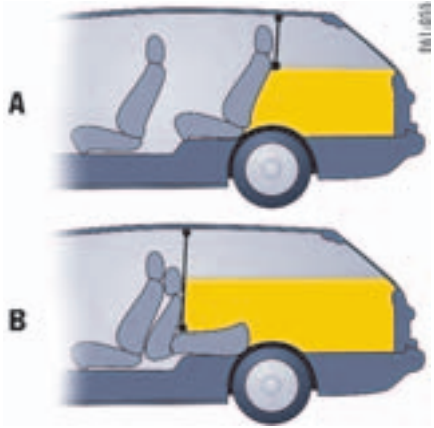
▷ 荷物は必ずタイダウン・リングで固定してください。

▷ 荷物はシート・バックレストの上端を越えないように置いてください。

知識：

急ブレーキまたは事故などの際にセーフティ・ネットに大きな力がかかったり、損傷した場合はラゲッジ・セーフティ・ネットおよびブラケットを正規ポルシェ販売店で点検してください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。



ラゲッジ・セーフティ・ネットの使用例
A - *取付け位置1*
B - *取付け位置2*

▷ 「リア・シート」(35ページ) を参照してください。

ラゲッジ・セーフティ・ネットによる室内保護

ラゲッジ・セーフティ・ネットを引き出す

▷ ラゲッジ・セーフティ・ネット・ブラケットのカバーを開きます。

▷ ラゲッジ・セーフティ・ネットを引き出し、左右の固定フックを天井のリングに差し込みます。固定フックは両横から引き出します。

▷ ラゲッジ・セーフティ・ネット固定フックがリングにしっかりはまったことを確認します。

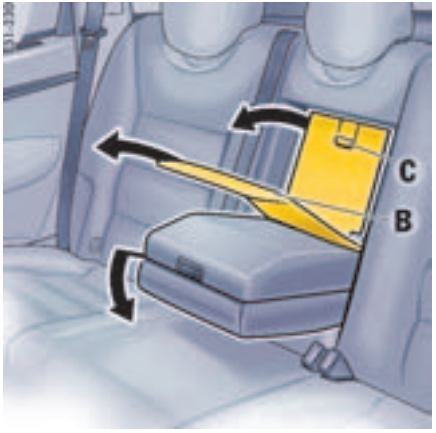
ラゲッジ・セーフティ・ネット・アッセンブリのリア・シート・バックレストからの取外し

▷ 左右のリア・ドアを開きます。

▷ 左シート・バックレストを先に倒します。次に右を倒します。このときシート・クッションを取外す必要はありません。

▷ 「リア・シート」（35ページ）を参照してください。

1. ラゲッジ・セーフティ・ネット・アッセンブリを**矢印1の方向**に押します。
2. ラゲッジ・セーフティ・ネット・アッセンブリを**矢印2の方向**に持ち上げて取外します。

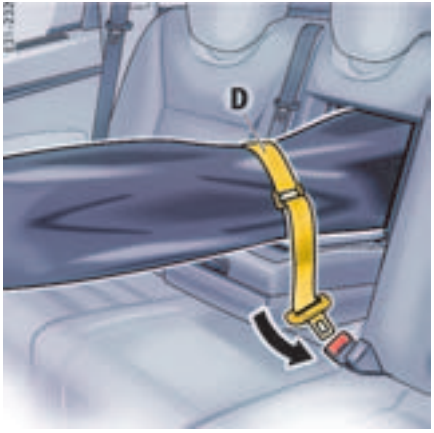


スキー・バッグ

スキーのような長い物も室内で運搬できます。室内で運ぶと荷物を汚れや損傷から守ることができます。

スキー・バッグの積込み

1. スルーホール・カバーのリリース・ボタン**A**を押し、カバーを下に開きます。
2. リア・シート・バックレストのアームレストを倒します。
3. 保護カバー**B**の上下のマジック・テープを外します。
4. スルーホール・カバーのリリース・ボタン**C**を下方に押し下げてカバーを倒します。
5. スキー・バッグを引き出して伸ばします。
6. ラゲッジ・コンパートメント側からスキー・バッグに荷物を入れます。



荷物の固定

▷ 積み込んだ荷物を固定ベルト**D**で締め付けます。

▷ ベルトの先端をバックルに差込みます。

スキー・バッグの収納

1. スキー・バッグを空にします。
2. スキー・バッグを室内側に引き出します。
3. ラゲッジ・コンパートメント側のカバーを閉じます。
4. スキー・バッグを折りたたみ、カバーを閉じます。
5. プロテクト・カバーを取付け、ベルクロ・ストラップで固定します。

知識：

▷ スキー・バッグは乾かしてから折りたたんでください。

ルーフ・トランスポート・システム

▷ ルーフ・トランスポート・システムの取付け説明書を参照してください。

▷ ポルシェ社によってテスト、認証されたポルシェ・テクイップメントのルーフ・トランスポート・システムのみをご使用ください。

一般に市販されているルーフ・ラックは装着**できません**。

ポルシェ・ルーフ・トランスポート・システムは、様々なスポーツ用品やホビー用品を積載できます。

「**ルーフ・トランスポート・システム**」の詳細は、正規ポルシェ販売店にお問い合わせください。

⚠ セーフティ・ノート

▷ 自動洗車機を使用するときは、ルーフ・ラックを完全に車から取外してください。車両が損傷する恐れがあります。

▷ ルーフへの積載荷重は、最大総重量と軸重量の限度を超えないようにしてください。「車両重量」（333ページ）を参照してください。

▷ 車幅より大きな荷物を積まないようにしてください。また、荷物はできるだけ重い物を下にして高さが均一になるように積んでください。

▷ ルーフ・ラックに積んだ荷物は、ロープまたはワイヤーで固定してください（ゴム製のひもは使用しないでください）。

▷ 走行前と、長距離を走行中は定期的に、ルーフ・ラックと荷物の固定状態を点検してください。必要に応じて固定し直したり、固定用品を追加してください。

ルーフ・ラックに荷物を積載して走行する場合の最高速度は、積載物の性質、大きさ、重量にもよります。

▷ 車速が140km/hを超えないようにしてください。

▷ ルーフ・ラックに何も積んでいないときは、車速が180km/hを超えないように走行してください。

最大速度については走行中の道路の最大制限速度を遵守してください。

重心が高くなり、空気抵抗も大きくなるので、走行、ブレーキ、ステアリング操作の状態が普段と違ってきます。このことを考慮して安全運転を心がけてください。

▷ 燃費を高め、騒音を減らすために、使用していないルーフ・ラックは車から取外すようにしてください。

トレーラー・カップリング

▷ トレーラーの取扱説明書を遵守してください。

▷ トレーラー・カップリングの改造、修理は行わないでください。

後付け

トレーラー・カップリングの後付けは正規ポルシェ販売店でのみ行ってください。正規ポルシェ販売店はメーカー仕様や必要な変換方法を熟知しています。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

電気接続

お車にはトレーラーとの電機接続用に13ピンのコネクターが用意されています。トレーラー側のコネクターが7ピンの場合、適切なアダプタを使用してください。

定義

けん引能力（トレーラーの総重量）

トレーラーの空車重量＋積載重量

垂直連結荷重

トレーラー・ドローバーにより車両のトレーラー・カップリングにかかる重量

リア軸荷重

リア・アクスルの車両重量＋積載重量＋トレーラーの垂直連結荷重

車両およびトレーラーの総重量

けん引する車両の重量＋トレーラー重量

▷ 各最大許容値を超えないようにしてください。

⚠ セーフティ・ノート

トレーラーを連結しての運転

▷ 許容けん引能力、垂直連結荷重、リア軸荷重を必ず遵守してください。「車両重量」（333ページ）を参照してください。

▷ トレーラーを連結する場合は、トレーラーが必ずけん引する車両の後ろに水平になるようにしてください。必要であれば、調整可能なドローバーを使用して連結してください。

▷ 山岳地帯を走行する場合、高度が上がるにつれてエンジン出力は低下します。表示の最大重量は海抜0mでの数値です。したがって車両＋トレーラーの合計重量は高度が1,000m上昇するにつれて10%ずつ減少します。実際のけん引の際は、海抜0m以上1,000m未満では最大重量の10%減の数値を適用し、海抜1,000m以上2,000m未満では最大重量の20%減の数値を適用（以降も同様の計算）してください。常に上記を念頭に置いて走行ルートを計画してください。

荷物の配置

▷ トレーラーの荷物は重量物ができるだけアクスルに近くなるように配置してください。荷物は必ず移動しないように保護し、確実に固定してください。

▷ トレーラーに荷物を積む場合はトレーラー・カップリングの定格垂直連結荷重を最大限に生かしてください。ただし、超過してはいけません。

タイヤ空気圧

▷ トレーラーをけん引する場合は、タイヤ空気圧を全積載重量に設定してください。

▷ 「冷間時のタイヤ空気圧」（331ページ）を参照してください。

▷ メーカーの取扱説明書に従って、トレーラーのタイヤ空気圧を点検してください。

ドア・ミラー

▷ トレーラーの幅が広く、後方視界が妨げられるようであれば、補助ドア・ミラーを装着してください。

ヘッドランプ、ランプ類

▷ トレーラー側コネクターと車両側コネクターが正しく連結されているか、すべてのランプ機能が正常に作動するか点検してください。

トレーラーを連結しての運転

トレーラー装着時は、道路条件、交通状況、路面の状態に応じた適切な運転をこころがけてください。**80km/h**以上で運転しないでください。この速度を超えた場合、トレーラーと車両の連結が不安定になり、コントロールが取れなくなる恐れがあります。

▷ トレーラーを連結した場合のハンドリングやブレーキ時の車両挙動について、注意深くかつ段階的に慣れていってください。

▷ けん引する車両に荷物を積まずに、トレーラーに荷物を積んで運転しないでください。

▷ やむを得ずこのように積載する場合は、特に低速で運転してください。

▷ ブレーキ、駐車、コーナリング、追い越しなどの状況では、車両のハンドリングおよびサイズが普段とは異なることを常に念頭に置いてください。

▷ トレーラーを連結した場合の走行安定性は高速になるにつれて悪化します。したがって、下り坂や悪路／悪天候（強風）での運転では特に低速で運転してください。
長い下り坂では適切な低速ギヤに入れ、エンジン・ブレーキを使用してください。

▷ トレーラーの軌道が逸れた場合は、ただちに減速してください。反対側にステアリングを切ってはいけません。必要に応じてブレーキをかけてください。加速して車両とトレーラーをまっすぐにしようとしないでください。

▷ 急坂路で発進する場合は、ロー・レンジにしてください。

▷ いかなる場合にも、車両が動いているときに、車両とトレーラーの間に人や動物がいたり、物品がないようにしてください。

▷ バックする場合、パーキング・アシスタントが作動しないので注意してください。

知識：

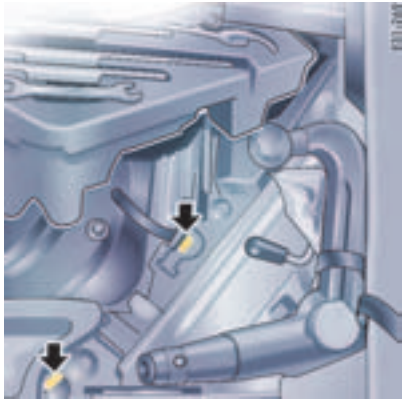
▷ トレーラーを連結して運転する場合にはすべての車両コンポーネントに著しく負荷がかかることに注意してください。機能を正常にかつ安全に作動させるには、ご使用になるたびに専門家による点検およびメインテナンスが必要です。

トレーラーの連結

▷ トレーラーを連結するときには必ず警報システムをセット解除してください。傾斜センサにより不意に警報が作動する場合があります。

トレーラーの切り離し

▷ トレーラーにオーバーラン・ブレーキが装着されている場合は、トレーラーのブレーキをかけたまま切り離さないでください。



着脱式ボール・ヒッチ付きトレーラー・カップリング

着脱式ボール・ヒッチはトランク・フロア下のツール・ボックスに収納されています。

1. ラゲッジ・コンパートメント・フロアを開き、フロア・ステーで支えます。「ロード・スペース」（175ページ）を参照してください。
2. ツール・ボックスのマジック・テープを外します。
3. 上部ツール・キット容器を取外します。
4. 下部ツール容器からボール・ヒッチを取り出します。

⚠ 警 告

急ブレーキ、急ハンドル、または事故の場合、負傷または損傷する恐れがあるため、必ず守ってください。

▷ ボール・ヒッチ車載時には必ず固定してください。

▷ ボール・ヒッチは必ずツール・ボックスに収納してください。

ボール・ヒッチのロック機構が損傷し、安全性を失われる恐れがあります。

▷ ボール・ヒッチの脱着に補助器具やツールを使用しないでください。

ボール・ヒッチの脱着は普通に手で行います。

ボール・ヒッチを正しくロックしていないと予期せぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ ボール・ヒッチをロックし、キーを抜いている場合のみ、トレーラー・カップリングを使用してください。

注意：

- ▷ ボール・ヒッチまたはマウント・パイプに改造、修理を行わないでください。
- ▷ ハンドリングの異常に気づいた場合、あるいは故障した場合は、正規ポルシェ販売店にご相談ください。
- ▷ 運転する前にボール・ヒッチが所定の位置に正しくロックされているか確認してください。
- ▷ トレーラーを連結して運転する場合には、必ずロックを締結し、キーを抜いてください。
- ▷ トレーラーを連結した状態で、ボール・ヒッチをロック解除しないでください。
- ▷ トレーラーを連結していないときは、必ずボール・ヒッチを取り外してツール・ボックスに収納してください。
- ▷ ボール・ヒッチを取り外した後は必ずマウント・パイプをプラグで塞いでください。
- ▷ 重要：初めてボール・ヒッチを使用するときは、キーに刻印されている番号をメモしてください。

キー番号：.....

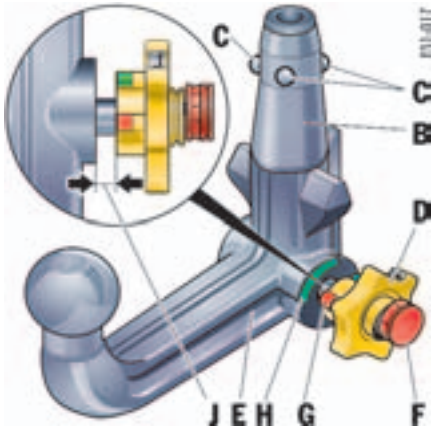
バンパー・リッドの取外し

1. **矢印の方向**に左右のロックを押します。
2. リッドの前端を引き下げて取外します。

ボール・ヒッチの取付け

ボール・ヒッチ・マウントおよびソケットはバンパーの下にあります。

マウント・チューブのプラグにより汚れが侵入しないように保護されています。



プラグの取外し

▷ プラグ**A**をマウント・パイプから取外します。プラグはツール・ボックスに収納しておきます。

▷ ボール・ヒッチを取付ける前にマウント・パイプが汚れていないか点検します。ボール・ヒッチを確実にロックするためにはマウント・チューブの汚れを取り除くことが重要です。

ボール・ヒッチの準備

ボール・ヒッチを装着する前に下記の点を準備してください。
軸**B**、ロック・ボール**C**、ハンドル**D**に汚れや損傷がないか点検します。

ボール・ヒッチ**E**は差し込む前に必ずプリテンションをかけます。

ボール・ヒッチのプリテンション点検

— キー**F**をロックに差し込み、キーの矢印を「**ロック開**」マークに向けてください。この状態でキーは抜くことができなくなります。

— ハンドルの赤いマーク**G**がボール・ヒッチの緑のエリア**H**に合うようにしてください。

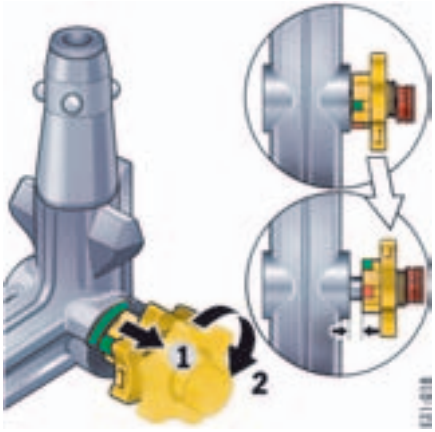
— ハンドルとボール・ヒッチの間のギャップがはっきり確認できるようにしてください。ハンドルとトレーラー・ヒッチ間の距離**J**は約5mmにしてください。

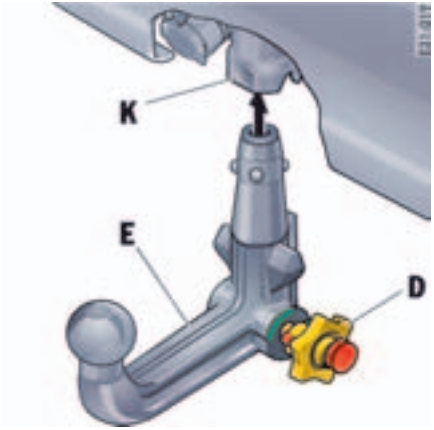
— ロック・ボール**C**を軸の中に完全に押し込んでください。

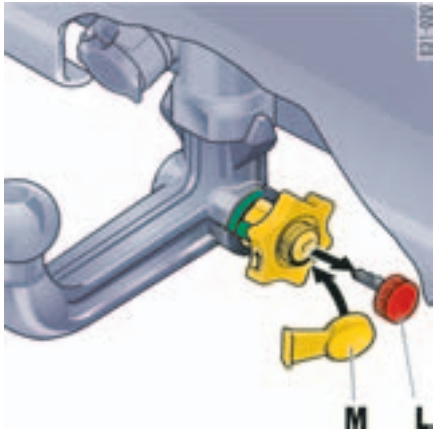
ボール・ヒッチにプリテンションがかかっていない場合、以下のようにテンションをかけます。

▷ ボール・ヒッチをロック解除します。キーの矢印をハンドルの「**ロック開**」マークに向けてください。

▷▷▷







▷ 左手でボール・ヒッチを持ちます。右手でハンドルを**矢印1の方向**に引き出して、引いたまま**矢印2の方向**に回し、締結させます。
これで、ボール・ヒッチにテンションがかかります。

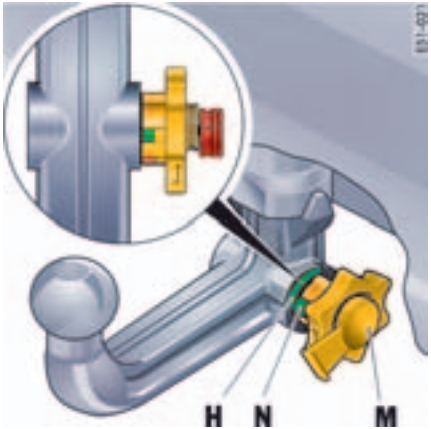
ボール・ヒッチにプリテンションがかけられない場合、そのボール・ヒッチは使用しないでください。

▷ 正規ポルシェ販売店にお問い合わせください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

ボール・ヒッチの車両への取付け

ボール・ヒッチ**E**を差し込む際、手をハンドル**D**に触れないでください。ボール・ヒッチを所定の位置にロックすると、ハンドルは反時計方向に回転して戻り、トレーラー・ヒッチに当たります。

1. テンションをかけたボール・ヒッチ**E**を**矢印の方向**にマウント・パイプ**K**に差し込み、押し上げてボール・ヒッチが所定の位置にカチッとはまったことを確認します。
2. キー**L**を反時計方向に回してボール・ヒッチをロックし、キーを引き抜きます。キーを引き抜くと、ハンドルを引き出すことはできません。
3. キャップ**M**でロック部を覆います。
4. キーはツール・ボックスに収納します。



安全確認

ボール・ヒッチが正しく取付けられているか点検するには、以下の4つのポイントを確認してください。

⚠ 警 告

予期せぬ事故を起こす恐れがあります。

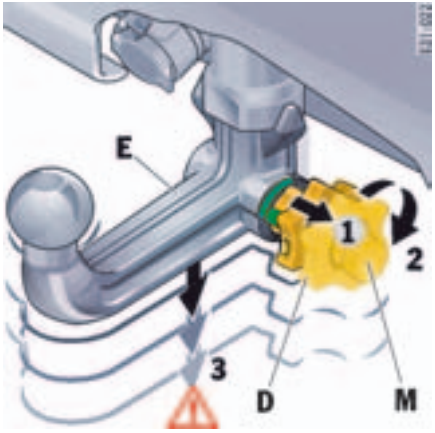
▷ 4つの確認事項のいずれかでも該当しない場合は、そのトレーラー・カップリングは使用せず、正規ポルシェ販売店にご相談ください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

1. ハンドルの緑のマーク**N**がボール・ヒッチの緑のエリア**H**に合っている。
2. ハンドルがボール・ヒッチに接触している。
3. 手で強くゆすっても、ボール・ヒッチがマウント・パイプに確実にはまっている。
4. キーが抜き取られ、キャップ**M**が所定の位置に取付けられている。

トレーラー・ソケット

ソケットは差し込んだボール・ヒッチの左にあります。



ボール・ヒッチの取外し

1. ロック部のキャップを外します。キーを差し込み、時計方向に回してロック解除します。キーの矢印をハンドルの「**ロック開**」マークに向けてください。

⚠ 警 告

ボール・ヒッチに挟まれて怪我をする恐れがあります。

▷ ボール・ヒッチは重いので、取外すときは、地面とボール・ヒッチの間に手を挟まれないように十分注意してください。

2. 左手でボール・ヒッチ**E**を持ちます。ハンドル**D**を**矢印1の方向**に引き出して、引いたまま**矢印2の方向**にいっぱいに回します。この位置でハンドルを保持します。
3. ボール・ヒッチをマウント・パイプから**矢印3の方向**に取外します。ハンドルを放すとボール・ヒッチのテンションが抜け、この状態でツール・ボックスに収納できます。
4. 必ずプラグをマウント・パイプに差し込み汚れが侵入しないようにします。
5. バンパー・リッドを取付けてロックします。

知識：

トレーラーを連結していないときは、必ずボール・ヒッチを取外してください。

お手入れについて

ボール・ヒッチおよびマウント・チューブを正しく機能させるためには必ずきれいな状態に保ってください。

ボール・ヒッチの取外しおよびソケットの取付けは、高圧洗浄、スチーム洗浄などをする前に行ってください。

ボール・ヒッチは高圧洗浄、スチーム洗浄などで洗浄しないでください。トレーラー・ヒッチ内部の潤滑用グリースが洗い流されます。

電動可倒式トレーラー・カップリング

⚠ 警 告

ボール・ヒッチの拡張／格納時、下記の注意事項を守ってください。負傷または損傷の恐れがあります。

▷ ボール・ヒッチの動作エリアに人や動物がいないか、物品が置いてないか確認してください。

▷ 危険時にボール・ヒッチの作動を停止するには、ロッカー・スイッチ**A**を押します。

▷ トレーラーが車両にけん引されている場合、または自転車キャリアなどがボール・ヒッチに取り付けられている場合、ボール・ヒッチを回転させないでください。

▷ トレーラー・カップリングはボール・ヒッチを完全に拡張した状態で使用してください。

▷ 補助具やツールなどを使用してボール・ヒッチの動作を妨げないでください。ロック機構が損傷してしまいます。この場合、トレーラー・カップリングの安全性は保証できません。

▷ 運転する前にボール・ヒッチが所定の位置に正しくロックされているか確認してください。

トレーラー・カップリングの拡張

作動準備

— 車両は停止してください。

— リア・リッドまたはリア・ウィンドウを開いてください。

拡張

▷ ロッカー・スイッチ**A**の上半分を押します。
ボール・ヒッチは自動的に拡張し、作動位置になります。トレーラー・ヒッチが作動位置に動いている間ロッカー・スイッチの赤いランプが点滅します。

トレーラー・カップリングの格納

トレーラー・カップリングを格納する前に下記の作業を行ってください。

- 車両を完全に停止した状態にしてください。
- リア・リッドまたはリア・ウィンドウを開いてください。
- トレーラーの連結を外してください。
- プラグ（およびアダプタ）をソケットから取外してください。
- ボール・ヒッチに取付けられているものがあれば（ボール保護キャップ、自転車キャリアなど）、取外してください。

格納

▷ ロッカー・スイッチ**A**の上半分を押します。ボール・ヒッチは自動的に格納位置に戻ります。
トレーラー・ヒッチが格納位置に動いている間はロッカー・スイッチの赤いランプが点滅します。

知識：

- 使用しないときはボール・ヒッチを格納位置にしてください。
- トレーラー・プラグ、自転車キャリアなど、ボール・ヒッチに取り付けられているものは、トレーラー・カップリング使用時には必ず取外してください。
- 危険時にボール・ヒッチを停止するには、ロッカー・スイッチ**A**を押します。このとき、ロッカー・スイッチの赤いランプがすばやく点滅して、動作が中断されたことを知らせます。
動作途中の中間位置でトレーラー・カップリングを使用することは禁じられています。

▷ 「警告灯および警告メッセージ」（104ページ）を参照してください。

トレーラー・ソケット

トレーラー・ソケットは拡張したボール・ヒッチの右にあります。
ソケットはボール・ヒッチとともに引き出されます。

オーバー・ロード・プロテクション機構

ロッカー・スイッチをワンタッチ・モードで使用した場合、抵抗を検知するとボール・ヒッチの作動は中断されます。このとき、ロッカー・スイッチの赤いランプがすばやく点滅して、作動が中断されたことを知らせます。

オーバー・ロード・プロテクション停止

▷ ロッカー・スイッチを押し続け（約2秒間）、ボール・ヒッチを作動位置または格納位置にします。

お手入れについて

▷ 高圧洗浄、スチーム洗浄などで洗車する場合は、洗浄液がボール・ヒッチのシールに直接噴射されないようにしてください。水分が浸入するおそれがあります。

故障

▷ ハンドリングの異常に気づいた場合、あるいは故障した場合は、正規ポルシェ販売店にご相談ください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

トレーラー・カップリングの最終位置の保存

故障が発生した場合（例：バッテリの切離し/再接続時）、トレーラー・カップリングの最終位置の記録が消えてしまう恐れがあります。

最終位置の登録方法:

— ロッカー・スイッチ**A**の上半分を押し、ボール・ヘッドが作動位置に到達するまで保持します。

— ロッカー・スイッチ**A**の下半分を押し、ボール・ヘッドが格納するまで保持します。

ギヤ・チェンジ、トラクション・システム

ティプトロニックS …… 198
セレクタ・レバー・ポジション …… 199
オンロードおよびオフロード走行
プログラム …… 206
パワー・トランスミッションおよび
ランニングギヤ・コントロール・
システム …… 211
オフロード走行 …… 222
レベル・コントロールおよび
車高調整付きエア・サスペンション … 230
ポルシェ・アクティブ・サスペンション・
マネージメント（PASM）…… 233

ティプトロニックS

ポルシェ社のティプトロニックは、(「オートマチック」ポジションと「マニュアル」ポジションの）2つのスピード・セレクション・モードがある6速トランスミッションです。

オートマチック・モードではセレクタ・レバーを**“D”**の位置に入れると、ギヤ・チェンジは自動的に行われます。

マニュアル・モードではセレクタ・レバーを**“M”**の位置に入れると、ステアリングにあるロッカー・スイッチの操作またはセレクタ・レバーを前後に操作することによりマニュアル・モードのギヤ・チェンジができます。

オートマチック・モードと**マニュアル・モード**は走行中、お好みに合わせて切替えることができます。

知識：

誤ってロッカー・スイッチを操作し、急なギヤ・チェンジをしないように注意してください。

セレクタ・レバー位置の変更

イグニッション・スイッチがOFFのとき、セレクタ・レバーは固定されます。

以下の動作をしたときのみ、セレクタ・レバーを**“P”**および**“N”**から動かすことができます。

— イグニッション・スイッチをONにする。

— ブレーキ・ペダルを踏む

— リリース・ボタンを押す（**矢印**）

リリース・ボタン

セレクタ・レバーの前にあるリリース・ボタン（**矢印**）は不意のギヤ・チェンジを防ぎます。

セレクタ・レバーを**“R”**または**“P”**レンジにシフトするにはリリース・ボタンを押してください。電気系統に故障が生じると、セレクタ・レバーは操作できなくなります。

▷ 「セレクタ・レバーの緊急解除」（205ページ）を参照してください。

エンジンの始動

安全のためセレクタ・レバーが**“P”**か**“N”**の位置でブレーキ・ペダルを踏まないとエンジンを始動することはできません。

発進

▷ エンジンがアイドリング状態であることを確認してブレーキ・ペダルを踏んでセレクタ・レバーを**“P”**レンジから他のレンジ（**“D”**、**“M”**または**“R”**）に動かしてください。

▷ 走行レンジにシフトすると車両がゆっくりと動きだすので（クリープ現象）、発進の準備が整うまでブレーキ・ペダルから足を放さないでください。

▷ 走行レンジにシフト後は、ギヤが完全に接続されるまでアクセルを吹かさないでください。

セレクタ・レバー・ポジション

セレクタ・レバー・ポジション・インジケータおよびギヤ・ポジション・インジケータ

セレクタ・レバーの現在の位置が、右側のインストルメント・クラスタ内に表示されます。

トランスミッションが故障している場合：

— 全てのギヤ・インジケータが点灯します。

▷ 故障が発生した場合は、直ちに最寄りの正規ポルシェ販売店で修理してください。
ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

セレクタ・レバー・ポジション

Pーパーキング・ロック

セレクタ・レバーを**“P”**に入れると、駆動輪は機械的にロックされます。

▷ 車が完全に停止してからパーキング・ロックを行ってください。

▷ パーキング・ロックはパーキング・ブレーキを**かけた後**に行ってください。また、パーキング・ブレーキを**解除する前**に**“P”**から他のレンジにシフトしてください。

▷ お車を離れるときは、必ずパーキング・ブレーキをかけてください。

セレクタ・レバーが**“P”**の位置になければ、イグニッション・キーを回すことができません。

Rーリバース

▷ 車が完全に停止してブレーキを効かせてから、このレンジに入れてください。

Nーニュートラル

このレンジはマニュアル・トランスミッションのニュートラルに当たります。けん引するときや洗車の際などは、必ずこのレンジを使用してください。

▷ **“N”**レンジから他のレンジ（**D**、**M**または**R**）へは、エンジンがアイドリング状態のときのみシフトするようにしてください。

オートマチック・セレクション・モード“D”（オンロード走行プログラム）

セレクタ・レバーの**“D”**および**“M”**の機能はオンロード・プログラム、ハイ・レンジおよびオフロード・プログラム、ロー・レンジで異なります。

▷ 通常の運転時にはセレクタ・レバー**“D”**を使用します。
ギヤはアクセル・ペダルの位置および踏込む速さに応じて自動的に切替わります。

ギヤ・チェンジが行われるエンジン回転数（ギヤ・チェンジ・ポイント）は運転スタイルおよび負荷（上り坂など）によって変化します。アクセル・ペダルの動き、車速、前後および横加速度、路面状況、すべてがギヤ・チェンジ特性に影響します。
PSMを解除した場合は、変速タイミングが高回転域に変更されます。

アクセル・ペダルをすばやく放すことによりカーブの前などの不要なシフトアップを防ぐことができます。

カーブでのシフトアップは、横加速度の大きさに応じてエンジン回転数が規定値に達するまで行われません。

ブレーキを踏むと、減速度に応じてティプトロニックは通常より早めにシフトダウンします。したがってカーブの手前でブレーキを踏むと、それを判断して適切なギヤが選択されます。

カーブを適切なギヤで回ると、カーブの終わりで加速するときもシフトダウンの必要がありません。

発進

アクセルを緩やかに踏むと2速で発進します。エンジンが冷えてるときやアクセルを強く踏込むと1速で発進します。
PSMを解除した場合は、1速で発進します。

ステアリング・ホイールでのギヤ・シフト

ステアリング・ホイールのロッカー・スイッチで、**“D”**（オートマチック・セレクション・モード）から**“M”**（マニュアル・モード）へ一時的に切り替えることができます。

有利点

- カーブや市街地に入る前にシフトダウンします。
- エンジン・ブレーキにより下り坂でシフトダウンします。
- 急加速時にシフトダウンします。
- 発進時にギヤが1速または2速に入ります。

以下の場合モードはマニュアル・セレクション・モードのままです。

- コーナリング時（横加速度）やオーバーランした場合。
- 車両が交差点などで停車した場合。

以下の場合オートマチック・セレクション・モードに戻ります。

- コーナリング時やオーバーラン時以外は、自動約8秒後。
- アクセル・ペダルを踏込んでキックダウンした場合。

一時的なシフトダウン

- 約54km／h以上で走行した場合

アクセル・ペダルをすばやく踏込むと、トランスミッションは最もスポーティなシフト・プログラムに入り、即座にシフトダウンされます。このプログラムでは通常よりもシフト・ポイントが多くなります。従って、1段階から3段階分のシフトダウンが素早く行われます。

作動停止

▷ この機能はアクセル・ペダルの踏込み率を25％以下まで戻すと作動しなくなります。

キックダウン

キックダウン機能はセレクタ・レバーが**“D”**位置にある場合に機能します。

▷ 追い越し時など最高の加速が必要な場合は、アクセル・ペダルを通常よりもさらに（キックダウンの位置まで）踏込んでください。

セレクタ・レバーの位置と車速に応じ、トランスミッションは最も適切な低いギヤにシフトダウンされます。

そのギヤでのエンジン回転数の上限に達するまで1つ上のギヤにはシフトアップされません。

キックダウン時のギヤ・チェンジに要求されるエンジン回転数は、アクセル・ペダルがスロットル・ポジションの約80%に戻されるまで維持されます。

オートマチック・セレクション・モード“D”（オフロード走行プログラム）

セレクタ・レバーの**“D”**および**“M”**の機能はオンロード・プログラム（ハイ・レンジ）およびオフロード・プログラム（ロー・レンジ）で異なります。

▷ 通常の運転時にはセレクタ・レバー**“D”**を使用します。ギヤはアクセル・ペダルの位置および踏込む速さに応じて自動的に切替わります。ギヤ・チェンジ・ポイントはさまざまな地形に対応して最適なコントロールができるように調整されています。

ギヤ・チェンジが行われるエンジン回転数（ギヤ・チェンジ・ポイント）は地形によって変化します。急な下り坂では、エンジン回転数が中回転域（2,500rpm以上）に達するまでシフトアップは行われません。

エンジン回転数が規定値を超えて上がりすぎた場合、自動シフトアップは行われません。

発進

アクセルを緩やかに踏むと1速で発進します。

ステアリング・ホイールでのギヤ・シフト

ステアリング・ホイールのロッカー・スイッチで、**“D”**（オートマチック・セレクション・モード）から**“M”**（マニュアル・モード）へ一時的に切り替えることができます。

有利点

— エンジン・ブレーキにより下り坂でシフトダウンします。
— 急加速時にシフトダウンします。
— 発進時にギヤが1速、2速または3速に入ります。

以下の場合モードはマニュアル・セレクション・モードのままです。

— オーバーランした場合
— コーナリング時（横加速度）
— 車両が交差点などで停車した場合。

以下の場合オートマチック・セレクション・モードに戻ります。

— コーナリング時やオーバーラン時以外は、自動約8秒後。
— アクセル・ペダルを踏込んでキックダウンした場合。

キックダウン

キックダウン機能はセレクタ・レバーが**“D”**位置にある場合に機能します。

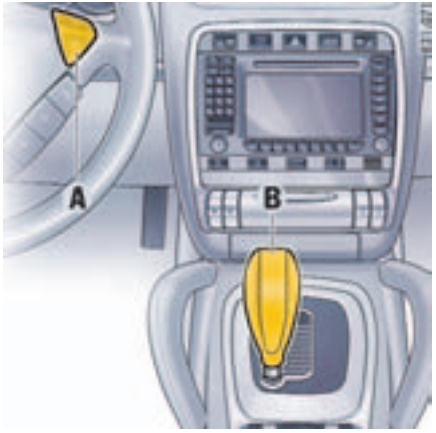
▷ 追い越し時など最高の加速が必要な場合は、アクセル・ペダルを通常よりもさらに（キックダウンの位置まで）踏込んでください。

セレクタ・レバーの位置と車速に応じ、トランスミッションは最も適切な低いギヤにシフトダウンされます。そのギヤでのエンジン回転数の上限に達するまで1つ上のギヤにはシフトアップされません。

キックダウン時のギヤ・チェンジに要求されるエンジン回転数は、アクセル・ペダルがスロットル・ポジションの約80%に戻されるまで維持されます。

知識：

オンロード走行プログラムとは異なり、マニュアル選択モード**“M”**ではエンジン回転数の規定値を超えても自動シフトアップは**行われません**。



マニュアル・セレクション・モード“M”（オンロード走行プログラム）

セレクタ・レバー位置“**D**”、“**M**”の機能は、オンロード走行プログラム（ハイ・レンジ）とオフロード走行プログラム（ロー・レンジ）では異なります。

現在のギヤは、“**D**”から“**M**”にシフトしてもそのまま維持されます。

“**M**”から“**D**”にシフトした場合は、現在の走行状態に最も適したシフト・プログラムになり、適切なギヤが選択されます。
アッパー・ステアリング・ホイール上側のスポークにある2個のロッカー・スイッチによって、ステアリングから手を放さずに快適な6速前進ギヤのシフト・チェンジができます。

知識：
マニュアル・セレクション・モード“**M**”ではキックダウンが機能しません。追い越しなど急加速が必要な場合は、手動で一つ低いギヤに落としてください。

シフト・アップ

▷ ロッカー・スイッチ**A**の上側（＋）を押します。

または

▷ マニュアル・セレクション・モード“**M**”でセレクタ・レバー**B**を前に操作します。

シフト・ダウン

▷ ロッカー・スイッチ**A**の下側（－）を押します。

または

▷ マニュアル・セレクション・モード“**M**”でセレクタ・レバー**B**を後ろに操作します。

車速とエンジン回転数によって、いつでも次のギヤにシフトアップ／ダウンできます。エンジン回転数に適さないシフトアップやシフトダウンはコントロール・ユニットにより制限されています。

セレクタ・レバー**B**またはステアリングのロッカー・スイッチ**A**をつづけて2度すばやく操作すると、一度に2段のシフトダウンができます。

PSMが作動しているとき、またはエンジン回転数がそのギヤの限界に達するとトランスミッションはトラクションを損なうことなく、自動的にシフトアップします。また、エンジンがアイドル回転数に達する直前に自動的にシフトダウンします。

▷ 上り坂ではエンジンに負荷がかかりすぎないように、また下り坂では十分エンジン・ブレーキがかかるようにシフトダウンして適切な低いギヤを使用してください。

マニュアル・モードで異常が発生した場合は、電子制御によりオートマチック・モードに切替り、セレクタ・レバーのディスプレイの“**D**”の位置が点灯します。

▷ このような不具合が発生した場合は、正規ポルシェ販売店で修理してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

マニュアル・セレクション・モード“M”（オフロード走行プログラム）

セレクタ・レバー位置“**D**”、“**M**”の機能は、オンロード走行プログラム（ハイ・レンジ）とオフロード走行プログラム（ロー・レンジ）では異なります。

現在のギヤは、“**D**”から“**M**”にシフトしてもそのまま維持されます。

“**M**”から“**D**”にシフトした場合は、現在の走行状態に最も適したシフト・プログラムになり、適切なギヤが選択されます。

知識：

マニュアル・セレクション・モード“**M**”ではキックダウンが機能しません。追い越しなど急加速が必要な場合は、手動で一つ低いギヤに落としてください。

シフト・アップ

▷ ロッカー・スイッチ**A**の上側（十）を押します。

または

▷ マニュアル・セレクション・モード“**M**”でセレクタ・レバー**B**を前に操作します。

シフト・ダウン

▷ ロッカー・スイッチ**A**の下側（一）を押します。

または

▷ マニュアル・セレクション・モード“**M**”でセレクタ・レバー**B**を後ろに操作します。

車速とエンジン回転数によって、いつでも次のギヤにシフトアップ／ダウンできます。エンジン回転数に適さないシフトアップやシフトダウンはコントロール・ユニットにより制限されています。

セレクタ・レバー**B**またはステアリングのロッカー・スイッチ**A**をつづけて2度すばやく操作すると、一度に2段のシフトダウンができます。

オンロード走行プログラムとは異なり、エンジン回転数が限界に達しても自動的にシフトアップが行われません。
エンジンがアイドル回転数に達する直前に自動的にシフトダウンします。

▷ 上り坂ではエンジンに負荷がかかりすぎないように、また下り坂では十分エンジン・ブレーキがかかるようにシフトダウンして適切な低いギヤを使用してください。

マニュアル・モードで異常が発生した場合は、電子制御によりオートマチック・モードに切替り、セレクタ・レバーのディスプレイの“**D**”の位置が点灯します。

▷ このような不具合が発生した場合は、正規ポルシェ販売店で修理してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

停止

▷ 信号待ちなどの短時間の停車時には、セレクタ・レバーは“**D**”位置のままで、フット・ブレーキを踏んでください。

▷ 登り坂ではアクセル・ペダルを踏みながら停止位置を保つようなことはしないでください。フット・ブレーキを踏むか、パーキング・ブレーキを効かせてください。

▷ 車両を離れるときは、必ずパーキング・ブレーキを引き、セレクタ・レバーを“**P**”位置に入れてください。

▷▷▷

知識：

セレクタ・レバーが **“D”** および **“M”** レンジにある場合、ヒルホルダー機能により登り坂でも車両がバックしません。

▷ 「ヒルホルダ」（220ページ）を参照してください。

駐車

▷ アクセルは慎重に操作してください。

▷ 狭い場所で駐車・移動する場合は、フット・ブレーキを使って速度を調節してください。

冬の走行

雪や凍結している滑りやすい急な坂道では、マニュアル・セレクション・モード **“M”** を使用してください。このモードでは、タイヤがスピンするようなギヤ・チェンジが防止できます。

走行制限プログラム

トランスミッションに故障が発生すると以下の症状が現れます。

– 全てのギヤ・インジケータが点灯します。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

⚠ 警 告

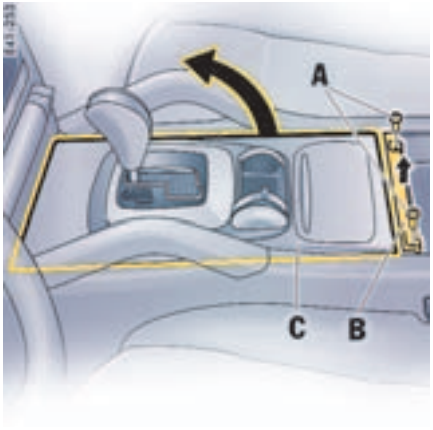
走行制御プログラム作動時はリバース・ロック・モニタが機能しません。走行中、事故および損傷の危険性があります。

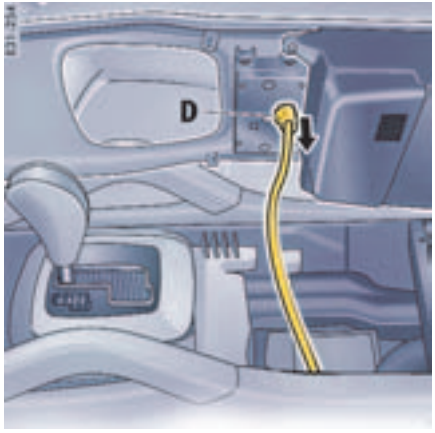
▷ セレクタ・レバーを **“R”** 位置にしないでください。

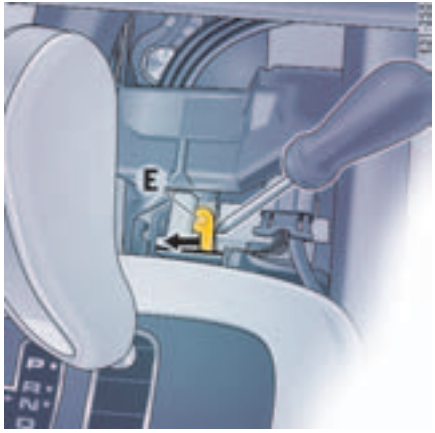
知識：

セレクタ・レバー **“D”** レンジの3速または5速ギヤ、およびリバース・ギヤ **“R”** が使用できるので、最寄りの正規ポルシェ販売店までの運転が可能です。

▷ できるだけ早く正規ポルシェ販売店で点検を受けてください。
ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。







セレクタ・レバーの緊急解除

電気系統に故障が生じた場合、**“P”** レンジにロックされたセレクタ・レバーをマニュアルで解除することができます（車両けん引時など）。

1. センター・アームレストを持上げます。
2. スライディング／チルティング・ルーフのエマージェンシー・キーを使用して、スクリュー**A**を取外します。
   「スライディング／チルティング・ルーフの非常時の取扱い」（146ページ）を参照してください。
3. トリム・マウント**B**を取外します。
4. トリム**C**の後部を持上げ、慎重に外します。
5. コネクタ**D**を外します。
6. トリムを横にずらします。
7. 適切な道具でロック・レバー**E**を左横に押します。
8. セレクタ・レバーを **“N”** レンジに入れます。
9. 逆の手順で組付けます。

オンロードおよびオフロード走行プログラム

特殊パワー・トランスミッション、およびランニングギヤ・コントロール・システム（ABS、オフロードABSおよびPSMなど）による2種類の走行プログラムがあります。これらのプログラムで最適なドライビング・ダイナミクスを実現するとともに路上安全性を最大限に高めています。

全コントロール・システムはオフロード走行および通常走行の両方で必要になる条件を満足しています。

ロッカー・スイッチ**A**を使用して、それぞれの地形特有の条件に合わせた適切な走行プログラムを簡単に選ぶことができます。

プログラムは以下の2種類です。

オフロード走行プログラム、ロー・レンジ（リダクション作動）

ロー・レンジ使用中は、パワー・トランスミッションおよびランニングギヤ・コントロール・システムは自動的にオフロード走行の条件に沿って作動します。

オンロード走行プログラム、ハイ・レンジ（リダクション非作動）

ハイ・レンジ使用中は、パワー・トランスミッションおよびランニングギヤ・コントロール・システムは自動的にオンロード走行の条件に沿って作動します。

使用方法

ロッカー・スイッチ**A**はセンター・コンソールにあります。マルチステップ機能を備えており、両方向に操作できます。

ロッカー・スイッチを前方に押すたびに、1段階ずつオフロード走行に適した選択になります。これは、オンロード走行プログラムからオフロード走行プログラムに切替わる、またはディファレンシャル・ロックが1段階ずつ切替わることにより実現されます。

ロー・レンジで使用できるディファレンシャル・ロックの数は装備によって異なります。

ロッカー・スイッチを戻すたびに、1段階ずつオンロード走行に適した選択になります。

走行プログラムを選択すると、ロッカー・スイッチはスプリングにより元の位置に戻ります。

「パワー・トランスミッションおよびランニングギヤ・コントロール・システム」（211ページ）を参照してください。

注意：

イグニッションをONにしたとき、ロッカー・スイッチ横のロー・レンジ・インジケータ・ランプが速く点滅する場合は、シフト・システムに故障が発生しています。

▷ ただちに正規ポルシェ販売店で点検を受けてください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

ロー・レンジ・インジケータ・ランプ

ロッカー・スイッチ**A**を操作するとロー・レンジ・インジケータ・ランプが点滅する場合、いずれかのシフト条件が合っていません。

- 車両が規定速度以上で走行している。
- セレクタ・レバーが“**N**”レンジにないこと。

A - *ロッカー・スイッチ*
B - *ロー・レンジ作動中*

オンロード走行プログラムからオフロード走行プログラムへの切替え

▷ 車両の速度を15km/h以下にするか、または停止させます。

▷ セレクタ・レバーを“**N**”レンジに入れます。

▷ ロッカー・スイッチ**A**を前方に押し、オフロード走行プログラムの作動がメータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに表示され、インジケータ・ランプ**B**が点灯することを確認します。
切替え実施中に、メータ・パネルおよびロッカー・スイッチ横のインジケータ・ランプ**B**が**数回点滅**します。
これでロー・レンジに切替わります。

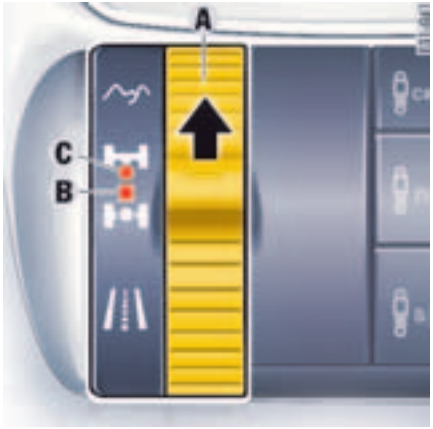
⚠ 危 険

セレクタ・レバーは走行プログラムの切替え時には、固定されます。上り坂を走行中に、走行プログラムの切替えがまだ完了していない状態でギヤ・チェンジを行うと、車両の後部が沈み、前部が浮いて、車両が「立った」状態、または後方へ車両ごと転倒する恐れがあります。下り坂を走行中にギヤ・チェンジを行うと、ドライバーの意図とは別に車両が加速する恐れがあります。

▷ ブレーキを通常よりも慎重に操作してください。

▷ 「パワー・トランスミッションおよびランニングギヤ・コントロール・システム」（211ページ）を参照してください。

▷ ▷ ▷



A - *ロッカー・スイッチ*
B - *ロー・レンジ作動中*
C - *センター・ディファレンシャル・ロック完全作動中*

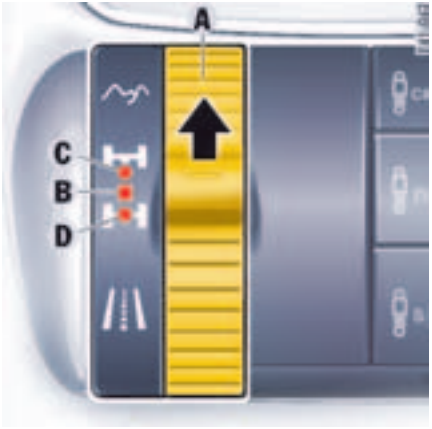
ロー・レンジでのセンター・ディファレンシャル・ロック完全作動

知識：

センター・ディファレンシャル・ロックが完全作動状態になると、フロント・アクスルとリア・アクスル間に回転数の差がなくなります。たとえば、フロントの左右ホイールが凍結した路面またはぬかるんだ路面でトラクションを失った場合、オートマチック・パワー・ディストリビューション機能により動き続けることができます。

▷ ロッカー・スイッチ**A**を1段階ずつ押し、センター・ディファレンシャル・ロックの作動がメータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに表示され、インジケータ・ランプ**B**および**C**が点灯することを確認します。

センター・ディファレンシャル・ロックはオートマチック・コントロール・システムにより完全作動状態に切替わります。



A - *ロッカー・スイッチ*
B - *ロー・レンジ作動中*
C - *センター・ディファレンシャル・ロック完全作動中*
D - *リア・ディファレンシャル・ロック完全作動中*

ロー・レンジでのリア・ディファレンシャル・ロック完全作動

知識：

リア・ディファレンシャル・ロックが完全作動状態になると、左右リア・ホイール間に回転数の差がなくなります。たとえば、リアの片方のホイールが凍結した路面またはぬかるんだ路面でトラクションを失った場合、オートマチック・パワー・ディストリビューション機能により動き続けることができます。

▷ ロッカー・スイッチ**A**を1段階ずつ押し、リア・ディファレンシャル・ロックの作動がメータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに表示され、インジケータ・ランプ**B**、**C**および**D**が点灯することを確認します。

センター・ディファレンシャル・ロックおよびリア・ディファレンシャル・ロックはオートマチック・コントロール・システムにより完全作動状態に切り替わります。

知識：

リア・ディファレンシャル・ロックはエンジンが動いている時のみに作動します。

油圧解除式アンチロール・バー

オフロードを走行する際に、フロントおよびリア・アンチロール・バーを解除してトラクションと乗り心地を向上させることができます。アンチロール・バーを解除すると、ホイールの動きが良くなります。

アンチロール・バー解除の条件

— ロー・レンジを選択してください。

ホイールの動きや横方向加速度が大きい場合には、アンチロール・バーが解除できません。

解除

▷ ボタン**E**を押します。
アンチロール・バーが解除されると、インストルメント・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに表示が出るとともに、インジケータ・ランプ**F**が点灯します。
解除手順進行中には、ボタンに内蔵されたインジケータ・ランプが**数回点滅**します。
アンチロール・バーが解除されます。

知識：

40km/h以上の速度では、アンチロール・バーを手動で解除することはできません。

接続

▷ ボタン**E**を押します。
接続プロセス進行中には、ボタンに内蔵されたインジケータ・ランプ**F**が**数回点滅**した後、消灯します。
アンチロール・バーが接続されます。

知識：

速度が**50km/h**を上回るか、横方向加速度が大きい場合は、アンチロール・バーは自動的に連結されます。

知識：

アンチロール・バーが連結すると、連結音が聞こえます。
気温が−20℃未満のときは、アンチロール・バーの連結にはある程度の時間がかかります。

警告灯および警告メッセージ

システムに故障が発生した場合

- ボタンに内蔵されたインジケータ・ランプが点灯し続けます。
- インストルメント・パネルの警告灯が点灯します。
- インストルメント・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイにメッセージが表示されます。

▷ 状況の変化に合わせて慎重に運転してください。
システムの故障修理に関しては正規ポルシェ販売店にお問い合わせください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店で実施されるようお願い致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

▷ 「警告灯および警告メッセージ」（104ページ）を参照してください。

オフロード走行プログラムからオンロード走行プログラムへの切替え

▷ 車両の速度を30km/h以下にするかまたは停止させます。

▷ セレクタ・レバーを“**N**”レンジに入れます。

▷ インジケータ・ランプ**B**、**C**、**および必要ならば****D**が消灯するまで、ロッカー・スイッチ**A**を後方に押してください。
切替え実施中に、インストルメント・パネルおよびロッカー・スイッチ横のインジケータ・ランプ**B**が**数回点滅**します。
これでハイ・レンジに切替わります。

⚠ 危 険

セレクタ・レバーは走行プログラムの切替え時には、固定されます。上り坂を走行中に、走行プログラムの切替えがまだ完了していない状態でギヤ・チェンジを行うと、車両の後部が沈み、前部が浮いて、車両が「立った」状態、または後方へ車両ごと転倒する恐れがあります。下り坂を走行中にギヤ・チェンジを行うと、ドライバーの意図とは別に車両が加速する恐れがあります。

▷ ブレーキを通常よりも慎重に操作してください。

▷ 「パワー・トランスミッションおよびランニングギヤ・コントロール・システム」（211ページ）を参照してください。

パワー・トランスミッションおよびランニングギヤ・コントロール・システム

パワー・トランスミッションおよびランニングギヤに作用するコントロール・システムは、車両内で複雑に連携しています。この連携により最適なドライビング・ダイナミクスを実現するとともに路上安全性を最大限に高めています。
以下のシステムが含まれています。

システム／名称	適用範囲
PTM ポルシェ・トラクション・マネージメント	— フルタイム4WD — 電子制御センター・ディファレンシャル・ロック — オートマチック・ブレーキ・ディファレンシャル（ABD） — トラクション・コントロール・システム（TCS） — リダクション・ギヤ／ロー・レンジ
PTM Plus ポルシェ・トラクション・マネージメント・プラス	PTMの特性に加えて、以下のPTM Plusの特性が追加されます。 — 電子制御リア・ディファレンシャル・ロック — 油圧解除式アンチロール・バー
PSM ポルシェ・スタビリティ・マネージメント	— スタビリティ・マネージメント・システム — アンチロック・ブレーキ・システム（ABS） — トラクション・コントロール・システム（TCS） — オートマチック・ブレーキ・ディファレンシャル（ABD） — エンジン・ドラッグ・トルク・コントロール（MSR）
エア・サスペンション レベル・コントロールおよび自動車高調整付き	— ショック・アブソーバ内蔵全荷重式エア・スプリング・ストラット — プレッシャ・アキュムレータ付きエア・サプライ・システム
PASM ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント	— 無段階補正コントロール付きショック・アブソーバ・システム

ポルシェ・トラクション・マネージメント（PTM）

ポルシェ・トラクション・マネージメントは前後方向および横方向のダイナミクスに影響するように設計されたフルタイム4WDコントロール・システムです。ポルシェ・スタビリティ・マネージメント・システム（PSM）に密接に連携しています。

PTMによりフロントおよびリア・アクスルの4個の駆動ホイールに最適な出力配分がなされます。システムがトランスファ・ケースおよびリア・ディファレンシャルのロック・コントロール機能に作用し、最適なトラクションを実現します。PTMは常時作動しています。PSMとは異なり、解除することはできません。

PTMのメリット

- 車両のトラクション、走行安全性、ステアリング能力が明らかに改善されます。
- 性能限界値付近で運転している場合、よりコントロールしやすくなります。
- 直進安定性が向上します。
- 上記の特徴によりランニングギヤのスポーティな設定が可能になります。
- TCSおよびABDにより全ホイールのトラクションが向上します。

⚠ セーフティ・ノート

PTMが装着されていても、道路、天候条件、交通状況に応じた責任ある運転をこころがけてください。

安全性は向上していますが、無謀な運転は避けてください。PTMで、車両の物理的限界を克服することはできません。また、速度の出し過ぎによる事故の危険性を減少させることもできません。

フルタイム4WD

4WDでは、駆動力がフロントおよびリア・アクスルに可変配分されます。
フロントおよびリア・アクスル間の駆動力分配およびホイール回転数の補正はトランスファー・ボックスが行います。

駆動力の分配はフロントおよびリア・アクスル間のホイール回転数の差に基づいています。トランスファー・ボックスは悪路でも駆動力が最適なバランスで配分されるように常時制御しています。

フルタイム4WDにより最適なハンドリングおよび優れた安定性が確保されます。

⚠ セーフティ・ノート

4WDが装着されていても、道路、天候条件、交通状況に応じた責任ある運転をこころがけてください。

安全性は向上していますが、無謀な運転は避けてください。4WDで、車両の物理的限界を克服することはできません。また、速度の出し過ぎによる事故の危険性を減少させることもできません。

オートマチック・ブレーキ・ディファレンシャル（ABD）

ABDシステムはフロントおよびリア・アクスルを個別に制御します。いずれかのアクスルの一方のホイールがスピンし始めたとき、そのホイールにブレーキがかかり、もう一方のホイールが駆動できるようになります。
ABDは走行状況の違いを認識し、その状況に合わせて制御方法を選択します。水平な砂利道で発進する場合など、推進力がほとんど必要ない状況では、トラクション・コントロールが低エンジン回転域から作動します。上り坂での発進や急加速時など、大きな推進力が必要な場合、その状況に応じてABDが使用されます。
ロー・レンジ・モードでは特殊オフロード・プログラムが使用されます。

トラクション・コントロール・システム（TCS）

トラクション・コントロール・システムによりエンジン出力を調整することで、ホイールのスピンを防ぎ、レーン維持性および走行安定性が得られます。

ポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）

PSMは極端な条件での運転時に車両を安定させるためのアクティブ・コントロール・システムです。PSMはポルシェ・トラクション・マネージメント・システム（PTM）と同期して作動します。

PSMはABD、TCSの両方を作動させ、かつアンチロック・ブレーキ・システム（ABS）やエンジン・ドラッグ・トルク・コントロール・システム（MSR）も総合的に機能させます。

⚠ セーフティ・ノート

PSMは変化する路面状況において走行安定性を向上させるためのもので、決して無謀な運転から事故を防ぐためのものではありません。

PSMが装着されていても、道路、天候条件、交通状況に応じた責任のある運転をこころがけてください。PSMで車両の物理的限界を克服することはできません。また、速度の出し過ぎによる事故の危険性を減少させることもできません。

PSMのメリット：

- 変化に富んだ路面状況、運転状況においても最適な車両安定性を確保します。
- コーナリング中のドライバーがアクセル・ペダルやブレーキ・ペダルなどを放したときに起こるトラクションの損失を補います。
- PSMは車線変更や、急なコーナリング、連続したカーブなどの運転状況から車両安定性を確保します。
- コーナリング時や、変化に富んだ路面状況下でのブレーキ時の車両安定性を確保します。

▷▷▷

作動準備

PSMはエンジンを始動する度に作動可能な状態になります。

機能

タイヤ、ブレーキ、ステアリング・システムおよびエンジンに取付けられたセンサが下記の点をモニタしています。

- 走行速度
- 車両進行方向
- 横方向の加速度
- 縦方向加速度
- ヨー・モーメント

PSMは各センサの値から運転者の望む車両進行方向を割り出します。その後PSMは運転者の望む方向（ステアリング位置）と実際の車両進行方向を割り出し、必要に応じて、個々のタイヤを制動します。必要と判断された場合、PSMはエンジンの出力および、ティプトロニック車の場合はギヤも変化させます。

下記のPSM作動状況および路面状態に応じた運転をしてください。

- インストルメント・パネルのマルチ・ファンクション・インジケータ・ランプが点灯します。
- PSM解除スイッチのインジケータ・ランプが点滅します。
- ハイドロリック・ノイズが聞こえてきます。
- 減速とステアリング力がPSMのブレーキ・コントロールに伴って変化します。
- エンジン・パワーが弱まります。
- PSMによってブレーキが作動しているときは、ブレーキ・ペダルが振動し、位置が変化します。
  ただし、踏む力を少し加えることで車両を停止することができます。

PSM作動の例：

- **車がアンダー・ステアのとき**
  コーナリング時、フロントのタイヤが滑りはじめるのをセンサが感知すると、エンジン・パワーを低下させ、必要に応じてカーブ内側のリア・タイヤにブレーキをかけ、軌道を修正します。
- **車がオーバ・ステアのとき**
  コーナリング時、リアのタイヤが滑りはじめるのをセンサが感知すると、カーブ外側のフロント・タイヤにブレーキをかけ、軌道を修正します。

PSMおよびPTM/PTMプラスの併用

車両の安定性を高めるため、PSMが作動した場合にはセンター・ディファレンシャル・ロック（PTM）およびリア・ディファレンシャル・ロック（PTMプラス）も作動（オープン）します。

知識：

PSMを解除した場合、個別ホイールへのブレーキ作動およびトラクション・コントロール・システム（TCS）も作動停止します。オートマチック・ブレーキ・ディファレンシャル（ABD）は作動を続けます。

オフロードPSM（ロー・レンジ・プログラムのPSM）

ロー・レンジが作動した場合、特にオフロード走行に適したオフロードPSMが作動し、トラクションを強化します。

車速が時速**35キロ**未満では、車両がアンダーステアになった場合、オフロードPSMの作動を遅らせ、ロー・レンジでの安定性を向上させます。

ブレーキの負荷が大きい場合、オートマチック・ブレーキ・ディファレンシャル（ABD）が自動的にOFFになり、ブレーキを保護します。ABDはブレーキ・システムが十分に冷えるまで作動しません。

エンジン・ドラッグ・トルク・コントロール（MSR）

スリップが激しい場合、エンジン・ドラッグ・トルク・コントロール・システムはオーバー・ランによる駆動ホイールのロックアップを防ぎます。滑りやすい路面でシフトダウンした場合も同様です。

PSMの解除

▷ センター・コンソールのスイッチ**A**を押すとPSMが解除されます。
PSM解除スイッチを押してから、PSMが解除されるまでには、若干の遅れがあります。PSM解除スイッチのインジケータ・ランプが点灯します。
PSMが解除されると、インストルメント・パネルのPSM警告灯が点灯します。またマルチ・ファンクション・ディスプレイにも警告メッセージが表示されます。

PSMを解除しても、**ブレーキ時**には一時的に作動します。

PSMを解除しても、**片方の駆動輪がスピン**するのをブレーキ制御によって防止します。

通常走行する場合はPSMを作動させてください。
次の場合にはPSMをOFFにすることをお薦め致します。

— 軟らかい路面や深い雪道を走行するとき
— ぬかるみなどからの脱出時
— スノー・チェーンを使用するとき

ポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）をOFFにすると、ティプトロニックのスリップ探知機能も作動を停止します。

警告灯

— イグニッション・スイッチをONにすると、ランプの断芯チェックのために警告灯が点灯します。

インジケータ・ランプは、PSMが作動していることを示します。
PSMが解除されているときでも、片方の駆動輪がスピンしてブレーキ制御した場合は点灯します。

— PSMに不具合が発生した場合は、警告灯が点灯し、マルチ・ファンクション・ディスプレイの警告が表示されます。
この場合、PSMは作動しません。

▷ PSMが故障したときは直ちに正規ポルシェ販売店にて点検を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

コラプシブル・スペア・タイヤ

▷ コラプシブル・スペア・タイヤを装着して走行している場合は、PSMを解除しないでください。

けん引

▷ 「けん引とけん引による始動」（322ページ）を参照してください。

知識：
PSMを解除した場合、個別ホイールへのブレーキ作動およびトラクション・コントロール・システム（TCS）も作動停止します。オートマチック・ブレーキ・ディファレンシャル（ABD）は作動を続けます。

PSMをONにする

▷ ボタン**A**を押します。しばらくしてから、PSMが作動します。
ボタンのインジケータ・ランプとPSM警告灯が消灯します。
マルチ・ファンクション・ディスプレイにメッセージが表示されます。

車両トレーラー・コンビネーション・スタビリゼーション

（輸出国によって変わります）

車両トレーラー・コンビネーション・スタビリゼーションは、トレーラー牽引時に車両を安定させるためのシステムで、ポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）の一部です。

車両トレーラー・コンビネーション・スタビリゼーションはトレーラーの不安定な挙動を検出します。そのような不安定な運転状況が検出された場合、車両トレーラー・コンビネーション・スタビリゼーションはトレーラーが安定するまで車両の4輪全てを停止させます。

車両トレーラー・コンビネーション・スタビリゼーションは全ての運転状況を安定させられるわけではありません。例えば、滑りやすい道路、またはぬかるんだ路面はトレーラーを不安定にします。高重心のトレーラーは転倒する恐れがあります。

▷ コントロール・プロセスの間は、慎重にステアリング操作してください。

▷ 「トレーラーを連結しての運転」（186ページ）を参照してください。

⚠ 危 険

予期せぬ事故を起こす恐れがあります。

車両トレーラー・コンビネーション・スタビリゼーションという装置があっても、道路条件と天候条件に応じた運転を行うことはドライバーの責任です。

より高められた安全性は、無理な運転をしてもよいということを意味しているわけではありません。運転における物理法則により定められた制限範囲を超えることは不可能であり、これは車両トレーラー・コンビネーション・スタビリゼーションを用いたとしても同様です。不適当な速度による事故の危険性は車両トレーラー・コンビネーション・スタビリゼーションを用いても減少させることはできません。

予期せぬ事故を起こす恐れがあります。

車両がトレーラーのコントロールを失った場合（例：滑りやすい路面など）、車両およびトレーラーを安定化させることは不可能です。

▷ 道路状況に応じた運転をしてください。

予期せぬ事故を起こす恐れがあります。

重心の高いトレーラーは、転倒の可能性があります。

▷ 道路状況に応じた運転をしてください。

予期せぬ事故を起こす恐れがあります。

トレーラー牽引中の過剰な速度の走行は、車両およびトレーラーのコントロールを失う可能性があります。

▷ トレーラーを装着した車両を運転する場合、道路および交通状況に適した速度で、トレーラーの負荷も考慮しながら運転を行ってください。

▷ 決して**80km/h**以上の速度で走行しないでください。

必要な条件

— トレーラー・プラグが差し込まれている

— トレーラーの整備状態が完全である

作動条件

— 車両トレーラー・コンビネーション・スタビリゼーションは、約65～180 km/hの速度でポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）がONになった状態で作動します。

▷ 各国の交通規制に従いトレーラーの牽引を行ってください。

知識：

▷ 車両トレーラー・コンビネーション・スタビリゼーションはポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）をOFFにすると非作動になります。

▷ ブレーキ・ペダルを踏むと、車両トレーラー・コンビネーション・スタビリゼーションは、ポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）がOFFの状態でも作動状態になります。

▷ 電動可倒式トレーラー・カップリングを搭載した車両は、ボール・ヒッチを完全に伸ばした状態にし、またそれを作動位置に設置してください。

ABS（アンチロック・ブレーキ・システム）

⚠ セーフティ・ノート

ABSは急ブレーキ時の車両安定性や危険回避能力を高めるための装備で、決して無謀な運転から事故を防ぐためのものではありません。

ABSが装着されていても、道路、天候条件、交通状況に応じた責任ある運転をこころがけてください。

ABSで車両の物理的限界を克服することはできません。また速度の出しすぎによる事故の危険性を減少させることもできません。

ABSの特徴として：

— **安定したステアリング・コントロール**
安定したステアリング・コントロールが得られます。

— **すぐれた走行安定性**
ホイール・ロックによる横滑りがしにくくなります。

— **最短の制動距離**
多くの場合、制動開始から停止までの距離が短くなります。

— **ホイール・ロックの防止**
フラット・スポットが生じません。

機能

ABSが最もその効果を発揮するのは、コーナリング時に危険回避のためどうしても急ブレーキが必要な状況のときです。このような状況下でもABSは、車両の方向性を保ち、安定した操舵性を確保します。

ABSは、あらゆる路面状況下での急ブレーキ時、車両が停止する直前までスリップ（ホイール・ロック）を防ぎます。

ホイールのロック点付近でブレーキをかけたとき（急ブレーキ時）にABSは作動し始めます。
このときドライバーは、ABSのコントロール状況（大変小刻みなポンピング・ブレーキをかけるような状態）をブレーキ・ペダルの脈動とノイズから感じ取ることができます。この脈動やノイズは、ドライバーが道路状況に対してスピードを調整する警告の役目をします。

警告灯

エンジン作動中にインストルメント・パネル内のABS警告灯が点灯し、マルチ・ファンクション・ディスプレイに警告が表示される場合、何らかの不具合により**ABSの作動が停止**していることを示します。

▷ このような場合には、ABSが装備されていない車両と同じように運転してください。
さらに予期せぬ悪影響をおよぼす不具合が発生するのを防止するため、直ちに正規ポルシェ販売店でABSシステムの点検を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

ABSコントロール・ユニットは、認可された正規のタイヤ径に合わせてプログラム調整されています。認可されていないタイヤを使用すると、プログラム値と異なったホイール回転スピードを検出させることになり、ABSの作動が停止します。

オフロードABS（ロー・レンジ・プログラムのABS）

ロー・レンジが作動した場合、特にオフロード走行に適したオフロードABSが自動的に作動します。

車速が**時速50km/h**未満では、オフロード走行中、ブレーキを操作すると、停止距離を短縮するためにフロント・ホイールがロックする場合があります（ホイールが路面に食い込む）。ドライバーがステアリングを操作する必要がある場合は、オフロード走行プログラムが自動的に短時間解除され、ステアリング操作ができるようになります。

ヒルホルダー ムービングオフ・アシスタント (ティプトロニックS装着車)

セレクタ・レバーが“D”および“M”レンジにある場合、上り坂に停車していても、ヒルホルダー機能により車両がバックすることがなくなります。ドライバーはブレーキをかける必要がありません。

ヒルホルダーが作動しない場合

- セレクタ・レバーが“N”または“R”レンジにあるとき
- 走行制限プログラム作動中**および**
- ホイールのいずれかが浮いた状態になっているとき（悪路などで）

▷「停止」（203ページ）を参照してください。

⚠ セーフティ・ノート

ヒルホルダー機能が装着されていても、状況に応じた責任ある運転を心がけてください。ヒルホルダー機能は、危険回避能力を高めるための装備で、決して無謀な運転から事故を防ぐためのものではありません。

ヒルホルダー機能により車両の物理的限界を克服することはできません。

凍結および滑りやすい路面状況下では、ヒルホルダーが機能しない場合があります。

エンジン・ブレーキ・サポート（下り坂走行中のアシスタンス）

エンジン・ブレーキ・サポートは、急勾配や冬季の山道などを下る場合に、最大20km/h程度の速度で走行する際にドライバーをサポートするシステムです。

下り坂走行中にアクセルを踏み込まないかぎり、ポルシェ・エンジン・ブレーキ・サポートが動作し、ブレーキを作動させます。

1輪またはそれ以上のホイールのグリップが失われると、システムはグリップを維持しているホイールにブレーキをかけます。

通常のブレーキと同様、エンジン・ブレーキ・サポートの効果は、路面状態（凍結路やグリップの低い路面など）に左右されます。

⚠ 警 告

滑りやすい路面では、エンジン・ブレーキの効果が小さくなり事故を起こす恐れがあります。

▷ 状況に応じた責任のある運転を心がけてください。

条件：

— 下り坂を走行中、アクセルが踏まれていないこと。

— 速度が20km/hを超えないこと。

— セレクタ・レバーが“**D**”、“**M**”または“**R**”の位置になっていること。

知識：

エンジン・ブレーキ・サポートは、前進、後退の区別なく、下り坂で作動します。

テスト・メータでの点検

パワー・テスト

シャシ・ダイナモ・メータによるパワー・テストはポルシェ社では容認されていません。

ブレーキ・テスト

ブレーキ・テストはハイ・レンジでのみ実施してください。必ずプレート型テスト・メータまたはローラー型テスト・メータを使用してください。

ローラー型テスト・メータでは以下の限界値を超えないようにしてください。

— テスト速度7.5km/h

— テスト時間20秒

パーキング・ブレーキ・テスト

ブレーキ・テスターでのパーキング・ブレーキ・テストの際は、必ずイグニッション・スイッチをOFFにして、セレクタ・レバーを“**N**”レンジまたはシフト・レバーをニュートラルにしてください。

オン・ザ・カー・ホイール・バランス

ホイールの最終バランス調整を行う場合は、車両をリフト・アップしてホイールが自由に回転できるようにしてください。

オフロード走行

オフロード走行に先立って本章を熟読してください。

この車の優れたオフロード性能がおわかりいただけるとともに、目的地までの安全走行を可能にします。

まず、適度なオフロードで練習されることをお勧めします。

スポーツ・デザイン・パッケージ装着車

⚠ 警 告

スポーツ・デザイン・パッケージ装着車の場合、フロント、リヤ、サイド下部の各部品は地上高が低目に設定されており、且つ塗装が施されているため、オフロード走行によりこれらの部品が損傷する恐れがあります。

- ▷ オフロード走行時には、部品が損傷しないよう十分注意をして運転してください。
- ▷ 障害物と車両下面の間に十分な空間があることを確認してください。
- ▷ 水たまりや浅瀬の走行は避けてください。
- ▷ サイド・メンバ・トリムを足掛けとして使用しないでください。

知識：

オフロード走行では、通常運転時よりもはるかに激しく車両部品が摩耗します。走行のたびに専門家による点検およびメインテナンスを受けることが車両を正しく安全に機能させることの必須条件です。

砂粒、ほこりの粒子など研磨作用のある物質がブレーキ内に入り込むと、過度の摩耗または予測不能なブレーキ動作を引起こすことがあります。

オフロード走行のルール

- ▷ 「地上高」（334ページ）を参照してください。
- ▷ ロー・レンジを作動させてください。
- ▷ 荷物はしっかり固定します。「荷物の積載」（176ページ）を参照してください。
- ▷ 路面状況が運転席から確認しづらい場合、一旦車外に出て歩いて状況を確認した上で十分慎重に運転してください。このように確認することで、障害物が発見しやすくなり、車両への損傷を防ぐことができます。
- ▷ 必ずエンジンを作動させて走行してください。
  ステアリング・アシストはエンジン作動時にのみ使用することができます。
- ▷ ゆっくり一定速度で運転してください。
- ▷ 常に全ホイールが接地した状態で運転してください。

▷ 水たまりや浅瀬を走行する場合は、水の深さ、底の状態、流速を確認してください。

▷ 岩、穴、丸太、わだちなどの障害物に十分注意してください。

▷ 走行中には、スライディング／チルティング・ルーフまたはパノラマ・ルーフ・システムおよびサイド・ウィンドウを必ず閉じてください。

▷ 路肩に目印がある場合は、そこから外れないようにしてください。

▷ 自然を大事にしてください。
進入禁止標識には必ず従ってください。

オフロード走行の走行システム

オフロード走行では特別仕様の走行プログラムまたはパワー・トランスミッションおよびランニングギヤ・コントロール・システムが使用できます。

— オフロード・プログラム、ロー・レンジ

— オフロードPSM

— オフロードABS

— センター・ディファレンシャル・ロック

— リア・ディファレンシャル・ロック

▷ 「パワー・トランスミッションおよびランニングギヤ・コントロール・システム」（211ページ）を参照してください。

オフロード走行前

タイヤ

▷ トレッドの深さが十分あるか、タイヤ空気圧は適正か点検します。

▷ 損傷がないか点検し、トレッドに異物（石など）がある場合は取除きます。

▷ バルブ・キャップが紛失している場合は新しいものを取り付けます。

リム

リムにへこみや損傷がある場合はオフロード走行前に取替えてください。

オフロード走行後

オフロード走行では通常のオンロード走行時より車両に大きな負担がかかります。

オフロード走行後には車両点検を行うことをお勧めします。見えない損傷でも事故の危険があり、走行快適性も損なわれます。車両点検を行うと、損傷の拡大を防ぐことができます。

⚠ 注 意

車両の損傷は後に乗員や通行者に事故を引き起こす原因になる恐れがあります。

▷ 故障の疑いがある場合は正規ポルシェ販売店で点検してください。

▷ タイヤの異常（亀裂、損傷、空気圧過多、異物の挟まり）がないか確認してください。必要な場合は、タイヤを交換してください。

▷ 損傷がある場合は正規ポルシェ販売店でお早めに修理してください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

▷▷▷

推奨手順

- ▷ ロー・レンジを解除します。
- ▷ ヘッドランプおよびテールランプを清掃し、損傷していないか点検します。
- ▷ フロントおよびリアのナンバー・プレートを清掃します。
- ▷ ウォーター・ジェットでタイヤ・トレッドを洗浄して異物を取除きます。
- ▷ ウォーター・ジェットでホイール、ホイール・ハウジング、車両下周りを洗浄します。
- ▷ 車両に木の葉や枝などが挟まっていないか点検します。
  これらは車両火災の原因となる恐れがあります。また、フューエル・ライン、ブレーキ・ホース、アクスル・ジョイント・ブーツ、ドライブ・シャフトなどを損傷するおそれがあります。
- ▷ オフロード走行後にはフロア部品全体、タイヤ、ボディ、ステアリング、ランニングギヤ、エキゾースト・システムが損傷していないか、必ず点検してください。
- ▷ ぬかるんだ道、砂道、水たまりや浅瀬などを長時間走行した場合は、ブレーキ・ディスク、ホイール、ブレーキ・パッド、アクスル・ジョイントを点検して、清掃してください。
- ▷ オフロード走行後に振動が激しくなった場合は、ホイールに異物がないか点検してください。
  異物があるとホイール・バランスが損なわれ、振動の原因になる恐れがあります。異物を取除くと、振動が解消する場合があります。

上り坂走行

⚠ 危 険

車両が転倒した場合、重傷や致命傷、または物品損傷の恐れがあります。

- ▷ 上り坂走行時には方向転換しないでください。
- ▷ 勾配がきつく上れない場合は、必ずリバース・ギヤに入れてバックしてください。
- ▷ 土手や上れそうにない急坂路には進入しないてください。
- ▷ 車両が傾き始めた場合、すぐに傾いた側にステアリングを切ってください。
- ▷ 上り坂走行時にアイドリング状態やニュートラル状態で車両を自然にバックさせないでください。
  この状態でフット・ブレーキを使用するのは非常に危険です。

知識：

▷ 急坂路を上り下りする場合は、ロー・レンジを作動させてください。

知識：

▷ 走行中はマニュアルによるギヤ・チェンジは行わないでください。また、停車もしないでください。

▷ エンジンを高速で回転させないでください（最大2,500rpm）。

上り坂でのトラクション

知識：

▷ ロー・レンジを作動させ、必要に応じてディファレンシャル・ロックを使用してください。

知識：

▷ 上り坂走行時にはアクセル・ペダルの踏み込みを加減して、ホイールが十分なトラクションを得られる（スピンしない）ようにしてください。

▷ エンジンを高速で回転させないでください（最大2,500rpm）。

▷ スピードを落として運転してください。

下り坂走行

⚠ 危 険

車両が転倒した場合、重傷や致命傷、または物品損傷の危険があります。

▷ 下れそうにない急坂路には進入しないてください。

▷ 下り坂はステアリングを直進位置に保ち、スピードを落として走行してください。

▷ 車両が傾き始めた場合、すぐに傾いた側にステアリングを切ってください。

▷ 下り坂をアイドリング状態やニュートラル状態で自然に下りないでください。

▷ エンジン・ブレーキを使用してください。
エンジン・ブレーキでは十分な制動効果が得られない場合はフット・ブレーキを軽く踏込んでください。

知識：

▷ ロー・レンジを作動させてください。オフロードABSが自動的に作動します。下り坂走行には、上り坂走行と同様の基本原則が当てはまります。

知識：

▷ 走行中はマニュアルによるギヤ・チェンジは行わないでください。また、停車もしないでください。

▷ エンジンを高速で回転させないでください（最大2,500rpm）。

オフロードABSの特別回路により、フロント・ホイールが意図的に短時間ロックアップされ、ゆるんだ路面に効果的に食い込みます。
ロックされたホイールはスリップし、ステアリング操作ができなくなります。

▷ 舗装されていない急坂路を下る場合は、ブレーキ操作を慎重に行い、滑らないように注意してください。

水たまりや浅瀬の走行

▷ 「地上高」（334ページ）を参照してください。

⚠ 危 険

車内に水が浸入した場合、水没する恐れがあります。また、水の浸入により、エンジンやアクセサリーが損傷する恐れがあります。

▷ 水たまりや浅瀬を走行する場合は、水の深さ**A**、底の状態、流速を確認してください。深さ**A**が50cm（レベル・コントロールおよび車高調整付きエア・サスペンション装着車の場合は深さ55.5cm）を超える場所では走行しないでください。

▷ 運転前にドア・シルおよびラバー・シールを点検してください。

▷ 深く流れの速い場所には進入しないでください。山間部の小川など、深く流れの速い場所では、意図したコースから外れてしまう場合があります。

▷ フロントに波をかぶらないように適切な速度で走行してください。

▷ 水たまりや浅瀬を走行中はけっしてドアを開かないでください。

汚れが付着するとブレーキの効きが悪くなります。

▷ ブレーキが汚れていないか点検し、必要に応じて清掃してください。

水たまりや浅瀬を長時間走行すると、ドライブ・ベルトが滑りやすくなり、ステアリング・アシストが故障する恐れがあります。

▷ ステアリング・アシストが故障すると、ステアリングに大きな力が必要になります。

電機系統が故障する恐れがあります。

▷ 塩水の中を走行するのは避けてください。

知識：

▷ エンジンを高速で回転させないでください（最大2,500rpm）。

▷ 走行中はマニュアルによるギヤ・チェンジは行わないでください。また、停車もしないでください。
水たまりや浅瀬での発進は、抵抗が大きく地面がぬかるんでいるため、困難になる場合があります。

▷ 水たまりや浅瀬を渡る場合は浅い場所から歩く速度で進入してください。

▷ 水の状態を確認した後、最短距離で渡ってください。

▷ 高速で水たまりや浅瀬に進入しないでください。フロントに波をかぶりエンジンやアクセサリーが損傷するおそれがあります。

▷ 状況の変化に対処できるよう十分慎重に運転してください。

▷ ゆっくり一定の速度で走行してください。

▷ 方向転換しないでください。

▷ 渡り切れない場合はリバース・ギヤに入れて車両をバックして水から出てください。

長時間水たまりや浅瀬を走行すると、サーボ・ポンプやオルタネータが故障する恐れがあります。

▷ サーボ・ポンプが故障すると、ステアリング操作にかなりの力が必要になります。

知識：

水たまりや浅瀬を走行した後は特別な点検が必要になります。

▷ タイヤ・トレッドから泥を落としてください。

▷ 水たまりや浅瀬を走行した後はブレーキを軽くかけて、ブレーキを乾かしてください。

隆起

▷ 「地上高」（334ページ）を参照してください。

知識：

▷ ロー・レンジを作動させ、必要に応じてディファレンシャル・ロックを使用してください。

知識：

▷ 隆起部分に差し掛かる前にアクセル・ペダルをゆるめて、慣性運動を利用して隆起を越えてください。隆起を越える際に車両がジャンプしなくなり、下り部分への激しい着地を防ぐことができます。

▷ エンジンを高速で回転させないでください（最大2,500rpm）。

障害物

⚠ 注 意

障害物を乗り越える際に誤った方法を取ると、下周りやシャシ部品を損傷する恐れがあります。

▷ 車両の地上高を常に念頭においてください。

▷ 木の幹や岩などの障害物を乗り越える場合は、一方のフロント・ホイールが障害物の中央を通るようにゆっくり走行してください。

▷ リア・ホイールも同様にして障害物を乗り越えてください。

操作手順

▷ ロー・レンジを作動させ、必要に応じてディファレンシャルをロックします。

知識：

▷ 必要に応じて同乗者の指示を受けてください。

▷ エンジンを高速で回転させないでください（最大2,500rpm）。

▷ スピードを落として走行してください。

砂上走行

知識：

▷ ロー・レンジを作動させ、必要に応じてディファレンシャル・ロックを使用してください。

知識：

柔らかい砂道はオフロード走行の中でも特に運転しにくい路面です。

運転を誤ると、すぐに立ち往生することになります。

▷ 速やかに通過し、けっして途中で停車しないでください。立ち往生することになります。

▷ わだちが浅く、砂で覆われていない場合、また地上高に余裕がある場合は、わだちに沿って走行してください。
「地上高」（334ページ）を参照してください。

柔らかい砂道の傾斜を運転する場合：

▷ ロー・レンジを作動させ、マニュアル・セレクション・モード“**M**”を使用してください。

万一車両の動きが取れなくなった場合：

▷ ホイール・スピンは避けてください。木の枝やマットなどを使用して、トラクションを確保し、脱出してください。

わだち

オフロードや砂利道の多くにはわだちができています。

▷ 「地上高」（334ページ）を参照してください。

⚠ 注 意

深いわだちを走行する場合は、車両の下周りを損傷する恐れがあります。

▷ 車両の地上高を常に念頭においてください。

▷ 深すぎるわだちは走行しないでください。

知識：

▷ ロー・レンジを作動させ、必要に応じてディファレンシャル・ロックを使用してください。

知識：

▷ 片方のホイールが脇の草の上を通過するように走行すると、比較的安全にわだちを通過することができます。

▷ エンジンを高速で回転させないでください（最大2,500rpm）。

▷ スピードを落として走行してください。

レベル・コントロールおよび車高調整付きエア・サスペンション

エア・サスペンション装着車ではマニュアルで5種類の車高調整ができます。
事前に調整された車高は、車速に応じて自動的に調整されます。
重い荷物を積んでいても、車高は自動的に一定の高さに調整されます。

知識：
車両をオフロード・レベルおよびスペシャル・オフロード・レベルに設定して公道を走行しないでください。

知識：
レベル・コントロールを何度も切替えると、コンプレッサーがオーバーヒートすることがあります。この場合、コンプレッサーが冷えるまで数分間待ってから、レベル・コントロールを使用してください。

ノーマル・レベル

ノーマル・レベルの地上高は約217mmです。

オフロード・レベル

この設定はオフロードや野原、林道などに適しています。
ノーマル・レベルより約26mm高い設定になっています。
オフロード・レベルは時速約80キロ以下で走行する場合にマニュアルでのみ設定できます。
このスピードを超えると、自動的にノーマル・レベルに戻ります。
ロー・レンジを作動させると、車高は自動的にオフロード・レベルまで上昇します。

スペシャル・オフロード・レベル

この設定は最大地上高が必要とされる特に厳しい地形にのみ使用してください。ノーマル・レベルより約56mm高い設定になっています。

スペシャル・オフロード・レベルは時速約30キロ以下で走行する場合にのみ設定できます。

このスピードを超えると、自動的にオフロード・レベルに戻ります。

ロー・レベル

この設定は高速走行に適しています。車速が時速約125キロを超えると、車高はノーマル・レベルより約27mm下がります。
車速が時速約40キロ以下になると、自動的にノーマル・レベルに戻ります。

ローディング・レベル

⚠ 注 意

ランニングギヤの部品やユニット、車両下周りを損傷する恐れがあります。

車両をローディング・レベルにしたまま、縁石などから発進すると、地上高が不十分なため車両の下周りが地面に接触することがあります。

▷ 発進する前には必ずノーマル・レベルに切替えてください。

この設定はラゲッジ・コンパートメントへの積載を容易にするものです。ノーマル・レベルより約60mm低い設定になっています。
車速が時速約5キロを超えると、自動的にノーマル・レベルに戻ります。

車高のマニュアル設定

設定の前に

— イグニッションをONにします。

— ドアはすべて閉めます。

設定

▷ ロッカー・スイッチを必要な方向に動かします。
次の高さ設定になります。

設定レベルの表示

車高変更中はロッカー・スイッチ横のそれぞれのレベルを示すインジケータ・ランプが点滅します。設定が終了するとインジケータ・ランプは点灯状態になります。車高の変更はメータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイにも表示されます。

例外

— ノーマル・レベルからロー・レベルに、またはその逆に自動的に変更された場合は、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイには表示されません。

知識：

イグニッションをOFFにした場合は、その時に設定されているレベルがメモリーに保存されます。

車高を上げる

操作1：オフロード・レベル

操作2：スペシャル・オフロード・レベル

▷▷▷

車高を下げる

操作1：ロー・レベル

操作2：ローディング・レベル

警告メッセージ

システムが故障した場合、またはコンプレッサーがオーバーヒートして停止した場合には、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイにさまざまなメッセージが表示されます。

▷ 「警告灯および警告メッセージ」（104ページ）を参照してください。

▷ 状況の変化に合わせて慎重に運転してください。

▷ システムの故障修理に関しては正規ポルシェ販売店にお問合わせください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

▷ 過負荷防止機能が原因でコンプレッサーが停止した場合は、コンプレッサーが冷えるまで数分間待ってください。コンプレッサーが十分冷えると、システムが使用できるようになります。

コントロール・システムを解除した場合、または応急スペア・タイヤを装着した場合、警告メッセージが表示されます。これは故障を示すものではありません。必要な手順が終了すると警告メッセージは消えます。

ジャッキ・アップ

ジャッキ・アップが必要な場合

▷ マニュアルでノーマル・レベルに設定し、レベル・コントロールを解除してください。

レベル・コントロールの解除

1. イグニッションをONにします。
2. ロッカー・スイッチを前方に5〜10秒押します。
   メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイにメッセージが表示され、ジャッキ・アップができます。

レベル・コントロールの再作動

1. イグニッションをONにします。
2. ロッカー・スイッチを前方に5〜10秒押します。

または

3. 車両を発進させます。
   レベル・コントロールは自動的に作動します。

カー・トレイン、フェリー、カー・トランスポータによる車両の運搬

▷ 車両はホイールのみで固定してください。

ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント（PASM）

メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイにさまざまなメッセージが表示されます。

▷ 「警告灯および警告メッセージ」（104ページ）を参照してください。

ボタンを押して3種類のランニングギヤ設定が選択できます。

— コンフォート

— ノーマル

— スポーツ

ランニングギヤ設定の「コンフォート」または「ノーマル」を選択した場合、スポーティな運転を行うと自動的に「スポーツ」設定に切替わります。

ランニングギヤ設定の表示

選択したランニングギヤ設定ボタンのランプが点灯します。
さらに、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに選択したランニングギヤ設定が約12秒間表示されます。

警告メッセージ

システムに故障が発生した場合、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイにメッセージが表示されます。

▷ 状況の変化に合わせて慎重に運転してください。

▷ システムの故障修理に関しては正規ポルシェ販売店にお問合わせください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

ランニングギヤ設定の選択

1. イグニッションをONにします。
2. 適切なボタンを押します。

注意：
イグニッションをOFFにした場合は、その時に選択されているランニングギヤ設定がメモリーに保存されます。

車のお手入れ

メインテナンス上の諸注意 …… 236
エンジン・オイル …… 237
エンジン・オイル・レベル …… 238
クーラント・レベル …… 240
ブレーキ液レベル …… 242
ウォッシャ液 …… 243
エア・クリーナ …… 245
室内防塵用フィルタ …… 245
ワイパー・ブレード …… 246
燃料 …… 249
予備燃料タンク …… 250
エミッション・コントロール・
システム …… 251
車のお手入れ …… 252

メインテナンス上の諸注意

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店で実施される事をお願い致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

お客様ご自身でメインテナンスされる場合につきましても、細心の注意を払っていただくようお願い致します。このような注意を払ってはじめて信頼できる走行が保証できます。

不適切な整備を行いますと、保証期間中でも保証が適用されないことがあります。

パワー・テスト

シャシ・ダイナモ・メータによるパワー・テストはポルシェ社では承認されていません。

⚠ 警 告

メインテナンス作業は危険を伴いますので十分に注意してください。致命的な事故、怪我および火災になる恐れがあります。

- ▷ バッテリや燃料系統の近くでは、喫煙したり火気を近付けたりしないでください。
- ▷ 整備は、屋外か、室内でも換気のよい状況で行ってください。
- ▷ 加熱しているエンジン部品の近くで作業をする場合は、火傷の危険性がありますので十分注意してください。
- ▷ エンジン・ルーム内の部品の整備をする前にエンジンを停止し、十分冷やしてください。
- ▷ エンジンをかけたまま作業しなければならない場合は、必ずパーキング・ブレーキをかけ、**かつ**セレクタ・レバーを**“P”**の位置にします。
- ▷ 手、指、衣服の一部（ネクタイ、袖など）や装飾品、長い髪などがファン、ドライブ・ベルト、その他の可動部に絡まることのないように、特に注意してください。
- ▷ ラジエータおよびラジエータ・ファンは車両の前側にあります。
  ラジエータ・ファンは、エンジンが停止していても、クーラントの温度に応じて作動することがあります。
  ラジエータ・ファン付近で作業をする場合は、エンジンおよびイグニッションをOFFにして、怪我をする危険性がありますので十分注意して作業をしてください。
- ▷ イグニッションがONのときは、点火装置に接続されている全てのケーブルとリード線に高電圧がかかっていますので、特に注意が必要になります。
- ▷ もし、車の下に入って作業する場合は、必ず強固なリフトで車体を持ち上げてください。ジャッキを使用することは危険ですのでおやめください。

  エア・サスペンション装着車：

  「レベル・コントロールおよび車高調整付きエア・サスペンション」（230ページ）を参照してください。
- ▷ エンジン・オイル、ブレーキ液またはクーラントなどの液体は健康を害するので、取扱いの際は次のことに注意してください。
  これらの液体はお子様の手の届かない所で保管してください。
  廃棄する場合は、法規に従ってください。

エンジン・オイル

ポルシェ車のエンジンはオイル添加剤を必要としません。

▷ エンジン・オイルはポルシェ社によってテストされ、認可されたもののみを使用してください。正規ポルシェ販売店に、お車のエンジンに適合するエンジン・オイルをお尋ねください。

ポルシェ社指定のエンジン・オイルであれば、互いに混ぜることができますが、銘柄によって組成が異なりますので、オイル交換の前後で注ぎ足す必要の生じた場合は、できるだけ同じオイルを使用してください。

▷ ほこりの多い場所を走行する場合は、頻繁にエンジン・オイルを交換してください。

エンジン・オイル・グレード

エンジン・オイルは潤滑油としてだけでなく、エンジン内部をきれいに保ち、燃焼によってエンジン内部に侵入するほこりを中和し、腐食からエンジンを保護するという役目も果たしています。これらの機能を果たすために、専用に開発された添加剤が加えられています。
鉱物油は原油から直接つくられたものですが、これらのオイルをさらに精製（水素化分解オイル）、または様々な化学的工程をへて、完全に転化（合成オイル）することができます。これらのオイルは鉱物油に比べて、より効果的です。
ポルシェ社では、水素化分解オイルまたは合成オイルだけを推奨しています。

マルチレンジ・ライト・ランニング・オイル

マルチレンジ・オイルは、その特性上、低温時の粘度が低く、温度変化に対する安定性が高く、さらに高温時の揮発性が低いことが特徴です。このような過酷な条件を満たすオイルだけを、適正な温度条件下でマルチレンジ・オイルとして使用できます。詳しくは、「温度レンジによるオイル」を参照してください。
このマルチレンジ・オイルは、低温時の粘度が低いことから、エンジンの回転抵抗を低減することができます。このため、ポルシェ社ではマルチレンジ・ライト・ランニング・オイルと呼びます。

現在、ポルシェ社では、マルチレンジ・ライト・ランニング・オイルだけを推奨しています。

粘度

エンジン・オイルは冷えると粘度が高く、温まると粘度が低くなります。各オイルの粘度はSAE級で表示されます。
低温粘度を表すSAE級は、数字と“W”（winterの“W”）という文字で表されます。例えば、0Wと5Wでは、5Wオイルの方が、0Wオイルに比べて粘度が高くなります。
低温粘度のSAE級に続く数字が、高温粘度のSAE級を表します。例えば、40と50では、40オイルの方が、50オイルに比べて粘度が低くなります。
2種類の粘度を持つオイルは、マルチ・グレード・オイルと呼ばれ、SAE 0W-40、5W-40、5W-50などと表します。

例：

マルチ・グレード・オイルSAE 0W-40と5W-40は、高温時の粘度が同じです。しかし低温時には、5W-40の方が、粘度が高くなります。
5W-40と5W-50では、低温時の粘度が同じです。しかし高温時には、5W-40の方が、粘度が低くなります。

温度レンジによるオイル

−25℃以上：
SAE 0W-40、5W-40、5W-50（ポルシェ社指定品）

−25℃以下：
SAE 0W-40（ポルシェ社指定品）

ポルシェ社によって認可されたオイル

− ポルシェ社認可オイル・リストに記載されているオイル

詳しくは、正規ポルシェ販売店におたずねください。

エンジン・オイル・レベル

▷ オイル・レベルは定期的に点検してください。給油時および長距離運転前の点検は特に重要です。

その他の重要な情報が、他の章にも記載されています。

▷ 「メインテナンス上の諸注意」（236ページ）を参照してください。

▷ 「警告灯および警告メッセージ」（104ページ）を参照してください。

オイル・レベル警告

オイル・レベルが低い場合、オイル・レベル警告灯が点灯して知らせます。

▷ エンジン・オイル・レベル・ゲージを使用して至急オイル・レベルを点検してください。必要に応じてエンジン・オイルを補充してください。

知識：

エンジン・フードを開けてオイルを補充しなかった場合、およそ100km走行後に再度オイル・レベル警告が点灯します。

オイル・レベルの点検

⚠ 警 告

ラジエータ・ファンはエンジン停止時にも、エンジンの温度により回転することがあります。また、エンジン・ルームの加熱した部品により火傷する恐れがあります。

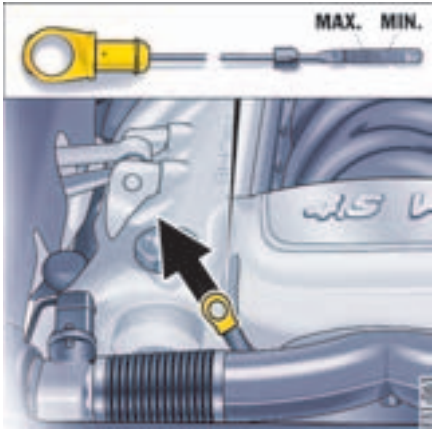
▷ エンジン・ルームの作業を行う場合は十分に注意してください。

オイル・レベルを正しく測定するには：

— 車を水平な場所に停車してください。

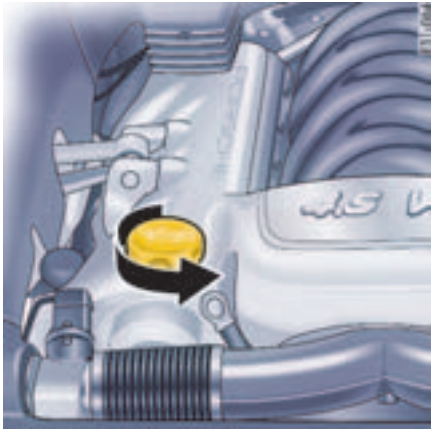
— エンジンを通常作動温度にしてから停止してください。

— エンジン・オイルがオイル・パンへ戻るまで約3分待ってください。



オイル・レベルの点検

1. エンジン・オイル・レベル・ゲージを抜取り、けばたちのないきれいな布でオイルを拭取ります。
2. エンジン・オイル・レベル・ゲージを再度チューブの中へ完全に差込み、もう一度抜取ってエンジン・オイル・レベルを読み取ります。
   エンジン・オイル・レベルが“MIN”より少なくなったり、“MAX”を超えないように注意してください。“MIN”と“MAX”の差は、約1.5リットルです。
3. エンジン・オイル・レベル・ゲージを一杯まで差込みます。



エンジン・オイルの補充

⚠ 注 意

エンジン・オイルが熱くなったエンジン部品に接触すると火災が発生する恐れがあります。また、エンジン・オイルがドライブ・ベルトに接触すると損傷する恐れがあります。

▷ エンジン・オイルを補充する場合は十分に注意してください。

1. オイル・フィラー・キャップを取外してください。
2. 慎重にエンジン・オイルを補充します。
3. 数分後にエンジン・オイル・レベル・ゲージを使用して再度エンジン・オイル・レベルを点検します。
   エンジン・オイル・レベルが“MAX”を超えないようにしてください。
4. 補充が完了したらエンジン・オイル・レベル・ゲージを一杯まで差込みます。
5. オイル補充口に慎重にキャップを取付けます。

クーラント・レベル

クーリング・システムは工場でロング・ライフ・クーラントが充填されています。このクーラントは年間を通じた腐食防止と、−35℃までの凍結防止の働きをします。

▷ ポルシェ社指定の不凍液のみを使用してください。

▷ リザーバ・タンクの透明な部分から定期的にクーラント・レベルを点検してください。

メインテナンスに関する重要な情報が、他の章にも記載されています。

▷ 「メインテナンス上の諸注意」（236ページ）を参照してください。

クーラント・レベルの点検と補充

注入口の付いたリザーバ・タンクがエンジン・ルーム左側にあります。

エンジンが冷えていて、車が水平な場所にあるとき、クーラント・レベルを**“MIN”**と**“MAX”**マークの間に保つようにしてください。

エンジン冷間時の点検

1. カバーを取外します。

2. リザーバ・タンクのキャップを慎重に開き圧力を逃がしてください。
   その後、キャップを完全に取外します。
3. クーラント・レベルを読取ります。
4. 必要に応じてクーラントを補充します。同量の不凍液と水を混ぜ合わせ、**“MAX”**マークを超えないように注入します。
   クーラント内の不凍液の割合：
   50%（−35℃までの凍結防止）
5. キャップをしっかりと締付け、カバーを取付けます。

メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示された場合のクーラントの点検

⚠ 警 告

高温のクーラントで火傷する危険があります。

▷ エンジンが熱いときに、リザーバ・タンクのキャップを開く場合には十分に注意してください。

1. カバーを取外します。
2. エンジンが熱い場合、リザーバ・タンクのキャップを布で覆います。リザーバ・タンクのキャップを慎重に開き圧力を逃がしてください。その後、キャップを完全に取外します。
3. クーラント・レベルを読取ります。
   必要に応じてクーラントを補充します。同量の不凍液と水を混ぜ合わせ、**“MAX”**マークを超えないように注入します。
   クーラント内の不凍液の割合：
   50%（−35℃までの凍結防止）

知識：

▷ エンジンが熱いとき、クーラント・レベルが **“MAX”** マークを超えた場合は、エンジンが冷えるのを待ってからもう一度点検してください。

4. キャップをしっかりと締付け、カバーを取付けます。
5. 正規ポルシェ販売店でクーリング・システムの点検を実施してください。
   ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

知識：

緊急時に水だけを補充した場合は、正規ポルシェ販売店でクーラントの割合を修正してください。

▷ クーラントの減り方が著しい場合は、クーリング・システムに漏れが発生しています。このような場合は、直ちに正規ポルシェ販売店で修理してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

ラジエータ・ファン

ラジエータとラジエータ・ファンは車両の前側にあります。

⚠ 警 告

ラジエータ・ファンは、エンジンが停止していても、クーラントの温度に応じて作動することがあるため、作業中に怪我をする恐れがあります。

▷ ラジエータ・ファン付近で作業をする場合は十分注意してください。

ブレーキ液レベル

▷ ポルシェ純正ブレーキ液またはポルシェ社の要求する性能、品質基準を満たし、認証されたブレーキ液を使用してください。

メインテナンスに関する重要な情報が、他の章にも記載されています。

▷ 「メインテナンス上の諸注意」（236ページ）を参照してください。

⚠ 警 告

ブレーキ液は有毒で、塗装を傷付けます。

▷ ブレーキ液はお子様の手の届かない場所に保管してください。

▷ ブレーキ液がこぼれた場合はただちに清浄水で洗い流してください。

▷ ブレーキ液が目に入った場合は、ただちに清浄水で数分間洗い流してください。その後、医師の診察を受けてください。

▷ 補充用ブレーキ液の容器に記載されている注意事項をよく読んで注意してください。

ブレーキ液レベルの点検

油圧ブレーキ操作システム用のフルード・リザーバ・タンクは、フロント・トランクの中にあります。

1. ドライバーでターン・ロック（**矢印**）を反時計回りに90°回し、カバーを取外します。
2. リザーバ・タンク内のブレーキ液の液面を定期的に点検してください。
   液面は、**“MIN”**と**“MAX”**の間にくるようにしてください。

液面の低下が著しい場合や**“MIN”**マークより下がった場合は、ブレーキ・システムに漏れが発生しています。

走行中にブレーキ・パッドの摩耗により液面が若干低下することがありますが、これは正常な状態です。

▷ 直ちに正規ポルシェ販売店でブレーキ系統の点検を受けてください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

ブレーキ液の交換

ブレーキ液は吸湿性があります。水分を含むと、沸点が下がり、操作状況によってはブレーキの性能に影響します。

▷ 整備手帳に指示された期間に従って、交換してください。

警告灯と警告メッセージ

以下の場合のときに、ブレーキ液警告灯が点灯し、マルチ・ファンクション・ディスプレイに警告が表示されます。

— ブレーキ液が許容範囲以下に減った場合

— ブレーキ・ペダルの踏み代が大きくなり、ブレーキ回路が不具合を起こした場合

知識：

走行中に警告灯が点滅した場合：

▷ ただちに安全な場所に停車してください。

▷ それ以上の走行を避け、最寄りの正規ポルシェ販売店で修理してください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

ウォッシャ液

フロントガラス、リア・ウィンドウ、ヘッドランプ兼用のウォッシャ液タンクはエンジン・ルームにあります。

マルチ・ファンクション・ディスプレイの警告メッセージ

ウォッシャ液が少なくなると、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。
警告メッセージはウォッシャ液の残りが約0.8リットルになると表示されます。

▷ 早めにウォッシャ液を補充してください。

ウォッシャ液の補充

ウォッシャ液タンクの容量は約7.5リットルです。

一般的に、水だけではウィンドウやヘッドランプがきれいになりません。季節に応じて凍結防止剤入りの冬用クリーナや、適切な夏用クリーナを適量添加してください。混合の割合は溶剤に付属の取扱説明書に従ってください。

▷ クリーナーはポルシェ純正を使用してください。

1. 洗浄剤の容器に記載されている情報に注意してください。
2. ウォッシャ液タンクのキャップを取外します。
3. ウォッシャ液を補充し、確実にキャップを閉めます。

パワー・ステアリング

⚠ 警 告

エンジンがかかっていない（けん引など）場合や、油圧操舵機構に異常がある場合は、操舵力はアシストされません。この場合、ステアリング操作に強い力が必要となります。

▷ けん引するときは、十分注意してください。

▷ 直ちに最寄りの正規ポルシェ販売店で修理してください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

注意：

ステアリングを一杯に切ったときに聞こえるノイズは、設計上の特性であり、ステアリング・システムの故障を示すものではありません。

パワー・ステアリング・オイルの点検

▷ ポルシェ純正パワー・ステアリング・オイルまたはポルシェ社の要求する性能、品質規準を満たし、認証されたパワー・ステアリング・オイルを使用してください。

▷ リザーバはエンジン・ルーム内にあります。点検はエンジンを停止して冷間時（約20℃）に行ってください。

1. カバー**A**を取外します。
2. リザーバ・キャップを取外します。
3. オイル・レベルを“**MIN**”と“**MAX**”マークの間に保つようにしてください。必要に応じてパワー・ステアリング・オイルを補充してください。
4. リザーバ・キャップを注意して閉じます。
5. カバー**A**を取付けます。
6. エンジン・フードを閉じます。

▷ オイルの減り方が著しい場合は、システム内に漏れが発生しています。
この場合は直ちに正規ポルシェ販売店で修理してください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

メインテナンスに関する重要な情報が、他の章にも記載されています。

▷ 「メインテナンス上の諸注意」（236ページ）を参照してください。

エア・クリーナ

エア・クリーナはエンジン・ルームの左側にあります。

▷ クリーナ・エレメントは定期的に交換してください。ほこりの多い場所では、より頻繁に点検し、必要に応じて交換してください。

メインテナンスに関する重要な情報が、他の章にも記載されています。

▷ 「メインテナンス上の諸注意」（236ページ）を参照してください。

室内防塵用フィルタ

室内防塵用フィルタを通って室内に入ってくる空気は、ほこりや花粉などが取除かれます。

▷ 外気がガスによって汚染されている場合は、内気循環に切替えてください。

フィルタが汚れていると、空気の清浄効果が下がります。

▷ フィルタの交換は、最寄りの正規ポルシェ販売店にお申し付けください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

フィルタは定期的に交換することをお薦め致します。

ワイパー・ブレード

▷ ワイパーの性能が低下したときは、適切な時期にワイパー・ブレードを交換してください。

▷ 「車のお手入れ」（252ページ）を参照してください。

⚠ 注 意

ワイパー・アームが突然倒れてフロント・ウィンドウが損傷しないように注意してください。

▷ ワイパー・ブレードを交換するときは、ワイパー・アームをしっかり持ってください。

ワイパー・ブレードが凍結した場合、損傷する恐れがあります。

▷ 凍結部を取除いてください。

知識：

ワイパー・ブレードの擦れやきしみの原因には以下が考えられます。

– 自動洗車機を使用した場合、フロントガラスに洗剤などの残留物が付着する場合があります。このような残留物は、特殊なリムーバを使用しなければ落とすことができません。
詳しい情報は担当の正規ポルシェ販売店にお問い合わせください。

– ワイパー・ブレードが損傷または摩耗している場合があります。

▷ できるだけ早急に損傷したワイパー・ブレードを交換してください。

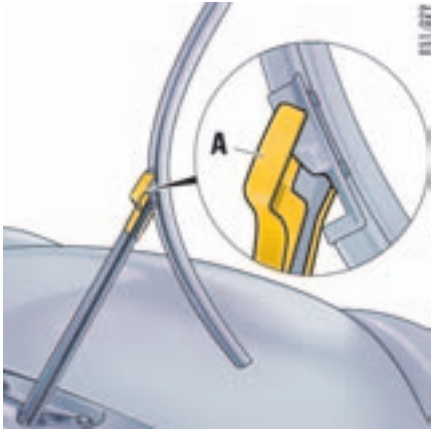
フロント・ワイパー・ブレードの交換

⚠ 注 意

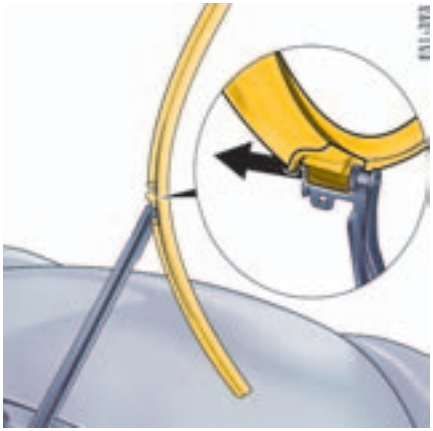
ワイパー・ブレードは交換作業を誤ると、車両走行時にゆるんでくる場合があり、損傷する恐れがあります。

▷ しっかり取付けられているか点検してください。
ワイパー・ブレードはワイパー・アームのストッパーにしっかり押付けてください。

1. パーキング・ブレーキをかけます。
2. ワイパー・スイッチをOFF（位置**0**）にします。
3. イグニッション・スイッチをOFFにします。
4. フロント・ワイパー・アームを起こし、しっかりと保持します。
5. ワイパー・ブレードを完全に（**矢印**）持上げます。



6. キャップ**A**を取外します。

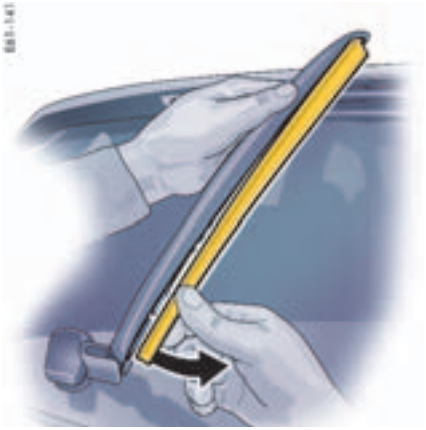


7. ワイパー・ブレードをフロントガラス方向（**矢印**）に引抜きます。

8. 新しいワイパー・ブレードを取付けます。

知識：
ワイパー・ブレードをワイパー・アームのストッパに当たるまで確実に押込んでください。

9. キャップ**A**を元に戻します。
10. ワイパー・ブレードを元の位置に戻します。
11. ワイパー・アームを慎重にフロントガラスに戻します。



1. パーキング・ブレーキをかけます。
2. イグニッション・スイッチをOFFにします。
3. リア・ワイパー・アームをロック位置（約60°）まで起こし、しっかりと保持します。
4. ワイパー・アームを片手で支え、ワイパー・ブレードを引抜きます（**矢印**）。
5. 新しいワイパー・ブレードをワイパー・アーム中央に取付け、奥へ押込みます。
6. ワイパー・アームを慎重にリア・ウィンドウに戻します。

リア・ワイパー・ブレードの交換

⚠ 注 意

凍結したリア・ワイパーを無理に起こした場合、損傷する恐れがあります。

▷ 凍結部分を溶かしてから起こしてください。

▷ ワイパー・アームを両手で持ち、ウィンドウから外してください。

燃料

⚠ 警 告

燃料は可燃性が高く、有害な物質なので十分注意してください。

▷ 燃料系統の近くでは、喫煙したり火気を近付けたりしないでください。

▷ 皮膚や衣類が接触しないよう十分注意してください。

▷ 燃料の蒸気ガスを吸い込まないようにしてください。

無鉛ガソリン以外の燃料を使用しないでください。使用すると、触媒コンバータとO2センサが破損して、補修できない場合があります。

エンジンは**無鉛プレミアム・ガソリンで、オクタン価が98RON/88MON以上**のものを使用した場合に、最高の性能と燃費を達成するように設計されています。

オクタン価が95RON/85MON以下の無鉛プレミアム・ガソリンを使用した場合は、エンジンのノック制御システムが自動的にイグニッション・タイミングを調整します。不適切な燃料の使用、ガス欠、けん引によるエンジンの始動などは、エミッション・コントロール・システムが損傷する原因になります。

▷ 「エミッション・コントロール・システム」（251ページ）を参照してください。

▷ 「燃料計」（68ページ）を参照してください。

燃料給油口

燃料給油フラップは右リア・フェンダにあります。

フラップのロックを解除する

リモート・コントロールのロック解除操作で、燃料給油フラップのロックも解除されます。さらに、ポルシェ・エントリー&ドライブ装着車では、ドア・ハンドルを握ると、燃料給油フラップのロックを解除することができます。

フラップを開く

ドアロックを解除した状態で、燃料給油フラップの後部（**矢印**部）を押して、フラップを開きます。

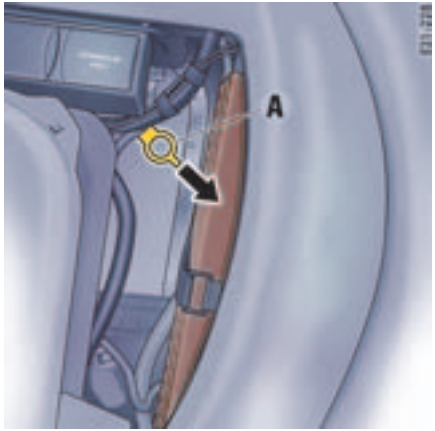
燃料品質ラベル

フラップを閉じる

燃料給油キャップを確実に締め、フラップが完全に閉じるまで、ゆっくりとフラップを押します。

フラップをロックする

リモート・コントロールのロック操作で、燃料給油フラップもロックされます。さらに、ポルシェ・エントリー&ドライブ装着車では、ドア・ハンドル・ボタンのロック操作で、燃料給油フラップをロックすることができます。



手動ロック解除、燃料給油フラップ

電動リリースが故障した場合：

1. リア・リッドを開きます。
2. 右収納スペースのカバーを取外します。
3. エマージェンシー・リリース**A**を**矢印の方向**に引きます。
   燃料給油フラップが開きます。

燃料の給油

タンクの容量は約100リットル（予備用約12リットル含む）です。

1. エンジンを停止し、イグニッションをOFFにします。
2. 燃料給油キャップをゆっくりと取外し、燃料給油フラップ裏側のフック**A**にかけます。
3. ノズルは確実にフィラーの奥まで差込み、注入時はノズルを下に向けて給油してください。
4. フューエル・ホース・ノズルを正しく使用した場合、ノズルからの燃料の注入が停止したら、タンクは「満タン」です。これ以上注入すると、燃料が熱で膨張したときにあふれます。
5. ガソリン注入後は、タンク・キャップを確実に合わせ、しっかりと取付けられるまで回します。

知識：

タンク・キャップを紛失した場合は、必ずポルシェ純正部品と交換してください。

予備燃料タンク

⚠ 危 険

予備燃料タンクの損傷や燃料漏れによる火災や爆発の恐れがあります。また有毒ガスが健康に害を与えます。

▷ 旅行時は、予備燃料タンクを車両に積み込まないでください。
やむを得ず予備燃料タンクを積み込んだ場合は、タンクが動かないように安全な場所にしっかり固定してください。

▷ 各法規制に従ってください。

エミッション・コントロール・システム

O2センサ、エレクトロニック・コントロール・ユニットに加えて、三元触媒コンバータにより、エミッション・コントロール・システムの効果が大幅に向上しています。

エミッション・コントロール・システムの効率を維持するために、定期的に点検整備を受けてください。

無鉛ガソリン以外の燃料を使用しないでください。使用すると、触媒コンバータとO2センサが破損して、補修できない場合があります。

運転上のアドバイス

空燃比制御システムに故障が発生すると、エンジンがオーバーヒートしたり、触媒コンバータが損傷してしまうため必ず下記の注意をお守りください。

⚠ 警 告

エミッション・コントロール・システムを損傷する恐れがあります。

- ▷ エンジンが始動しない場合は、スターター・モーターを繰り返し作動させたり、長時間作動させないでください。
- ▷ 走行中にミスファイヤーが発生したとき（エンジンの回転が荒くなったり、出力低下で判断できます）は、直ちに最寄りの正規ポルシェ販売店で修理をしてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。
- ▷ 燃料残量警告灯が点灯したら、高速でコーナーを走行しないでください。
- ▷ 燃料タンクが完全に空になるまで走行しないでください。
- ▷ けん引または押しがけスタートはできません。

高温の排気系に接触して発火する恐れがあります。

- ▷ エキゾースト・マニホールド、エキゾースト・パイプ、触媒コンバータ、ヒートシールドやその周囲に、アンダーコーティングしたり防錆剤を塗布しないでください。エンジンが作動すると、保護剤が過熱、発火することがあります。
- ▷ 乾燥した草や落葉などの引火性の高い物がある場所には、駐車したりエンジンを始動させないでください。

車のお手入れ

定期的に正しく車のお手入れを行うことは、お車の価値を長持ちさせるだけでなく、車両の保証と長期保証の適応を受ける際の有利な条件となります。
正規ポルシェ販売店には、お車にふさわしいカー・ケア製品が揃っており、単品でもセットでも販売しております。

▷ 使用に当たっては、必ずパッケージ等に印刷された注意事項を守ってください。

▷ 製品はお子様の手の届かない安全な場所に保管してください。

▷ 処分の必要がある場合は、必ず適切な場所で行ってください。

お車の状態が正規ポルシェ販売店で点検されているか、そして10年間の長期保証が有効であるかを確かめるために、正規ポルシェ販売店では、お手入れの状態や整備状況を点検させていただき、「整備手帳」にその結果を記載します。

高圧洗車装置

⚠ 警 告

高圧洗車装置を使用すると、以下のコンポーネントを傷付けることがあります。

— タイヤ
— ロゴ、エンブレム
— 塗装面
— オーバー・フェンダ
— 取外し可能なけん引アタッチメントのロックおよび留め金
— 電動格納式ボール・ヒッチのシール
— ジェネレータ、バルブ・カバー
— パーキング・アシスタント・センサ

▷ 使用するときは、メーカーから提供された取扱説明書を遵守してください。

▷ ブレーキ液タンクのキャップは清掃前に必ずカバーをしてください。キャップに直接ジェット水流を当てないでください。

▷ 平形ジェット・ノズルなどで洗浄する場合は、最低50cm距離を置いてください。

▷ タイヤを丸形ジェット・ノズルで洗浄しないでください。不注意で高圧ノズルからのジェット水流をタイヤにかけてしまった場合は、表面に傷が付いていないか、直ちに点検してください。

▷ 上記のコンポーネントを洗浄する場合は、ジェット・ノズルを直接ジェネレータに向けないでください。

洗車

車を美しく保つには、日頃のお手入れが大切です。こまめに洗車とワックスがけを行ってください。道路に凍結防止剤がまかれる冬季が終わったら、車両の下まわりをていねいに洗ってください。

塩、砂じん、ばい煙、昆虫の死がい、鳥のふん、樹木から出る樹液や花粉は、車体に付着している時間が長くなればなるほど、塗装の傷みがひどくなります。

車の手洗いは洗車機を使用するよりも環境を汚染する場合があります。

▷ 洗車場を利用しないでグリース、オイル、ごみなどの処理が適切に行われず環境を汚染するケースが目立っています。洗車・清掃は処理が適切に行われる場所で行うようにしてください。

濃い色の塗装は、明るい色の塗装に比べて非常に小さな傷（引っかき傷）でも目立ちます。

濃い色の塗装は、顔料の組成のために傷が付きやすいので、特にこまめな手入れと注意が必要です。

▷ 日差しの強いところや、車体がまだ熱い間は洗車しないでください。

▷ 手で洗う場合、水を十分に使用し、柔らかいスポンジか洗車用ブラシ、カー・シャンプーを使用してください。

ポルシェ・カー・シャンプーを推奨致します。

▷ 車体によく水をかけ、主な汚れを洗い流します。

▷ 洗剤を使った後は車を水で十分にすすぎ、革拭きします。

ウィンドウには、ボディを洗ったときと同じ革を使用しないでください。

ブレーキが濡れていると、効きが悪くなったり片効きになったりします。

▷ ブレーキ・ディスクを乾かした後、ペダルを何度か踏んで制動能力を必ず確かめてください。
緊急時に正常な制動が行えない場合があります。

自動洗車機

自動洗車機を使用すると、取付けているオプション部品によっては傷を付ける恐れがあります。

以下のパーツは特に破損の恐れがあります。

— ワイパー（間欠やセンサによる不意な誤作動を防止するため、常にスイッチをOFFにしてください。）

— ドア・ミラー（必ず格納してください。）

— ルーフ・トランスポート・システム（全て取り外してください。）

— スポイラ

— ホイール（リムが広がり、タイヤ高が低くなるにつれ、より破損が生じやすくなります。）

▷ 自動洗車機を使用する前に担当者に確認してください。

▷ ドア、トランク・リッドやエンジン・フードの継目、ドアの下枠など洗車機で洗えない箇所は手で洗い、柔らかい革（セーム革など）で拭いてください。

ドア・ロック

▷ 冬場にドア・ロックが凍結しないように、洗車中はロック・シリンダにカバーをしてください。

▷ 万一ロックが凍結した場合は、市販の除氷剤を使用することもできますが、温めたキーを差込むのも効果的です。ただし、無理な力をかけないでください。

塗装

▷ 乾いた布で車体のほこりを払うと、ほこりの粒子で表面の塗装が削れてしまい、つやがなくなったり、傷付いたりすることがあります。

車の塗装面は外的悪条件にさらされています。強い日差し、雨、霜、雪等の気候的悪条件が主なものです。その他にも塗装面は紫外線、急速な温度変化、大気中のばい煙、化学堆積物などの影響も絶え間なく受けています。美しい塗装面を長期間保つには、定期的に細やかなお手入れを行うことが不可欠です。

▷ つや消し仕上げの部品にワックスや光沢剤を使用すると、つや消し効果がなくなります。

ワックス

塗装面は風化によってつやが失われていくので、頻繁にワックスがけを行ってください。ワックスがけを行うことによって、塗装の光沢と強度を保つことができます。また、塗装面に汚れが付着したり、ばい煙が浸透することを防ぎます。

洗車とお手入れの際に必ずワックスがけを行うようにすると、新車時の光沢を長く保つことができます。

▷ 洗車の後にポルシェ指定のワックスで磨くか、洗車の後の最後のすすぎ水にポルシェ指定の液体ワックスを加えてください。

つやだし

通常のワックスがけでは満足なつやが出ない時に限り、光沢剤を使用してください。

ポルシェ・ペイント・ポリッシュを推奨致します。

汚点、染み

▷ タールの汚れ、グリース、昆虫の死がいは洗っただけでは落ちません。そしてこれらが塗装面に残ると、退色の原因になります。ポルシェ指定のタール除去剤か、昆虫除去剤で取除いてください。

▷ 処理を行った後は、直ちにその箇所を洗い流してください。

小さな塗装の傷

▷ 亀裂、引っかき傷、飛石による塗装面の小さな傷は、腐食が**始まる前に**、すみやかに修理を行ってください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

既に腐食が見られる場合は、まず錆を完全に取除きます。

つぎに、その箇所に防錆プライマを塗布し、上塗り塗料で仕上げます。車両のペイント・データ・プレートをみれば、ペイント・コードやカラー番号がわかります。

▷ 「データ・バンク」（326ページ）を参照してください。

エンジン・ルームの清掃

⚠ 注 意

ジェネレータ、塗装面、エンジン・フードの断熱材、バルブ・カバーなどを損傷する恐れがあるので、直接ジェット水流を当てないでください。

- ▷ 丸型ジェット・ノズルの高圧洗浄装置を使用しないでください。
- ▷ 洗浄する場合は最低50cm距離をおいてください。
- ▷ 高圧洗浄装置での洗浄前にブレーキ液タンクのキャップには必ずカバーをしてください。キャップに直接ジェット水流を当てないでください。
- ▷ 上記のコンポーネントを洗浄する場合は、ジェット・ノズルを直接ジェネレータに向けないでください。

知識：

凍結防止塩の撒かれた道路を走行する場合：

- ▷ エンジン・ルームを定期的に清掃してください。

ウィンドウ

- ▷ ウィンドウ・クリーナは、ウィンドウの内側にも外側にも使用できます。
  ポルシェ・ウィンドウ・クリーナを推奨致します。
  サイド・ウィンドウを清掃する場合、TVアンテナ＊を破損しないでください。
- ▷ セーム革を使用してウィンドウを清掃する場合、同じ革をボディ塗装部分と共用しないでください。ワックスや光沢剤が革に付着し、それによってウィンドウが汚れ、視界が悪くなることがあります。
- ▷ 昆虫の死骸は、ポルシェ指定の昆虫除去剤で取除いてください。

ワイパー･ブレード

視界を良好に保つには、ワイパー・ブレードが完全な状態であることが不可欠です。

- ▷ ワイパー･ブレードは年に1～2回（冬季の前後）、またはワイパーの性能が劣化した場合に交換してください。
- ▷ ワイパー・ブレードはウィンドウ・クリーナで定期的に清掃してください。
  特に自動洗車機で洗車後は、ウィンドウ・クリーナで清掃してください。
  ポルシェ･ウィンドウ・クリーナを推奨致します。
  汚れがひどい場合（昆虫の死骸など）はスポンジまたは布で清掃してください。

アンダーコーティング

下まわりは化学的、機械的ダメージに対して耐えるように保護されていますが、毎日の走行でこの保護塗装も傷付きますので、正規ポルシェ販売店で定期的に点検、修理を受けてください。

⚠ 警 告

エキゾースト・システムが火災になる恐れがあります。

- ▷ エキゾースト・マニホールドやエキゾースト・パイプ、触媒コンバータ、ヒート・シールドやその周辺にアンダーコーティング剤を塗らないでください。これらの箇所は運転中は高温になるので、保護剤を過熱し発火させることがあります。

＊日本仕様に設定はありません。

ヘッドランプ、ランプ類、室内および外装のプラスチック部品

▷ ヘッドランプ、ランプ類、プラスチック部分などの表面を清掃するには、清潔な真水および少量の中性洗剤**のみ**を使用してください。表面が乾いた状態で、清掃しないでください。柔らかいスポンジまたは糸くずの出ない柔らかい布を使用してください。優しく、あまり圧力をかけずに、表面を拭いてください。
ウィンドウ内側の清掃には、プラスチック表面用のクリーナが適しています。クリーナ容器に記載されている注意事項にしたがってください。
ポルシェ・インテリア・ウィンドウ・クリーナの使用を推奨します。
他の化学クリーナまたは溶剤を使用しないでください。

▷ 清浄な水で表面を洗い流します。

軽合金製ホイール

▷ 「自動洗車機」（253ページ）を参照してください。

金属粒子（ブレーキ・ダストに含まれる真ちゅうや銅など）が軽合金に長い間付着しないように注意してください。接触性腐食を起こし、ピッチング（小さなくぼみ穴）が発生します。

▷ ホイールをスポンジかブラシで、できれば2週間毎に洗ってください。冬季に凍結防止剤が道路にまかれる地域や、大気中にばい煙の多い地域では毎週洗うようにしてください。
軽合金ホイール・クリーナ（pH値9.5）をお使いください。洗剤のpH値が適切でないものを使用すると、ホイールの保護塗装が腐食されます。
ポルシェ純正軽合金ホイール・クリーナを推奨致します。

一般的な洗浄によく使用される酸素を溶かす光沢剤や、研磨器具、研磨剤は、保護塗装の酸素皮膜を破壊するため、使用しないでください。

▷ 3ヶ月に1度は、洗浄後、腐食性のないグリース（例：ワセリン）をホイールに塗布してください。柔らかい布を使って、グリースを表面によくすりこみます。

⚠ 警 告

ブレーキ・ディスクやブレーキ・キャリパにホイール・クリーナが付着すると、ブレーキの効きが低下して、思わぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ ブレーキ・ディスクやブレーキ・キャリパにホイール・クリーナが付着しないように注意してください。

▷ ブレーキ・システムにホイール・クリーナが付着したときは、高圧の水で丁寧に洗い流してください。

▷ ブレーキ・システムに水をかけた後は、ゆっくりと走行しながらブレーキをかけて、ブレーキ・ディスクを乾燥させてください。

ドア、ルーフ、リッド、ウィンドウ・シール

▷ シールの汚れ（傷、汚れ、凍結防止の塩など）は温かい石鹸水で定期的に洗浄してください。
シールの洗浄には石鹸水のみを使用し、化学洗浄剤は絶対に使用しないでください。

凍結の恐れのある場合は、ドアやリッドのシールを適切なケア用品で保護してください。

インナー・ドア・シールに塗布されている減摩コーティングは傷が付きやすいので洗浄しないでください。

本革のお手入れ

本革の特性

本革の表面に見られる天然のしわや傷、虫が刺したような跡、模様の違い、色合いや銀面における微妙なバリエーションが本革の天然素材としての魅力を一層引き立てます。

特に知っていただきたいのはこの本革の特徴です。革は厳選した最高級品質の本革を使用しています。染色しない部分を残して、天然の風合いを感じていただけるように仕上げました。この素材は卓越した座り心地、しなやかさ、風合いを特徴としています。

本革のお手入れおよび取扱い

▷ 白色の湿らせた柔らかい毛織物または市販のマイクロ・ファイバー布を使用して、定期的にお手入れしてください。

▷ 汚れがひどいときは、レザー・クリーナを使用してください。
容器の取扱説明書をよく読んでから使用してください。

ポルシェ･レザー・クリーナを推奨致します。

刺激性の強い洗剤や、硬い清掃洋品を使用しないでください。

本革製メッシュ・トリムは、裏面まで湿らせないように注意してください。

洗浄が終わったら、レザー・ケア剤でお手入れしてください。シートは傷みが激しいので特にお手入れをお薦め致します。
ポルシェ･レザー・クリーナを推奨致します。

カーペットとフロア・マット

▷ 掃除機か、中程度の硬さのブラシを使用してください。

▷ 汚れやしみはしみ抜き剤で除去します。

ポルシェ純正しみ抜き剤を推奨致します。

カーペットの汚れを防止するため、フロア・マットがポルシェ・カー・アクセサリとして販売されています。

⚠ 警 告

思わぬ事故になる恐れがあります。

▷ ペダル操作の妨げにならないようにフロア・マットは確実に固定してください。

エアバッグ

⚠ 危 険

清掃方法が不適切な場合、エアバッグ・システムの故障を招き、重傷または致命傷を引き起こす恐れがあります。

▷ ステアリングのパッド、フロント・シート、ルーフ・ピラー、ルーフ・ライニングなどの部品を改造しないでください。

▷ これらの部品は正規ポルシェ販売店で清掃を行ってください。

ファブリック・ライニング

ピラー、ヘッドライナー、サンバイザーなどのファブリック・ライニングには適切な洗浄剤、またはドライ・フォームと柔らかい布を使用してください。

アルカンターラ

アルカンターラ部の清掃に革用手入れ剤を使用しないでください。

日常のお手入れとしてはカバーを柔らかいブラシで拭くだけで十分です。

研磨材を使用したり、強く擦ると、アルカンターラの表面が傷むので注意してください。

軽度な汚れ

▷ 柔らかい布を水または中性のせっけん水で濡らして、汚れを取除きます。

頑固な汚れ

▷ 柔らかい布をぬるま湯または薄めたクリーニング用溶剤で濡らして、外側から汚れた部分を軽くたたきます。

シートベルトのお手入れ

▷ シートベルトを洗浄する場合は、刺激性の少ない洗剤を使用してください。

▷ ベルトを乾燥させるときは、直射日光を避けてください。

▷ 適切な洗剤のみを使用してください。

▷ ベルトを染色および脱色しないでください。ベルトの布地が弱り、安全性が損なわれます。

車の保管

長期間保管をする場合は、正規ポルシェ販売店にご相談ください。スタッフが適切な腐食防止対策、お手入れ、メインテナンス、保管などのアドバイスを致します。

「車の保管」に関する重要な情報が、他の章にも記載されています。

▷ 「バッテリ」（298ページ）を参照してください。

バッテリの接続を切り離した状態で車を点検するときは：

▷ 「緊急操作ードア・ロッキング」（15ページ）を参照してください。

万一のときのために

軽修理について …… 260
タイヤとホイール …… 261
ジャッキ …… 266
工具セット …… 266
コンプレッサー …… 267
ホイール・ボルト …… 267
スペーサ …… 268
パンク時の処置 …… 269
電気系統 …… 288
バッテリ …… 298
リモート・コントロール用バッテリの
交換 …… 308
ジャンパー・ケーブルによる始動 …… 309
バルブの交換 …… 312
ヘッドランプ …… 312
テール・ランプ …… 318
ライセンス・ランプ …… 320
ヘッドランプの調整 …… 320
左側通行から右側通行への
変更に伴うヘッドランプの切換え …… 320
バルブ・リスト …… 321
けん引とけん引による始動 …… 322

軽修理について

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店で実施されるようお願い致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

お客様ご自身でメインテナンスされる場合につきましても細心の注意を払っていただくようお願い致します。このような注意を払ってはじめて信頼できる走行が保証できます。

不適切な整備を行いますと、保証期間中でも保証が適用されないことがあります。

停止表示板

停止表示板はラゲッジ・コンパートメントの右側に収納されています。

工具セット

工具セットはラゲッジ・コンパートメントのフロア・カバー下に収納されています。

応急処置セット＊

応急処置セットは、右リア・シートの下に保管されています。

▷ 「リア・シート」（35ページ）を参照してください。

⚠ 警 告

メインテナンス作業は危険を伴いますので十分に注意してください。致命的な事故、怪我および火災になる恐れがあります。

▷ バッテリや燃料系統の近くでは、喫煙したり火気を近付けたりしないでください。

▷ 整備は、屋外か、室内でも換気のよい状況で行ってください。

▷ 加熱しているエンジン部品の近くで作業をする場合は、火傷の危険性がありますので十分注意してください。

▷ エンジン・ルーム内の部品の整備をする前にエンジンを停止し、十分冷やしてください。

▷ エンジンをかけたまま作業しなければならない場合は、必ずパーキング・ブレーキをかけ、**なおかつ**セレクタ・レバーを**“P”**の位置にします。

▷ 手、指、衣服の一部（ネクタイ、袖など）や装飾品、長い髪などがファン、Vベルト、その他の可動部に絡まることのないように、特に注意してください。

▷ ラジエータおよびラジエータ・ファンは車両の前側にあります。
ラジエータ・ファンは、エンジンが停止していても、クーラントの温度に応じて作動することがあります。
ラジエータ・ファン付近で作業をする場合は、エンジンおよびイグニッションをOFFにして怪我をする危険性がありますので十分注意して作業をしてください。

▷ イグニッションがONのときは、点火装置に接続されている全てのケーブルとリード線に高電圧がかかっていますので、特に注意が必要になります。

▷ もし、車の下に入って作業する場合は、必ず強固なリフトで車体を持ち上げてください。ジャッキを使用することは危険ですのでおやめください。
エア・サスペンション装着車：
「レベル・コントロールおよび車高調整付きエア・サスペンション」（230ページ）を参照してください。

▷ エンジン・オイル、ブレーキ液またはクーラントなどの液体は健康を害するので、取扱いの際は次のことに注意してください。
これらの液体はお子様の手の届かない所で保管してください。
廃棄する場合は、法規に従ってください。

＊日本仕様に設定はありません。

タイヤとホイール

タイヤの寿命は、空気圧やホイール・アラインメントの他に、走行スタイルにも関係しています。急加速、高速でのコーナー走行、ブレーキの酷使はタイヤの摩耗を早めます。また、高い外気温や悪路での走行では、トレッドの摩耗も大きくなります。エンジン同様、タイヤも正常な状態で使用されなければなりません。正しく取扱うことにより、長時間にわたり、安全なドライビングが保証されます。
安全のためにも、これから説明されるタイヤの取扱いに関する項目を守ってください。

▷ 「オフロード走行後」（223ページ）を参照してください。

荷重と速度

▷ 過積載に注意してください。ルーフに規定重量を超える荷物を積まないでください。過積載状態に加え、
- 不適切なタイヤ空気圧
- 高速走行
- 高い外気温（例：真夏の暑い日）

は、きわめて危険です。

タイヤの空気圧

タイヤの規定の空気圧に保ってください。タイヤの規定空気圧は確認することができます。
- 運転席ドアの後端部に表示されています。

▷ 「冷間時のタイヤ空気圧」（331ページ）を参照してください。

表示されている規定空気圧は、タイヤが冷えているとき（20℃）のもので最低値を示しています。

▷ 空気圧は最低でも2週間毎に点検してください。また必ずタイヤが低温状態のときに行ってください。

▷ タイヤ空気圧モニタリング・システム装着車の場合：
「タイヤ空気圧」（82ページ）を参照してください。

タイヤの温度が上昇すると空気圧は上昇します。

▷ タイヤの温度が上昇した状態で空気を抜くと、温度が下がったときに空気圧が最低値以下になってしまうために注意が必要です。

バルブ・キャップはバルブからの空気漏れを防ぎ、誇りや汚れが入るのを防ぎます。

▷ 必ずキャップを完全に締めてください。

▷ 紛失した場合は、直ちに新しいキャップを取付けてください。

空気圧が不十分だとタイヤが過熱し、見える見えないに関わらずタイヤに損傷を与えます。このような損傷は空気圧を正しく調整しても直りません。

タイヤの破損

▷ 「高圧洗車装置」（252ページ）を参照してください。

⚠ 警 告

目に見えないような傷でも、高速走行時にはそれが原因でタイヤがバーストすることがあります。

▷ 定期的にタイヤ（側面も含む）を点検し、異物、欠け、きり傷、き裂、側面のふくれ等がないか調べてください。

▷ 縁石は速度を落として、なるべく直角に乗り越えてください、また急な縁石や尖った縁石を乗り越えるのはやめてください。

▷ 衝撃の強さによっては、リムも損傷することがあります。リムの特に内側が損傷している可能性がある場合には、専門家による点検を受けてください。

以下の場合、安全のためにタイヤ交換をお薦め致します。
- タイヤに不具合がある場合、状況から判断してタイヤの層が損傷している可能性がある場合
- 空気圧の低下や損傷のためにタイヤが過熱したり異常な負荷がかかり過ぎた可能性がわずかでもある場合

▷▷▷

知識：

破損したタイヤは絶対に修理して再使用しないでください。

▷ オフロード走行した場合は、タイヤに亀裂、損傷、異物の挟まりなどの異常がないか確認してください。必要な場合は、タイヤを交換してください。

縁石

高速で縁石を乗り越えたり、縁石の鋭角部分や尖ったもの（石など）にタイヤが当たると、その衝撃で目に見えない損傷が生じます。その時点では気付かなくても、後で高速走行時にタイヤが破損することがあるため事前に点検を行う必要があります。くれぐれもご注意ください。

タイヤの保管

▷ タイヤは常に乾燥した場所に保管してください。ホイールに取付けていないタイヤは立たせた状態で保管してください。

▷ 燃料、オイル、グリース等に触れないようにしてください。

「タイヤは保管して古くなった方が摩耗しにくくなる」といった説がありますが、これはまったくの誤りです。時間がたつと、ゴムに伸縮性を与えるために添加されている化学薬品の効果がなくなり、ゴムがもろくなってしまうため、**製造後6年以上たったタイヤは使用しないでください**。

タイヤの製造時期は側面のDOTコードでわかります。例えば、コードの下4桁が1204となっていたら、2004年の第12週目に製造されたタイヤということになります。

トレッド（溝）

トレッドが浅くなればなるほど、ハイドロプレーニング現象の起こる危険性が高くなります。

▷ 安全のため、トレッドの溝にスリップ・サイン（深さ1.6ミリ以下）が**見えてきたら**タイヤを交換してください。

▷ タイヤは定期的に点検してください。特に長距離走行の前後には、入念に点検をしてください。

ホイール・バランス

▷ 安全で快適なドライブを楽しんでいただくために、サマー・タイヤは春に、スノー・タイヤは冬に入る**前に**ホイール・バランスの調整を受けてください。

ウエイトは必ず認可されたものを使用してください。接着タイプのウエイトは洗浄剤により落下することがありますので、ホイールの清掃の際は注意してください。
トレッドの摩耗に偏りがあるのは、ホイールのバランス不良を意味します。

ホイールの交換

▷ ホイールを取外すときは、回転方向と各ホイールの位置をマークしてください。

例：

FR（右前）、FL、RRおよびRL

▷ マークした通りにタイヤを取付けてください。

ホイール・アライメント

トレッドの摩耗に偏りがあるのは、ホイールのアライメント不良を意味します。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

⚠ 警 告

不具合の原因をそのままにして運転をつづけると車両をコントロールできなくなることがあり、たいへん危険です。

走行中に、不規則な回転振動が発生し、タイヤまたは車が損傷した可能性がある場合：

▷ 急激なブレーキ操作を行わないように、スピードを落としてください。

▷ 停車して、タイヤを点検しても不具合箇所が判明しない場合には、慎重な運転を心掛け、最寄りの正規ポルシェ販売店まで車両をお持ちください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

タイヤ交換

▷ 新しいタイヤを取り付ける前に、最新の認可事情について正規ポルシェ販売店にお尋ねください。

▷ ポルシェ社によってテスト、認証されたタイヤメーカーの製品のみをご使用ください。

基本的にタイヤの組み合わせは同じメーカーの同じ仕様番号（N0、N1など）のものに限定してください。

▷ 新しいタイヤはグリップ性能が十分ではないので、交換後100～200kmは必要以上に高速で走行しないでください。

フロントまたはリア・タイヤ**のみ**交換した場合は、前後タイヤのトレッド溝深さに差があるので、それまでの走行とはっきりした違いが感じられます。この違和感は特にリア・タイヤを交換した場合に顕著になります。走行距離が伸びるにつれて違和感はしだいに減少していきます。

▷ ハンドリングの変化に応じた運転を行ってください。

タイヤの交換はかならず整備工場などで行ってください。

不良タイヤを1個のみ交換する場合は、左右タイヤのトレッド溝深さに30%以上の差がないように注意してください。

▷ 過去の使用歴が不明な場合は、中古タイヤを使用しないでください。

バルブ

▷ プラスチック・バルブ・キャップのみを使用してください。

ラバー・バルブはタイヤ交換時にかならず交換してください。スチール・バルブは純正品のみを使用し、取り付けまたは交換手順に従ってください。

スチール・バルブの交換は、規定の取り付けまたは交換手順に従ってください。

ポルシェ純正スチール・バルブまたはポルシェ社の要求する性能、品質規準を満たす同等部品を使用してください。

▷ バルブの汚れを防ぐため、必ずバルブ・キャップを取り付けてください。

バルブが汚れると、タイヤ空気圧減少の原因となります。

最高制限速度表示ステッカー

冬用タイヤ

⚠ 警 告

走行道路の遵守速度を守ってください。思わぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ 最高制限速度を超えないように走行してください。

▷ 最高制限速度を表示したステッカーを運転手の目に付く位置に貼ってください。
国で定められた速度で走行してください。

▷ 冬用タイヤは降雪や凍結のシーズンが近付いたら早めに、4輪全てに装着してください。冬用タイヤに関しては最寄りの正規ポルシェ販売店にご相談ください。

知識：
外気温が7℃を下回る場合、冬用タイヤを装着されることをお勧めします。

冬用タイヤはトレッドの深さが4mm以下になると機能が低下します。

▷ オールラウンド・タイヤ、オール・シーズン・タイヤ、オフロード・タイヤはM+Sタイヤのカテゴリーに属します。

ホイールの交換

▷ ホイールを取外すときは、回転方向と各ホイールの位置をマークしてください。
例：
FR（右前）、FL、RRおよびRL

▷ マークした通りにタイヤを取付けてください。

スノー・チェーン

スノー・チェーンを装着するときは全てのタイヤに装着してください。
前輪または後輪のみ（後輪が望ましい）にスノー・チェーンを装着して走行することも可能です。

▷ 18インチ・タイヤ、スノー・チェーン、コラプシブル・スペア・タイヤを装着するときは、スペーサを取外してください。

⚠ 注 意

スノー・チェーンを装着するときは、必ずスペーサを取外してください。特にリア・ホイールのスペーサを取付けたまま、スノー・チェーンを装着すると、ホイール・ハウジングを損傷する恐れがあります。

▷ スノー・チェーンを装着する前に、リア・ホイールの17 mmスペーサを、必ず取外してください。

▷ スペーサについては：
「スペーサ」（268ページ）を参照してください。
スペーサの取外しについては：
「17 mmスペーサの取外し」（276ページ）を参照してください。

▷ チェーンとホイール・ハウスの間に十分なクリアランスをとるため、ポルシェ社が推薦、認可したファイン・リンク・チェーンのみをご使用ください。

▷ 「タイヤ、ホイール、トレッド」（330ページ）を参照してください。

▷ スノー・チェーンを装着する前に、ホイール・ハウスの内側の固まった雪と氷を取除いてください。

▷ スノー・チェーンを装着したときは**50km/h**以下で走行してください。ただし、道路の法定速度およびスノー・チェーン、メーカーの規定する速度についても遵守してください。

A - *タイヤ幅（mm）*
B - *扁平率（%）*
C - *タイヤ構造記号（ラジアル）*
D - *リム径（インチ）*
E - *ロードインデックス*
F - *速度記号*

ラジアル・タイヤの記号

速度記号

速度記号**F**はそのタイヤの最高許容速度を示します。
この記号はタイヤのサイド・ウォールに表示されています。

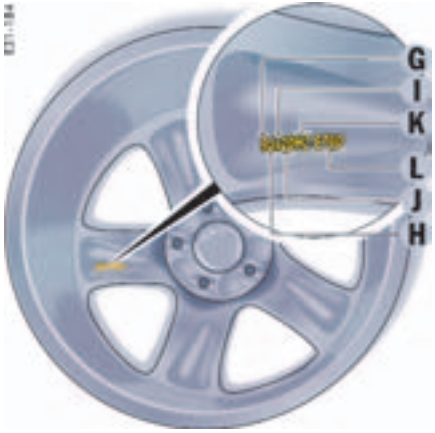
T = 190km/hまで
H = 210km/hまで
V = 240km/hまで
W = 270km/hまで
Y = 300km/hまで

知識：

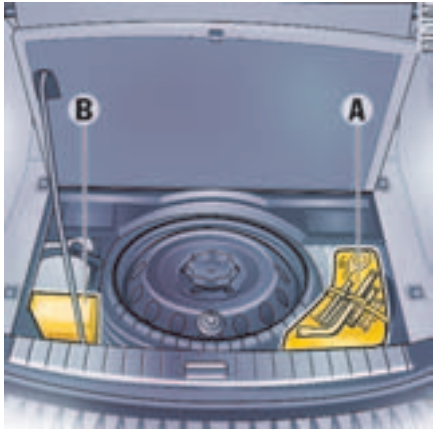
▷ 定格最高速度が規定最高速度に満たないタイヤは、タイヤ・サイドウォールにM＋S識別が記載されている場合に限り、取付けることができます。
ウィンター・タイヤに加え、オール・シーズン・タイヤおよびオール・ラウンド・タイヤも速度制限が適用され、上記識別が記載されている必要があることに注意してください。

軽合金ホイールの記号

リム幅（インチ）**G**およびリム・オフセット**L**は外側から見えます。この表示はタイヤ・バルブの側にあります。



G - *リム幅（インチ）*
H - *フランジ形状記号*
I - *ドロップ・センター・リム記号*
J - *リム径（インチ）*
K - *ダブル・ハンプ*
L - *リム・オフセット（mm）*



A - *工具セット*
B - *コンプレッサー*

ジャッキ

ジャッキはラゲッジ・コンパートメントの床下にある工具セット**A**にセットされています。

⚠ 警 告

車からジャッキが外れて致命的な怪我をする恐れがあります。

▷ ジャッキはタイヤ交換のときのみ使用してください。

▷ 車の下にもぐって作業を行なう場合は、専用のスタンドを使用してください。ジャッキを使用して作業を行なわないでください。

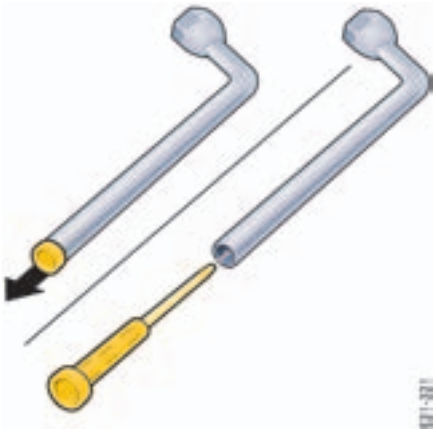
リフトまたはトロリ・ジャッキによる車両のリフト・アップ

▷ 「タイヤ交換」(275ページ) を参照してください。

▷ 車体をリフトアップする際には、ジャッキ・ポイントで行ってください。

▷ 車両をリフトに移動させる際には、リフトのプラット・フォームと車体の間に十分なスペースがあることを確認してください。

▷ エンジン、トランスミッション、およびアクスルでのジャッキ・アップは決して行わないでください。怪我をする恐れがあります。



工具セット

工具セットおよびプレッシャ・テスター付きコンプレッサーはラゲッジ・コンパートメントのフロア下に収納されています。

知識：
ドライバーはホイール・ボルト・レンチのハンドル部に収納されています。

コンプレッサー

レベル・コントロール**非装着車**では、プレッシャ・テスター付きコンプレッサーがラゲッジ・コンパートメントのフロア下に収納されています。

▷ 「エア・サスペンション非装着車のタイヤ空気充填」（280ページ）を参照してください。

レベル・コントロール**装着車**では、レベル・コントロール用のコンプレッサーを使用してタイヤに空気を入れることができます。アダプタ・ホースが左リア・シート下に備えられています。

▷ 「リア・シート」（35ページ）を参照してください。

ホイール・ボルト

▷ タイヤ交換時などホイール・ボルトを外したときは清掃してください。

知識：

▷ ホイール・ボルトにはグリースを絶対に塗らないでください。

▷ ホイール・ボルトを交換する際は、必ずポルシェ・カイエン用の純正ホイール・ボルトを使用してください。
ポルシェ純正ホイール・ボルト、またはポルシェ社の要求する性能、品質規準を満たす同等部品を使用してください。

締付けトルク

ホイール・ボルトは**160Nm**（16.3kg-m）の力で締め付けてください。

盗難防止ホイール・ボルト

このソケットは、工具セットの中に入っています。

盗難防止ホイール・ボルトの取外しや取付けを行うには、山が特殊な形状になっているソケットをアダプタとして、ホイール・ボルトとホイール・ボルト・レンチの間に挿入してください。

▷ ソケット・レンチの位置を決める場合、ホイール・ボルトの山に完全に結合していることを確認してください。

知識：

修理工場で修理するためにホイールを外す必要がある場合、車のキーと一緒に盗難防止ホイール・ボルト用のソケットも忘れずお渡しください。

リア・ホイールに17mmスペーサを取付けている車両では、スチール製のホイール・ナットを使用しています。このホイール・ナットには、盗難防止装置が付いていません。

スペーサ

▷ スペーサは、ポルシェ社が認可したホイールだけに使用してください。
スペーサを取付ける前に、最新の認可ホイールを確認してください。詳しくは、正規ポルシェ販売店にご相談ください。

▷ 18インチ・タイヤ、スノー・チェーン、コラプシブル・スペア・タイヤを装着するときは、スペーサを取外してください。

⚠ 警 告

18インチ・タイヤまたはコラプシブル・スペア・タイヤを装着するときは、必ずスペーサを取外してください。

▷ 18インチ・タイヤまたはコラプシブル・スペア・タイヤを装着する前に、17 mmスペーサを必ず取外してください。ホイールが正しく装着できません。

⚠ 注 意

スノー・チェーンを装着するときは、必ずスペーサを取外してください。特にリア・ホイールのスペーサを取付けたまま、スノー・チェーンを装着すると、ホイール・ハウジングを損傷する恐れがあります。

▷ スノー・チェーンを装着する前に、リア・ホイールの17 mmスペーサを、必ず取外してください。

知識：

▷ スペーサの取外しについては：
「17 mmスペーサの取外し」（276ページ）を参照してください。

スペーサの取付けについては：
「17 mmスペーサの取付け」（277ページ）を参照してください。

パンク時の処置

1. できるだけ道路の脇に寄り停車します。固くて平らな固定しやすい場所に駐車してください。
2. ハザード・ランプを点滅させます。
3. パーキング・ブレーキをしっかりかけます。
4. セレクタ・レバーを“**P**”レンジにします。
5. フロント・ホイールをまっすぐにします。
6. エンジンが始動しないように、イグニッション・キーを引抜き、ステアリングをロックします。
7. 全乗員を、安全な場所に降ろします。
8. 停止表示板を適切な位置に置きます。

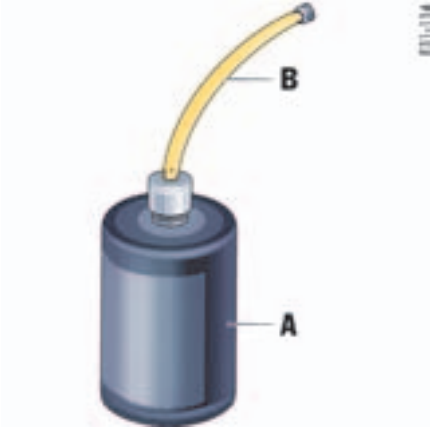
A - *折りたたみ式輪止め*

車両の固定

工具セットに同梱の折りたたみ式輪止め**A**を使用して、車両が動き出さないように固定します。

1. 輪止めの部分**1**を伸ばします。
2. 伸ばした輪止めを部分**2**にはめ込みます。

3. 交換するタイヤの対角線上になるタイヤの前後に輪止めを置きます。



A - *充填ボトル*
B - *充填ホース*

タイヤ・シーラント

タイヤ・シーラントはタイヤ・トレッドについた小さな切傷の補修に使用できます。

タイヤ・シーラントによるタイヤの補修は緊急な場合にかぎります。近くの整備工場までは運転していくことができますが、タイヤの気密性が確保されたとしても、緊急時に短距離を走行するに留めてください。

レベル・コントロール**非装着車**では、タイヤ・シーラントおよびプレッシャ・テスター付きコンプレッサーがラゲッジ・コンパートメントのフロア下の収納スペースに保管されています。

タイヤ・シーラントの構成：

— 充填ボトル
— 充填ホース
— バルブ回し
— スペア・バルブ・インサート

⚠ 警 告

思わぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ タイヤ・シーラントは4mm以下の切傷や刺傷のみに使用してください。

▷ リムが損傷している場合は、タイヤ・シーラントを使用しないでください。

⚠ 警 告

シーラントは可燃性が高く、有害な物質なので十分注意してください。

▷ タイヤ・シーラントを取扱う際は、炎、裸火、喫煙は厳禁です。

▷ 皮膚、目、衣服に付着しないように注意してください。

▷ お子様の手の届かない場所に置いてください。

▷ 気化ガスを吸込まないでください。

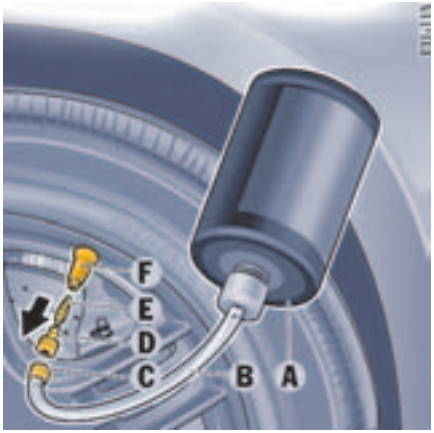
シーラントが付着した場合：

▷ 皮膚に付着したり、目に入った場合はただちに洗い流してください。

▷ 付着した衣服はすぐに着替えてください。

▷ アレルギー反応がある場合は至急医師の診察を受けてください。

▷ シーラントを飲込んだ場合は、ただちに口の中を十分にゆすぎ、大量の水を飲んでください。嘔吐せずに、至急医師の診察を受けてください。



A - *充填ボトル*
B - *充填ホース*
C - *充填ホースのプラグ*
D - *バルブ回し*
E - *バルブ・インサート*
F - *タイヤ・バルブ*

シーラントの充填

1. タイヤの空気が抜けた原因となったものは、タイヤに残しておきます。
2. ラゲッジ・コンパートメントからシーラントおよび同封のステッカーを取出します。
3. ステッカーはドライバーから見える位置に貼付けます。
4. 充填ボトル**A**を振ります。
5. 充填ホース**B**を充填ボトルにねじ込みます。これで充填ボトルが使用できます。
6. タイヤ・バルブ**F**からバルブ・キャップを外します。
7. バルブ回し**D**を使用してバルブ・インサート**E**をタイヤ・バルブから取外します。バルブ・インサートは、乾いた汚れのない場所におきます。
8. 充填ホースのプラグ**C**を取外します。
9. 充填ホースをタイヤ・バルブに押し付けます。
10. 充填ボトルをタイヤ・バルブより上に持上げ、ボトルを強く握って中身を完全にタイヤに充填します。
11. 充填ホースをタイヤ・バルブから抜きます。
12. バルブ回しを使用してバルブ・インサートをタイヤ・バルブにしっかりねじ込みます。
13. 指定のタイヤ空気圧をセットし、タイヤに空気を入れます。
「冷間時のタイヤ空気圧」(331ページ)、マルチ・ファンクション・ディスプレイの「タイヤ・シーラント／シール・セット」(88ページ) を参照してください。
14. バルブ・キャップをタイヤ・バルブにねじ込みます。
15. 約10分間走行してからタイヤ空気圧を点検してください。
タイヤ空気圧が1.5bar/22psi未満の場合は、運転を中止してください。
タイヤ空気圧が1.5bar/22psi以上の場合は、指定のタイヤ空気圧に調整してください。
16. スペア・タイヤに不具合が発生したら、正規ポルシェ販売店にて点検を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

知識：
はみ出したシーラントは乾燥すると細かく剥がれ落ちます。

⚠ 警 告

思わぬ事故を起こす恐れがあります。

- ▷ あくまでも応急的な処置なので、できるだけ早く専門整備工場でタイヤを交換してください。
- ▷ 急加速やカーブを高速で走行することは避けてください。
- ▷ 80km/hの最高速度を遵守してください。
- ▷ シーラントに関するコンプレッサーの安全および取扱説明書を遵守してください。

ジャッキ・アップ

⚠ 警 告

車からジャッキが外れて致命的な怪我をする恐れがあります。

▷ ジャッキ・アップしてタイヤを交換する場合は、車両に誰も乗車しないでください。

▷ 坂道または安全が確保できない道路脇でのジャッキ・アップはしないでください。

▷ ジャッキはタイヤ交換時に車体を持上げる目的のみに使用してください。

▷ 車両の下にもぐる場合は、適切なリジッド・ラックなどで車体を支えてください。ジャッキは車体を支えるためには使用できません。

タイヤ交換中にレベル・コントロールが作動して怪我をする恐れがあります。

▷ タイヤ交換時には車両をジャッキ・モードに設定してください。

▷ 「レベル・コントロールおよび車高調整付きエア・サスペンション」(230ページ) を参照してください。

車が動き出し、怪我または車が損傷する恐れがあります。

▷ 車両が動き出さないように固定してください。

▷ 「車両の固定」(269ページ) を参照してください。

知識：

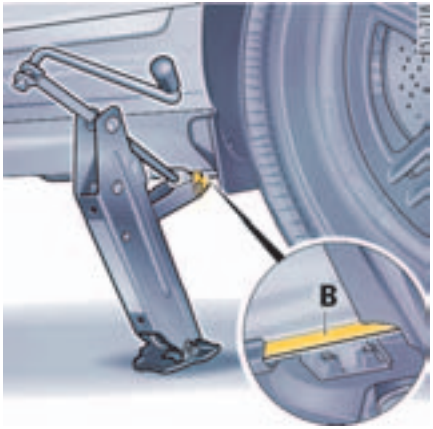
車両のジャッキ・ポイントから汚れを取除いてください。

1. 交換するタイヤのホイール・ボルトをわずかにゆるめます。
2. ジャッキは、必ず指定のジャッキ・ポイントにセットします。ジャッキの足が浮かないようにして、ジャッキ・ポイントの真下にジャッキを置いてください。必要に応じて適切なリジッド・ラックを使用してください。
3. ジャッキを動かないように固定して、ジャッキの皿がジャッキ・ポイントに接触するまでジャッキを上げます。
   交換するタイヤが地面からちょうど離れるくらいまで車両を上げます。
4. 車体を下げたあと、ジャッキを取外してください。

フロント・ジャッキ・ポイント

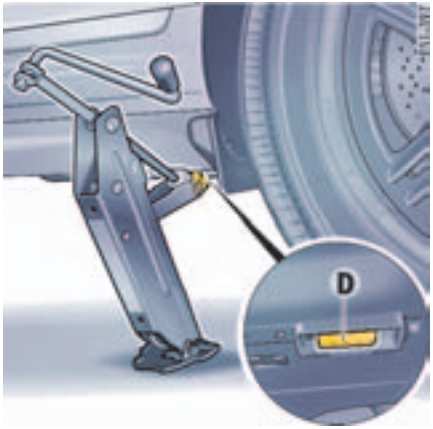
指定のジャッキ・ポイント

▷ ジャッキは、必ず図に示したジャッキ・ポイント**A**または**B**にセットします。



リア・ジャッキ・ポイント

フロント・ジャッキ・ポイント



リア・ジャッキ・ポイント

ランニング・ボード装着車のジャッキ・ポイント

▷ ジャッキは必ず図に示したジャッキ・ポイント**C**または**D**にセットします。

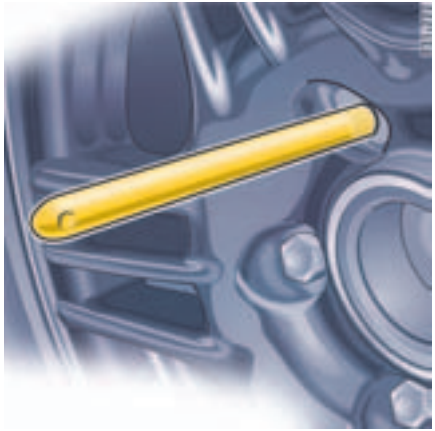
フロント・ジャッキ・ポイント

リア・ジャッキ・ポイント

サイド・メンバ・パネル装置車のジャッキ・ポイント

車両のサイド・メンバ・パネルからカバーを取外したところにジャッキ・ポイントがあります。

1. キャップ**E**または**G**を下側のハンドル部分を矢印方向に引いて取外します。
2. ジャッキ・ポイント**F**または**H**にジャッキをセットします。
3. サイド・メンバ・パネルの穴に合わせてキャップ**E**または**G**を完全に挿入し、かみ合いが確認できるまで、押し込みます。



タイヤ交換

1. 上側のホイール・ボルトを外します。
2. 工具セットに入っているタイヤ組付け補助工具を、外したホイール・ボルトの代わりに取付けます。
3. 残りのホイール・ボルトを外します。「ホイール・ボルト」（267ページ）を参照してください。
4. タイヤを交換します。
5. ホイール・ボルトを挿入し、手で仮締めします。組付け補助工具を外し、代わりにホイール・ボルトを取付けます。ホイールの中心がずれないように、対角線の順に仮締めします。
6. 必要に応じて、タイヤに空気を充填します。「冷間時のタイヤ空気圧」（331ページ）を参照してください。マルチ・ファンクション・ディスプレイの「タイヤ空気圧メニュー」画面（84ページ）を参照してください。
7. 車両を下ろし、ジャッキを取外します。
8. 対角線の順に、ホイール・ボルトを完全に締付けます。

知識：

▷ **タイヤを交換したら、できるだけ速やかにトルク・レンチを使用してホイール・ボルトのトルクを点検してください。締付けトルクは160Nmです。**

17mmスペーサの取外し

⚠ 警 告

18インチ・タイヤまたはコラプシブル・スペア・タイヤを装着するときは、必ずスペーサを取外してください。

▷ 18インチ・タイヤまたはコラプシブル・スペア・タイヤを装着する前に、17 mmスペーサを必ず取外してください。ホイールが正しく装着できません。

⚠ 注 意

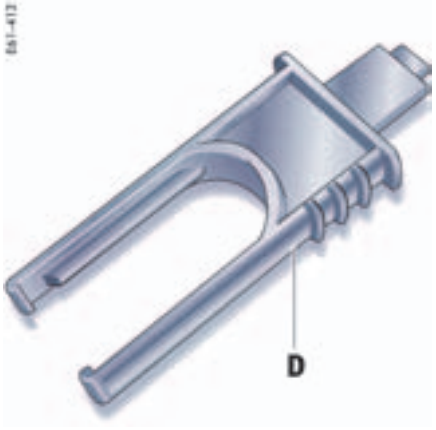
スノー・チェーンを装着するときは、必ずスペーサを取外してください。特にリア・ホイールのスペーサを取付けたまま、スノー・チェーンを装着すると、ホイール・ハウジングを損傷する恐れがあります。

▷ スノー・チェーンを装着する前に、リア・ホイールの17 mmスペーサを、必ず取外してください。

▷ 18インチ・タイヤ、スノー・チェーン、コラプシブル・スペア・タイヤを装着するときは、スペーサを取外してください。

▷ ホイールまたはスペア・タイヤを取付けるとき、取付け位置を決めるためのタイヤ組付け補助工具を使用する必要はありません。

▷ スペーサについては、「スペーサ」（268ページ）を参照してください。



プーラー

1. 工具セットのプーラー**D**を使用して、ホイール・ナットのプラスチック・カバーを取外します。

2. ホイール・ナットを取外し、ホイールを取外します。

3. スペーサを取付けているホイール・ボルト**A**をゆるめ、取外します。
4. スペーサを取外します。
5. 工具セットに入っているタイヤ組付け補助工具を、外したホイール・ボルトの代わりに取付けます。
6. ホイールを取付けます。
7. スペーサを取付けていたホイール・ボルト**A**を使用して、ホイールを固定します。
   ホイール・ボルト**A**を挿入し、手で仮締めします。
   タイヤ組付け補助工具を外し、代わりにホイール・ボルトを取付けます。
   ホイールの中心がずれないように、対角線の順に仮締めします。
8. 必要に応じて、タイヤに空気を充填します。
   「冷間時のタイヤ空気圧」（331ページ）を参照してください。
   マルチ・ファンクション・ディスプレイの「タイヤ空気圧メニュー」画面（82ページ）を参照してください。
9. 車両を下ろし、ジャッキを取外します。
10. 対角線の順に、ホイール・ボルトを完全に締付けます。

知識：

タイヤを交換したら、できるだけ速やかにトルク・レンチを使用してホイール・ボルトのトルクを点検してください。締付けトルクは160Nmです。

▷ 取外したスペーサ、ホイール・ナット、プラスチック・カバーを紛失しないように収納してください。

17 mmスペーサの取付け

1. ホイールを取外します。
2. ホイールを取付けていたホイール・ボルト**A**を使用して、スペーサを取付けます。
   スペーサを取付け、ホイール・ボルト**A**を対角線の順に完全に締付けます。
   締付けトルクは**160Nm**です。
3. ホイールを取付けます。
   ホイール・ナットは純正品を使用してください。
   締付けトルクは**160Nm**です。
   ホイール・ナットを締付けた後、プラスチック・カバーを取付けます。

知識：

ホイール・ナットには、盗難防止装置が付いていません。

コラプシブル・スペア・タイヤ

コラプシブル・スペア・タイヤはラゲッジ・コンパートメントのフロア下の収納スペースにあります。

知識：

カイエン・ターボ・ハイ・パフォーマンス・キット装着車には、コラプシブル・スペア・タイヤは装備されていません。

17 mmスペーサ装着車：

▷ コラプシブル・スペア・タイヤを装着する前に、リヤ・ホイール・スペーサを必ず取外してください。

スペーサについては：
「スペーサ」（268ページ）を参照してください。

スペーサの取外しについては：
「17 mmスペーサの取外し」（276ページ）を参照してください。

1. ロータリー・ノブ**A**を取外し、ボルト**B**に取付けます。
2. ボルトを外し、コラプシブル・スペア・タイヤを取出します。
3. 車両をジャッキ・アップしたまま、空気を入れていない状態でコラプシブル・スペア・タイヤを車両に取付けます。
「タイヤ交換」（275ページ）を参照してください。
4. タイヤを膨らませます。
「冷間時のタイヤ空気圧」（331ページ）を参照してください。

⚠ 警 告

思わぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ コラプシブル・スペア・タイヤの使用は緊急時に短距離を走行する場合にかぎります。安全上の理由から、スリップサイン（タイヤ溝の高さ、1.6mm）が現れる**前に**タイヤを交換してください。

▷ ポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）システムを解除しないでください。

▷ 急加速やカーブを高速で走行することは避けてください。走行特性を変えないため、また摩耗防止の理由から**80km/h**の最高速度を遵守してください。

▷ 別車種のコラプシブル・スペア・タイヤを使用しないでください。

▷ ご自分の車のコラプシブル・スペア・タイヤを他の車両に装着しないでください。

▷ 一度に装着するコラプシブル・スペア・タイヤは**1個**までとします。

▷ エア・サスペンション装着車ではタイヤ充填コネクタはコラプシブル・スペア・タイヤに空気を入れる場合にのみ使用してください。

コラプシブル・スペア・タイヤを使用した後

▷ バルブを緩めて空気を逃します。その後、数時間経過しないと、タイヤは元の形状に戻りません。

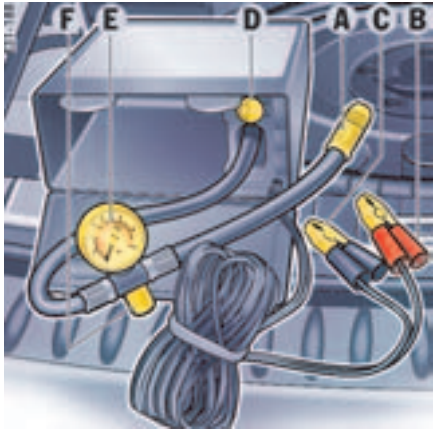
知識：

コラプシブル・スペア・タイヤは元の形状に戻してからでないと、ラゲッジ・コンパートメントのコラプシブル・スペア・タイヤ収納場所に収納できません。

知識：

パンクしたタイヤは、工具セットの中にあるプラスチック・シートに置いてください。コラプシブル・スペア・タイヤの修理はタイヤ製造元でのみ修理することができます。

▷ スペア・タイヤに不具合が発生したら、正規ポルシェ販売店にて点検を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。



+=ジャンパー・ケーブル用プラス（+）端子
−=ジャンパー・ケーブル用マイナス（−）端子

エア・サスペンション非装着車のタイヤ空気充填

1. コンプレッサーの前面のカバーを開きます。
2. コンプレッサーの充填ホース**A**をタイヤ・バルブにねじ込みます。
3. エンジン・ルームのカバー**A**を取外します。
4. コンプレッサーのクランプをジャンパー・ケーブル用端子に接続します。
   以下の手順を遵守してください。

— ジャンパー・ケーブル用プラス（**+**）端子のキャップを開きます。
— プラス（+）ケーブル**B**（赤）をジャンパー・ケーブル用プラス（**+**）端子に接続します。
— マイナス（−）ケーブル**C**（黒）をジャンパー・ケーブル用マイナス（**−**）端子に接続します。

⚠ 注 意

空気充填作業中はコンプレッサーの充填ホースが熱くなることがあるため火傷をする恐れがあります。

▷ 手袋を着用してください。

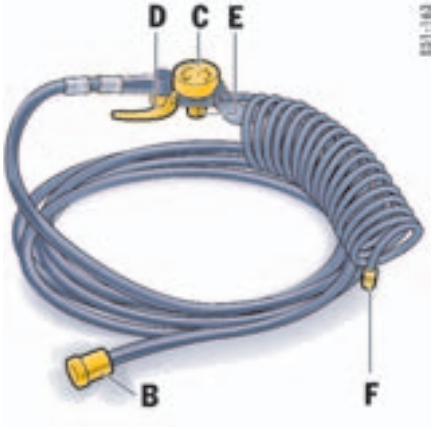
5. スイッチ**D**でコンプレッサーをONにします。
   2〜3分で必要な充填圧力に達します。
6. スイッチ**D**でコンプレッサーをOFFにします。
7. プレッシャ・テスター**E**で充填圧力を点検します。測定圧力に応じて、圧力を抜くか、さらに空気を充填します。
   充填圧力を再度点検します。
8. コンプレッサーの充填ホースを抜きます。

エア・サスペンション非装着車の充填圧力抜き

1. スイッチ**D**でコンプレッサーをOFFにします。
2. 正しい充填圧力が得られるまでエア・ブリード・スクリュー**F**を開きます。

エア・サスペンション装着車のタイヤ空気充填

1. 左リア・シートのループ**A**を引いてシート・クッションを持上げます。
2. シート・クッションを前方に（矢印**B**）引き出します。
3. シート・クッションをまっすぐ起こします。
4. 固定ベルトのマジック・テープを外します。
5. タイヤ充填ホースをバッグから取出します。
6. 右フロント・シートの足元にあるカバー**A**を取外します。



B - *コンプレッサーとの接続スクリュー*
C - *プレッシャ・テスター*
D - *タイヤ充填用ハンド・バルブ*
E - *エア・ブリード・スクリュー*
F - *タイヤ・バルブとの接続フィラー*

7. 接続スクリュー**B**をコンプレッサー接続部（右側フロント・シートの足元）にねじ込みます。
8. 接続フィラー**F**をタイヤ・バルブにねじ込みます。

⚠ 警 告

機器の操作を誤ると負傷および損傷の恐れがあります。

▷ この機器は本車両のタイヤの空気充填または空気抜きにのみ使用してください。

9. イグニッションをONにします。
10. 正しい充填圧力が得られるまでハンド・バルブ**D**を押します。
空気充填時はプレッシャ・テスター**C**でタイヤ空気圧をモニターします。
11. 接続スクリューをコンプレッサー接続部から外します。
12. 接続フィラーをタイヤ・バルブから外します。
13. タイヤ充填ホースをバッグに収納します。

知識：

コンプレッサーにはオーバーヒートに対する保護機能が付いており、必要に応じて自動的に停止します。自動停止した場合は、コンプレッサーが冷えるまで2～3分待ってください。

エア・サスペンション装着車の充填圧力抜き

▷ 正しい充填圧力が得られるまでエア・ブリード・スクリュー**E**を開きます。
空気充填時はプレッシャ・テスター**C**でタイヤ空気圧をモニターします。

スペア・タイヤ

⚠ 警 告

スペア・タイヤのホイール・サイズ、タイヤ・サイズ、タイヤ品質はノーマル・タイヤとは異なる場合があります。ノーマル・タイヤとは異なるスペア・タイヤを使用する場合は、走行特性が損なわれる恐れがあります。

- ▷ スペア・タイヤの使用は緊急時に短距離を走行する場合に限ります。
  安全上の理由から、スリップサイン（タイヤ溝の高さ、1.6mm）が現れる**前に**タイヤを交換してください。
- ▷ ポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）システムを解除しないでください。
- ▷ スペア・タイヤのタイヤが製造から4年を超える場合は、パンク時のみの使用に限ってください。
- ▷ 急加速やカーブを高速で走行することは避けてください。
  取付けたスペア・タイヤが他の3つのタイヤと異なる場合は、許容最高速度は**80km/h**です。走行特性を変えないため、また摩耗防止の理由からこの許容最高速度を遵守してください。

スペア・タイヤの取出し

⚠ 警 告

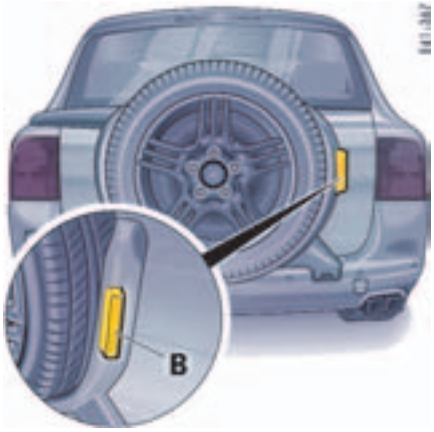
スペア・タイヤの取出しを誤ると、負傷する恐れがあります。

- ▷ スペア・タイヤ・ブラケットが固定されている場合のみスペア・タイヤを取出してください。
- ▷ スペア・タイヤをスペア・タイヤ・ブラケットから取出す際には十分注意してください。ホイールはたいへん重いものです（約35kg）。

1. ホイール・ボルト（5個）すべてをゆるめます。
2. 上側のホイール・ボルトを外します。
   工具セットの組付け補助工具を代わりに取付けます。残りのホイール・ボルトを外します。

スペア・タイヤの装着

- ▷ ホイール・ボルトを挿入し、手で仮締めします。組付け補助工具を外し、代わりにホイール・ボルトを取付けます。ホイールの中心がずれないように、対角線の順に仮締めします。
- ▷ ホイール装着後、ホイール・ボルト（5個）すべてを**150Nm（111ftlb）**で締付けます。



B - *スペア・タイヤ・ブラケットのロック解除ボタン*

スペア・タイヤ・ブラケットの開け方

⚠ 警 告

スペア・タイヤ・ブラケットの操作を誤ると負傷および事故の恐れがあります。

▷ スペア・タイヤ・ブラケットを操作するときは、周囲に人や動物がいないこと、物が置いてないことを確認してください。スペア・タイヤ・ブラケットの操作には必ずボタン**B**を使用してください。

▷ 車両が左右いずれかに傾いている場合は、スペア・タイヤ・ブラケットに補助ロック**C**をかけてください。

作業の前に

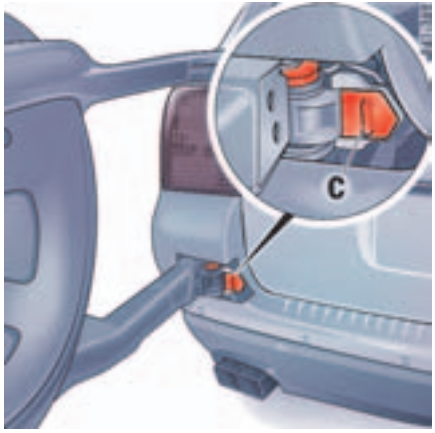
セントラル・ロッキングのロックを解除してください。

▷ ボタン**B**を押してスペア・タイヤ・ブラケットを開きます。

知識：

— スペア・タイヤ・ブラケットを**30° 以上**開くと、自動的に全開位置まで開きます。
スペア・タイヤ・ブラケットが全開位置になると、リア・リッドを開くことができます。

— スペア・タイヤ・ブラケットを開く角度が**30° 未満**になると、自動的にリア・リッドの位置まで戻ります。
ただし、この状態ではスペア・タイヤ・ブラケットは完全には閉じていません。手で押してしっかり閉じます。



C - *補助ロック*

車両が傾いている場合のスペア・タイヤ・ブラケットの補助ロック操作

1. スペア・タイヤ・ブラケットを開きます。
2. 補助ロック**C**を左にスライドさせます。
スペア・タイヤ・ブラケットが機械的にロックします。
警告灯「リア・リッド」が点灯し、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイにメッセージが表示され、ドライバーにスペア・タイヤ・ブラケットが開いていることを警告します。

スペア・タイヤ・ブラケットの閉じ方

⚠ 警 告

スペア・タイヤ・ブラケットの操作を誤ると、負傷および事故の恐れがあります。

▷ スペア・タイヤ・ブラケットの操作には必ずボタン**B**を使用してください。

▷ 車両が傾いている場合は、スペア・タイヤ・ブラケットを動かすために大きな力が必要になります。

▷ スペア・タイヤ・ブラケットを操作するときは、周囲に人や動物がいないこと、物が置いてないことを確認してください。

1. 補助ロック**C**がかかっているか確認します。必要に応じて補助ロック**C**を右にスライドさせます。
2. スペア・タイヤ・ブラケットを回転させて力をかけて押し、ロックします。
3. ロックを確認してメータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイの表示に従います。
   スペア・タイヤ・ブラケットをロックすると、表示灯は消灯します。

オートロック

メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイを使用して、ドアとリア・リッドのロック／ロック解除機能、およびハザード・ランプの点滅パターンを設定できます。設定した内容は、そのとき使用しているリモート・コントロールに記憶されます。

▷「テール・ゲート」（99ページ）を参照してください。

D - *けん引フック取付カバー（左）*
E - *エマージェンシー・リリース・ケーブル*

スペア・タイヤ・ブラケットの緊急解除

バッテリが上がった場合、スペア・タイヤ・ブラケットを開くにはメカニカル・エマージェンシー・リリースを使用してください。

⚠ 警 告

スペア・タイヤ・ブラケットの操作を誤ると、負傷および事故の恐れがあります。

▷ スペア・タイヤ・ブラケットの緊急解除は、水平な場所に駐車している場合にのみ実施してください。

1. 左けん引フック取付カバー**D**を外します。
2. エマージェンシー・リリース・ケーブル**E**を矢印の方向に引きます。スペア・タイヤ・ブラケットのロックが解除され、開くことができます。

電気系統

電気・電子回路の損傷を防止するために、電装品の取付け作業は正規ポルシェ販売店で行ってください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

▷ 電装品はポルシェ社が認可した物のみをご使用ください。

⚠ 警 告

回路がショートしたり、火災になる恐れがあります。

▷ 電気系統の作業をするときは事前にバッテリ・マイナス（−）ケーブルの端子を外してください。

リレー

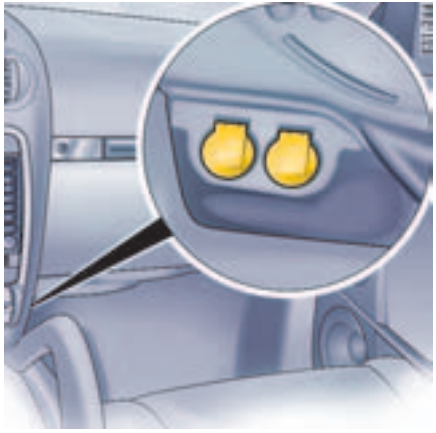
リレーの点検および交換は必ず正規ポルシェ販売店で交換してください。

盗難防止装置、セントラル・ロッキング

セントラル・ロッキングと盗難防止装置のデータは、バッテリを取外しても変換されません。
バッテリが取外された場合は、盗難防止装置の機能は停止します。

ソケット

電装品は12Vソケットに接続することができます。



知識：
ソケットは、イグニッションをOFFにしても、イグニッション・キーを抜いても使用できます。
エンジン停止中に電装品を使用すると、バッテリが上がります。

ヒューズの交換

ショートや過負荷によるケーブルや電装品の損傷を防ぐために、各々の回路がヒューズで保護されています。

ヒューズ・ボックスは、エンジン・ルームとダッシュ・ボードの両端にあります。

1. 交換するヒューズと関係のあるシステムをOFFにしてください。
2. カバーを開きます。
3. ヒューズの点検や交換の際は、ヒューズ・リムーバを使用して、止め具から外してください。切れたヒューズは、金属線が溶けているのでわかります。
4. 必ず同じ容量のヒューズと交換してください。

知識：

ヒューズが何度も切れる場合は、原因を確かめるため直ちに正規ポルシェ販売店にご相談ください。
必ず同じ容量のヒューズと交換してください。ショートして火災などの原因となります。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

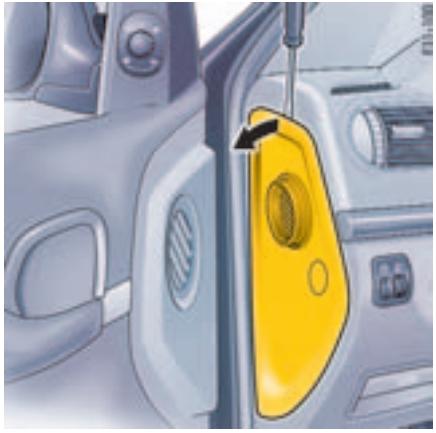
エンジン・ルームのヒューズ・ボックス・カバー

エンジン・ルームのヒューズ・ボックス

エンジン・ルームのヒューズ・ボックス・カバーの開け方

1. ドライバーで回転ロックを90˚反時計方向に回し、カバーを取外します。
2. ドライバーでヒューズ・ボックスのカバーの回転ロックを90˚反時計方向に回し、カバーを取外します。

▷ ▷ ▷



ダッシュ・ボードのヒューズ・ボックス・カバーの開け方

1. ドライバー（**矢印**）で慎重にプラスチック・カバーを開け、取外します。

   ヒューズの配置表はプラスチック・カバーの内側にあります。

A - *プラスチック・グリップ*

2. プラスチック・グリップ**A**を使用して、慎重にヒューズを取外します。

ヒューズ配置―ダッシュ・ボード左側ヒューズ・ボックス

＊日本仕様に設定はありません。

No.	用途	容量（A）
1	センター・コンソール・ソケット、シガー・ライタ	20
2	パーキング・ヒータ、ラジオ受信機	5
3	ソケット、助手席足元	20
4	パーキング・ヒータ	15
5	ソケット、ラゲッジ・ルーム	20
6		
7	ダイアグノーシス・ソケット	5
8	ウィンドウ・スクリーン・ワイパ・モータ	30
9	車両エレクトリカル・システム・コントロール・ユニット、ウォッシャ・フルード・ポンプ	15
10	リア・パワー・ウィンドウ（左側）	25
11	セントラル・ロッキング・システム	15
12	車両エレクトリカル・システム・コントロール・ユニット、ルーム・ランプ	20
13		
14	フロント・パワー・ウィンドウ（左側）	25
15	セントラル・ロッキング・システム、パワー・ウィンドウ、ミラー、テール・ランプ（右側）	15
16	車両エレクトリカル・システム・コントロール・ユニット、ホーン	20
17	車両エレクトリカル・システム・コントロール・ユニット、方向指示器、車幅灯（左側）	10
18	ヘッドランプ・ウォッシャ・システム	20
19	車両エレクトリカル・システム・コントロール・ユニット、フォグランプ	15
20		

No.	用途	容量（A）
21	車両エレクトリカル・システム・コントロール・ユニット、コーナリング・ランプ	15
22	リア・ディファレンシャル・ロック、トランスファ・ボックス	30
23	リア・ディファレンシャル・ロック、油圧解除式アンチロール・バー	10
24	タイヤ空気圧モニタリング・システム＊	5
25		
26	エンジン・コントロール・ユニット（エンジン制御、ラジエータ・ファン）、エアバッグ、インストルメント・パネル	10
27		
28		
29		
30		
31		
32		
33	ステアリング・コラム・モジュール	15
34	室内モニタ、傾斜センサ	5
35	車両エレクトリカル・システム・コントロール・ユニット、ロービーム（左側）、ハイビーム（左側）	15
36	車両エレクトリカル・システム・コントロール・ユニット	10
37		
38		10
39	リア・ウィンドウ・ヒータ	5
40	インストルメント・パネル、ダイアグノーシス	5
41	ステアリング・コラム・ロック、イグニッション・キー・ロック、セントラル・ロッキング・システム、ポルシェ・エントリー＆ドライブ	15
42	スライディング／チルティング・ルーフまたはパノラマ・ルーフ・システム	30

No.	用途	容量（A）
43	サブ・ウーハー	30
44	電動シート調整、（左側）；電動ステアリング・コラム調整	30
45	電動シート調整、（左側）；リア・シート・ヒータ	30
46		
47	トランスファ・ボックス	10
48		
49	サーボトロニック、油圧解除式アンチロール・バー	5
50	クランク・ケース・ベンチレーション・ヒータ	10
51	エアコン、ダイアグノーシス、パーキング・ブレーキ・スイッチ	5
52	リア・ワイパ	30
53	車両エレクトリカル・システム・コントロール・ユニット、セントラル・ロッキング・システム、パワー・ウィンドウ、ミラー、ランプ・スイッチ、ステアリング・コラム・モジュール	5
54	ヘッドランプ光軸調整	10
55		
56	ファン、フロント・エアコン・システム	40
57	ファン、リア・エアコン・システム	40
RES 1	スペア・ヒューズ　1	
RES 2	スペア・ヒューズ　2	

ヒューズ配置—ダッシュ・ボード右側ヒューズ・ボックス

＊日本仕様に設定はありません。

No.	用途	容量（A）
1	トレーラ・カップリング・ソケット	15
2	パーキング・アシスタント	5
3	トレーラ・カップリング・ソケット	15
4	電話／テレマティックス・コントロール・ユニット＊	5
5	トレーラ・カップリング・ソケット	15
6	ポルシェ・スタビリティ・マネジメント（PSM）	30
7	トランスファ・ボックス（センター・ディファレンシャル・ロック）、携帯電話ソケット＊	5
8	車両エレクトリカル・システム・コントロール・ユニット、補助ドライビング・ランプ	20
9	CDチェンジャ、DVDナビゲーション＊	5
10	TVチューナ、衛星受信機＊	5
11	ラジオまたはポルシェ・コミュニケーション・システム（PCM）	10
12	サウンド・パッケージ・アンプ	30
13		
14	セントラル・ロッキング・システム、パワー・ウィンドウ、ミラー、テール・ランプ（左側）	15
15	リア・パワー・ウィンドウ（右側）	25
16		
17	車両エレクトリカル・システム・コントロール・ユニット、ロービーム（右側）、ハイビーム（右側）	15
18	リア・ウィンドウ・ヒータ・リレー	30
19	ブレーキ・ブースタ、トレーラ・カップリング・ソケット	30/25
20		

No.	用途	容量（A）
21	ボンネット・オープン・スイッチ、スペア・タイヤ・リリース	10
22	電動フロント・シート調整（右側）、フロント・シート・ヒータ（右側）、リア・シート・ヒータ（右側）	30
23	エアコン	10
24	フロント・シート・メモリ（右側）、電動フロント・シート調整（右側）	30
25	リア・エアコン・システム	5
26		
27	車高調整	15
28		
29	ティプトロニック・コントロール・ユニット	10
30	リア・リッド・パワー・クロージング・メカニズム	20
31	セントラル・ロッキング・システム、パワー・ウィンドウ、ミラー	15
32	セントラル・ロッキング・システム（右側）	10
33		
34	フロント・パワー・ウィンドウ（右側）	25
35	車両エレクトリカル・システム・コントロール・ユニット、方向指示器、車幅灯（右側）	10
36	ルーフ・モジュール、電話＊、コンパス	5
37		
38	ポルシェ・スタビリティ・マネジメント	10
39	ダイアグノーシス	5
40	トランスファ・ボックス（センター・ディファレンシャル・ロック）	10
41	トレーラ・カップリング・ソケット	10
42	ルーフ・モジュール	5
43	リバース・ランプ	5

No.	用途	容量（A）
44	ウォッシャ・ノズル・ヒータ、ランニング・ギヤ、シート・ヒータ	5
45		
46		
47	携帯電話ソケット＊	10
48	車高調整	10
49	自動防眩ミラー、電話＊	5
50		
51	ティプトロニック	20
52	セレクタ・レバー・スイッチ	5
53		
54		
55	バック・カメラ＊	5
56	ポルシェ・スタビリティ・マネジメント（PSM）	40
57	トランスファ・ボックス（センター・ディファレンシャル・ロック）	40

ヒューズ配置—エンジン・ルーム内ヒューズ・ボックス

No.	用途	容量（A）
1	ファン	60
2	ファン	30
3	セカンダリ・エア・ポンプ	40
4	セカンダリ・エア・ポンプ	40
5		
6		
7	フューエル・インジェクタ、イグニッション・コイル	20
8	フューエル・インジェクタ、イグニッション・コイル	20
9	エンジン・コントロール・ユニット、カムシャフト・アジャスタ	30
10	エンジン・コンポーネント；ラジエータ・ファン、アフター・ラン・ポンプ、カーボン・キャニスタ・バルブ、エアコン・プレッシャー・センサ、タンク漏れダイアグノーシス	10
11	エンジン・ワイヤリング	15
12	セカンダリ・エア・ポンプ、アフター・ラン・ポンプ	5
13	フューエル・ポンプ（右側）	15
14	フューエル・ポンプ（左側）	15
15	エンジン・コントロール・ユニット、メイン・リレー	10
16	バキューム・ポンプ	30
17	O2センサ（触媒コンバータ前）	15
18	O2センサ（触媒コンバータ後）	7.5

知識：
ヒューズの交換の際には、ダッシュ・ボードにあるヒューズ・ボックスからヒューズ・リムーバを取外して使用してください。

バッテリ

⚠ 警 告

回路がショートしたり、火災になる恐れがあります。

▷ 電気系統の作業をするときには、ショートの危険を避けるためにバッテリ・マイナス（−）ケーブルの端子を外してバッテリの接続を切ってください。

▷ ショートする危険があるので、工具、指輪、ブレスレット、時計バンドなど電気を通す装飾品が車両の電気部品と接触しないように注意してください。

爆発の危険あり

▷ バッテリを乾いた布で拭かないでください。

▷ バッテリに触れる前に、車体などに触れて静電気を逃がしてください。

バッテリ取扱い上の注意

作業の前に取扱説明書をお読みください。

安全眼鏡を必ず着用してください。

子供を絶対に近付けないでください。

爆発の危険あり

バッテリ充電中に爆発性の高い電解質のガスが発生します。

火気厳禁、禁煙

電気配線や電気装置を扱っているときは、回路のショートや火花を発生させないでください。
ガス抜きホースが付いたバッテリではホース出口から高濃度の電解質ガスが放出されるためホースによじれや詰まりがないようにしてください。

酸による火傷の危険あり

バッテリ液には極めて強い腐食性があります。
常に安全手袋と安全眼鏡を必ず着用してください。
ガス抜き穴からバッテリ液が漏れる恐れがあるので、バッテリを傾けないでください。

応急処置

バッテリ液が目にかかった場合、直ちに水で数分間洗い流し医者の診察を受けてください。
皮膚、衣服にかかった場合、直ちに石けん水で中和し、大量の水で洗い流してください。
万一バッテリ液を飲み込んでしまった場合は、直ちに医者の診察を受けてください。

廃棄

古いバッテリは、適切な廃棄場にて廃棄してください。

古いバッテリを家庭ごみと一緒に廃棄しないでください。

充電状態

バッテリを十分に充電することにより、始動時のトラブルがなくなり、バッテリの寿命も延びます。交通渋滞、制限速度、および騒音、排ガス、燃費に関する要求により、エンジン回転数、つまりジェネレータ出力は抑えられます。しかし、電気装備類が驚異的に増え、必要な電力は増加しています。

不慮のバッテリ上がりを防ぐため、下記に留意してください。

- ▷ 市街地／短距離の運転時、および渋滞時には、不要な電気装備類をOFFにしてください。
- ▷ 車両を離れるときには、かならずイグニッション・キーを抜いてください。

  または、ポルシェ・エントリー＆ドライブ装着車はイグニッション・スイッチをOFFにしてください。
- ▷ エンジン停止時には、ポルシェ・コミュニティ・マネジメント・システムを使用しないでください。
- ▷ 「バッテリの充電」（310ページ）を参照してください。

知識：

特に冬場は時々バッテリを充電することが必要です。

バッテリのお手入れ

- ▷ バッテリ表面と端子は清潔で乾いた状態に保ってください。
- ▷ バッテリ・ポストと端子クリップは、必ず確実にセットしてください。

バッテリ液の量の点検（ロー・メインテナンス・バッテリの場合のみ）

バッテリ液を必要以上に注入しないでください。夏期や暖かい気候のところでは、頻繁に点検する必要があります。

- ▷ 液を補充するときは、清潔な容器を使用し、アルコール分（ウィンドウ・クリーナの残留分など）がバッテリ内に入らないように注意してください。
- ▷ 全てのプラグを緩めます。
  車を水平な場所において、各セル内の電解液の液面が注入マークに達しているか点検してください。注入マークは、バッテリに線または突起で示されており、プラグの開口部から見えます。バッテリ・ハウジングの外側にも、注入マークが表示してあります。セルの側面からみると、バッテリ液の液面が黒っぽく確認できます。
- ▷ 量を調節する場合は、蒸留水のみを使用してください。決して希硫酸を加えないでください。

冬季時バッテリの取扱い

気温が低くなるとバッテリの電圧が低下する上にリア・ウィンドウ・ヒータ、ランプ類、ヒータ、フロント・ワイパなどの使用頻度が増えるので、より大きなバッテリ電力が必要となります。

- ▷ 冬になる前に、バッテリの充電状態を点検してください。

知識：

バッテリが凍結しないように、常に完全な充電状態にしてください。バッテリが充電不足だと−10℃程度の低温でも凍結することがあります。完全に充電されている場合は−40℃まで凍結しません。

車を保管するとき

車を使用せず、車庫や修理工場に長期間保管する場合は、ドアやエンジン・フード、トランク・リッドを確実に閉じてください。

▷ イグニッション・キーは抜き、必要によってはバッテリの端子を外してください。

知識：

▷ バッテリが切離してあると警報システムは作動しません。
バッテリを切離すときに車両がロックされていると、バッテリを再接続したときに警報システムが作動します。

▷ 警報システムを解除するためには、車両をロックし、再びロック解除します。

知識：

車を車庫に保管している間も、バッテリは放電しています。

▷ 正常に使用可能な状態を保つには、約6週間毎の充電が必要です。

▷ バッテリ液の量もチェックし、不足している場合は補充してください。

▷ 取外したバッテリは、湿気がなく風通しのいい冷暗所に保管してください。

バッテリ交換

バッテリの寿命は通常の消耗状態に左右され、特に、お手入れ、気候、走行条件（距離、積載物）によって違ってきます。バッテリ・ハウジングに表示されたデータだけでは、ポルシェ社の指定する全ての仕様に適合するバッテリかどうか判別することができません。

▷ ポルシェ車の仕様に適合する性能のバッテリをご使用ください。

ポルシェ純正バッテリのご使用を推奨致します。

▷ 使用済みバッテリの廃棄処分は、法規に従ってください。

車両の作動復帰

バッテリを接続した後、または**完全に上がってしまった**バッテリを充電した場合は、インストルメント・パネルのPSM警告灯が点灯し、マルチ・ファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

この場合は以下の手順により対処することができます。

1. エンジンを始動します。
   イグニッション・キーまたはコントロール・ユニット（ポルシェ・エントリー＆ドライブ装着車）をイグニッション・ロック位置**2**に**2度**回します。
2. 車両停止状態で、ステアリングを左右に少しずつ回し、PSM警告灯が消灯し、マルチ・ファンクション・ディスプレイのメモリから警告メッセージが消去されるまで短距離を直線走行させます。
3. 警告灯および警告メッセージが**消えない**場合は、最寄りの正規ポルシェ販売店まで慎重に運転し、故障を修理してください。
4. 警告灯および警告メッセージが消えた場合は、安全な場所に停車します。
5. パワー・ウィンドウの適応を確認してください。
   「ドア・ウィンドウ停止位置の記憶」（29ページ）を参照してください。
6. タイヤ空気圧モニター・システム装着車の場合
   「タイヤ空気圧モニタリング・システム登録フェーズ」（84ページ）を参照してください。
7. 電動可倒式トレーラー・カップリング装着車の場合
   「トレーラー・カップリングの最終位置の保存」（195ページ）を参照してください。

バッテリの取外しと取付け

⚠ 警 告

爆発の危険、ショートによる損傷、危害、ジェネレータおよび電子コントロール・ユニットの損害の恐れがあります。

▷ バッテリの取付けおよび取外しは整備工場で行ってください。

▷ エンジンをかけたままバッテリを切離さないでください。

▷ バッテリの切離しおよび接続は十分に注意して行ってください。ショートおよび爆発の恐れがあります。

▷ 取外す際にバッテリを傾けないでください。バッテリ液がこぼれて酸による火傷をする恐れがあります。

バッテリは左フロント・シート下のバッテリ・ボックスにあります。

バッテリが完全に上がった場合は、ジャンパー・ケーブル用端子に外部電源を接続してシートを動かしてください。

▷ 「ジャンパー・ケーブルによる始動」（309ページ）を参照してください。

知識：

シート取付けボルトをゆるめた場合は、必ず新品と交換してください。
ボルトはマイクロカプセル化処理されており、ほこりや水分から保護されています。
古いボルトをそのまま使用すると、規定の締付けトルク50Nmが得られない場合があります。

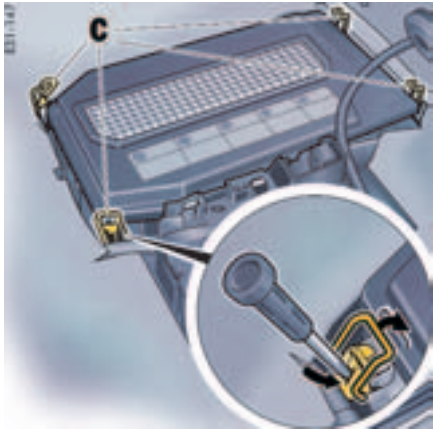
バッテリの取外し

1. 電装品をOFFにしてイグニッション・キーを引抜きます。
2. 左フロント・シートを一番後ろまで動かし最も高い位置に上げます。
   バックレストをまっすぐに起こします。
3. フロント・シート・トリム**A**を外します。

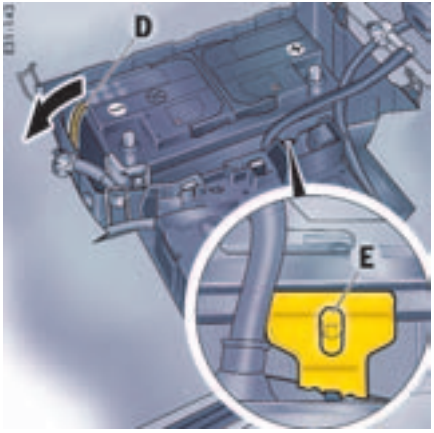
▷▷▷

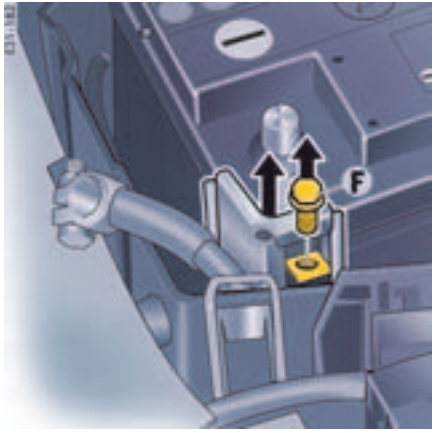
4. フロア・カーペットを前にめくります。シート・マウントのスクリュー**B**を両方外します。

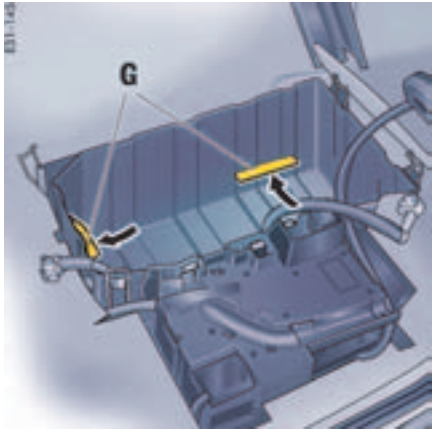
5. シートを後ろいっぱいに倒します。シートを傾けたまま前後調整を使用して前に動かします。（シートを後ろに倒す前にリア側シートレール・カバーの取外しが必要です）



6. ドライバーでバッテリ・ボックスのカバーのクランプ**C**（4個）を開きます。
7. バッテリ・ボックス・カバーを通気ダクトと一体で取外します。
8. ショートの危険があります。
   重要：マイナス・ケーブルを先に切離し、次にプラス・ケーブルを切離します。





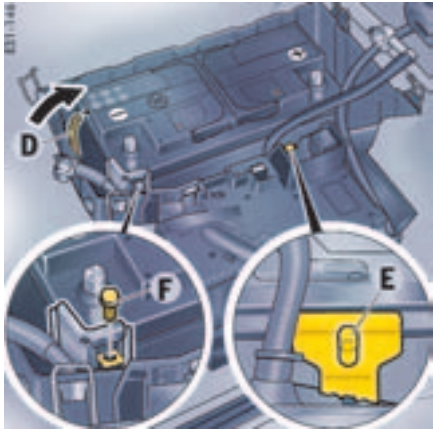


9. ベント・ホース**D**をバッテリから引抜きます。
10. バッテリ固定プレートのスクリュー**E**を外します。
    バッテリ固定プレートを取外します。
11. ブラケットのスクリュー**F**を外します。
    ブラケットを取外します。
12. 腐食性溶液によるやけどの危険があります。
    折りたたみ式ハンドルを持ってバッテリをバッテリ・ボックスから持上げます。バッテリを傾けないように注意してください。

バッテリの取付け

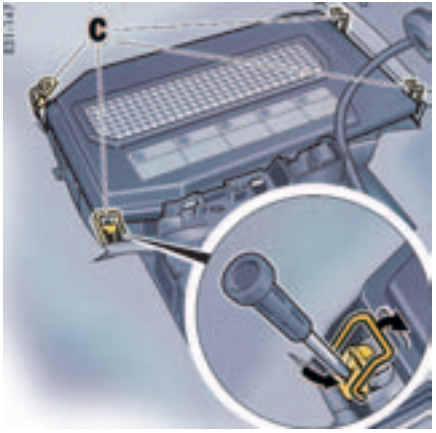
1. 腐食性溶液によるやけどの危険があります。
   できる限り傾けないようにバッテリをバッテリ・ボックスに入れます。
2. バッテリを前方に、さらに車両中央部に向けて押し、ストッパ**G**の下に入れます。

▷▷▷



▷ **全てのスクリュは必ず規定トルクで締付けてください**。

3. バッテリ固定プレートをスクリュー**E**で締付けます。締付けトルク：20Nm
すべてのスクリューは規定トルクで締付けてください。
4. ブラケットをスクリュー**F**で締付けます。
締付けトルク：9Nm
5. **重要**：忘れずにベント・ホース**D**をバッテリに接続してください。
ベント・ホースの両端が正しく接続されているか確認してください。
6. ショートの危険があります。
重要：プラス・ケーブルを先に接続し、次にマイナス・ケーブルを接続します。



7. バッテリ・ボックス・カバーを慎重に取付けます。
通気ダクトが正しく接続されているか確認してください。
8. クランプ**C**（4個）をバッテリ・ボックスのカバーにはめ、ドライバーで閉じます。

9. シートを傾けたまま前後調整を使用して後ろに動かします。シートを前に倒します。
10. シート・マウントのネジ穴を清掃します。
11. 新品のボルト**B**（マイクロカプセル化処理済）を使用します。
ボルト**B**を挿入し、手で2～3回転させます。
ボルトを締付けます。
締付けトルク：50Nm
12. フロント・シート・トリムを留めます。
13. シートを通常位置に戻します。（取外したリア側シートレール・カバーを取り付けます）

補助バッテリの取外しと取付け

⚠ 警 告

爆発の危険、ショートによる損傷、危害、ジェネレータおよび電子コントロール・ユニットの損害の恐れがあります。

▷ バッテリの取付けおよび取外しは整備工場で行ってください。

▷ エンジンをかけたままバッテリを切離さないでください。

▷ バッテリの切離しおよび接続は十分に注意して行ってください。ショートおよび爆発の危険があります。

知識：

バッテリに関する章に記載されている一般情報は、運転席下のバッテリとラゲッジ・コンパートメント内のバッテリに適用します。

▷ 「バッテリ」（298ページ）を参照してください。

トランクの下のラゲッジ・コンパートメントに補助バッテリがあります。

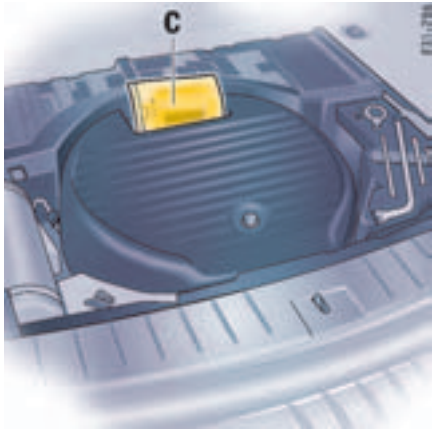
サブウーファー、またはコラプシブル・スペア・タイヤは、バッテリを取外す前に取外してください。

コラプシブル・スペア・タイヤの取外し

1. ロータリ・ノブ**A**を取出し、ボルト**B**にはめ込みます。
2. ボルトを外しコラプシブル・スペア・タイヤを取外します。

コラプシブル・スペア・タイヤの取付け

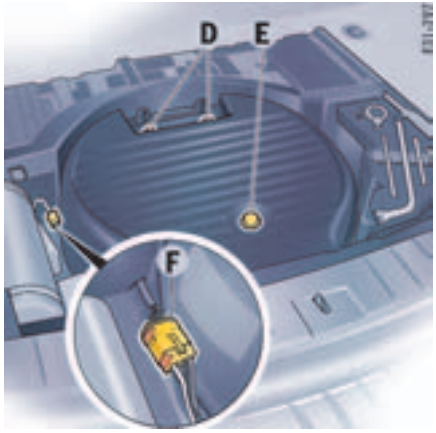
1. コラプシブル・スペア・タイヤを入れます。
2. ボルト**B**をはめ込みます。
3. ボルト**B**をロータリ・ノブ**A**で締付けます。

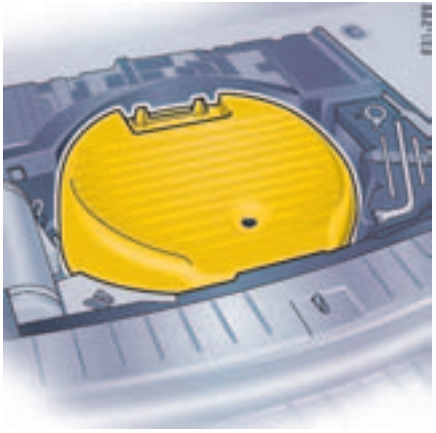


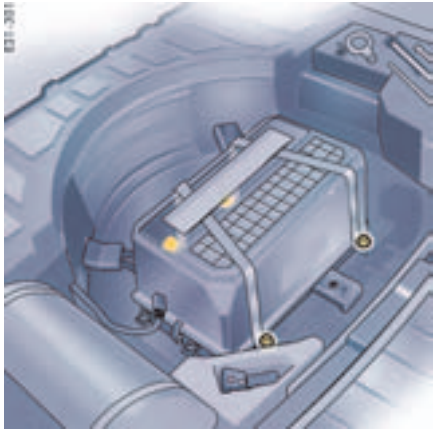
サブウーファーの取外し

1. イグニション・キーを抜きます。ポルシェ・エントリー&ドライブ・コントロール・ユニットをイグニッション・ロックから外します。「コントロール・ユニットのイグニッション・ロックからの抜き取り」（58ページ）を参照してください。
2. タイヤ・シーラント**C**を取外します。

▷▷▷







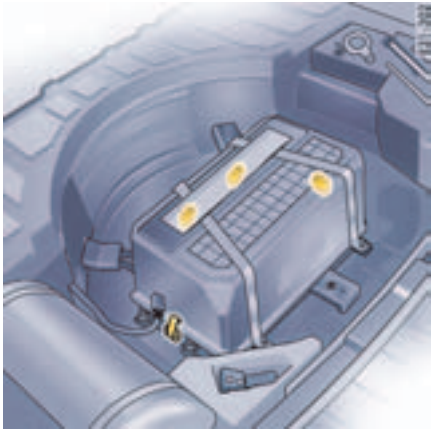
3. ファスニング・ナット**D**（2個）を外します。
4. スクリュー**E**を外します。
5. プラグ・コネクタ**F**の接続を外します。
6. サブウーファー・ハウジングを外します。

サブウーファーの取付け

1. サブウーファーを入れます。
2. プラグ・コネクター**F**を接続します。
3. ファスニング・ナット**D**（2個）を締めます。
4. スクリュー**E**を締めます。
5. タイヤ・シーラント**C**を溝に取付けます。

補助バッテリの取外し

1. イグニション・キーを抜きます。
   ポルシェ・エントリー&ドライブ・コントロール・ユニットをイグニッション・ロックから外します。
   「コントロール・ユニットのイグニッション・ロックからの抜き取り」（58ページ）を参照してください。
2. バッテリ・ボックスのファスニング・ナット（4個）をゆるめます。



3. バッテリ・ボックス・カバーの留め金（4個）を外します。
4. バッテリ・ボックス・カバーを外します。
5. ショートする危険があります。
   重要：マイナス・ケーブル先に切離し、次にプラス・ケーブルを切離します。

6. バッテリのベント・ホース**G**を抜きます。
7. バッテリ・ファスニング・プレートのファスニング・ナット**H**を外します。
8. バッテリ・ファスニング・プレートを取外します。
9. 折りたたみ式ハンドルでバッテリ・ボックスからバッテリを持ち上げます。

補助バッテリの取付け

1. 補助バッテリをバッテリ・ボックスに入れてください。
2. **重要**：必ずベント・ホース**G**をバッテリに繋いでください。
   ベント・ホースの両端がきちんと取り付けられているか注意してください。
3. ショートする危険があります。
   重要：プラス・ケーブルを接続してからマイナス・ケーブルを接続します。
4. バッテリ・ファスニング・プレートをファスニング・ナット**H**で締付けます。
5. 注意してバッテリ・ボックス・カバーを被せます。
6. バッテリ・ボックス・カバーに留め金（4個）をつけて閉じます。
7. バッテリ・ボックスのファスニング・ナット（4個）を締めます。

リモート・コントロール用バッテリの交換

注意：

▷ 電池の処分方法は環境保護の基準に従ってください。

車両キー

リモート・コントロールの電池が切れかかると、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに警告が表示されます。
警告が表示された場合、電池を交換してください。

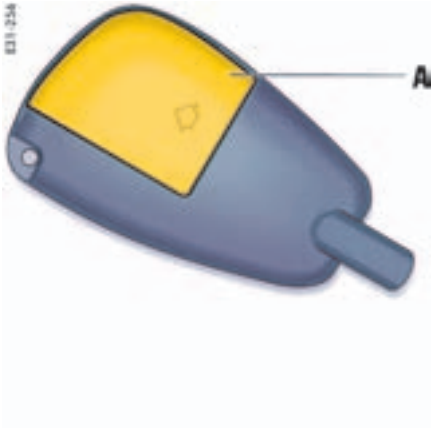
電池の交換

1. 小さなドライバーでキー・ハウジングの背面のカバーを開けます。
2. 電池を交換します。プラス、マイナスの方向に注意してください。
3. カバーを取付けてしっかりはめます。

パーキング・ヒータのリモート・コントロール*

リモート・コントロールの電波が届く範囲が狭くなった場合、または発光ダイオードがオレンジ色に点灯した場合、電池を交換してください。

*日本仕様に設定はありません。



電池の交換

1. カバー**A**を矢印の方向に引きます。
2. 電池を取外します。
3. 新品の電池を入れます。プラス、マイナスが正しく入れられているか確認してください。
   リモート・コントロールには2個の12V電池が使用されています。
4. カバー**A**を閉じます。

ジャンパー・ケーブルによる始動

冬季にバッテリ電圧が不足したり、長い間車を運転せずに放置していたためにエンジンが始動しない場合は、他の車のバッテリを補助として使用することができます。この場合にはジャンパー・ケーブルが必要となります。以下の注意を守ってください。
同一電圧（12V）のバッテリを使用してください。供給側のバッテリの容量（Ah）が、バッテリが上がった車のバッテリの容量に較べ低すぎないでください。
ジャンパー・ケーブルは確実に接続してください。

⚠ 警 告

ショートして怪我および損傷をする危険があります。

- ▷ 使用するジャンパー・ケーブルは十分な断面積を持ち、絶縁端子クリップで接続してあるものに限ります。必ずメーカーの取扱説明書を読んでください。
- ▷ エンジン内の作動部に絡まないようにジャンパー・ケーブルを通してください。車両同士を接触させないでください。接触しているとプラス端子が接続されて電流が流れ、ショートする危険性があります。
- ▷ 指輪、ネックレス、時計バンドなど、電気を通す装飾品が通電部に触れないように注意してください。

漏れたバッテリ液に触れる危険があります。

- ▷ バッテリを傾けないようにしてください。

爆発の危険があります。

- ▷ タバコの火、電気配線や溶接による火花等をバッテリに近付けないでください。
- ▷ ジャンパー・ケーブルは、エンジン・ルーム内の回転部品にひっかからないように接続してください。

ジャンパー・ケーブルによる始動

下記の手順に従ってください。

1. カバー**A**を取外します。
2. ジャンプ・スタート用にバッテリのプラス端子（**+**）のカバーを開きます。
3. プラス側のケーブルをまずジャンプ・スタートするバッテリのプラス端子（**+**）に接続し、次に支援車のバッテリのプラス端子に接続します。
4. マイナス側のケーブルをまず支援車のバッテリ・マイナス端子に接続し、次にジャンプ・スタートする車両のアース箇所（**−**）に接続します。

▷▷▷

+=ジャンプ・スタート車両のプラス側端子
−=ジャンプ・スタート車両のアース箇所

5. 支援車のエンジンを始動し、高回転にします。
6. エンジンを始動します。ジャンパー・ケーブル使用による始動時は、スタータを15秒以上作動させないでください。始動に失敗したときは、1分以上待ってから再試行してください。
7. マイナス・ケーブルをジャンパー・ケーブル用マイナス端子（−）から切離し、次に支援車のバッテリのマイナス端子から切離します。
8. プラス・ケーブルを支援車のバッテリのプラス端子から切離し、次にジャンパー・ケーブル用プラス端子（+）から切離します。
9. ジャンパー・ケーブル用プラス端子（+）のキャップを閉じます。

バッテリの充電

バッテリ充電器について、お近くの正規ポルシェ販売店から適切なアドバイスが受けられます。

1. 必ず充電器メーカーの取扱説明書を遵守してください。
2. バッテリを充電する場合は、適切な換気を確実に実施してください。
3. ロー・メインテナンス・バッテリのバッテリ液のレベルを点検します。
4. バッテリ充電器をジャンパー・ケーブル用端子に接続します。
   確実に接続してから、メイン接続部にプラグを挿入し、充電器のスイッチを入れます。
5. 充電終了後、充電器を切離します。
6. ロー・メインテナンス・バッテリのバッテリ液のレベルを点検します。

バッテリ充電後

バッテリを接続した後、または**完全に上がってしまった**バッテリを充電した場合は、インストルメント・パネルのPSM警告灯が点灯し、マルチ・ファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

この場合は以下の手順により対処することができます。

1. エンジンを始動します。
   イグニッション・キーまたはコントロール・ユニット（ポルシェ・エントリー＆ドライブ装着車）をイグニッション・ロック位置**2**に**2度**回します。
2. 車両停止状態で、ステアリングを2〜3回左右いっぱいに回し、PSM警告灯が消灯し、マルチ・ファンクション・ディスプレイのメモリーから警告メッセージが消去されるまで短距離を直線走行させます。
3. 警告灯および警告メッセージが**消えない**場合は、最寄りの正規ポルシェ販売店まで慎重に運転し、故障を修理してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。
4. 警告灯および警告メッセージが消えた場合は安全な場所に停車します。
5. パワー・ウィンドウの作動を確認してください。
   「ドア・ウィンドウ停止位置の記憶」（29ページ）を参照してください。
6. タイヤ空気圧モニタリング・システム装着車の場合
   「タイヤ空気圧モニタリング・システム登録フェーズ」（84ページ）を参照してください。
7. 電動可倒式トレーラー・カップリング装着車の場合
   「トレーラー・カップリングの最終位置の保存」（195ページ）を参照してください。

バルブの交換

⚠ 警 告

回路がショートする恐れがあります。

▷ バルブを交換するときは、必ず電装関係のスイッチをOFFにしてください。

感電して致命的な怪我をする恐れがあります。

▷ ヘッドランプは高電圧を発生させるため、周辺で作業するときは十分注意してください。

容量の大きいバルブを使用するとランプ・ハウジングが損傷します。

▷ リストに示したバルブのみを使用してください。

▷ 新しいバルブに汚れやグリースが付かないようにしてください。

▷ きれいな布かやわらかい紙で包んで持ち、手が触れないようにしてください。手で触れると油などがバルブに付着しバルブの寿命が短くなります。

▷ 安全のため必ず車内にいくつか予備用バルブを用意し、どのバルブが切れても直ちに新しいものと取替えられるようにしてください。

ヘッドランプ

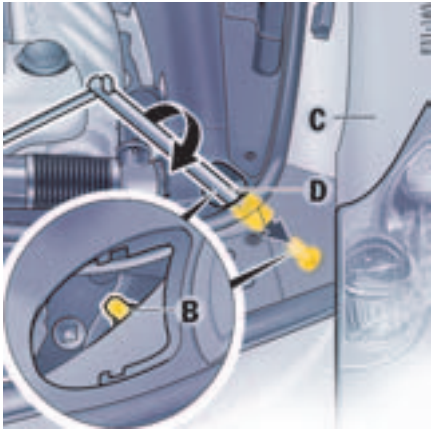
⚠ 注 意

高温になってヘッドランプが損傷することがあります。

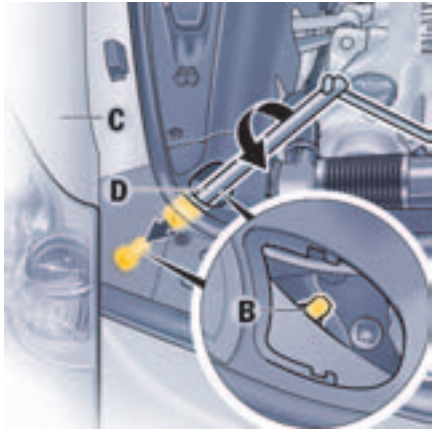
▷ ヘッドランプにカバー（フィルム、ストーン・ガードなど）をしないでください。

バイキセノン・ヘッドランプの取外し

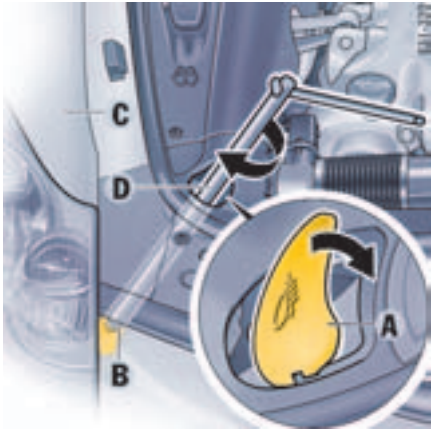
1. イグニッションをOFFにしてイグニッション・キーを引抜きます。
2. 矢印の方向にカバー**A**を押下げ、取外します。



B - ヘッドランプ・リリース
C - フェンダ
D - ソケット・レンチ



B - ヘッドランプ・リリース
C - フェンダ
D - ソケット・レンチ

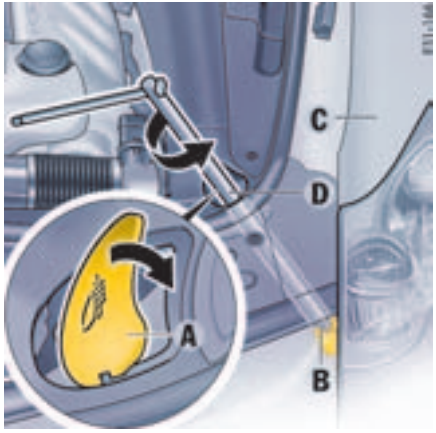


B - ヘッドランプ・リリース
C - フェンダ
D - ソケット・レンチ

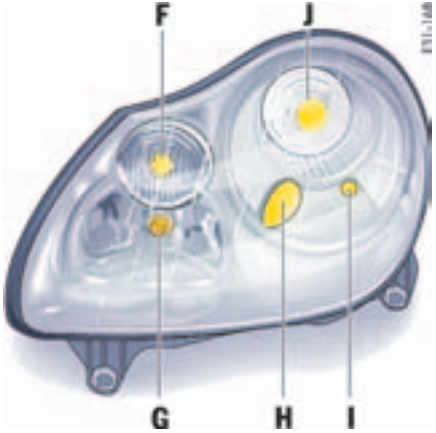
3. 工具セットからソケット・レンチ**D**を取出します。
4. ソケット・レンチ**D**をリリースにはめ、矢印の方向に回します。
   ヘッドランプ・ホルダのロックが外れます。
5. ヘッドランプを引いてフェンダから取出します。

バイキセノン・ヘッドランプの取り付け

1. ヘッドランプをガイド・レールに入れ、フェンダにしっかり押し込みます。
2. ヘッドランプを後部に押しながら、ソケット・レンチ**D**を矢印の方向に回します。
   ヘッドランプのロックがカチッとはまったことを確認します。
3. ヘッドランプが正しく取り付けられているか確認します。
4. カバー**A**を取り付け、押してはめます。



B - *ヘッドランプ・リリース*
C - *フェンダ*
D - *ソケット・レンチ*



バルブの位置

バイキセノン・ヘッドランプ

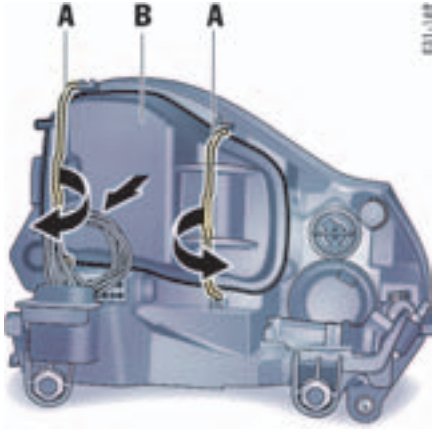
F 方向指示灯バルブ

G 補助ドライビング・バルブ

H コーナリング・ランプ・バルブ

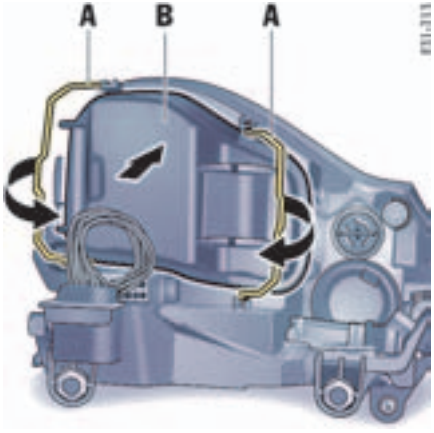
I 車幅灯バルブ

J ロービーム／ハイビーム用キセノン・ガス放電ランプ・バルブ



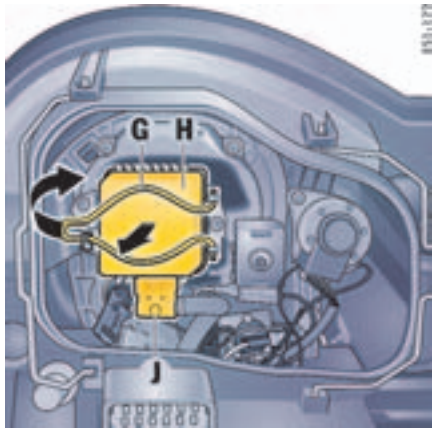
ヘッドランプ・ハウジングのカバー開き方

1. 両側のクリップ**A**を開きます。
2. ハウジングのカバー**B**を取外します。



ヘッドランプ・ハウジングのカバー閉じ方

1. ハウジングのカバー**B**を取り付け、所定の位置にはめます。
2. クリップ**A**を閉じます。



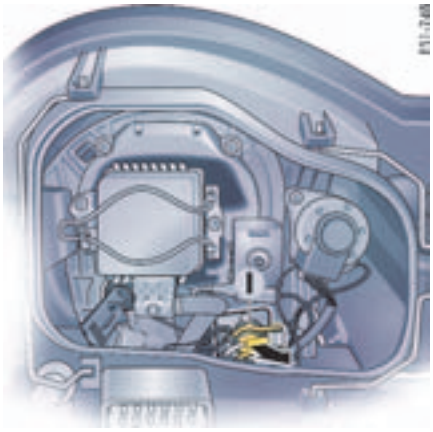
ガス放電ランプ・バルブの交換

1. プラグ**J**を引抜きます。
2. 固定クリップ**G**を外します。
3. 切れたバルブ**H**を交換します。

知識：

▷ バルブが正しい位置に取り付けられているか確認してください。

4. 逆の手順で組立てます。



ヘッドランプのコーナリング・ランプ・バルブの交換

1. バルブからプラグを引抜きます。
2. 固定クリップ**I**（**矢印**）を外します。
3. 切れたバルブを交換します。

知識：

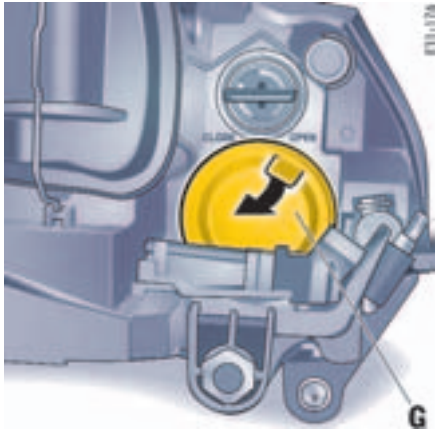
▷ バルブが正しい位置に取付けられているか確認してください。

4. 逆の手順で組立てます。

車幅灯バルブの交換

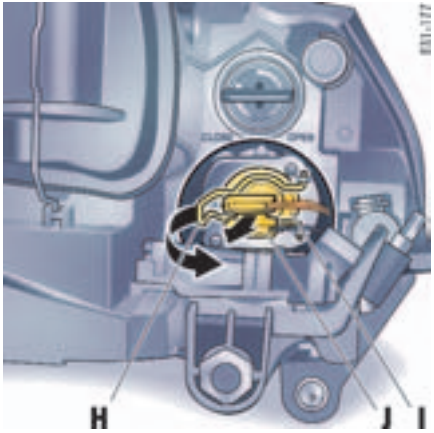
1. バルブ・ホルダをランプ・ブラケットから引抜きます。

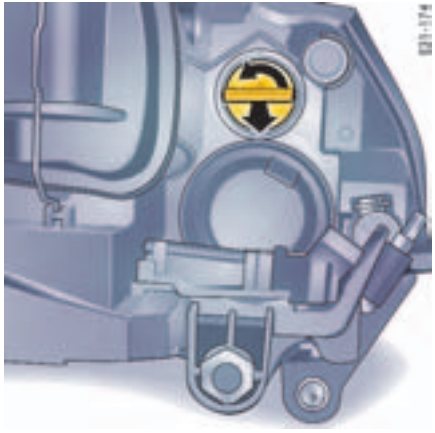
2. バルブをホルダから引き出します（**矢印**）。
3. 切れたバルブを交換します。
4. 逆の手順で組立てます。

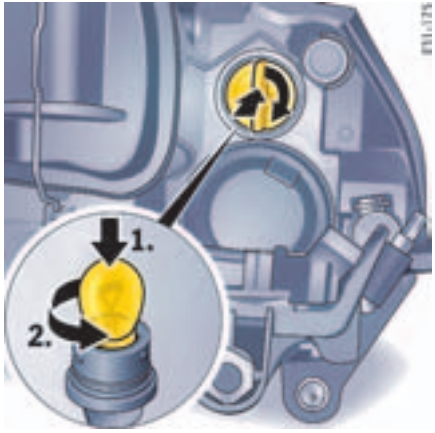


補助ドライビング・バルブの交換

1. カバー**G**を取外します。







2. プラグ**J**をバルブから引抜きます。
3. 固定クリップ**H**を外します。
4. バルブ**I**を引抜きます。
5. 切れたバルブを交換します。

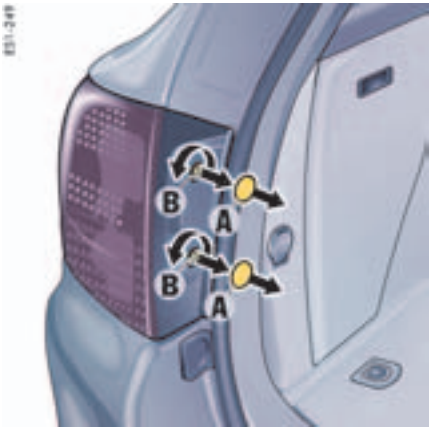
知識：

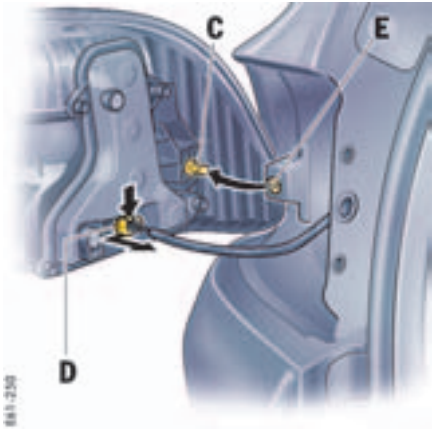
▷ バルブが正しい位置に取付けられているか確認してください。

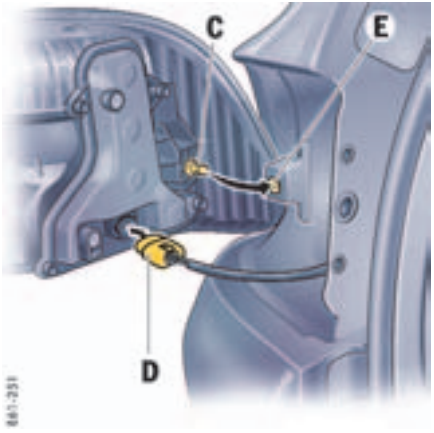
6. 逆の手順で組立てます。

方向指示灯バルブの交換

1. ヘッドランプ・ハウジングのバルブ・ホルダを半時計方向に回し、引抜きます。
2. バルブをホルダから取外します（差込み式）。
   まず、バルブをホルダに押付け、矢印の方向に回します。
3. 切れたバルブを交換します。
4. バルブ・ホルダをヘッドランプ・ハウジングに挿入し、時計方向に回してはめます。







テール・ランプ

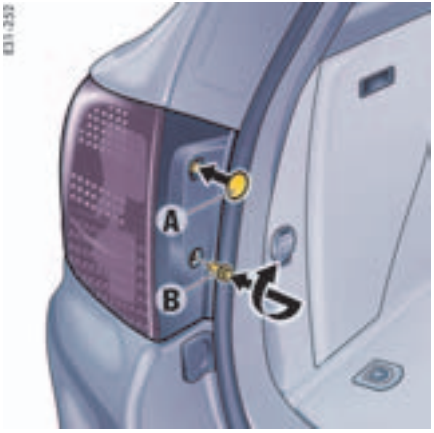
テール・ランプの取外し

モデルにより、テール・ランプが取外しにくい場合があります。テール・ランプの取外しが困難なときは、最寄りの正規ポルシェ販売店にご相談ください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、正規ポルシェ販売店で実施されるようお願い致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

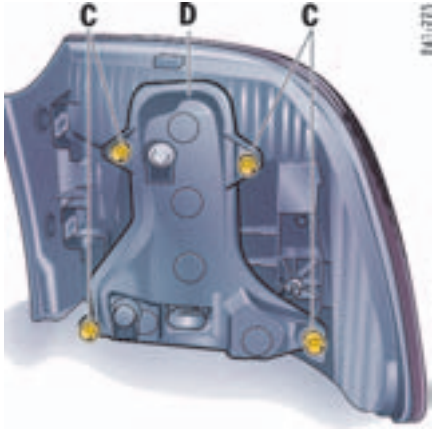
1. イグニッション・スイッチをOFFにします。
2. リア・リッドを開きます。
3. ドライバーなどでキャップ**A**（2個）を取外します。
4. 工具セットのソケット・レンチを使用して、固定スクリュー**B**（2個）を外します。
5. ランプ・ユニットを**横矢印方向**に抜き、さらにボール・ヘッド**C**をクリップ・ナット**E**から外します。
6. 接続プラグ**D**の**矢印**部分を押しながら接続プラグを取外します。

テール・ランプの取付け

1. 接続プラグ**D**を**矢印**方向に「カチッ」と音がするまで押しながら取付けます。
2. テール・ランプのボール・ヘッド**C**をクリップ・ナット**E**に押込み、テール・ランプをボディに取付けます（**矢印**）。

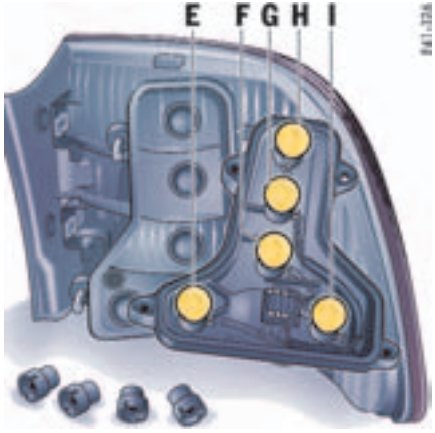


3. 固定スクリュー**B**をねじ込みます。
4. キャップ**A**を押込みます。



バルブの交換

1. 工具セットのソケット・レンチを使用して、ハウジング・カバー**D**を固定しているスクリュー**C**を外します。
2. ハウジング・カバー**D**を取外します。



E - *テール・ランプ*
F - *後退灯*
G - *方向指示灯*
H - *ブレーキ・ランプ*
I - *リア・フォグランプおよびテール・ランプ*

3. 切れたバルブを交換します。
4. ハウジング・カバー**D**を取付けます。
5. テール・ランプを取付けます。

ライセンス・ランプ

ライセンス・ランプ・バルブの交換

1. 両方のスクリュー**A**をゆるめ、ランプを取外します。
2. ゴム製のカバーを後ろへ押し、切れたバルブをスプリング接点から取外します。
3. 切れたバルブを交換します。
4. 逆の手順でランプを元通りにします。ランプの作動を点検します。

ヘッドランプの調整

ヘッドランプの調整は、専用の調整装置のある専門の修理工場で行わなければなりません。調整は車両を走行可能な状態にして、燃料タンクを満タンにして行います。

左側通行から右側通行への変更に伴うヘッドランプの切換え

車両通行帯の異なる国で走行する場合は、ヘッドランプにフィルムを部分的に貼付けて、対向車のドライバーの視界を妨げないようにしてください。

▷ フィルムおよび取扱説明書は正規ポルシェ販売店で入手することができます。

バルブ・リスト

エクステリア・ランプ	型、容量
キセノン・ヘッドランプ、ハイビーム、ロービーム	D1S
テール・ランプ	P21／5W
車幅灯（フロント）	W5W
方向指示灯（リア）	P21W
方向指示灯（フロント）	PY21W
ブレーキ・ランプ	P21W
ライセンス・ランプ	C5W
フォグランプ	H11
リア・フォグランプ、テール・ランプ	P21／4W
後退灯	P21W
方向指示灯（サイド）	W5W
補助ドライビング・ランプ	H7
コーナリング・ランプ	H3

インテリア・ランプ	型、容量
室内灯（フロント）	W5W
読書灯	W5W
ラゲッジ・コンパートメント・ランプ	K12V10W
フットウェル・ランプ	W3W
グローブ・ボックス・ランプ	W3W
センター・コンソール	W3W
足元照明灯（ドア）	W3W
警告灯（ドア）	W3W
足元照明灯（リア・リッド）	W5W
ガード・ランプ（リア・リッド）	W5W

けん引とけん引による始動

知識：

▷ 必ずけん引に関する法律を遵守してください。

▷ けん引する場合は十分注意してください。
発進する前に、けん引する側、される側、両方の車両のドライバーがけん引およびけん引始動の特徴についてよく知ることが重要です。

けん引ロープ

▷ 付属部品メーカーのマニュアルに記載のデータおよび取り付け時の注意事項を参照してください。
メーカーの安全および取扱説明書を遵守してください。

▷ 必ずけん引ロープの許容けん引重量を遵守してください。けん引ロープは車両重量を支えるものでなければなりません。メーカーの規定値をけっして超えないようにしてください。

▷ ブレーキが故障している車両はけん引**しない**でください。

▷ けん引時はけん引ロープをたるませないようにし、ロープに急激な衝撃などがかからないようにしてください。

けん引バー

▷ 付属部品メーカーのマニュアルに記載のデータおよび取り付け時の注意事項を参照してください。
メーカーの安全および取扱説明書を遵守してください。

▷ 必ずけん引バーの許容けん引重量を遵守してください。けん引バーは車両重量を支えるものでなければなりません。メーカーの規定値をけっして超えないようにしてください。

▷ けん引バーは斜めに渡さ**ない**でください。

▷ ブレーキが故障している車両はけん引**しない**でください。

けん引による始動

▷ けん引始動をしないでください。けん引始動を行うと、トランスミッションが損傷する恐れがあります。

バッテリに不具合があるとき、あるいはバッテリが完全に上がってしまった場合には、バッテリを交換するかジャンパー・ケーブルを使ってエンジンを始動させてください。それ以外の方法では始動できません。

▷ 「バッテリの取外しと取付け」（301ページ）を参照してください。

▷ 「バッテリ」（298ページ）を参照してください。

けん引

お車より車両重量の大きい車はけん引しないでください。

⚠ 警 告

エンジンがかかっていないとサーボが働かず、ブレーキやステアリングが大変重くなるため事故を起こす恐れがあります。

▷ 必ずけん引に関する法律を守ってください。

エンジンを停止させてけん引する場合は、トランスミッション・オイルが各部に供給されないため、トランスミッションを損傷させる恐れがあります。これを避けるため、以下のことを守ってください。

▷ セレクタ・レバーを“**N**”レンジにしてください。
「セレクタ・レバーの緊急解除」（205ページ）を参照してください。

▷ けん引されるときは、全てのタイヤを接地させてください。
イグニッション・スイッチをONにして、ブレーキ・ランプや方向指示灯が機能し、ステアリング・ロックが解除されるようにしてください。

▷ けん引されるときの速度は50km/h以下にしてください。けん引距離は50km以内にしてください。50kmを超える場合は、車両積載車を使用してください。

フロントまたはリア・アクスルを上げたけん引

エンジンを停止させてけん引する場合は、トランスミッション・オイルが各部に供給されないため、トランスミッションを損傷させる恐れがあります。これを避けるため、以下のことを守ってください。

▷ フロント、リアいずれかのアクスルを上げてのけん引は原則として認められません。
このようなけん引方法が避けられない場合は、回転させるアクスルのドライブ・シャフト（カルダン・シャフト）を取外してけん引してください。

▷ セレクタ・レバーを“**N**”レンジにしてください。

▷ イグニッション・スイッチをOFFにしてください。
イグニッション・キーをイグニッション・ロックに残して、ステアリングがロックしないようにします。
ポルシェ・エントリー＆ドライブ装着車では、コントロール・ユニットをイグニッション・ロックから取外して、キーを挿入してください。
「イグニッション・ロック／ステアリング・ロック」（58ページ）を参照してください。

▷ けん引される車が周囲から目立つようにしてけん引してください。

▷ けん引されるときの速度は50km/h以下にしてください。
けん引距離は50km以内にしてください。50kmを超える場合は、車両積載車を使用してください。

車両の救助

車両の装備に応じて、スペア・ホイール・ハウジングに1個または2個のけん引リングが収納されています。

▷ 車両を救助する場合は、可能な限りけん引リング2個を使用してください。
けん引リングはフロントまたはリアの一方のみにねじ込んでください。
フロントとリアに1個ずつ取付けることはできません。

けん引リング

車両の装備に応じて、スペア・ホイール・ハウジングに1個または2個のけん引リングが収納されています。

けん引リングの取付け

▷ マイナス・ドライバーの先でバンパーにあるプラスチック・カバー**A**を慎重にこじ開けます。
カバーは一方の端が固定してあるので完全に取外す必要はありません。

▷ けん引リング**B**をいっぱいにねじ込み（逆ネジ）、手で締付けます。

車両の識別、テクニカル・データ

車両の識別 …… 326
エンジン・データ …… 328
トランスミッション …… 329
燃費 …… 329
タイヤ、ホイール、トレッド …… 330
冷間時のタイヤ空気圧 …… 331
容量 …… 332
車両重量 …… 333
地上高 …… 334
車両寸法（DIN規格空車重量時）…… 336
動力性能 …… 338

車両の識別

スペア・パーツの注文や問い合わせをする場合は、必ず車体番号を明示してください。

データ・バンク

お車の大切な情報が記載されているデータ・バンクが、ロード・スペース下の左角に取付けられています。

注意：
データ・バンクは、紛失や損傷した場合、再発行する事ができません。

車体番号

車体番号は、ラゲッジ・コンパートメント内の工具セットの奥と、フロント・ウィンドウ枠の左下に刻印されています。

ビークル・プレート*

ビークル・プレートはエンジン・ルーム右側の隔壁にあります。

タイヤ空気圧プレート

タイヤ空気圧プレートは運転席ドアにあります。

*日本仕様に設定はありません。

エンジン・データ

	カイエン・ターボ	カイエン・ターボ・ハイ・パフォーマンス・キット装着車
エンジン・タイプ	4サイクル、スパークイグニッション・エンジン	
シリンダ数	8	
ボア	93mm	
ストローク	83mm	
総排気量	4,511cm^3	
最高エンジン出力	331kW（450HP）	368 kW（500 HP）
エンジン回転数	6,000rpm	5,500-6,000 rpm
最大エンジン・トルク	620Nm	700 Nm
エンジン回転数	2,250-4,750rpm	
エンジン・オイル消費量	最大1.5 ℓ/1,000km	
最高回転数（rpm）	6,500rpm	

トランスミッション

ギヤ比	
1stギヤ	4.15：1
2ndギヤ	2.37：1
3rdギヤ	1.56：1
4thギヤ	1.16：1
5thギヤ	0.86：1
6thギヤ	0.69：1
減速ギヤ（ローレンジ）	2.70：1
リバース・ギヤ	3.39：1
最終減速比	3.70：1

燃費

最新の80／1268／ECCの基準に従って測定されており、全てのボディ・タイプに適応します。

	市街地走行 （ℓ/100km）	ハイウェイ走行 （ℓ/100km）	平均 （ℓ/100km）	CO_2目標数値 （g/km）
カイエン・ターボーティプトロニックS	21.9	11.9	15.7	378

タイヤ、ホイール、トレッド

	タイヤ フロント　リア	ホイール フロント　リア	リム・オフセット フロント　リア	トレッド フロント	 リア
サマー・タイヤ	255/55 R 18 109 Y XL[2、4)]	8J×18	57 mm	1647 mm	1662 mm
	275/45 R 19 108 Y XL	9J×19	60 mm	1641 mm	1656 mm
	275/40 R 20 106 Y XL	9J×20	60 mm	1641 mm	1656 mm
	275/40 R 20 106 Y XL	9J×20／10J×20	60 mm／55 mm	1641 mm	1666 mm
ウィンター・タイヤ	235/60 R 18 107 H XL[1、4)]	8J×18	57 mm	1647 mm	1662 mm
	255/55 R 18 109 V XL[2、4)]	8J×18	57 mm	1647 mm	1662 mm
	255/50 R 19 107 V XL[3)]	9J×19	60 mm	1641 mm	1656 mm
オール・シーズン	255/55 R 18 109 V XL[2、4)]	8J×18	57 mm	1647 mm	1662 mm
オール・テレーン	235/60 R 18 107 T XL[1、4)]	8J×18	57 mm	1647 mm	1662 mm
	タイヤに記載されている積載容量係数（(例）106）と最大速度記号文字（(例）T）は、走行する最高速度以上の性能のものを使用してください。 新しいタイヤを装着するときおよびタイヤを交換する場合は、「タイヤとホイール」（261ページ）の諸注意をお読みください。				
タイヤ／ホイール・サイズ	指定のタイヤとホイールのサイズは広範囲のテストを元に認可されているものです。サイズの指定タイヤ、ホイールについてはお気軽に最寄りの正規ポルシェ販売店までお問い合わせください。 認可されていないサイズを使用されますと、走行に危険性が生じ事故を起こす恐れがあるため十分注意してください。				
コラプシブル・スペア・タイヤ	195/75 18[4)]	6.5J×18			

[1)] **スノー・チェーンとクリアランス**

1)のタイヤは、ポルシェ社指定のスノー・チェーン（部品番号955.044.600.07）を装着したときのクリアランスのみ保証されています。
2)および3)のタイヤは、ポルシェ社指定のスノー・チェーン（部品番号955.044.600.08）を装着したときのクリアランスのみ保証されています。さらに3)のタイヤは、リア・ホイールだけにスノー・チェーンを装着してください。
最適なハンドリング性能は、すべてのタイヤにチェーンを装着したときに得られます。前輪または後輪だけ（後輪への装着が望ましい）に、スノー・チェーンを装着して走行することも可能です。チェーン装着時は、50 km/h以下で走行してください。ポルシェ社が認可したファインリンク・クロスタイプ・チェーンまたはエッジ・チェーンだけを使用してください。

[4)] **カイエン・ターボ・ハイ・パフォーマンス・キット装着車**には、18インチ・タイヤとコラプシブル・スペア・タイヤを装着できません。

冷間時のタイヤ空気圧

これらのタイヤ空気圧はポルシェ社が認定したタイヤのみに適用されます。
必ず「タイヤとホイール」（261ページ）に記述されている指示に従ってください。

部分積載状態		
タイヤサイズ	前輪	後輪
235/60 R 18	2.6 bar (38 psi)	2.9 bar (43 psi)
255/55 R 18		
275/45 R 19		
275/40 R 20		
195/75-18 コラプシブル・スペア・タイヤ	3.5 bar (51 psi)	3.5 bar (51 psi)

全積載状態		
タイヤサイズ	前輪	後輪
235/60 R 18	2.6 bar (38 psi)	3.4 bar (50 psi)
255/55 R 18		
275/45 R 19		
275/40 R 20		
195/75-18 コラプシブル・スペア・タイヤ	3.5 bar (51 psi)	3.5 bar (51 psi)

▷ タイヤ空気圧モニタリング・システム装着車では、インストルメント・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに車両重量をセットしてください。「積載重量」（88ページ）を参照してください。＊

＊日本仕様に設定はありません。

容量

ポルシェ社指定のオイルのみを使用してください。
正規ポルシェ販売店でお尋ねください。オイルと燃料への添加剤は不要です。

エンジン・オイル交換（フィルタなし）	約8.0リットル
エンジン・オイル交換（フィルタあり）	約8.5リットル オイル・レベル・ゲージで測ります。「エンジン・オイル・レベル」（237ページ）を参照してください。
クーラント *	約18 ー 21リットル
オートマチック・トランスミッション（トルク・コンバータ含む）	約10.1リットル
トランスファ・ボックス	約0.85リットル
フロント・ディファレンシャル	約1.0リットル
リア・ディファレンシャル	約1.4リットル
ロッキング・リア・ディファレンシャル	約1.6リットル
燃料タンク	約100リットル （予備用約12リットルも含む）
燃料オクタン価	エンジンは無鉛プレミアム・ガソリン（98RON／88MON以上）使用の場合に、最適性能と燃費を達成するように設計されています。 95RON／85MONのオクタン価の無鉛プレミアム・ガソリンが使用された場合には、エンジンのノック・コントロール・システムが自動的に点火時期を調節します。
パワー・ステアリング	約1.5リットル（ハイドロリック・フルード ペントシン CHF202）
ブレーキ液タンク	約0.95リットル ポルシェ純正又は、同等品質のブレーキ液をご使用ください。
ウォッシャ液タンク（ヘッドランプ・ウォッシャ付）	約7.5リットル

* 車両の装備によって異なります。

車両重量（メーカー発表値）

空車重量	
空車重量（規格より）	
DIN規格空車重量（DIN70020）	2,355～2,665 kg
70／156／EEC*空車重量	2,430～2,740 kg
軸荷重、フロント**	1,490 kg
軸荷重、リア**	1,700 kg
最大総重量**	3,080 kg
EU規格トレーラー操作	
最大総重量	3,180 kg
軸荷重、フロント／リア	1,490／1,800 kg
ルーフ積載荷重	
最大ルーフ積載荷重***	100 kg
ルーフレール装着車	75 kg
けん引重量（車両＋トレーラー重量）	
最大けん引重量（ブレーキ作動時）	3,500 kg
最大けん引重量（ブレーキ非作動時）	750 kg
最大車両重量＋トレーラー重量	6,580 kg
垂直連結荷重	140 kg

* 空車重量には運転者1名分（75 kg）の重量が含まれています。

** 最大総重量および許容軸荷重を超えないようにしてください。
参考：追加アクセサリなどが装備されている場合は、それに応じて積載重量が減少します。

*** ポルシェ社によってテスト、認証されたポルシェ・テクイップメント製の、ルーフ・トランスポート・システムを使用した場合に限ります。

地上高

エア・サスペンション ― ノーマル・レベル	
ランプ・アングル	20.4°
アプローチ・アングル	29.1°
ディパーチャ・アングル	24.8°
地上高（アクスル中央）	217mm
エア・サスペンション ― ロー・レベル	
ランプ・アングル	17.7°
アプローチ・アングル	27.3°
ディパーチャ・アングル	22.8°
地上高（アクスル中央）	190mm
エア・サスペンション ― ローディング・レベル	
ランプ・アングル	14.9°
アプローチ・アングル	24.0°
ディパーチャ・アングル	20.9°
地上高（アクスル中央）	157mm
エア・サスペンション ― オフロード・レベル	
ランプ・アングル	22.2°
アプローチ・アングル	30.7°
ディパーチャ・アングル	25.7°
地上高（アクスル中央）	243mm

エア・サスペンション ー スペシャル・オフロード・レベル

ランプ・アングル	24.7°
アプローチ・アングル	32.4°
ディパーチャ・アングル	27.3°
地上高（アクスル中央）	273mm

車両寸法（メーカー発表値）

全長	4,786 mm
スペア・タイヤを含めた長さ	5,021 mm
全幅	1,928 mm
車高（DIN規格空車重量）ーノーマル・レベル	1,699 mm
ルーフレール装備車高 （DIN規格空車重量）ーノーマル・レベル	1,741 mm
ルーフ・キャリング・システム装備車高 （DIN規格空車重量）ーノーマル・レベル	1,789 mm
車高（DIN規格空車重量）ースペシャル・オフロード・レベル	1,749 mm
ルーフレール装備車高 （DIN規格空車重量）ースペシャル・オフロード・レベル	1,790 mm
ルーフ・トランスポート・システム装備車高 （DIN規格空車重量）ースペシャル・オフロード・レベル	1,838 mm
リア・リッド・オープン時の車高（DIN規格空車重量）	2,219 mm
最大許容水深	555 mm*

* エア・サスペンション装着車のスペシャル・オフロード・レベル時の車高では555 mmまでです。

ホイールベース	2,855 mm
オーバーハング、フロント	927 mm
オーバーハング、リア	1,004 mm
最小回転直径	11.7 m

動力性能

DIN規定による空車重量、および最大200kgまでの積載条件による。動力性能を損なう付加装置は使用せず。
（例：特殊タイヤ）

	カイエン・ターボ	カイエン・ターボ・ハイ・パフォーマンス・キット装着車
最高速度	266km/h	270km/h
0〜100km/h（62mph）発進加速	5.6秒	5.3秒
けん引時の最高許容速度	80km/h	

さく引

A

ABD ……213
ABS ……218
　オフロードABS ……219
　警告灯 ……219
AUTOボタン ……124, 128, 129

E

ECONモード ……127, 132
　ボタン ……124, 128

I

ISOFIXシステム……47

M

MSR ……215

P

PASM ……233
　インジケータ・ランプ ……109
　警告灯 ……233
　ディスプレイ ……233
PCM ……164
PSM ……213
　インジケータ・ランプ ……108
　オフロードPSM ……215
　解除 ……215
　警告灯……64, 108
　スイッチON ……216
　表示灯 ……216
PTM ……211

あ

アームレスト ……168
アルカンターラ ……258
アンダーコーティング ……255
アンチロック・ブレーキ・システム …218
　警告灯 ……219
アンチロール・バー
　解除 ……209

い

イージー・エントリー機能 ……33
イグニッション・ロック ……58
イモビライザー ……17
　ポルシェ・エントリー＆ドライブ …18
インストルメント・パネル ……64
　照明 ……114

う

ウィンター・タイヤ ……264, 330
ウィンドウ ……255
ウォッシャ液
　補充 ……243
　レベル ……243
ウォッシャ・システム ……116
運転
　オフロード ……222
　けん引時 ……186
　砂上 ……228
　積載量 ……176
　冬季時 ……204
運搬……25, 232

え

エア・クリーナ ……245
エアコン
　2ゾーン（オートマチック）……124
　4ゾーン（オートマチック）……128
　エアコン・リア・コントロール・
　パネルのロック ……129
　温度設定 ……125, 130
　カバー・フラップ ……123
　フロント・ウィンドウ ……132
エアコン・コンプレッサ
……124, 127, 128, 132
エアコン・ゾーン
　リア ……133
エア・サスペンション ……230
エアバッグ……48, 258
　機能 ……48
　警告灯 ……49
　処分について ……49
　ユニット ……50

エマージェンシ・コール・ボタン ……143
エンジン
　クーリング・システム ……67
　始動と停止 ……60
　データ ……328
エンジン・オイル ……237
　グレード ……237
　冬季および夏季 ……237
　粘度 ……237
　補充 ……239
　ポルシェ社によって認可された
　オイル ……237
　油温計 ……66
　レベル・ゲージ ……238
エンジン・オイル・レベル
　警告灯 ……238
　点検 ……238
エンジン・ドラッグ・トルク・
コントロール ……215
エンジンの始動……60, 198
エンジンの始動と停止 ……60
エンジンの停止……61, 203
エンジンの余熱利用 ……127, 133
エンジン・ブースト圧計 ……69
エンジン・フード ……178
　警告 ……111
エンジン・ブレーキ・サポート ……221
エンジン・ルーム
　清掃 ……255

お

オイル ……237
　警告 ……238
　消費量……12, 328
　粘度 ……237
　補充 ……239
　ポルシェ社によって認可された
　温度レンジによるオイル ……237
　油温計 ……66
　レベル・ゲージ ……238
　レベル点検 ……238
オイルと燃料 ……332
応急処置セット ……260
O2センサー ……251
オートマチック・ブレーキ・ディファレンシャル ……213
オート・ロック……22, 100
オート・ロック解除……22, 100
オール・シーズン・タイヤ ……330
オール・テレーン・タイヤ ……330
お手入れ ……252
お出かけの前に……12, 222
オドメータ ……69
オフロードABS ……219, 225
オフロード走行 ……222
　推奨手順 ……224
オフロード走行後 ……223
オフロード走行の走行システム ……223
オフロード・レベル ……230
折りたたみ式輪止め ……269
温度
　設定 ……125, 130
　センサ ……124, 128
オンボード・コンピュータ ……72
　基本画面 ……73
　警告……80, 104
　言語 ……103
　コラプシブル・スペア・タイヤ ……87
　コンパス ……97
　コンフォート・メニュー ……98
　システム ……89
　車両インフォメーション ……79
　初期設定 ……103
　スペア・タイヤ ……87
　積載 ……88
　設定 ……96
　操作、コントロール ……72
　タイヤ空気圧モニタリング・システム ……82
　タイヤ・シーリング ……88
　タイヤの種類 ……85
　単位 ……102
　電話 ……75
　時計 ……96
　メイン・メニュー ……74
　ランプ ……102
　レベル ……80

か

カーペット ……257
ガス・ディスチャージ・ランプ ……312

カップホルダ ……170
カミング・ホーム機能 ……142
ガレージ・ドア・オープナー ……159
消去 ……161
登録 ……160

き

キー ……14
緊急操作 ……15
バッテリーの交換 ……308
キックダウン ……201
ギヤ・ポジション・インジケータ ……199
緊急解除
スペア・タイヤ・ブラケット ……287
セレクタ・レバー ……205
燃料給油フラップ ……250
緊急操作
イグニッション・キー ……15
ドア ……15
ドア・ロック ……21

く

クーラント・レベル
点検 ……240
クーリング・システム ……67
エンジン・クーラント・レベル
警告 ……67
水温計 ……67
下り坂走行 ……225
クルーズ・コントロール ……119
加速 ……120
減速 ……120
スイッチOFF ……121
スイッチON ……119
スピードの設定 ……119
中断 ……120
車のお手入れ ……252
グローブ・ボックス ……167

け

軽合金製ホイール ……256
記号 ……265
警告 ……80
警告灯 ……104
警告メッセージ ……104
傾斜センサ ……24
一時的な解除 ……25
ON／OFF ……17
機能表示 ……26
作動／解除 ……24
軽修理について ……260
携帯電話 ……164
警報システム ……24, 288
スイッチON／OFF ……17, 19, 24
けん引 ……322
けん引による始動 ……322
けん引能力 ……185, 333
けん引バー ……322
けん引リング ……324
けん引ロープ ……322
減光 ……142
ボタン ……140, 142

こ

高圧洗車装置 ……252
工具 ……260, 266
工具セット ……260, 266
後退灯 ……318
コミュニケーション・システム ……164
小物入れ
アームレスト（フロント）……168
アームレスト（リア）……168
コラプシブル・スペア・タイヤ
……87, 216, 278, 305, 330
警告灯 ……106
コンパス ……97
コンフォート機能
スライディング／チルティング・
ルーフ ……145
パノラマ・ルーフ・システム ……150
パワー・ウィンドウ ……28
コンフォート・ランプ ……142
コンプレッサ ……267

さ

サービス・インジケータ ……108
サブ・ウーハの取外し ……305
サマー・タイヤ ……330
サンバイザ ……138
サン・ブラインド ……139

し

シート
位置 ……30
調節 ……30
フロント ……30
リア ……35
シート・ヒータ ……38
スイッチOFF ……38
スイッチON ……38
リア……39, 129
シートベルト ……40
警告灯 ……40
装着 ……41
高さ調整 ……42
外し方 ……41
ベルト・テンショナ ……40
シート・メモリー ……31, 56
運転席シート・メモリー ……32
キーによるメモリーの呼出し ……31
助手席シート・メモリー ……32
シート・メモリー（コンフォート） ……31
シーラント……88, 270
シーラント・セット……88, 270
シールのお手入れ ……256
シガー・ライタ ……162
室内防塵用フィルタ ……245
室内モニタ・システム ……24
一時的な解除 ……25
ON／OFF ……17
作動／解除 ……24
自動再ロック ……20
自動内気循環モード ……126, 131
自動防眩機能 ……57
シフト・アップ ……202
車高調整 ……230
車載マニュアル ……3
車体番号 ……326
ジャッキ ……266, 272
ジャッキ・アップ ……272
ジャッキ・ポイント ……272
車幅灯 ……112, 316
車両
お手入れ ……252
オフロード走行後 ……223
キー……14, 308
救助 ……323
固定 ……269
車高の上げ方 ……231
車高の下げ方 ……232
車体番号 ……326
洗車 ……252
データ・バンク ……326
バッテリ ……70, 298, 309
保管 ……258, 300
保管後の復帰 ……300
車両キー
バッテリ ……308
車両重量 ……333
車両寸法 ……336
車両ドア
ロック
（ポルシェ・エントリー＆ドライブ）…19
ロック（リモート・コントロール）…17
ロック解除
（ポルシェ・エントリー＆ドライブ）…18
ロック解除
（リモート・コントロール）……16
車両トレーラー・コンビネーション・
スタビリゼーション ……216
ジャンパー・ケーブルによる始動 ……309
接続 ……309
収納スペース ……166
ラゲッジ・コンパートメント左右の
収納スペース ……169
障害物 ……228
消火器 ……165
触媒コンバータ ……251
助手席側ドア・ミラーの調整……56, 158

す

垂直連結荷重 ……185
スキー・バッグ ……182
スタビリティ・マネージメント・
システム ……213
インジケータ・ランプ ……108
オフロード ……215
警告灯……64, 108
スチーム洗浄機 ……252
ステアリング ……50
調整 ……51
ヒータ ……50
マルチ・ファンクション・
ステアリング ……52

ステアリング・コラム・ロック
ポルシェ・エントリー＆ドライブ装着車 ……59
ポルシェ・エントリー＆ドライブ非装着車 ……59
ステアリング・ホイールでのギヤ・チェンジ ……200, 201
ステアリング・ホイール・ボタン ……52
照明 ……53
ステアリング・ロック ……58
スノー・チェーン ……264, 330
スピード・メータ ……69
スペア・タイヤ ……87, 278, 284, 330
警告灯 ……106
スペア・タイヤ・ブラケット ……285
開け方 ……285
ロック（ポルシェ・エントリー＆ドライブ）…19
ロック解除（ポルシェ・エントリー＆ドライブ）…18
ロック解除（リモート・コントロール）……16
スペア・パーツ ……326
スペーサ ……268
スペシャル・オフロード・レベル ……230
スポーツ・デザイン・パッケージ …7, 222
スライディング／チルティング・ルーフ ……144
コンフォート機能 ……145
スルーロード・バッグ ……182
荷物の固定 ……183

せ

整備 ……236
セーフティ・キャッチ（エンジン・フード）……178
セーフティ・ネット ……180
アッセンブリ ……181
取付け位置 ……180
セキュリティ・ホイール・ボルト ……267
セレクション・モード
オートマチック ……200
マニュアル ……202
セレクタ・レバー位置 ……199
ディスプレイ ……199
セレクタ・レバー・ロック ……205
センサ
温度（エアコン）……123
洗車 ……252
セントラル・ディファレンシャル・ロック ……208
セントラル・ロッキング・システム ……20, 288
ボタン ……21

そ

走行プログラム
オフロード ……201, 203, 206
走行制限プログラム ……204
走行プログラム ……200, 206, 210
ロー・レンジ・インジケータ・ランプ ……207
総重量 ……333
速度記号 ……265
ソケット ……288
ソケット（トレーラー）……191, 194

た

タイダウン・ベルト ……176
タイダウン・リング ……175
タイヤ ……261
荷重と速度 ……261
記号 ……265
空気充填 ……280, 282
交換 ……92, 263, 275
サイズ ……265, 330
サイド・ウォール ……265
トレッド ……330
破損 ……261
バルブ ……263
パンク時 ……269
ホイール・サイズ ……330
タイヤ空気圧 ……82, 186, 261
圧力抜き ……281, 283
警告灯 ……64, 95, 106
警告メッセージ ……90
仕様 ……95
データ ……331
荷物の積載 ……176
プレート ……327
タイヤ空気圧仕様 ……95
タイヤ空気圧モニタリング・システム …82
システム登録フェーズ ……84

モニタリング ……89
タイヤ・シーラント……88, 270
タコメータ…… 66

ち

小さな塗装の傷 ……254
地上高 ……334
チャイルド・シート ……43, 47
アタッチメント ……47
取付け ……47
チャイルド・シート・システム ……43
チャイルド・ロック
リア・ドア ……23
超音波センサ ……155
超音波センサ（パーキング・アシスタント）……154
超音波測定 ……156

つ

つやだし ……254

て

ティプトロニック……50, 198
ロッカー・スイッチ ……50, 200, 201
データ・バンク ……326
テール・ランプ ……318
テクニカル・データ ……328
電気系統 ……288
電話 ……164
電話メニュー ……75

と

ドア ……22
ドア・ガード／足元照明 ……143
ドア開 ……16, 18, 20, 22, 99
緊急操作 ……15
ドア・ミラー……55, 186
拡張 ……55
格納 ……55
自動調節 ……101
自動防眩ミラー ……57
助手席ミラーの調整 ……56
調整 ……55
トレーラーけん引時の運転 ……186
パーキング・エイド ……32
ヒータ ……56
ドア・ロック
オート・ドアロック……22, 100
除氷剤 ……253
ポルシェ・エントリー＆ドライブ …18
リモート・コントロール ……16
盗難防止 ……23
動力性能 ……338
読書灯
フロント ……140
リア ……141
時計 ……96
塗装 ……254
ドライビング・ランプ・アシスタント
……113
ランプ・スイッチ ……112
トラクション ……225
トラクション・システム ……212
トランスミッション ……198, 329
ドリンク・ホルダ ……170
トレーラー
切離し ……187
操作 ……185
ソケット ……191, 194
連結 ……187
トレーラー・カップリング ……185
着脱式 ……187
電動可倒式 ……193
トレーラー・ソケット ……191, 194

な

慣らし運転 ……12
新しいタイヤの慣らし方 ……12

に

荷物 ……176
スキーバッグの収納 ……183
セーフティ・ネット ……180
セーフティ・ネット・アッセンブリ
……181
積載 ……176
タイダウン・ベルト ……176
タイダウン・リング ……175
タイヤ空気圧……85, 331
トノ・カバー ……177
トノ・カバーの取付け ……178
ネット ……180

ね

粘度（エンジン・オイル）……237
燃料……68, 249
　燃費……12, 329
　レベル・ゲージ……68
燃料給油フラップ……249
燃料給油フラップの開き方……249
燃料計……68
燃料の給油……250

の

ノーマル・レベル……230
上り坂走行……224
　トラクション……225

は

パーキング・アシスタント……154
パーキング・エイド……154
　ドア・ミラー……32
パーキング・ヒータ……134
　故障……138
　スイッチON/OFF……135
　プログラミング……136
　メモリの作動……137
　リモコン……135, 308
パーキング・ブレーキ……61
　警告灯……109
　ブレーキ・テスト……221
パーキング・ランプ……115
パーキング・ロック……199
パーソナル・ボタン……31
排ガス
　警告灯……64, 71
　コントロール……251
　システム……251
　モニタリング……5, 71
灰皿……162
ハイビーム……115
　インジケータ・ランプ……64
　バルブ交換……312
　レバー……115
ハイ・レンジ……200, 202, 210
　オンロード走行プログラム……206
ハザード・ランプ……115
ハザード・ランプ・スイッチ……115
パッシング……115
バッテリ……70, 298
　お手入れ……299
　車を保管するとき……300
　警告灯……107
　交換……300
　車両キー……308
　車両の保管後の復帰……300
　充電……310
　充電後……311
　充電状態……299
　冬季時バッテリの取扱い……299
　取扱い上の注意……298
　取外し／取付け……301
　パーキング・ヒータのリモコン……308
　補助バッテリの取外し／取付け……305
バニティー・ミラー……139
パノラマ・ルーフ・システム……148
　コンフォート機能……150
バルブ
　交換……312
　リスト……321
パワー・ウィンドウ……27
　ウィンドウの開閉……27
　コンフォート機能……28
　作動解除（リア・ウィンドウ）……29
　作動準備……27
　停止位置の記憶……29
　ワンタッチ作動……28
パワー・ステアリング……244
パワー・ステアリング・オイル……245
パワー・テスト……236
パワー・トランスミッションおよびランニングギヤ・コントロール・システム……211
ハンド・フリー・マイク……164

ひ

ビークル・プレート……327
非常停止版……260
左側通行……320
ヒューズ……289
ヒューズ配置……291
ヒル・ホルダー……220

ふ

ファブリック・ライニング……258

ファンクション・キー ……52
照明 ……53
フィルタ
エア・フィルタ ……245
室内防塵用フィルタ ……245
風量
設定 ……125, 131
フォグランプ ……112
吹き出し口
足元 ……126, 132
中央 ……122, 126, 132
向き調節 ……126, 132
フット・ブレーキ ……62
不凍液の割合 ……240
プラスチック部品 ……256
フルタイム4WD ……212
ブレーキ ……62, 221
警告灯 ……63
テスト・メータ ……221
パッド ……12, 62
ブレーキ液警告灯 ……108, 243
ブレーキ液レベル ……242, 332
摩耗 ……62, 108
ブレーキ液
警告灯 ……108, 243
交換 ……243
容量 ……332
レベル点検 ……242
ブレーキ・ランプ ……318
フロア・マット ……257
フロント・シート
シート位置 ……30
フロント・シート・メモリー ……31, 32
フロント・ワイパー ……116

へ

ヘッドランプ ……256, 312
ウォッシャ ……116
調整 ……320
バイ・キセノン ……312
ハウジングのカバー閉じ方 ……314
バルブ交換 ……312
左車線走行から右車線走行への変更に伴う切換え ……320
ヘッドランプ自動高さ調整 ……114
ヘッドレスト ……34
調整 ……34
取付け ……34
取外し ……34
ベルト ……40
警告灯 ……40
装着 ……41
高さ調整 ……42
テンショナ ……40
外し方 ……41
ベンチレーション ……124, 128

ほ

ホイール ……256, 261
荷重と速度 ……261
トレッド ……262
ホイール・バランス ……262
保管 ……262
ホイール・アライメント ……263
ホイール交換 ……262, 264
ホイール・サイズ ……330
ホイール・ボルト ……267
タイヤ交換 ……275, 284
方向指示灯
インジケータ・ランプ ……64
レバー ……115
方向指示灯／ハイビーム／パッシング・レバー ……115
方向指示灯バルブ
フロント ……317
リア ……318
ボール・ヒッチ
安全確認 ……191
車両への取付け ……188
準備 ……189
電動可倒式トレーラー・カップリング ……193
取外し ……192
ホーン ……50
補助ドライビング・ランプ ……316
補助バッテリ
取外し／取付け ……305
ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント ……233
インジケータ・ランプ ……109
ディスプレイ ……233

ポルシェ・エントリー＆ドライブ ……18
イモビライザー ……19
リア・ウィンドウのロック／
ロック解除 ……18
リア・リッドのロック／
ロック解除 ……18
ポルシェ・コミュニケーション・
マネージメント ……164
ポルシェ・スタビリティ・
マネージメント ……213
インジケータ・ランプ ……109
オフロード ……215
解除 ……215
警告灯 ……64, 109
スイッチON ……216
ポルシェ・トラクション・マネージメント
……212
本革のお手入れ ……257

ま

マイク ……164
マルチ・ファンクション・
ステアリング ……52
電話操作機能付き ……53
電話操作機能なし ……54
ファンクション・キー ……52
マルチ・ファンクション・
ディスプレイ ……72
基本画面 ……73
警告 ……80
警告灯および警告メッセージ ……104
言語 ……103
コラプシブル・スペア・タイヤ ……87
コンパス ……97
コンフォート・メニュー ……98
システム ……89
車両インフォメーション ……79
初期設定 ……103
スペア・タイヤ ……87
積載 ……88
設定 ……96
操作、コントロール ……72
タイヤ空気圧モニタリング・システム
……82
タイヤ・シーリング ……88
タイヤの種類 ……85
単位 ……102
電話 ……75
時計 ……96
メイン・メニュー ……74
ランプ ……102
レベル ……80

み

水たまりや浅瀬の走行 ……226
ミラー
ドア・ミラー ……55
ルーム・ミラー ……54

む

ムービング・オフ ……198
ムービング・オフ・アシスタント ……220

め

メインテナンス ……236
メイン・メニュー ……74
眼鏡ケース ……166
メモリー ……31, 32
メモリー付きシート ……31
メモリー・ボタン ……31

ゆ

油圧解除式アンチロール・バー ……209

よ

容量 ……332
予備燃料タンク ……250

ら

ライセンス・ランプ ……320
ラゲッジ
固定（スキー・バッグ）……182
セーフティ・ネット ……180
セーフティ・ネット・アッセンブリ
……181
積載 ……176
タイダウン・ベルト ……176
タイダウン・リング ……175
トノ・カバー ……177
トノ・カバーの取付け ……178
ネット ……180
ラゲッジ・コンパートメント ……175

ラゲッジ・コンパートメント・リッド ……172
ロック（ポルシェ・エントリー＆ドライブ）…19
ロック解除（ポルシェ・エントリー＆ドライブ）…18
ロック解除（リモート・コントロール）……16
ラジエータ・ファン ……241
ラジオ ……165
ランニング・ギヤ設定 ……233
ランプ・スイッチ ……112
ランプ類 ……256
交換 ……312
リスト ……321

り

リア・ウィンドウ ……174
ヒータ ……123, 124, 128
開く（リモート・コントロール）…16
ロック（ポルシェ・エントリー＆ドライブ）…19
ロック解除（ポルシェ・エントリー＆ドライブ）…18
ロック解除（リモート・コントロール）……16
リア・シート ……35
倒す ……35
戻す ……37
リア軸荷重 ……185, 333
リア・ディファレンシャル・ロック …208
リア・フォグランプ ……112, 318
リア・ランプ ……318
リア・リッド ……172
ロック（ポルシェ・エントリー＆ドライブ）…19
ロック解除（ポルシェ・エントリー＆ドライブ）…18
ロック解除（リモート・コントロール）……16
リア・ワイパ ……118
リッド
エンジン・フード ……178
エンジン・フード警告灯 ……111
ラゲッジ・コンパートメント ……172
リバース・ギヤ ……199
リム ……330
リム径 ……265
リム幅 ……265
リモート・コントロール ……16
パーキング・ヒータ ……135
バッテリの交換 ……308
リリース・ボタン ……198
リレー ……288

る

ルーフ・コンソール ……166
ルーフ・トランスポート・システム ……184, 333, 336
ルーム・ミラー ……54
自動防眩機能 ……57
ルーム・ランプ ……140

れ

レイン・センサ ……116
レスト・ボタン ……124, 128
レスト・モード ……127, 133
レベル・コントロール ……230
警告メッセージ ……232
スイッチON/OFF……232
スペシャル・オフロード・レベル …230
ノーマル・レベル ……230
マルチ・ファンクション・ディスプレイへの表示 ……80
ローディング・レベル ……231
ロー・レベル ……230

ろ

ローディング・レベル ……231, 334
ロード・スペース ……175
ロード・スペース・フロア ……175
ロー・ビーム ……112
ロー・レベル ……230
ロー・レンジ ……201, 203, 210
インジケータ・ランプ ……207
オフロード走行プログラム ……206
ロッカー・スイッチ ……198
ロック
キーレス ……19
ポルシェ・エントリー＆ドライブ …19
リモート・コントロール ……17
ロック解除
キーレス ……18
ポルシェ・エントリー＆ドライブ …18

リモート・コントロール ……16
ロックの動作 ……17, 19

わ

ワイパー ……116
ブレード ……246, 255
フロント ……116
リア ……118
レバー ……116
ワイパー・ブレード ……246, 255
交換 ……246
ワックス ……254

- 車両の仕様およびオプションの変更により、この取扱説明書の内容の一部が車両と一致しない場合があります。
- 説明図は一部日本仕様と異なる点があります。
- この取扱説明書に関してのお問い合わせは下記までお願い致します。

ポルシェ ジャパン株式会社　アフターセールス部

〒153-0064
東京都目黒区下目黒1-8-1
アルコタワー16F

車両受領証
（販売店で保管）

VIN：車両識別ナンバー

エンジンナンバー

上記車両については、取扱説明書および整備手帳に記載されている車両の取扱い、および保証内容、並びに納車点検内容の説明を受け了承の上、車両およびツールキットを完全な状態で受領しました。

販売店スタンプ

日時　　お客様の署名

ポルシェジャパン株式会社
〒153-0064　東京都目黒区下目黒1-8-1
アルコタワー16F

DM5069PAT10300

PORSCHE

Cayenne Turbo S

テクニカル・データ

WKD 948 770 **06** 9/05

「ポルシェ」、ポルシェのロゴ、「カイエン」、「ティプトロニック」、「テクイップメント」は、ポルシェ社の登録商標です。

Printed in Japan

本書の一部または全部の複製は、ポルシェ社の許可がない限り禁止致します。

© Dr.Ing.h.c.F.Porsche AG
ポルシェ ジャパン株式会社

取扱説明書　補足版（本書）について

⚠ セーフティ・ノート

この取扱説明書 補足版は、『Cayenne Turbo取扱説明書』を補足する資料として作成しています。

以降のページでは、『Cayenne Turbo取扱説明書』からの変更点を記載しています。それぞれのページで該当項目名を記していますので、『Cayenne Turbo取扱説明書』と併せてお読みください。

⚠ セーフティ・ノート

以降のページでは、「セーフティ・ノート」に『Cayenne Turbo取扱説明書』の該当項目名を記しています。

改造作業

ポルシェ社によって承認された場合にのみ、車両を改造することができます。
これにより、お客様のポルシェ車は運転の信頼性と安全性を確保し、損傷を防ぐことになります。
正規ポルシェ販売店がご相談をお受け致します。

エンジン・データ

⚠ セーフティ・ノート

このページは、「車両の識別、テクニカル・データ」章の「エンジン・データ」に対する補足情報です。

	カイエン・ターボ S
エンジン・タイプ	4サイクル、スパーク・イグニッション・エンジン
シリンダ数	8
ボア	93 mm
ストローク	83 mm
総排気量	4,511 cm^3
最高エンジン出力	383 kW（521 HP）
エンジン回転数	5,500 rpm
最大エンジン・トルク	720 Nm
エンジン回転数	2,250 - 3,750 rpm
エンジン・オイル消費量	最大1.5 ℓ/1,000 km
最高回転数	6,500 rpm

タイヤ、ホイール、トレッド

⚠ セーフティ・ノート

このページは、「車両の識別、テクニカル・データ」章の「タイヤ、ホイール、トレッド」に対する補足情報です。

カイエン・ターボS	タイヤ フロント／リア	ホイール フロント／リア	リム・オフセット フロント／リア	トレッド フロント	 リア
サマー・タイヤ	275/40 R 20 106 Y XL	9J×20	60 mm	1641 mm	1656 mm
	275/40 R 20 106 Y XL	9J×20／10J×20	60 mm／55 mm	1641 mm	1666 mm
ウィンター・タイヤ	255/50 R 19 107 V XL[1)]	9J×19	60 mm	1641 mm	1656 mm
	タイヤに記載されている積載容量係数（例：106）と最大速度記号文字（例：Y）は、走行する最高速度以上の性能のものを使用してください。 新しいタイヤを装着するときおよびタイヤを交換する場合は、『Cayenne Turbo取扱説明書』の「タイヤとホイール」項の諸注意をお読みください。				
タイヤ／ホイール・サイズ	指定のタイヤとホイールのサイズは広範囲のテストを元に認可されているものです。タイヤ、ホイールの指定サイズについてはお気軽に最寄りの正規ポルシェ販売店までお問い合わせください。 認可されていないサイズのタイヤおよびホイールを使用されますと、走行に危険性が生じ事故を起こす恐れがあるため十分注意してください。				
[1)]スノー・チェーンとクリアランス	1）のタイヤは、ポルシェ社指定のスノー・チェーン（部品番号955.044.600.08）を装着したときのクリアランスのみ保証されています。 1）のタイヤは、リア・ホイールだけにスノー・チェーンを装着してください。 チェーン装着時は、50 km/h以下で走行してください。ポルシェ社が認可したファインリンク・クロスタイプ・チェーンまたはエッジ・チェーンだけを使用してください。 『Cayenne Turbo取扱説明書』の「スノー・チェーン」項も併せてお読みください。				

冷間時のタイヤ空気圧

⚠ セーフティ・ノート

このページは、「車両の識別、テクニカル・データ」章の「冷間時のタイヤ空気圧」に対する補足情報です。

これらのタイヤ空気圧はポルシェ社が認定したタイヤのみに適用されます。
『Cayenne Turbo取扱説明書』の「タイヤとホイール」項に記述されている指示に、必ず従ってください。

部分積載状態 （乗員3名および積荷21 kgまで）	**カイエン・ターボS**	
タイヤ・サイズ	前輪	後輪
255/50 R 19 275/40 R 20	2.6 bar (38 psi)	2.9 bar (43 psi)

全積載状態 （乗員3名および積荷21 kgを超える場合）	**カイエン・ターボS**	
タイヤ・サイズ	前輪	後輪
255/50 R 19 275/40 R 20	2.6 bar (38 psi)	3.4 bar (50 psi)

▷ タイヤ空気圧モニタリング・システム装着車では、インストルメント・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに車両重量をセットしてください。『Cayenne Turbo取扱説明書』の「積載重量」項を参照してください。

動力性能

⚠ セーフティ・ノート

このページは、「車両の識別、テクニカル・データ」章の「動力性能」に対する補足情報です。

DIN規定による空車重量、および最大200 kgまでの積載条件による。動力性能を損なう付加装置は使用せず（例：特殊タイヤ）。

	カイエン・ターボ S
最高速度	270 km/h
0～100 km/h発進加速	5.2秒
けん引時の最高許容速度	80 km/h